

き こ ない ちゆう
木古内町

しん みち
新道4遺跡(4)

— 北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書 —

平成27年度

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター

き こ ない ちゆう
木古内町

しん みち
新道4遺跡(4)

— 北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書 —

平成27年度

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター



遺跡周辺航空測量写真(昭和48年撮影)黄色枠が発掘調査区



遺跡遠景 東から

例 言

- 1 本書は、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構鉄道建設本部北海道新幹線建設局が行う北海道新幹線建設工事に伴い、公益財団法人北海道埋蔵文化財センターが平成25年度に委託を受けて実施した、木古内町新道4遺跡の埋蔵文化財発掘調査についての報告書である。
- 2 報告内容は、新道4遺跡の平成25年度調査範囲（745㎡）の遺構と遺物である。
- 3 新道4遺跡の報告書は、昭和59～61年度に発掘調査が行われた津軽海峡線（北海道方）建設工事埋蔵文化財発掘調査の報告書として、これまでに3冊刊行されている。本書を『新道4遺跡（4）』としたのは、昭和61年刊行の『建川1・新道4遺跡』（北埋調報33）掲載分を「新道4遺跡（1）」、昭和62年刊行の『建川2・新道4遺跡』（北埋調報43）掲載分を「新道4遺跡（2）」、昭和63年刊行の『新道4遺跡』（北埋調報52）掲載分を「新道4遺跡（3）」と考えたことによる。
- 4 調査は第2調査部第1調査課が担当した。
- 5 本書は、中山昭大、影浦覚、福井淳一、酒井秀治、熊谷仁志が執筆し、文末に執筆者を示した。編集は、酒井が担当した。
- 6 遺物の整理は、土器等を熊谷、石器等を酒井、動物遺存体の同定については福井が担当した。
- 7 現地調査および室内での写真撮影・整理は中山が担当した。
- 8 基本基準杭設置については、株式会社光栄コンサルタントに依頼した。
- 9 放射性炭素年代測定については、株式会社加速器分析研究所に依頼した。
- 10 石器実測の一部については、株式会社トラスト技研に依頼した。
- 11 調査にあたっては、下記の諸機関および諸氏に御協力、御指導をいただいた。

独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構、木古内町教育委員会、北斗市教育委員会、
知内町郷土資料館、市立函館博物館、七飯町歴史館
石井淳平（厚沢部町教育委員会）、右代啓視（北海道博物館）、木元 豊（木古内町教育委員会）、
鈴木将太（恵庭市教育委員会）、鈴木琢也（北海道博物館）、高橋豊彦（知内町教育委員会）、
時田太郎（シン技術コンサルタント）、村本周三（北海道教育委員会）、
森 靖裕（北斗市教育委員会）、山田 央（七飯町歴史館）、横山英介（北海道考古学研究所）、
吉田 力（函館市教育委員会）

記号等の説明

1. 遺構の表記には以下の記号を用い、原則として確認順に番号を付けた。遺構表記の前に付したアルファベット (B・C・J・K・L) は地区名を表す。以前の調査時に一部調査された遺構については、同じ記号を使っている。

H: 竪穴住居跡 HF: 炉跡 HP: 住居にとまう土坑・柱穴

P: 土坑 SP: 柱穴様小ピット F: 焼土

2. 遺構図等には真北を示す方位印を付した。図の天方向は、N-50°-Wである。遺構平面図の「+」は調査区または小調査区ラインの交点で、傍らの名称記号は右下の調査区を表す。また、小黑丸とその下の数字およびセクションレベルは標高(単位m)である。

3. 掲載した遺構・遺物の図は基本的に以下の縮尺にしている。ただし、遺構位置図、地形図、遺物出土状況図などは任意の縮尺であるため、各図にはスケールを付けてある。

遺構 1:40 (一部1:50) 復原土器 1:3 土器拓本 1:3

剥片石器・磨製石器 1:2 礫石器 1:3 (一部1:4) 土製品・石製品 1:2

4. 写真図版では、復原土器は任意、土器拓本・礫石器はおおよそ1:3、石織はおおよそ1:1、剥片石器・土製品・石製品はおおよそ1:2で掲載している。石製品の一部にはおおよそ1:3で掲載したものもある。骨製品・動物骨はおおよそ1:2で掲載している。

5. 遺構の規模は、「長軸の上端×下端/短軸の上端×下端/確認面からの最大深」(単位m)で示している。

6. 土層の表記は、基本土層についてはローマ数字 (I、II、III…)、遺構内の層序についてはアラビア数字 (1、2、3…) を使用した。

7. 土層の色調は『新版標準土色帖29版』(小山・竹原2007) に準じた。

8. 火山灰は『北海道の火山灰』(北海道火山命名委員会1982) に準じ、以下の略号を用いた。

駒ヶ岳d₂火山灰: Ko-d₂ 白頭山-苦小牧火山灰: B-Tm 渡島大島b火山灰: Os-b

9. 遺物図右下の太ゴチックアラビア数字は掲載番号であり、これに後続する小文字アルファベット (a、b、c…) は同一個体を示す。

10. 石器の大きさは、図の最大長・最大幅・最大厚(単位cm)で示した。破損しているものについては現存最大値を()で示した。

11. 石器の実測図中でたつき痕は「V-V」、すり痕は「K-丸」で範囲を示した。また、光沢部分、赤色顔料付着部分、被熱部分をドットのスクリーントーンで示した。アスファルト付着部分は黒塗りして示した。

12. 文中において「北理調報」としているものは、財団法人北海道埋蔵文化財センター調査報告書もしくは公益財団法人北海道埋蔵文化財センター調査報告書の略である。

目 次

例 言

記号等の説明

目 次

挿図目次

表 目 次

図版目次

I 緒言

1 調査要項	1
2 調査にいたる経緯	2
3 調査の経過	2
4 調査結果の概要	7

II 遺跡の位置と環境

1 位置と環境	9
2 周辺の遺跡	9

III 調査の方法

1 調査範囲	15
2 土工	17
3 測量と記録	17
4 整理の方法	18
5 保管	19
6 遺跡の土層	20
7 遺物の分類	20

IV J地区の調査

1 概要	23
2 遺構	23
3 包含層出土の遺物	35
一覧表	40

V K地区の調査

1 概要	43
2 遺構	43
3 包含層出土の遺物	74
一覧表	88

VI L地区の調査

1 概要	97
2 遺構	97
3 包含層出土の遺物	144
一覧表	167

VII 自然科学的分析

1 新道4遺跡における放射性炭素年代(AMS測定)	179
2 木古内町新道4遺跡出土の動物遺存体について	185

VIII まとめ	187
----------	-----

引用参考文献

写真図版

報告書抄録

挿 図 目 次

I 緒言

図 I-1	新道4遺跡の位置	3
図 I-2	各年度の調査区	4
図 I-3	平成25年度遺構位置図	4
図 I-4	遺構位置図	5

II 遺跡の位置と環境

図 II-1	遺跡の位置と木古内町の地形	11
図 II-2	木古内町の地質図	11
図 II-3	木古内町内の遺跡	13

III 調査の方法

図 III-1	グリッド設定図	16
図 III-2	K・L地区メインセクション図	21

IV J地区の調査

図 IV-1	遺構位置図	23
図 IV-2	JP-1 (1)・2・4	26
図 IV-3	JP-1 (2)	27
図 IV-4	JP-3 (1)	28
図 IV-5	JP-3 (2)	29
図 IV-6	JP-6・10・11・12・13・14・15・17・18	31
図 IV-7	JP-7・8 (1)・9	32
図 IV-8	JP-8 (2)・16・BP-143・JP-1	33
図 IV-9	包含層出土土器	36
図 IV-10	包含層出土土器等	37
図 IV-11	包含層出土遺物分布図 (1)	38
図 IV-12	包含層出土遺物分布図 (2)	39

V K地区の調査

図 V-1	遺構位置図	43
図 V-2	KH-1 (1)	45
図 V-3	KH-1 (2)	46
図 V-4	KH-1 (3)	47
図 V-5	KH-2 (1)	48
図 V-6	KH-2 (2)	49
図 V-7	BH-13 (1)	50
図 V-8	BH-13 (2)	51
図 V-9	KP-1・3・4	53
図 V-10	KP-5	55
図 V-11	KP-6・7 (1)	56
図 V-12	KP-7 (2)	57
図 V-13	KP-9 (1)	58
図 V-14	KP-9 (2)	59
図 V-15	KP-10	61

図 V-16	柱穴様小ピット位置図 (B・K地区)	63
図 V-17	KSP位置図 (51-54線間)	64
図 V-18	KSP位置図 (54-57線間)	65
図 V-19	KSP位置図 (57-61線間)	66
図 V-20	KSP断面図 (51-54線間) (1)	67
図 V-21	KSP断面図 (51-54線間) (2) (54-57線間) (1)	68
図 V-22	KSP断面図 (54-57線間) (2)	69
図 V-23	KF-1・2・3・4・5・6	71
図 V-24	盛土遺構 (1)	72
図 V-25	盛土遺構 (2)	73
図 V-26	包含層出土土器 (1)	75
図 V-27	包含層出土土器 (2)	77
図 V-28	包含層出土土器 (3)	78
図 V-29	包含層出土土器 (4)	79
図 V-30	包含層出土土器等 (1)	81
図 V-31	包含層出土土器等 (2)	82
図 V-32	包含層出土土器等 (3)	83
図 V-33	包含層出土土器等 (4)	84
図 V-34	包含層出土遺物分布図 (1)	85
図 V-35	包含層出土遺物分布図 (2)	86
図 V-36	包含層出土遺物分布図 (3)	87

VI L地区の調査

図 VI-1	遺構位置図	97
図 VI-2	LH-1 (1)	99
図 VI-3	LH-1 (2)	100
図 VI-4	LH-1 (3)	101
図 VI-5	LH-1 (4)	103
図 VI-6	LH-2	105
図 VI-7	LH-3 (1)	106
図 VI-8	LH-3 (2)	107
図 VI-9	LH-4 (1)	109
図 VI-10	LH-4 (2)	110
図 VI-11	LH-4 (3)	111
図 VI-12	LH-5	112
図 VI-13	CH-1 (1)	114
図 VI-14	CH-1 (2)	115
図 VI-15	CH-1 (3)	116
図 VI-16	CH-1 (4)	117
図 VI-17	CH-1 (5)	119
図 VI-18	CH-1 (6)	120
図 VI-19	CH-1 (7)	121

図VI-20	CH-1 (8)	122
図VI-21	CH-1 (9)	123
図VI-22	CH-1 (10)	124
図VI-23	CH-1 (11)	125
図VI-24	CH-1 (12)	126
図VI-25	CH-1 (13)	127
図VI-26	CH-1 (14)	129
図VI-27	CH-1 (15)	130
図VI-28	CH-1 (16)	131
図VI-29	CH-1 (17)	132
図VI-30	CH-1 (18)	133
図VI-31	CH-1 (19)	135
図VI-32	CH-12	137
図VI-33	LP-1・2・12・13・15	139
図VI-34	LP-3・4・7・11	141
図VI-35	LP-8・9・10・14・16・17	143

図VI-36	LP-1・2・3・4・5・6・7	145
図VI-37	包含層出土土器(1)	147
図VI-38	包含層出土土器(2)	148
図VI-39	包含層出土土器(3)	149
図VI-40	包含層出土土器(4)	151
図VI-41	包含層出土土器等(1)	153
図VI-42	包含層出土土器等(2)	155
図VI-43	包含層出土土器等(3)	156
図VI-44	包含層出土土器等(4)	157
図VI-45	包含層出土土器等(5)	159
図VI-46	包含層出土土器等(6)	160
図VI-47	包含層出土土器等(7)	161
図VI-48	包含層出土土器等(8)	163
図VI-49	包含層出土遺物分布図(1)	164
図VI-50	包含層出土遺物分布図(2)	165
図VI-51	包含層出土遺物分布図(3)	166

目 次

I 緒言

表I-1	地区別遺構数・遺物数一覧	7
表I-2	出土土器点数一覧	7
表I-3	出土土器等点数一覧	7

II 遺跡の位置と環境

表II-1	木古内町の遺跡一覧	12
-------	-----------	----

IV J地区の調査

表IV-1	遺構規模一覧	40
表IV-2	遺構出土遺物一覧	40
表IV-3	遺構出土土器点数一覧	40
表IV-4	遺構出土土器等点数一覧	41
表IV-5	遺構出土掲載土器一覧	41
表IV-6	遺構出土掲載土器等一覧	41
表IV-7	包含層出土土器点数一覧	42
表IV-8	包含層出土土器等点数一覧	42
表IV-9	包含層出土掲載土器一覧	42
表IV-10	包含層出土掲載土器等一覧	42

V K地区の調査

表V-1	遺構規模一覧	88
表V-2	遺構出土遺物一覧	89
表V-3	遺構出土土器点数一覧	91
表V-4	遺構出土土器等点数一覧	91
表V-5	遺構出土掲載土器一覧	92
表V-6	遺構出土掲載土器等一覧	93

表V-7	包含層出土土器点数一覧	94
表V-8	包含層出土土器等点数一覧	94
表V-9	包含層出土掲載土器一覧	95
表V-10	包含層出土掲載土器等一覧	96

VI L地区の調査

表VI-1	遺構規模一覧	167
表VI-2	遺構出土遺物一覧	168
表VI-3	遺構出土土器点数一覧	171
表VI-4	遺構出土土器等点数一覧	171
表VI-5	遺構出土掲載土器一覧	172
表VI-6	遺構出土掲載土器等一覧	174
表VI-7	包含層出土土器点数一覧	175
表VI-8	包含層出土土器等点数一覧	175
表VI-9	包含層出土掲載土器一覧	176
表VI-10	包含層出土掲載土器等一覧	177

VII 自然科学的分析

表VII-1-1	放射性炭素年代測定試料一覧	183
表VII-2-1	遺構出土動物遺存体一覧	186

VIII まとめ

表VIII-1	地区別遺構数・遺物点数一覧	187
表VIII-2	地区・分類別出土土器点数一覧	189
表VIII-3	地区・分類別出土土器等点数一覧	189
表VIII-4	地区・時期別竪穴住居跡軒数一覧	187

图 版 目 次

- 图版 1 J 地区 调查風景、JP
图版 2 J 地区 JP、JP
图版 3 J 地区 JP、JP
图版 4 J 地区 JP
图版 5 J 地区 JP、调查風景
图版 6 K 地区 调查風景
图版 7 K 地区 KH-1
图版 8 K 地区 KH-1、KH-2
图版 9 K 地区 KH-2
图版 10 K 地区 BH-13
图版 11 K 地区 KP
图版 12 K 地区 KP、KF
图版 13 K 地区 KP、KSP
图版 14 K 地区 KSP、KF・盛土遺構
图版 15 K 地区 盛土遺構・调查風景
图版 16 L 地区 调查風景
图版 17 L 地区 LH-1
图版 18 L 地区 LH-1、LH-2
图版 19 L 地区 LH-2、LH-3
图版 20 L 地区 LH-4
图版 21 L 地区 LH-5、CH-1
图版 22 L 地区 CH-1
图版 23 L 地区 CH-1
图版 24 L 地区 CH-1
图版 25 L 地区 CH-12、LP
图版 26 L 地区 LP
图版 27 L 地区 LP
图版 28 L 地区 LP、LF
图版 29 L 地区 LF、调查風景
图版 30 J 地区 遺構出土遺物 (1)
图版 31 J 地区 遺構出土遺物 (2)
图版 32 J 地区 包含層出土遺物
图版 33 K 地区 遺構出土遺物 (1)
图版 34 K 地区 遺構出土遺物 (2)
图版 35 K 地区 遺構出土遺物 (3)
图版 36 K 地区 遺構出土遺物 (4)・
包含層出土遺物 (1)
图版 37 K 地区 包含層出土遺物 (2)
图版 38 K 地区 包含層出土遺物 (3)
图版 39 K 地区 包含層出土遺物 (4)
图版 40 L 地区 遺構出土遺物 (1)
图版 41 L 地区 遺構出土遺物 (2)
图版 42 L 地区 遺構出土遺物 (3)
图版 43 L 地区 遺構出土遺物 (4)
图版 44 L 地区 遺構出土遺物 (5)
图版 45 L 地区 遺構出土遺物 (6)
图版 46 L 地区 遺構出土遺物 (7)
图版 47 L 地区 遺構出土遺物 (8)
图版 48 L 地区 遺構出土遺物 (9)
图版 49 L 地区 遺構出土遺物 (10)
图版 50 L 地区 遺構出土遺物 (11)
图版 51 L 地区 遺構出土遺物 (12)
图版 52 L 地区 包含層出土遺物 (1)
图版 53 L 地区 包含層出土遺物 (2)
图版 54 L 地区 包含層出土遺物 (3)
图版 55 L 地区 包含層出土遺物 (4)
图版 56 L 地区 包含層出土遺物 (5)
图版 57 L 地区 包含層出土遺物 (6)

I 諸 言

1 調査要項

事業名 北海道新幹線建設事業地区における埋蔵文化財包蔵地の発掘調査及びそれに関連する業務

事業委託者 独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構鉄道建設本部北海道新幹線建設局

事業受託者 公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター

遺跡名 新道4遺跡（北海道教育委員会登録番号：B-05-27）

所在地 上磯郡木古内町字新道113番10外4筆

調査期間 平成25年8月1日～平成26年3月31日
（発掘期間：平成25年8月1日～平成25年11月15日）

調査面積 745㎡

調査体制 平成25年度

理事長	坂本 均	第2調査部 部長	三浦正人
副理事長	畑 宏明	第2調査部第1調査課 課長	熊谷仁志
専務理事	中田 仁	主査	中山昭大（調査担当者）
常務理事	千葉英一	主査	影浦 覚
		主査	福井淳一
		主査	酒井秀治（調査担当者）

平成26年度

理事長	坂本 均	第2調査部 部長	三浦正人
副理事長	畑 宏明	第2調査部第1調査課 課長	中山昭大
		（平成26年8月28日死去）	主査 酒井秀治
専務理事	中田 仁	主任	熊谷仁志
常務理事	千葉英一		

平成27年度

理事長	坂本 均	（平成27年6月26日まで）	
	越田賢一郎	（平成27年6月26日から）	
副理事長	中田 仁	（平成27年6月26日から）	
専務理事	中田 仁	（平成27年6月26日まで）	
	山田寿雄	（平成27年6月26日から）	
常務理事	長沼 孝	（平成27年6月26日から）	
		第2調査部 部長	三浦正人
		第2調査部第1調査課 課長	中山昭大
		主査	酒井秀治
		主任	熊谷仁志

2 調査にいたる経緯

「北海道新幹線」事業は、全国新幹線鉄道整備法（昭和45年法律第71号）に基づき、整備計画が定められている。平成10年1月には、政府・与党整備新幹線検討委員会において、新規着工区間として3線3区間の着工が認められ、平成12年12月の同委員会では、すでに着工している区間と新たに着工する区間を併せて、平成13年から3線6区間として整備を推進することとなった。平成17年4月27日、北海道新幹線・新青森－新函館間の工事実施計画認可が国土交通省から独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構（以下、「鉄建機構」という）へ交付された。

鉄建機構は、北海道教育委員会（以下、「道教委」という）に北海道新幹線建設工事に伴う埋蔵文化財保護のための事前協議書を提出した。それを受けて道教委は路線内および付帯施設建設予定地内の埋蔵文化財包蔵地の試掘調査を実施し、木古内町内では蛇内2遺跡ほか5遺跡について工事計画の変更が困難な場合は発掘調査が必要とされた。木古内町内の発掘調査は、平成21年～23年度にかけて（財）北海道埋蔵文化財センター（以下、「センター」という）により、5遺跡32,626㎡が行われた。

その後、平成25年6月に道教委からセンターに対し、新たに新道4遺跡における北海道新幹線付帯施設建設工用地内の追加調査の指示があった。センターは、この調査を受諾し、計画を立案、発掘調査を実施した。

3 調査の経過

(1) 発掘経過

平成25年度

7月30日：重機による表土除去開始。

8月5日：基準杭・方格杭打設。J地区の調査を開始。

8月8日：L地区の調査を開始。

8月28日：J地区の調査を終了。

8月30日：K地区の調査を開始。

10月23日：L地区の調査を終了。

11月6日：K地区の調査を終了。

11月15日：現地調査終了。

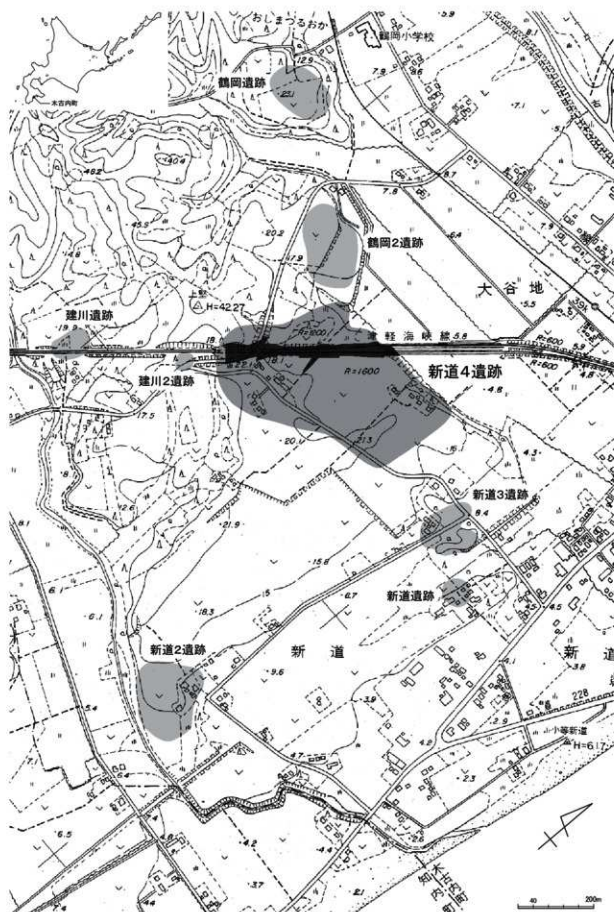
遺構は、竪穴住居跡10軒、土坑41基、柱穴様小ピット52基、焼土14か所、盛土遺構1か所を検出した。遺物は、縄文時代後期前葉・晩期中葉を主体として、早期後葉から晩期後葉のものが出土している。土器等23,953点、石器等20,369点、合計44,322点が出土した。

(2) 整理経過

平成25年度：現地調査中に遺物水洗。

平成26年度：4月1日から整理作業開始。遺物一次分類、遺物台帳作成、遺物注記、破片接合、遺物実測・墨入れ、遺構素図作成、写真整理・撮影、図版作成、原稿執筆。

平成27年度：遺物収納、報告書刊行。



(平成4年日本鉄道建設公団札幌工務事務所が調査した1:10000図を加工して使用)

図 I-1 新道4遺跡の位置

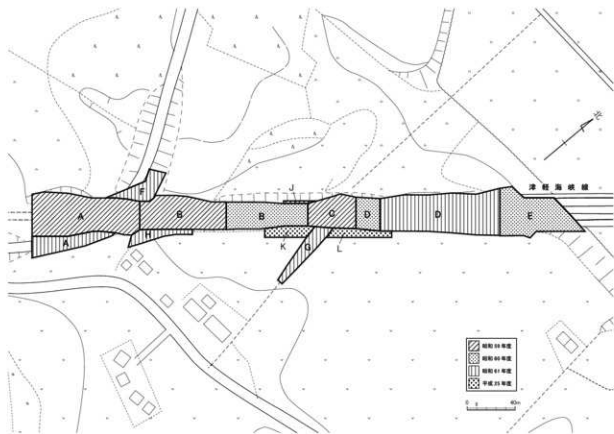


図 I-2 各年度の調査区

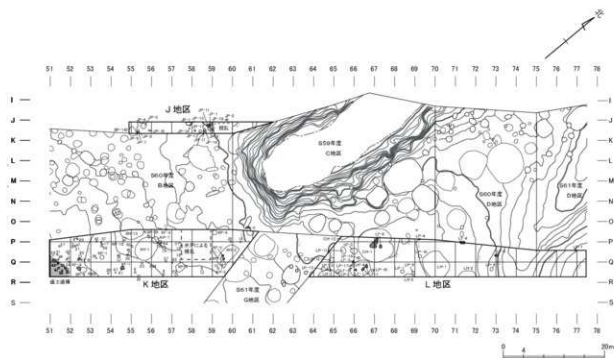


図 I-3 平成25年度遺構位置図



図1-4 遺構位置図

4 調査結果の概要

遺跡は、JR木古内駅から南西へ約1.8km、木古内川と建有川に挟まれた低位海岸段丘上に立地し、標高は15～20mである。

新道4遺跡は、昭和59～61年の3か年にわたって（財）北海道埋蔵文化財センターが津軽海峡線建設工事に伴う15,033㎡の発掘調査を行い、多くの遺構と915,724点の遺物を確認した。これまで3冊の報告書（北埋調報33・43・52）を刊行している。平成25年度は、北海道新幹線建設工事に伴いJ・K・Lの3地区745㎡の発掘調査を行った。今回調査範囲は、前回調査範囲のB・C・D・G地区に隣接している。

表I-1 地区別遺構数・遺物点数一覧

地区	調査面積 (㎡)	遺 構 名						遺物点数(点)				
		竪穴住居跡	土 坑	フラスコ状土坑	柱穴様小ピット	焼 土	盛土遺構	土 器	石 器 等	小 計	合 計	
J地区	51	0	16	2	0	1	0	遺 構	436	87	523	1,331
								包含層	618	190	808	
K地区	340	3	3	5	52	6	1	遺 構	950	525	1,475	8,314
								包含層	3,161	3,678	6,839	
L地区	354	7	15	0	0	7	0	遺 構	8,035	4,649	12,684	34,677
								包含層	10,753	11,240	21,993	
合 計	745	10	34	7	52	14	1	合 計	23,953	20,369	44,322	

表I-2 出土土器点数一覧

地区名		分 類													小計	合計		
		I-b-3	I-b-4	II-a	II-b-2	II-b-3	III-a	III-b	III-b-1	III-b-2	IV-a	IV-b	IV-c	V-a			V-b	V-c
J地区	遺 構			11		29	111			99	91	95					436	1,054
	包含層			1		15	68			311	67	148		8			618	
K地区	遺 構			484	17	47	62	14		280		44		2			950	4,111
	包含層	1		400			720	82		1,232	8	394	39	265	20		3,161	
L地区	遺 構	4	1	32		131	343	133	29	1,600	22	697		5,038	5		8,035	18,788
	包含層	74		129			696	426		5,345	10	80	105	3,829	59		10,753	
小 計	遺 構	4	1	527	17	47	222	468	133	29	1,979	113	836	0	5,040	5	9,421	23,953
	包含層	75	0	530	0	0	1,431	576	0	6,588	85	622	144	4,102	79		14,532	
合 計		79	1	1,057	17	47	1,653	1,044	133	29	8,867	198	1,458	144	9,142	84	23,953	

表I-3 出土石器等重点一覧

地区名		分 類																				小計	合計							
		石 槌	石 鏃	石 斧	石 錐	石 鏃	石 鏃	石 鏃	石 鏃	石 鏃	石 鏃	石 鏃	石 鏃	石 鏃	石 鏃	石 鏃	石 鏃	石 鏃	石 鏃	石 鏃	石 鏃									
J地区	遺 構																					34	7	47	277					
	包含層	1	1	1	4		2	43	41		2	1	1									104	17	121						
K地区	遺 構	5	3	1	1	19	1		15	16	210	2	16	3	1	6	3	1			1	195	26	1	525	4,203				
	包含層	16	8	1	8	90	9	8	129	110	1,280		91	1	21	2	2	1	1	2	9	13	1,771	101	2		2,678			
L地区	遺 構	16	9	2	13	77	5		3	100	166	2,355	5	47	6	15	5	11	1	1	7	1,704	74	1	1,669	15,809				
	包含層	53	25	4	15	509	20	9	103	508	526	6,404	15	1	253	4	74	3	26	3	4	26	10	2,605	62		14	11,740		
小 計	遺 構	21	12	2	15	99	6	0	3	115	188	2,985	7	0	90	16	8	22	8	12	1	0	1	8	9	1,833	107	2	5,261	20,369
	包含層	72	31	5	24	693	29	9	111	719	649	7,805	15	1	347	8	4	95	6	28	4	5	29	19	13	8,278	130	16	13,108	
合 計		93	46	7	39	792	35	9	114	834	837	10,390	22	1	437	24	12	117	14	40	5	5	30	27	13	6,211	207	18	20,369	

遺構は、3地区を合わせて竪穴式住居10軒、土坑34基、フラスコ状土坑7基、柱穴緩小ピット52基、焼土14か所、盛土遺構1か所を確認した。竪穴式住居跡は縄文時代中期後半4軒、後期前葉2軒、後期後葉4軒である。KH-1、LH-1・2、CH-1の4軒は焼失住居で、すべて後期後葉である。BH-13からは石囲炉を確認している。CH-1からは出入口施設や床面から倒立した大型深鉢や小型鉢、壺、注口土器などが出土している。フラスコ状土坑の時期は前期後半3基、後期前葉3基、後期後葉1基である。JP-3は土坑墓の可能性もある。盛土遺構は、K地区南西側で確認された。B・G地区で確認されたものの一部にあたり、後期前葉のものである。

遺物は、早期後半、前期後半、中期、後期、晚期中葉・後葉のものが出土している。土器は23,953点、石器等は20,369点、合計44,322点が出土している。土器は後期前葉と晚期中葉が多く出土し、次いで中期前半、後期後葉、前期後半の順に多く出土している。石器は定型石器ではスクレイパーとたたき石が多く出土し、次いですり石、石畿、石錐などが出土している。土製品は、土偶、象嵌土製品、有孔土製円盤、土器片擦り切り、焼成粘土塊などが出土している。石製品は、異形石器、垂飾、有孔石製品、石刀、三脚石器、線刻磯、軽石製石製品などが出土している。(酒井)

II 遺跡の位置と環境

1 位置と環境

新道4遺跡の所在する上磯郡木古内町は、北海道西部の渡島半島南側に位置する。津軽海峡に面し、亀田半島と松前半島の境目にあたる。北東側で北斗市、北側で厚沢部町、西側で上ノ国町、南西側で知内町と町界を接している（図II-1）。函館市からは西へ約40kmである。町域はおおよそ東西22.5km、南北17.7km、総面積は221.89km²、人口は平成27年8月末で4,577人である。南東側は津軽海峡に面し、北～北西側は300～700m級の渡島丸山、桂岳、梯子岳、瓜谷山、焼山、尖岳、袴腰岳などの山々に囲まれていて、町域の約9割（約199km²）が山岳・丘陵地帯である（図II-1）。市街中心地は木古内川、佐女川河口周辺の平坦部に形成されている。平坦地は、海岸線の海岸段丘上と津軽海峡に注ぐ河川によって形成された河岸段丘上に帯状にある。地質図によると、これらの段丘は泥岩砂質シルト互層・砂岩及び酸性凝灰岩で形成された中新世後期の厚沢部層などや、礫・砂及び泥で形成された中位段丘堆積物である（図II-2）。この上に多くの遺跡が立地している。

木古内の地名は、アイヌ語の「リコナイ（高く昇る源）」、または「リロナイ（潮の差し入る川）」から転訛したものと言われている。しかし「リコナイ」の記述が明治以前にみられないことから「リロナイ」が語源と考えるのが正しいとされる（木古内町ホームページ）。角川日本地名大辞典によると、新道の地名は昭和4年につけられ、由来は木古内・知内方面に通じる陸路が開削されたことにちなむと思われる。

新道4遺跡は、JR木古内駅から南西へ約1.8km離れたところに位置する。木古内川と建川に挟まれた海岸段丘上に立地している。海岸線からは約1.3km入っていて、標高は15～20mほどの平坦地にある。遺跡の指定範囲はおおよそ16万m²になる。地質図によると、遺跡は礫・砂及び泥で形成された中位段丘堆積物の上に立地している（図II-2）。遺跡からは南西側に松前半島の燈明岳、岩部岳、大千軒岳など、北東側には函館山や渡島丸山などが見え、天気の良い時は南東側に青森県の下北半島を望むことが出来る。昭和48年11月撮影の航空写真で遺跡周辺を上空から観察すると、竪穴住居跡とみられる円形のソイルマークが多数確認できる。ソイルマークは遺跡指定範囲外の南東側にも広がっており、遺跡の範囲はさらに広がっていることが推定される（図I-1、口絵）。

2 周辺の遺跡

木古内町内の遺跡は、海岸線に沿った段丘上に集中することが知られている。平成26年度末現在、木古内町内で周知されている遺跡は61か所である（図II-3）。このうち、これまでに調査あるいは一部調査の行われた遺跡は31遺跡である（表III-1）。近年、緊急発掘調査が増えており、農道整備事業で9遺跡、砂利採取事業で2遺跡、北海道新幹線建設事業で6遺跡、高規格道路建設事業で12遺跡の調査が行われている。新道4遺跡の周辺に所在する遺跡は、新道遺跡（1）・新道3遺跡（10）・新道2遺跡（11）・鶴岡遺跡（24）・鶴岡2遺跡（25）・建川遺跡（26）・建川2遺跡（35）がある。北海道新幹線建設関係で調査が行われた遺跡では、本遺跡のほか、木古内町市街地側に木古内遺跡（3）・木古内2遺跡（28）・大平遺跡（7）・大平4遺跡（29）・蛇内2遺跡（19）がある。（ ）は登録番号。上記のうち調査された遺跡について概略を記す。

新道3遺跡（10）：平成8年度に砂利採取に伴う緊急発掘調査が行われた。調査面積は2,758m²である。主に縄文時代中期末の遺構・遺物が確認されている。遺構は、竪穴住居跡1軒、土坑2基、焼土

2か所が検出されている（木古内町教育委員会1997）。

新道2遺跡（11）：平成9～14年度に砂利採取に伴う緊急発掘調査が行われた。調査面積は44,700㎡である。主に縄文時代前期後半の遺構・遺物が確認されている。遺構は、竪穴住居跡3軒、土坑6基、フラスコ状土坑4基、Tピット40基、柱穴様ピット39基、埋設土器8か所、焼土1か所が検出されている（木古内町教育委員会1999b・2003a）。

鶴岡2遺跡（24）：昭和63～平成元年度に農地造成に伴う発掘調査が行われた。調査面積は4,902.4㎡である。主に縄文時代中期中葉～後期前葉の遺構・遺物が確認されている。遺構は、竪穴住居跡7軒、小竪穴1基、竪穴様遺構1か所、土坑13基、Tピット1基、焼土73か所が検出されている（木古内町教育委員会1989・1990）。

建川遺跡（26）：昭和59年度に津軽海峡線建設に伴う発掘調査が行われた。調査面積は277㎡である。主に縄文時代早期～後期の遺構・遺物が確認されている。遺構は、竪穴住居跡1軒、土坑4基が検出されている（北理調報33）。

建川2遺跡（35）：昭和60・61年度に津軽海峡線建設に伴う発掘調査が行われた。調査面積は1,627㎡である。主に縄文時代後期前葉の遺構・遺物が確認されている。遺構は、土坑1基、小ピット18基が検出されている（北理調報43）。

木古内遺跡（3）：平成22・23年度に北海道新幹線建設に伴う発掘調査が行われた。調査面積は12,020㎡である。主に縄文早期後半・前期後半・後期前葉・擦文文化期の遺構・遺物が確認されている。遺構は、竪穴住居跡31軒、土坑152基などのほか、擦文文化期とみられる溝状遺構1か所が検出されている（北理調報304）。擦文文化期の竪穴住居跡を木古内町で初めて確認している。

木古内2遺跡（28）：平成22・23年度に北海道新幹線建設に伴う発掘調査が行われた。調査面積は1,280㎡である。主に縄文前期後半・後期前葉の遺構・遺物が確認されている。遺構は、縄文前期後半の竪穴式住居跡6軒、割片集中1か所が検出されている（北理調報278・293）。

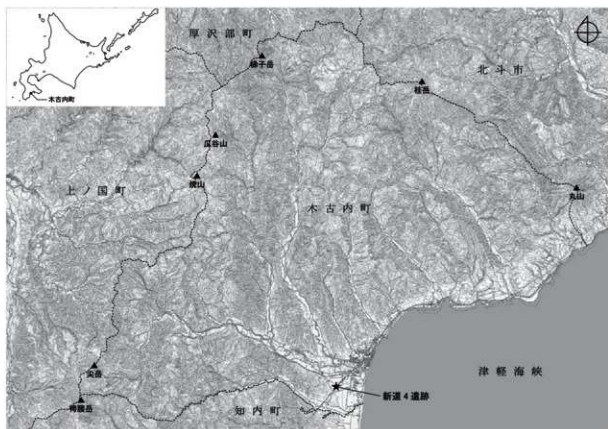
大平遺跡（7）：平成21～23年度に北海道新幹線建設に伴う発掘調査が行われた。調査面積は4,786㎡である。主に縄文前期後半・晩期中葉・擦文文化期の遺構・遺物を確認している。遺構は竪穴住居跡55軒、土坑230基などである。擦文文化期の竪穴住居跡や縄文前期後半の竪穴住居跡、縄文前期後半を主とした盛土遺構、フラスコ状土坑などを検出している（道埋文2011d・2012c）。平成21年度に調査を行った範囲については、報告書（北理調報280）が刊行されている。平成22・23年度に調査を行った範囲は、平成27年度現在、整理作業中である。

高規格道路建設事業では、平成25年度に調査が行われた。調査面積は1,700㎡である。主に縄文後期後葉・晩期前葉・中葉の遺構・遺物が確認されている。遺構は、土坑8基、小ピット2基、焼土4か所が検出されている（道埋文2013b）。平成27年度現在、整理作業中である。

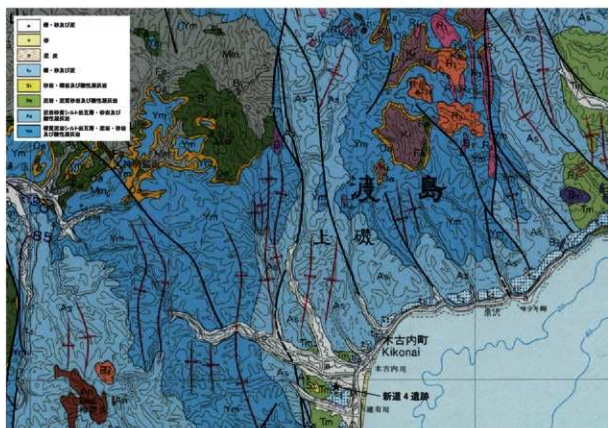
大平4遺跡（29）：平成21～22年度に北海道新幹線建設に伴う発掘調査が行われた。調査面積は3,183㎡である。縄文早期後半・前期後半・晩期中葉の遺構・遺物を確認している。遺構は、竪穴住居跡2軒、土坑28基、割片集中14か所が検出されている（北理調報280・292）。

高規格道路建設事業では、平成24～26年度に調査が行われた。調査面積は15,593㎡である。遺構は、竪穴住居跡12軒、土坑22基、Tピット4基、焼土31か所、割片集中15か所が確認されている（道埋文2013b・2014d・2015b）。平成27年度現在、整理作業中である。

蛇内2遺跡（19）：平成21～23年度に北海道新幹線建設に伴う発掘調査が行われた。調査面積は11,357㎡である。縄文早期後半・前期・中期後半・後期前葉の遺構・遺物が確認されている。遺構は、竪穴住居跡15軒、土坑87基、フラスコ状土坑9基が検出されている（北理調報281・292）。（酒井）



図Ⅱ-1 遺跡の位置と木古内町の地形 (60万分の1) (平成18年国土地理院発行の数値地図2500「国体」を加工して使用)



図Ⅱ-2 木古内町の地質図 (60万分の1) (昭和59年通商産業省工業技術院地質調査所発行の1:200,000地質図「国体及び渡島半島」を加工して使用)

表Ⅱ-1 木古内町の遺跡一覧

登録番号	遺跡名	種別	時期	調査歴(報告年)
B-05-01	新道遺跡	遺物包含地	縄文	
B-05-02	大釜谷遺跡	遺物包含地	縄文(中期・後期)	
B-05-03	木古内遺跡	集落跡	縄文(前期・中期)・樺文	2010・2011 道理文(2013)
B-05-04	札苜遺跡	集落跡	縄文(晩期)・近世	1971・1972 北海道開拓記念館(1976) 1973 町教委(1974) 1983 道理文(1986)
B-05-05	釜谷遺跡	集落跡	縄文(早期～晩期)・樺文	1991～1993 町教委(1999)
B-05-06	泉沢遺跡	遺物包含地	縄文	
B-05-07	大平遺跡	集落跡	縄文(早期～晩期)・樺文	2009～2011 道理文(2011)
B-05-08	蛇内遺跡	集落跡	縄文(前期～後期)	2000 町教委(2004)
B-05-09	新栄町遺跡	遺物包含地	縄文(後期・晩期)	
B-05-10	新道3遺跡	集落跡	縄文(中期・後期)	1996 町教委(1997)
B-05-11	新道2遺跡	集落跡	縄文(前期)	1997～2002 町教委(1999・2004)
B-05-12	中野A遺跡	遺物包含地	縄文	
B-05-13	中野B遺跡	遺物包含地	縄文	
B-05-14	瓜谷遺跡	遺物包含地	縄文	
B-05-15	大釜谷2遺跡	遺物包含地	縄文(前期・中期)	
B-05-16	釜谷2遺跡	遺物包含地	縄文	
B-05-17	橋仏遺跡	遺物包含地	縄文・続縄文(前半期)	
B-05-18	幸達遺跡	遺物包含地	縄文(中期・後期)	
B-05-19	蛇内2遺跡	集落跡	縄文(早期～晩期)	2009～2011 道理文(2011・2012)
B-05-20	蛇内3遺跡	遺物包含地	縄文(後期・晩期)	
B-05-21	大平2遺跡	遺物包含地	縄文(後期・晩期)	
B-05-22	大平3遺跡	遺物包含地	縄文(中期)	
B-05-23	高校高台遺跡	遺物包含地	縄文(後期・晩期)	
B-05-24	鶴岡遺跡	遺物包含地	縄文	
B-05-25	鶴岡2遺跡	遺物包含地	縄文(前期～後期)・続縄文	1988・1989 町教委(1989・1990)
B-05-26	津川遺跡	遺物包含地	縄文(早期～後期)	1984 道理文(1986)
B-05-27	新道4遺跡	集落跡	旧石器・縄文(早期～晩期)・続縄文	1984～1986・2013 道理文(1986・1987・1988・2015本書)
B-05-28	木古内2遺跡	集落跡	縄文(前期)	2010・2011 道理文(2011・2012)
B-05-29	大平4遺跡	集落跡	縄文(早期～中期・晩期)	2009・2010・2012～2014 道理文(2011・2012)
B-05-30	札苜2遺跡	遺物包含地	不明	
B-05-31	札苜3遺跡	遺物包含地	不明	
B-05-32	札苜4遺跡	遺物包含地	不明	
B-05-33	幸達2遺跡	遺物包含地	不明	
B-05-34	橋仏2遺跡	遺物包含地	不明	
B-05-35	津川2遺跡	集落跡	縄文(前～晩期)	1985・1986 道理文(1987)
B-05-36	釜谷3遺跡	遺物包含地	縄文(後期)	
B-05-37	釜谷4遺跡	遺物包含地	旧石器・縄文(早期～後期)	1990 町教委(1991)
B-05-38	亀川遺跡	遺物包含地	縄文(晩期)	
B-05-39	亀川2遺跡	遺物包含地	縄文(中期～晩期)	1995 町教委(1998)
B-05-40	亀川3遺跡	集落跡	縄文(早期～後期)	1995 町教委(1998)
B-05-41	泉沢2遺跡	集落跡	縄文(前期～晩期)・樺文	1998～2001 町教委(2003・2004)
B-05-42	泉沢3遺跡	遺物包含地	縄文(後期)	1996 町教委(1998)
B-05-43	亀川4遺跡	遺物包含地	縄文	
B-05-44	釜谷5遺跡	集落跡	縄文(早期～晩期)	1993 町教委(1995)
B-05-45	釜谷6遺跡	遺物包含地	縄文	
B-05-46	釜谷7遺跡	遺物包含地	縄文	
B-05-47	大釜谷3遺跡	集落跡	縄文(前期～晩期)	2001 町教委(2003)
B-05-48	札苜5遺跡	遺物包含地	縄文(早期・前期・後期)	2011 道理文(2012)
B-05-49	札苜6遺跡	集落跡	縄文(中期・後期)	2011 道理文(2013)
B-05-50	札苜7遺跡	集落跡	縄文(後期)	2013・2014 道理文
B-05-51	釜谷8遺跡	遺物包含地	縄文(早期・中期・後期)	2011・2012 道理文(2013)
B-05-52	釜谷9遺跡	遺物包含地	縄文	
B-05-53	泉沢4遺跡	遺物包含地	縄文	
B-05-54	亀川5遺跡	遺物包含地	縄文(後期・晩期)	2014 道理文
B-05-55	泉沢5遺跡	集落跡	縄文(中期・後期)	2014 道理文
B-05-56	札苜8遺跡	集落跡	旧石器・縄文(前期)	2014 道理文
B-05-57	札苜9遺跡	遺物包含地	不明	
B-05-58	釜谷10遺跡	遺物包含地	縄文(後期)	
B-05-59	幸達3遺跡	遺物包含地		2015 道理文
B-05-60	幸達4遺跡	遺物包含地		2015 道理文
B-05-61	泉沢6遺跡	遺物包含地		2015 道理文

町教委：木古内町教育委員会、道理文：北海道埋蔵文化財センター



(平成18年国土院発行の数値地図2000「国勢」を加工して使用)

図II-3 木古内町内の遺跡

III 調査の方法

1 調査範囲

(1) 調査区の設定と座標値

昭和59～61年度調査の際に用いた調査区を踏襲して調査区の設定を行っている。

昭和59～61年度調査の横ラインは、津軽海峡線センターラインを方格設定の基線とし、基線をMラインとして山側をLライン、海側をNラインとして順次4mごとにアルファベットを用いてラインを設定していた。縦ラインは、方格設定の原点として12k600mを使用し木古内駅側へ向かってアラビア数字で4mごとにラインを設定していた。

今回の調査では、横ラインは津軽海峡線のセンターラインと北海道新幹線のセンターラインが同一線上にあることから、これをMラインとした。M0杭は、津軽海峡線の12k600mであり、北海道新幹線では111k183.313mとなる。これを踏まえると、M60杭は111k423.313m (12k840m)、M75杭は111k483.313m (12k900m)となる。これをもとに方格を設定した。方格の名称は過年度調査に準じている。平成25年度発掘調査区は便宜上3地区に分割している。山側をJ地区、海側の知内町側をK地区、海側の木古内町側をL地区としている。

方格の間隔は4mとした。方格を区画する線にはアルファベット(北東-南西方向)とアラビア数字(北西-南東方向)を与え、調査区(グリッド)の名称は方格の北西角で交差する2つの線名を合わせて読む(例:Q70)。さらに、4m方格を2m四方に分割して、反時計回りに西角からa・b・c・dと呼ぶ小調査区(小グリッド)を設置し、調査の便宜を図った。

基線上の2点と平成25年度調査範囲各地区の平面直角座標は第XI系で、以下のとおりである。合わせて、記載した杭の杭高を記す。

基線上 M60杭 : 12k840m (111k423.313m)	X = -259316.750	Y = 14109.103	
北緯41度39分55.21217秒	東経140度25分09.93918秒		
基線上 M75杭 : 12k900m (111k483.313m)	X = -259270.686	Y = 14147.549	
北緯41度39分56.70292秒	東経140度25分11.60512秒		
J地区 : 調査方格名称 J55杭	X = -259324.416	Y = 14087.075	
北緯41度39分54.96507秒	東経140度25分08.98626秒	杭高17.684m	
K地区 : 調査方格名称 Q55杭	X = -259342.357	Y = 14108.572	
北緯41度39分54.38212秒	東経140度25分09.91405秒	杭高18.353m	
L地区 : 調査方格名称 Q70杭	X = -259296.293	Y = 1147.018	
北緯41度39分55.87288秒	東経140度25分11.57999秒	杭高16.859m	

この平面直角座標は「世界測地系」に基づいた「測地成果2000」の座標である。

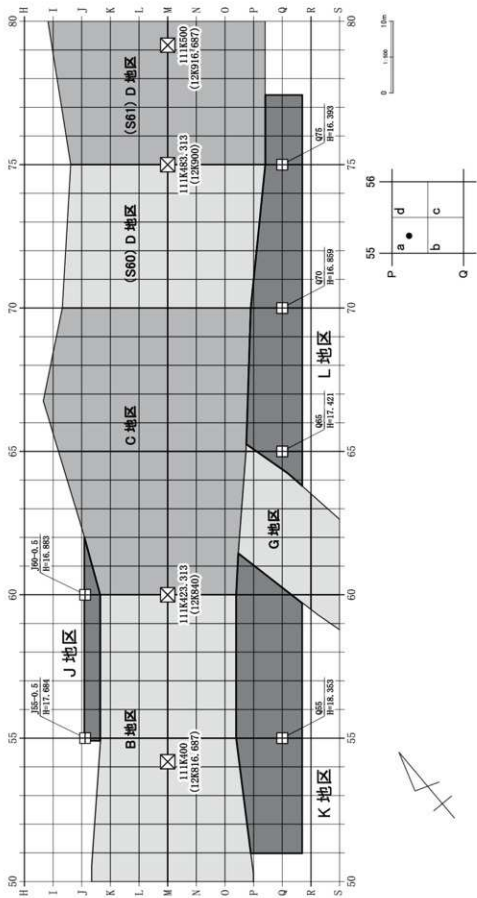


図 III-1 グリッド設定図

2 土工

(1) 掘削

掘削作業には主に移植ゴテ、ねじり鎌を使用した。遺構・遺物の検出状況に応じて、竹べら・竹串を使用して遺構・遺物を傷つけないこと事のないように配慮して掘削した。精査・清掃の際には炬箸、ブラシなどを併用した。移植ゴテでは掘ることが困難な場所や、遺構・遺物の見られない範囲、攪乱などではスコップを併用した。

遺構は乾燥や降雨による流水によって崩壊しやすいため、ジョウロや噴霧器による適度な散水などの乾燥や降雨への対策をとりながら調査を進めた。また、黒色腐植土は水分を含むと滑りやすくなるため、排土場に到る道や通路に歩み板や麻袋を敷いて転倒防止に努めた。今回の調査は線路に隣接するため、風による遺物袋などの飛散には十分な注意をはらって行った。

(2) 埋め戻し

調査終了後に建設工事が行われることから、埋め戻しは行っていない。

3 測量と記録

(1) 測量・図化

4m×4m方眼の交点に打設した方格杭を平面測量の基準とした。20mごとに打設した基準杭にはそれぞれの杭に打たれた釘の標高を記入し、この標高を水準測量の基準とした。水準測量にはオートレベルと1mm目盛のアルミ製スタッフを用いて、基準杭の標高と測量対象の比高を直接観察した。平面測量は測量杭を基準として手測りによって行った。

遺構・遺物の出土状況等の実測図は、B3版セクションフィルムに基本的に1/20縮尺で記録した。遺物出土状況等の詳細図については1/10縮尺を用い、図版にはそれぞれスケールを付した。

(酒井)

(2) 現場での撮影

a 撮影方法

発掘現場での撮影は6×7インチ判と4×5インチ判カメラを使用した。また、写真整理用としてデジタルカメラを使用した。基本的にカラーリバーサルフィルム2コマを同露出で撮影し、1セットとした。撮影の際は撮影方向、出土位置など出来るだけ多くの情報を入れることに留意した。

b 撮影機材

撮影機材・フィルムは下記を使用した。

カメラ：Mamiya RZ67PRO II (6×7インチ判)、酒井マシツツール社 トヨフィールド45A (4×5インチ判)、シグマ SD-1メリル・DP-1メリル (デジタルカメラ)

フィルム：フジフィルム ネオパン100アクロス (モノクロフィルム)、フジフィルム フジクローム プロビア100F (カラーリバーサルフィルム)

c 撮影データ

発掘現場での撮影データ (カットNo、撮影日、被写体、出土位置、層位、撮影方向、フィルム種類) を野帳に記入し、デジタルカメラの画像と照合して写真台帳を作成した。

(中山)

4 整理の方法

(1) 一次整理作業

遺跡内より出土した土器・石器等は、野外作業と並行して現地水洗・乾燥を行った。水洗はボンブブラシや歯ブラシなどを使用して、遺物に付着した土を洗い落とした。乾燥は新聞紙等を敷いた乾燥かごに遺物を入れて、屋外もしくは屋内において行った。室内では除湿機などを用いて乾燥を促した。水洗・乾燥の終了した遺物は、収集の単位ごとに分類して収納した。遺物は、現地調査終了後に北海道埋蔵文化財センター（以後センター）へ搬送した。

センターでは、分類・遺物カードの添付・遺物台帳の作成・注記作業を行った。分類・遺物カードの添付を行った後、それぞれに遺物番号を与えて、遺物台帳に登録した。遺物台帳は、土器・土製品と石器等に分けて作成している。B5判の様式を印刷して手作業で記入し、遺構・包含層を分けて全遺物を登録した台帳を作成した。台帳には出土遺構またはグリッド名のほか、遺物番号・取上日・層位・遺物名・分類・材質（石器等の場合）・点数その他を記入した。台帳登録の終わった遺物は、台帳と同一の内容を記入した遺物カードと共に遺物番号ごとにチェック付ポリ袋に納めた。遺物カードは土器等と石器等で色を分けている。土器を「ピンク色」石器等を「水色」とした。

注記は手書きによって行った。注記対象は、土器片が微細なものを除く大多数、石器等が礫・礫片を除く狭義の石器である。注記できなかった遺物は、遺物番号ごとに「未注記」と記入したポリ袋に納め、注記済みのものと同封した。注記は、遺跡名の略号、遺構番号またはグリッド名、遺物番号、出土層位の順に記した。遺跡の略号は「シ4」とした。

注記例 新道4遺跡

遺 構：シ4、LH-1.2、床面

包含層：シ4、P55、3、III

なお、遺物台帳は手作業で紙へ記入したものを基にパソコン上で表計算ソフト（Microsoft Excel）に入力し管理している。整理作業の進捗により遺物の分類等に変更があった場合には、手書きの台帳とExcelのデータを同時に修正した。

(2) 二次整理作業

図面等

遺構や遺物出土状況の原因は訂正などの作業を行った。訂正や変更があった場合はその箇所が確認できるように原因に書き込んでいる。その後、原因から1mm方眼の方眼紙に鉛筆で素図を作成している。素図をスキャナーで取り込み、パソコン上で描画ソフト（Adobe Illustrator CS6）により補正・加工して版下を作成した。（酒井）

土器の整理

土器については、地区ごとに分類の見直しと細分類を行いながら、接合作業を中心に整理を進めた。作業に当たっては遺構と包含層の接合、同一個体の破片を把握することに努めた。接合作業の結果は、分類・出土地点・遺物番号・点数・同一個体破片の有無などを接合台帳に記入した。接合関係が認められた個体は、接合の程度により立体復元、土器拓本、未掲載に分け、個体ごとに適宜判断し図化を行った。未接合の破片資料のうち、文様構成・器形のわかる口縁部・胴部・底部については、土器拓本を作成した。立体復元は、遺物台帳と破片の照合を行って復元台帳の作成→再接合→破片接着→樹脂充填の手順をとった。立体復元と拓本断面については人手による原寸実測を行い、2/3縮尺素図をもとに墨入れを行った。接合・復元作業と並行して、集計表・分布図を作成した。

（熊谷）

石器等の整理

石器については、分類の見直しを行いながら、破損品の接合作業を行った。遺構・包含層ごとに完形品を中心に人手による原寸実測を行い、剥片石器・磨製石器・石製品は原寸で、礫石器は2/3縮尺素図をもとに墨入れを行った。これらの作業と並行して集計表・分布図の作成を行った。

(酒井)

写真

a スタジオ撮影

撮影方法：光源はストロボを使用している。石器片や石器などの俯瞰撮影は、DP3メリルを用いてトヨ無影撮影台を使用して撮影した。復元石器の立面撮影は、トヨビュー45GXを用いて蛍光剤が少量のスーパーホワイトの背景紙を撮影台に垂らして行った。モノクロ、カラーリバーサルともに同露出で2コマ撮影し、1セットとした。

撮影機材：スタンド：トヨウエイトスタンド

カメラ：酒井マシツール社 トヨビュー45GXおよびシグマ社DP3メリル

レンズ：ニコン社 ニッコールAM ED210 f 5.6

ストロボ：コメット社 CS-2400TII、CBb-24X、CL25H、CLX-25miniH

フィルム：フジフィルム ネオバン100アクロス（モノクロフィルム）、フジクロームプロビア100F（カラーリバーサルフィルム）

b 現像

フィルム現像：モノクロフィルムは自動現像機（ILFORD ILFOLAB FP40）を使用して、自家処理を行っている。

デジタル処理：デジタルカメラ撮影のRAWデータはシグマプロフォトでTIFFに変換し、アドビフォトショップCS6で調整した。フィルム撮影のものはリバーサルフィルムのものをスキャナーハッセルブラッドフレックスタイトX5でデジタル化し、アドビフォトショップCS6で調整した。調整した画像から写真図版を作成した。

c 保管・管理

フィルムは1コマずつ番号をつけ、フィルム種類ごとの連番で管理している。フィルムに触れる時は手袋を着用し、油分からの変化・劣化・カビの発生を防いでいる。同露出で撮影した2コマのうち1コマはオリジナルフィルムとして使用していない。使用頻度や貸し出し依頼の多い写真は、デュープフィルムの作成やスキャニングによるデータ化で対応している。写真アルバムはすべての調査・整理作業が終了した後、常温・定湿の特別収蔵庫に保管される。

(中山)

5 保管

今回の報告に関する出土遺物については、調査年度・遺跡名・遺物名・分類・収納番号等を記したラベルを貼ったコンテナに収納し、収納台帳を作成した。遺物は収納台帳と共に木古内町へ返却される予定である。図面等はすべてA2判図面ファイルに調査年度・遺跡名を付け収納している。図面等や写真フィルム等は、道立北海道埋蔵文化財センターにて保管される。

(酒井)

6 遺跡の土層

昭和59～61年度の土層を踏襲している。J・K・L地区ともに基本的な層序は同じである。K・L地区北東～南西メインセクション図は、調査区南東側壁面で作図している。各地区とも耕作等による擾乱が多く、Ⅲ層の遺物包含層はあまり残っていない。特にL地区は、長いも作付用トレンチャーによって溝状の擾乱を多く受けていた。

I層：表土・耕作土など

II層：火山灰層：駒ヶ岳 d_2 火山灰（Ko-d₂、1640年降灰）、白頭山～苦小牧火山灰（B-Tm、10世紀前半降灰）、渡島大島b火山灰（Os-b）。今回の調査のメインセクションでは見られなかったが、遺構覆土中で確認している。

III層：腐植土層：黒褐色土。縄文時代の遺物包含層。

IV層：谷頭付近の一部にある黒色粘質土層。今回の調査では見られない。

V層：漸移層：黒褐色土。縄文時代の遺物包含層。

VI層：ローム質土層：褐色土。旧石器時代の遺物包含層。今回の調査では遺物は見つかっていない。

（酒井）

7 遺物の分類

（1）土器

土器は縄文時代早期に属するものをI群とし、以下前期をII群、中期をIII群、後期をIV群、晩期をV群とした。続縄文時代のはVI群、擦文文化期のはVII群である。また、a・b類に二分したものはa類が前半、b類が後半を意味する。同様にa・b・c類に三分したものはa類が前葉、b類が中葉、c類が後葉を意味する。さらに細分を必要とする場合は、アラビア数字の枝番号を付した。なお、今回の調査では、VI群・VII群は出土していない。

I群 縄文時代早期に属する土器群

a類 貝殻・沈線文系土器群および条痕文系平底土器群

b類 縄文、燃糸文、縞条体圧痕文、組紐圧痕文、貼付文などの付された縄文系平底土器群

b-1類 東釧路Ⅱ式、東釧路Ⅲ式に相当するもの

b-2類 コッタロ式に相当するもの

b-3類 中茶路式に相当するもの

b-4類 東釧路Ⅳ式に相当するもの

II群 縄文時代前期に属する土器群

a類 縄文の施された丸底・尖底の土器群

b類 円筒土器下層式土器群

III群 縄文時代中期に属する土器群

a類 円筒土器上層a式・b式、サイベ沢Ⅶ式、見晴町式に相当するもの

b類 椀林式、大安在B式、ノダツⅡ式などに相当するもの

小破片が多く細分は行っていない

IV群 縄文時代後期に属する土器群

a類 天祐寺式、涌元式、トリサキ式、大津式、白坂3式に相当するもの

b類 ウサクマイC式、手稲式、ホッケマ式に相当するもの

c類 堂林式、三ツ谷式、湯の里3式に相当するもの

V群 縄文時代晩期に属する土器群

a類 大洞B式、大洞B-C式とこれに並行する在地の土器群

b類 大洞C₁式、大洞C₂式とこれに並行する在地の土器群

c類 大洞A式、大洞A₁式とこれに並行する在地の土器群

(熊谷)

(2) 石器等

石器は下記の分類を使用した。点数には破片を含む。

剥片石器群：石鏃、石槍、ナイフ、石錐、つまみ付きナイフ、スクレイパー、両面調整石器、楔形石器、Rフレイク、Uフレイク、剥片

礫石器群：石斧、たたき石、凹み石、すり石、礫器または石核、加工痕のある礫、礫・礫片

土製品：土偶、象嵌土製品、有孔土製円盤、土器片擦り切り、焼成粘土塊など

石製品：異形石器、三脚石器、有孔石製品、軽石製石製品、線刻礫、石刀など

(酒井)

IV J地区の調査

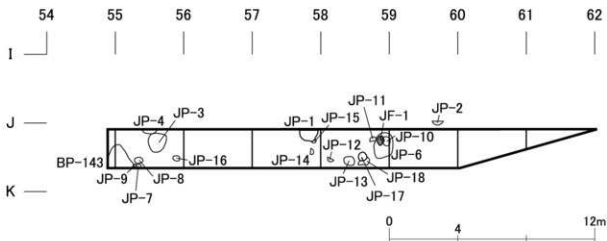
1 概要

J地区は昭和60年度B地区の北西側に位置する。長さ28m、幅2mほどのトレンチ状の調査区で、面積は51㎡である。地形は、昭和59年度C地区の沢がある北東側に向かって緩やかに傾斜する。標高は16.6～17.2mである。遺物包含層であるⅢ層のほとんどは土取りによって削平されており、59ラインより北東側は攪乱がとくに大きい。表土を除去した段階でV層やVI層のロームが確認できる状況であった。遺構は、土坑16基、フラスコ状土坑2基、焼土1か所を検出した。包含層の遺物は、土器が618点、石器等が190点、合計808点が出土している(表Ⅳ-7・8)。土器は後期前葉が最も多く、後期後葉、中期後半、後期中葉の順に多く出土している。石器類は切片と鏃・鏢片で約9割を占め、スクレイパーやたたき石などが出土している。

2 遺構

(1) 遺構の概要

J地区からは土坑16基、フラスコ状土坑2基、焼土1か所を検出している。土坑は縄文時代中期前半1基(JP-12)、同後半3基(JP-7・9・16)、後期前葉1基(JP-8)、同中葉1基(JP-6)、後期3基(JP-17・18、BP-143)、不明7基(JP-2・4・10・11・13・14・15)である。JP-5はBP-143と同一遺構だったことから欠番にしている。フラスコ状土坑は後期前葉1基(JP-1)、後期後葉1基(JP-3)である。JP-3では、底面から赤色の細粒と炭化クルミの混じる土層を確認した。覆土中からは後期後葉の土器やたたき石・凹み石・台石・大型鏃などが出土している。JP-7・9は埋設土器の可能性があり、JP-7からⅢ群b類土器、JP-9からⅣ群a類土器が出土している。焼土は縄文時代後期中葉以後のもの1か所(JF-1)である。遺構から出土した遺物は、土器436点、石器等87点、合計523点である(表Ⅳ-3・4)。(酒井)



図Ⅳ-1 遺構位置図

(2) 土坑

JP-1 (図IV-2・3/表IV-1~3・5/図版1・30)

特徴 J57区北西際のVI層上面で黒褐色土の落ち込んでいるのを検出した。調査範囲外にかかっているため約半分の調査だが、平面形はほぼ円形と推定される。壁面は軽くオーバーハングしており、フラスコ状土坑と考えられる。底面は平坦で、覆土は1~3層は流れ込み等による自然堆積、4層は埋戻し、5層は壁面の崩落土である。覆土中から土器43点、石器等25点が出土した。II群b類土器7点、III群a類土器3点、III群b類土器1点、IV群a類土器21点、IV群c類土器11点、つまみ付ナイフ1点、たたき石片2点、Uフレイク3点、剥片3点、礫・礫片16点である。IV群c類土器は覆土2層から出土している。

時期 出土遺物から縄文時代後期前葉と考えられる。(酒井)

遺物 土器: 1はIV群a類土器。覆土1層出土2点と攪乱層及びJ55区V層出土の42点が接合した。幅の狭い波状の口縁部で、胴部上半には無文地上に「スパナー」状の太い沈線文が施され、区画内には櫛歯状工具による擦痕が加えられている。2はIII群b類土器の口縁部。口唇に縄の圧痕が加えられ、口縁に複節の斜行縄文が施されている。3はIV群a類土器の口縁部。(熊谷)

JP-2 (図IV-2/表IV-1/図版1)

特徴 J59区北西壁際のVI層で黒褐色土の落ち込んでいるのを検出した。後世の攪乱によりほとんどを削平されているが、底面付近を検出した。調査範囲境界の壁面で土層断面を確認した。調査範囲外にかかって約1/3の調査のため、平面形は不明である。底面はボウル状で、壁面は緩やかに立ち上がる。覆土は自然堆積である。遺物は、出土していない。

時期 時期を判断できる遺物が出土していないことから、不明である。(酒井)

JP-3 (図IV-4・5/表IV-1~6/図版2・30・31)

特徴 J55区北西際のV層上面で黒色土の落ち込みを検出した。トレンチを入れたところ、台石と大型礫が覆土2層と3層の層界で出土した。平面形はほぼ円形、壁面は軽くオーバーハングしており、底面は平坦である。フラスコ状土坑と考えられる。覆土は、1層は流れ込み等による自然堆積、2~4層は埋戻しである。4層には赤褐色の粘土粒や炭化材・炭化クルミ(7.8g)が含まれている。遺物は、2層と3層の層界と3層下位で多く出土している。覆土中から土器97点、石器等19点が出土した。III群b類土器2点、IV群a類土器2点、IV群b類土器9点、IV群c類土器84点、スクレイパー1点、剥片5点、たたき石4点、凹み石7点、台石1点、礫1点である。IV群c類土器が覆土2層、覆土3層下位からまとまって出土した。土坑墓の可能性もある。

時期 出土遺物と覆土4層から出土した炭化クルミの放射性炭素年代測定の結果が3,050±30yrBPであった(Ⅶ章-1参照)ことから縄文時代後期後葉と考えられる。(酒井)

遺物 土器: 1・2はIV群c類土器。1は極めて小さな底部から大きく開き気味に立ち上がる鉢形である。口縁部は平縁、口唇部の断面形は切り出し状である。胴部上半に斜行縄文が施されたのち、口縁部に横環する6~9条の鋭い沈線と内面からの刺突が加えられている。2は底部破片。3はIII群b類土器の口縁部破片。複節の斜行縄文が施される。口唇・口唇直下にナデ調整が加えられている。(熊谷)

石器: 4・5はたたき石。棒状礫の平坦面に使用痕があるもの。6~10は凹み石。くぼみの形状は6~8が不定形で円錐状のもの、9が不定形で浅い皿状のもの、10が円形と不定形で半円状のもの。(酒井)

JP-4 (図IV-2/表IV-1~3・5/図版2・30)

特徴 J55区北西際のV層上面で黒褐色土の落ち込みと土器を検出した。調査範囲外にかかっているため約1/4の調査だが、平面形はほぼ円形と推定される。壁面は緩く立ち上がり、底面は平坦である。覆土は1層が流れ込み等による自然堆積、2~4層は埋戻しである。遺物は、覆土1層からIV群b類土器33点が出土している。

時期 出土遺物から縄文時代後期中葉より古いと考えられる。(酒井)

遺物 土器：1はIV群b類土器。覆土1層から出土した資料が、JP-1の9点(覆土2層)、JP-3の6点(覆土2層が5点、覆土が1点)と接合した。胴部下半を欠失する。波状口縁で、5か所の大きな波頂部をもつ。口縁部は刻目文で区画され、沈線で区画された磨消文帯が施されている。胴部には「J」字状の磨消文が施されている。(熊谷)

JP-6 (図IV-6/表IV-1~6/図版2・31)

特徴 J58区のVI層上面でJP-1とともに暗褐色土の落ち込みを検出した。トレンチを入れたところ、断面に壁と底面を確認した。平面形は不整楕円形、壁面は緩く立ち上がり、底面は平坦である。底面にJP-10を検出しており、これを切って作られたと考えられる。覆土は、1層がJP-1の暗赤褐色焼土、2層は埋戻しである。覆土中から土器100点、石器等29点が出土した。内訳はII群b類土器3点、III群a類土器1点、IV群a類土器48点、IV群b類土器48点、焼成粘土塊5点、スクレイパー2点、ウフレイク3点、たたき石1点、剃片4点、礫・礫片14点である。覆土1・2層からIV群a類土器とIV群b類土器が比較的まとまって出土した。

時期 出土遺物から縄文時代後期中葉と考えられる。(酒井)

遺物 土器：1~5はIV群b類土器。1は無文の底部。2~4は口縁部破片。5は胴部破片。2は口唇部直下を沈線で区画し無文帯を作出している。3~5は器面に無節の縄文が施される。(熊谷)

石器：6・7はスクレイパー。縦長剃片の縁辺部に刃部を作出したもの。6は黒曜石製である。

(酒井)

JP-7 (図IV-7/表IV-1~3・5/図版2・3・31)

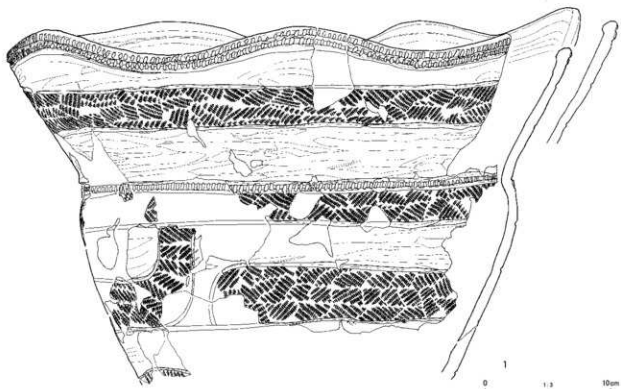
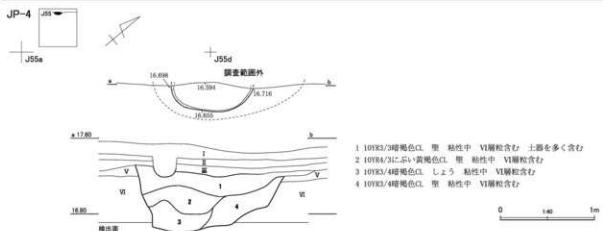
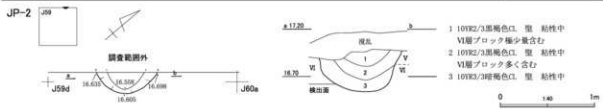
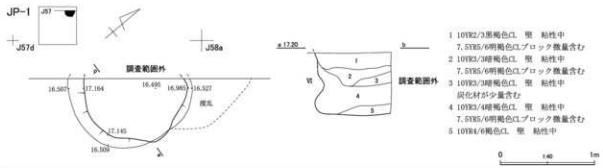
特徴 J55区のVI層上面で暗褐色土の落ち込みを検出した。トレンチを入れたところ、壁面と土器底部を確認した。反対側を調査したところ、JP-9を検出し、これに切られていることを確認した。平面形はほぼ円形、壁面は急角度に立ち上がり、底面は平坦である。柱穴様の土坑に土器を埋設したものと考えられる。覆土は、1層はJP-9の覆土、2・3層は埋戻しである。2層には赤褐色粘土粒が含まれる。遺物は、3層の上からIII群b類土器の底部が出土している。覆土から土器65点、石器等3点が出土した。内訳はIII群a類土器22点、III群b類土器37点、IV群a類土器6点、剃片1点、礫・礫片2点である。

時期 出土遺物から縄文時代中期後半と考えられる。(酒井)

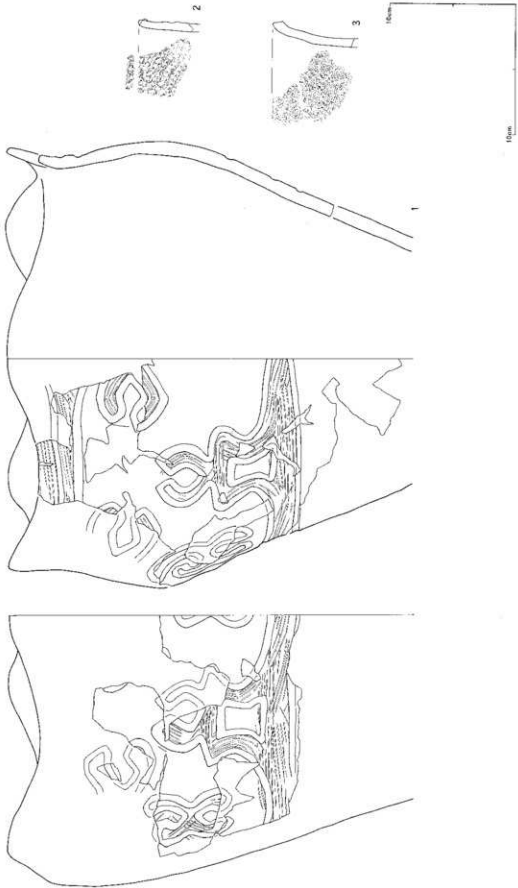
遺物 土器：1はIII群a類土器の胴部破片。斜行縄文が施されている。2・3はIII群b類土器。器面には横走気味の縄文が施される。2は底部から胴部下半の資料で、器形は小さな底部から大きく開き気味に立ち上がる。3は口縁部破片。胎土には多量の砂粒を含む。4はIV群a類土器の胴部破片。器面には横走気味の縄文上に太い沈線文が加えられている。(熊谷)

JP-8 (図IV-7・8/表IV-1~3・5/図版2・3・30)

特徴 J55区のVI層上面で暗褐色土の落ち込みを検出した。トレンチを入れたところ、壁面と土器を確認した。平面形は楕円形、壁面は急角度に立ち上がり坑口に向かって開き、底面は平坦である。覆土1層は埋戻しである。土器は19点、石器等3点が出土した。内訳はII群b類土器1点、III群b類土

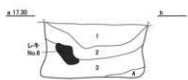
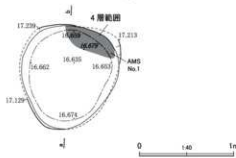


図IV-2 JP-1 (1)・2・4



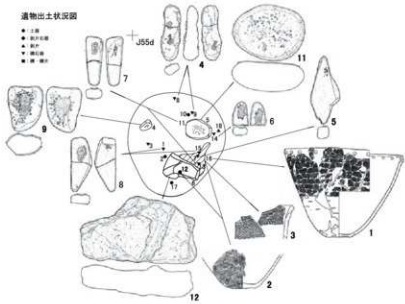
図IV-3 JP-1 (2)

JP-3

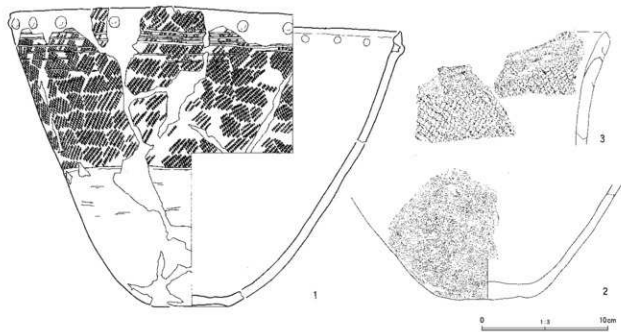


- 1 10YR1/1.7黒色Cl. 堅 粘性中
VI層ブロック微量含む
- 2 10YR2/1黒色Cl. 堅 粘性中
VI層ブロック微量含む
レンガ器等出土する
- 3 10YR3/3暗褐色Cl. 堅 粘性中
VI層ブロック微量含む
- 4 7.5YR4/4褐色Cl. 堅 粘性中
5YR4/6赤褐色粘土ブロック含む
炭化材微量含む

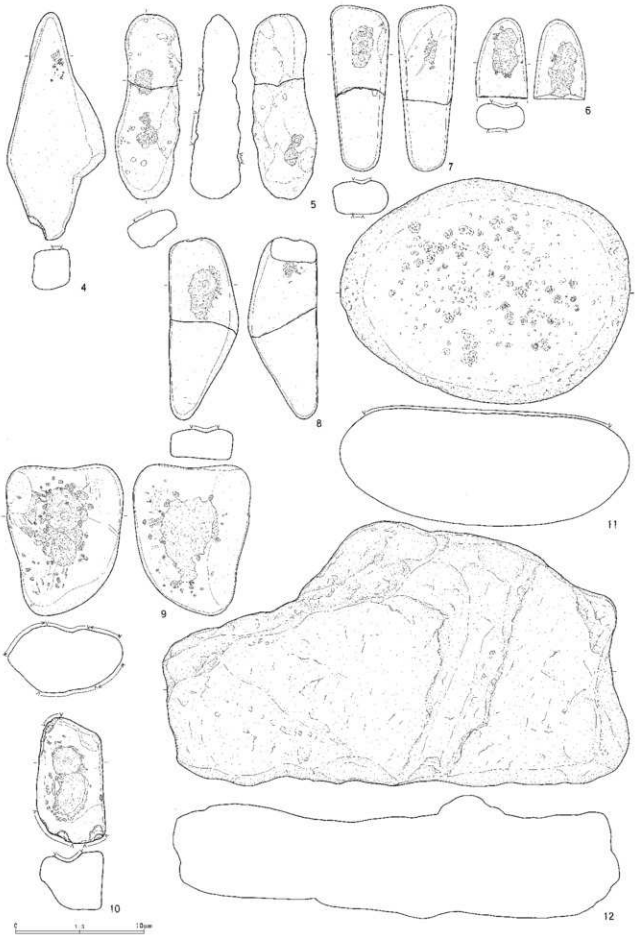
遺物出土状況図



1	陶み石片	16.775	礎土2層
2	土器	16.770	# (IVc)
3	たたき石片	16.846	#
4	陶み石	16.974	#
5	台石	16.865	#
6	レキ	16.789	#
7	たたき石	16.792	礎土3層
8	たたき石片	16.789	#
9	たたき石片	16.837	#
10	土器	16.804	# (IVc)
11	陶み石片	16.738	# No.5 F
12	土器底部	16.829	# No.6 底下 (IVc)
13	陶み石片	16.849	#
14	陶み石片	16.825	礎土3層下
15	陶み石片	16.783	#
16	土器	16.743 ~ 16.793	# (IVa・IVc)
17	土器口縁	16.806	#
18	割片	16.756	#



図IV-4 JP-3 (1)



図IV-5 JP-3 (2)

器2点、IV群a類土器16点、焼成粘土塊2点、すり石片1点である。坑底近くからIV群a類土器が出土している。

時期 出土遺物から縄文時代後期前葉と考えられる。(酒井)

遺物 土器：1はIV群a類土器。覆土1層出土の9点に、J55区攪乱出土の資料13点とJ地区攪乱出土の資料55点が接合した。底部を欠失する。波状口縁で、5か所の緩やかな波頂部をもつものと思われる。波頂部内外にモール状の細い粘土紐が施されている。口縁部は幅が狭く、波頂部を除き無文である。胴部には、太い沈線で区画され櫛歯状工具による擦痕が加えられた「クランク」状の磨消文が施されている。(熊谷)

JP-9 (図IV-7/表IV-1~3・5/図版3・31)

特徴 J55区のVI層上面で暗褐色土の落ち込みを検出した。JP-7として調査を進めていたところ、JP-7を切る土坑を確認した。平面形はほぼ円形、壁面は急角度に立ち上がり、底面は平坦である。上記のような状況のため、断面を確認できなかった。覆土は、JP-7の1層のみ確認した。遺物は、壁面に土器が張り付いた状況であり、埋設土器の可能性もある。土器はIII群b類土器59点が出土している。

時期 出土遺物から縄文時代中期後半と考えられる。(酒井)

遺物 土器：1はIII群b類土器の胴部破片。JP-9覆土出土の43点、JP-7覆土出土の資料4点、J55区攪乱出土の資料1点が接合した。胴部には横走気味の縄文が施されている。(熊谷)

JP-10 (図IV-6/表IV-1/図版3)

特徴 J58区でJP-6を調査中にトレンチ内で黒褐色土の落ち込みを検出した。平面形はほぼ円形で、壁面は急角度に立ち上がり、底面はボウル状である。覆土は埋戻しである。遺物は出土していない。

時期 時期を判別するものがないため不明である。(酒井)

JP-11 (図IV-6/表IV-1・2/図版3)

特徴 J58区のVI層上面で暗褐色土の落ち込みを検出した。JP-6とともにトレンチを入れたところ、壁面と底面を確認した。平面形はほぼ円形で、壁面は急角度に立ち上がり、底面は平坦である。覆土は埋戻しである。遺物は礫1点が出土している。

時期 時期を判別するものがないため不明である。(酒井)

JP-12 (図IV-6/表IV-1~3・5/図版3・4・31)

特徴 J58区のVI層上面で暗褐色土の落ち込みを検出した。半載したところ、壁面と底面を確認した。平面形はほぼ円形で、壁面は緩やかに立ち上がり、底面は平坦である。覆土は埋戻しである。遺物は、覆土からIII群a類土器1点と剥片1点が出土している。

時期 出土遺物から縄文時代中期前半の可能性もある。(酒井)

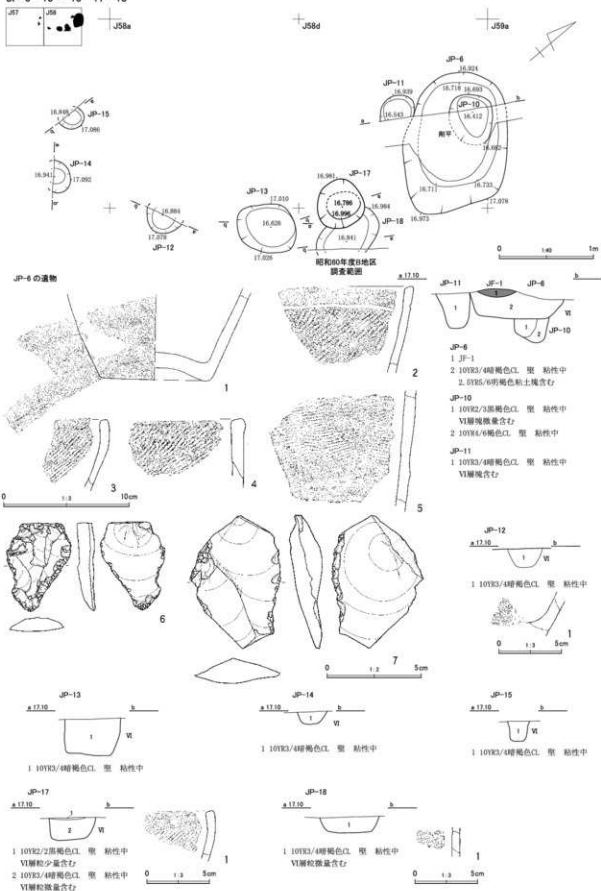
遺物 土器：1はIII群a類土器の底部破片。器面外面は無文である。胎土には砂粒を含む。内面調整は丁寧である。(熊谷)

JP-13 (図IV-6/表IV-1/図版4)

特徴 J58区のVI層上面で暗褐色土の落ち込みを検出した。半載したところ、壁面と底面を確認した。平面形はほぼ円形で、壁面は急角度に立ち上がり、底面は平坦である。覆土は埋戻しである。遺物は出土していない。

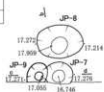
時期 時期を判別する遺物が出土していないため、不明である。(酒井)

JP-6・10～15・17・18



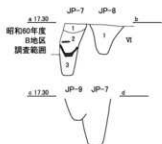
図IV-6 JP-6・10・11・12・13・14・15・17・18

JP-7 ~ 9



昭和60年度B地区調査範囲

J55c



JP-7・9

- 1 10YR3/4暗褐色CL 堅 粘性中 VI層を含む
5YR5/6明赤褐色粘土を含む
JP-9の層土と考えられる
- 2 7.5YR3/4暗褐色CL 堅 粘性中
5YR5/6明赤褐色粘土を含む
- 3 10YR4/4褐色CL 堅 粘性中 VI層を含む

JP-8

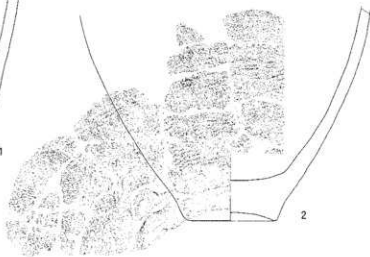
- 1 10YR4/4褐色CL 堅 粘性中 土層含む
- ※JP-7・9は埋没土層の可能性あり

0 100 1m

JP-7の遺物



1



2

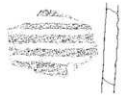
JP-7・9の遺物



1



3



4

0 10 10cm

図IV-7 JP-7・8 (1)・9

JP-14 (図IV-6 / 表IV-1 / 図版4)

特徴 J57区のVI層上面で暗褐色土の落ち込みを検出した。半載したところ、壁面と底面を確認した。平面形はほぼ円形で、壁面は緩やかに立ち上がり、底面は平坦である。覆土は埋戻しである。遺物は出土していない。

時期 時期を判別する遺物が出土していないため、不明である。 (酒井)

JP-15 (図IV-6 / 表IV-1 / 図版4)

特徴 J57区のVI層上面で暗褐色土の落ち込みを検出した。半載したところ、壁面と底面を確認した。平面形はほぼ円形で、壁面は急角度に立ち上がり、底面は平坦である。覆土は埋戻しである。遺物は出土していない。

時期 時期を判別する遺物が出土していないため、不明である。 (酒井)

JP-16 (図IV-8 / 表IV-1 ~ 3・5 / 図版4・5・31)

特徴 J55区のV層下位で暗褐色土の落ち込みを検出した。半載したところ、壁面と底面を確認した。平面形は楕円形で、壁面は急角度に立ち上がり、底面は平坦である。柱穴様の土坑である。覆土は埋戻しである。遺物は、覆土1層からⅢ群a類土器1点と剥片3点が出土している。

時期 出土遺物から縄文時代中期後半と考えられる。 (酒井)

遺物 土器：1はⅢ群a類土器の胴部破片。器面には斜行縄文が施されている。胎土には砂粒を含む。内面調整は丁寧である。 (熊谷)

JP-17 (図IV-6 / 表IV-1 ~ 3・5 / 図版5・31)

特徴 J58区のVI層上面で黒褐色土の落ち込みを検出した。半載したところ、壁面と底面を確認した。平面形はほぼ円形で、壁面は急角度に立ち上がり、底面は平坦である。覆土は埋戻しである。JP-18を切って作られている。遺物は、覆土2層からIV群a類土器1点、IV群b類土器1点、剥片1点が出土している。

時期 出土遺物から縄文時代後期と考えられる。 (酒井)

遺物 土器：1はIV群b類土器の口縁部破片。口唇及び直下にナデ調整を加え、無文帯を作出し、その下位に無節の斜行縄文が施されている。 (熊谷)

JP-18 (図IV-6 / 表IV-1 ~ 3・5 / 図版5・31)

特徴 J58区のVI層上面で暗褐色土の落ち込みを検出した。半載したところ、壁面と底面を確認した。平面形は楕円形で、壁面は緩やかに立ち上がり、底面は平坦である。覆土は埋戻しである。JP-17に切られている。遺物は、覆土1層からIV群a類土器1点が出土している。

時期 出土遺物から縄文時代後期と考えられる。 (酒井)

遺物 土器：1はIV群a類土器の胴部破片。器面調整が粗雑で、胎土には砂粒を含む。 (熊谷)

BP-143 (図IV-8 / 表IV-1 ~ 3・5 / 図版2・31)

特徴 J55区のVI層上面で黒褐色土の落ち込みを検出した。昭和60年度調査のBP-143の北西側未調査部分になる。平面形は不整楕円形で、壁面は緩やかに立ち上がり、底面は木根によって乱されている。覆土は埋戻しである。覆土中から土器15点、石器等2点が出土した。Ⅲ群a類土器1点、Ⅲ群b類土器10点、IV群a類土器4点、剥片2点である。

時期 出土遺物から縄文時代後期と考えられる。 (酒井)

遺物 土器：1はⅢ群b類土器。大きく外反した波頂部をもつ口縁部破片で、器面には不規則な縄文が施されている。2はIV群a類土器の胴部破片。無文地上に細い沈線文が加えられている。

(熊谷)

(3) 焼土

JF-1 (図IV-8/表IV-1/図版3)

特徴 J58区のVI層上面を調査中、JP-6を検出した際に覆土上面に暗赤褐色焼土が形成されていた。半截して確認したところ、現地での焼成と考えられる。平面形は不整楕円形である。

時期 JP-6が縄文時代後期中葉なので、それ以降と考えられる。(酒井)

3 包含層出土の遺物**(1) 土器** (図IV-9-1~19/表IV-7・9/図版32)

包含層から出土した土器は618点である。内訳はⅡ群b類土器1点、Ⅲ群a類土器15点、Ⅲ群b類土器68点、Ⅳ群a類土器311点、Ⅳ群b類土器67点、Ⅳ群c類土器148点、Ⅴ群b類土器8点である。

Ⅲ群b類土器 (図IV-9-4~10/表IV-7・9/図版32)

4~8は口縁部破片。4は波状口縁である。器面外面に不規則な縄文を施した後、口唇端部及び口唇直下に竹管状工具による円形刺突文と波頂部から垂下する浅い沈線文が加えられている。5は横走気味の縄文、6~8は複節の縄文が施されているもの。9・10は胴部破片。地文上に曲線的沈線文が加えられている。いずれも胎土には砂粒を含み、調整は粗雑である。

Ⅳ群a類土器 (図IV-9-11~15/表IV-7・9/図版32)

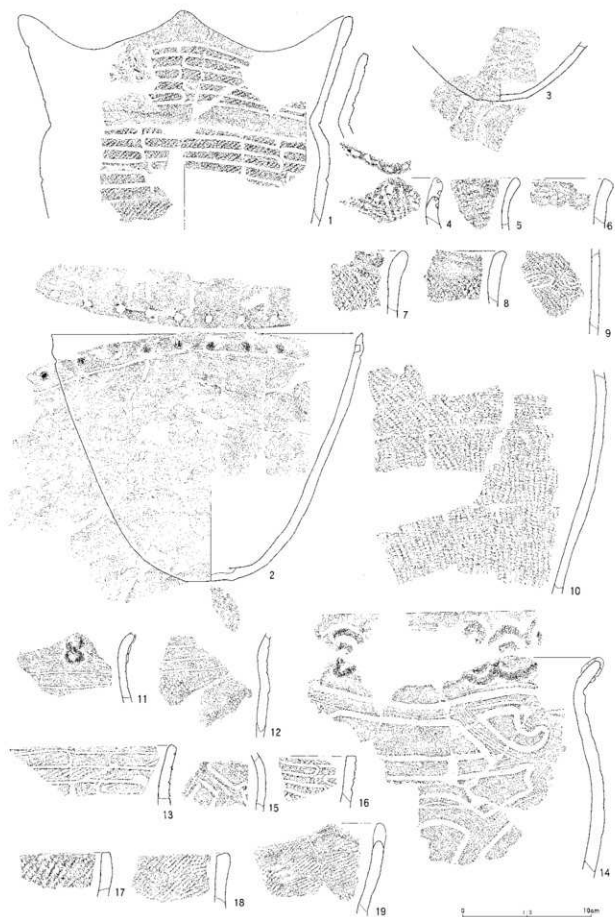
11~13は細い沈線文が加えられているもの。11は口縁部破片。波頂部外面に「8」字状の粘土紐の貼り付けが加えられている。12は口唇部を欠く口縁部破片。縄文を施し、軽い器面調整が加えられた器面に、3本の細い沈線文が加えられている。13は粗い縄文を施した後、口縁部を横環する沈線文が施されている。14・15は太い沈線で区画された「クランク」状の磨消文が施されたもの。14は口縁部破片。波頂部は5~7か所になるものと思われる。波頂部の内外面には細い粘土紐がモール状に施され、内面の貼り付けには縄文が加えられている。15は胴部破片。沈線で区画された文様帯内には粗い捺痕が加えられている。

Ⅳ群b類土器 (図IV-9-1・16~19/表IV-7・9/図版32)

1・16~19は口唇部の断面形が角形で、端部に丁寧なヘラ調整が加えられたもの。1は口縁部の大型破片。波状口縁で、口縁部の断面形は切り出し~角形である。器形は口縁部から胴部上半にかけて大きくくびれ、頸部の無文帯によって口縁部文様帯と胴部文様帯に分割されている。16は器面に縄文を施したのち、沈線文が加えられている。17~19は縄文のみが施された口縁部破片。17は斜行縄文、18・19は無節の縄文が施されている。19は口唇端部へのナゲ調整が口唇直下まで及び、やや新しい様相を示している。

Ⅳ群c類土器 (図IV-9-2・3/表IV-7・9/図版32)

2は小さな揚げ底から大きく開く鉢形である。口縁部は平縁で断面形は切り出し状である。口唇直下に沈線文が施され、さらに内面から口縁部に沿って円形刺突文が加えられている。器壁は5~7mmで薄い。胎土には多量の砂粒を含む。器面調整は内外とも粗く、ヘラの調整痕・捺痕が著しい。3は底部破片。胎土・器面調整等は2と同様である。(熊谷)



图IV-9 包含层出土土器

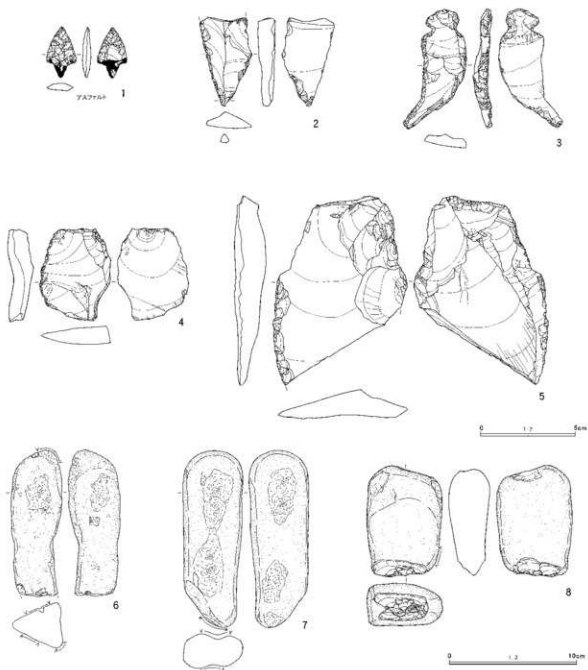
(2) 石器等 (図IV-10-1~8/表IV-8・10/図版32)

包含層から出土した石器等は190点である。V層からの出土が103点と多く、排土や擾乱から87点が出土している。石鏃、つまみ付ナイフ、スクレイパー、Rフレイク、Uフレイク、たたき石、凹み石、石皿、礫器、剥片、礫・礫片、焼成粘土塊、土製品がある。出土点数のうち、剥片と礫・礫片が約90%を占める。石材は頁岩が45点、泥岩59点、凝灰岩16点、チャート11点、安山岩11点などである。このうち、剥片は頁岩が41点のうち34点、礫・礫片は泥岩が104点のうち56点を占める。

石鏃 (図IV-10-1/表IV-8・10/図版32)

石鏃は1点出土し、掲載している。

1は有茎鏃平基。かえしは明瞭である。うら面に主刺離面が残る。基部にアスファルトの付着がみられる。頁岩製。



図IV-10 包含層出土石器等

石錐 (図IV-10-2 / 表IV-8・10 / 図版32)

石錐は1点出土し、掲載している。

2は縦長剥片に機能部を作出したもの。上半部は折損している。頁岩製。

つまみ付ナイフ (図IV-10-3 / 表IV-8・10 / 図版32)

つまみ付ナイフは1点出土し、掲載している。

3は縦長剥片につまみ部を作出し、周縁を片面調整している。頁岩製。

スクレイパー (図IV-10-4・5 / 表IV-8・10 / 図版32)

スクレイパーは4点出土し、2点を掲載している。石材は、すべて頁岩製。

4・5は剥片の周縁に刃部を作出したもの。5は下半を折損している。頁岩製。

たたき石 (図IV-10-6 / 表IV-8・10 / 図版32)

たたき石は3点出土し、1点を掲載している。石材は、砂岩、泥岩、凝灰岩各1点である。

6は断面が三角形の棒状礫の平坦面と稜、端部に敲打痕がある。砂岩製。

凹み石 (図IV-10-7 / 表IV-8・10 / 図版32)

凹み石は1点出土し、掲載している。石材は、泥岩である。

7は扁平な棒状礫の平坦面に凹みのあるもの。くぼみの形状は、不定形で円錐状や浅い皿状である。

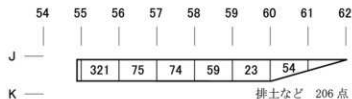
礫器 (図IV-10-8 / 表IV-8・10 / 図版32)

礫器は1点出土し、1点を掲載している。石材は、泥岩である。

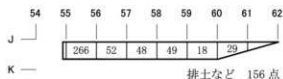
8は扁平礫の端部を打ち欠いて両刃の刃部を作出している。

(酒井)

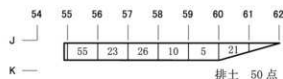
J地区 包含層出土遺物総計 808点



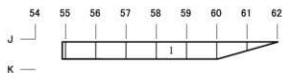
J地区 土器合計 618点



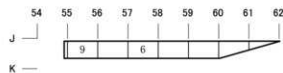
J地区 石器等合計 190点



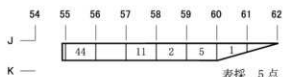
II群b類土器 1点



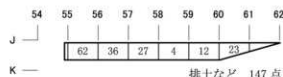
III群a類土器 15点



III群b類土器 68点

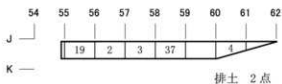


IV群a類土器 311点

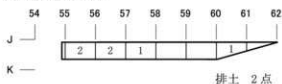


図IV-11 包含層出土遺物分布図 (1)

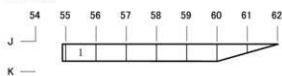
IV群b類土器 67点



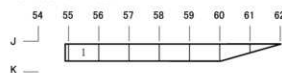
V群b類土器 8点



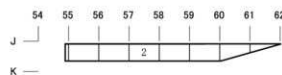
石畿 1点



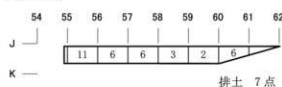
つまみ付ナイフ 1点



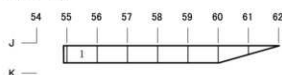
Rフレイク 2点



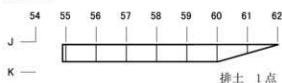
剥片 41点



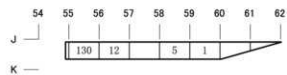
凹み石 1点



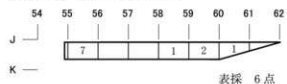
礫器 1点



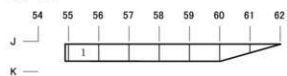
IV群c類土器 148点



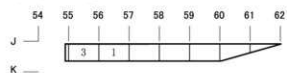
焼成粘土塊 16点・土製品 1点



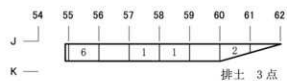
石錘 1点



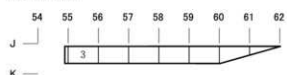
スクレイパー 4点



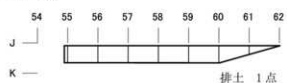
Uフレイク 13点



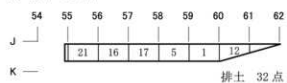
たたき石 3点



石皿 1点



礫・礫片 104点



図IV-12 包含層出土遺物分布図(2)

表IV-1 遺構規模一覧

遺構種別	遺構名	調査区	規模 (m)				形状	長軸方向	時期 (縄文時代)	特徴	図番号	図添番号	
			上堀		下堀								深さ
			長軸	短軸	長軸	短軸							
土坑	JP-1	J57d	1.04	(10.17)	1.24	(10.20)	0.67	円形	—	後期前葉	アラスコ状土坑	図IV-2・3	図添1・30
	JP-2	J59d	0.60	(10.34)	0.34	(10.14)	0.14	不明	—	不明	—	図IV-2	図添1
	JP-3	J54	1.18	1.35	0.86	0.84	0.93	円形	—	後期前葉	—	図IV-4・8	図添1・30・31
	JP-4	J56ab	0.78	(10.32)	0.70	(10.30)	0.12	円形	—	後期中葉	アラスコ状土坑	図IV-1	図添1・30
	JP-6	J58d・J59a	1.56	1.14	1.06	0.86	0.37	不整形円形	N-4E-W	後期中葉	—	図IV-6	図添1・31
	JP-7	J55b	0.30	0.36	0.14	0.12	0.33	円形	—	中期後半	埋没土器	図IV-7	図添1・3・31
	JP-8	J55b	0.48	0.36	0.18	0.16	0.25	楕円形	N-4E-E	後期前葉	—	図IV-7・8	図添1・3・31
	JP-9	J56b	0.36	0.32	0.10	0.08	0.22	円形	—	後期前葉	埋没土器	図IV-7	図添1・3・31
	JP-10	J58d	0.56	0.46	0.44	0.30	0.28	円形	—	不明	—	図IV-6	図添1
	JP-11	J58d	0.40	(10.24)	0.28	(10.20)	0.40	円形	—	不明	—	図IV-6	図添1
	JP-12	J58b	0.36	(10.20)	0.24	(10.14)	0.19	円形	—	中期前半	—	図IV-6	図添1・4・31
	JP-13	J58b	0.66	0.54	0.54	0.40	0.40	円形	—	不明	—	図IV-6	図添1
	JP-14	J57d	0.34	(10.18)	0.16	(10.14)	0.15	円形	—	不明	—	図IV-6	図添1
	JP-15	J57d	0.28	(10.16)	0.18	(10.14)	0.24	円形	—	不明	—	図IV-6	図添1
	JP-16	J55c	0.40	0.30	0.24	0.18	0.54	楕円形	N-60°-W	中期後半	—	図IV-8	図添1・5・31
	JP-17	J56cd	0.54	0.30	0.36	0.28	0.21	円形	—	後葉	—	図IV-6	図添1・31
	JP-18	J56cd	0.72	(10.34)	0.54	(10.30)	0.14	楕円形	N-13°-W	後葉	—	図IV-6	図添1・31
	JP-183	J56ab・J56cd	1.24	1.46	1.16	0.96	1.4	不整形円形	—	後葉	—	図IV-8	図添1・31
JP-1	J56d	1.56	1.12	—	—	—	不整形円形	—	後期中葉	—	図IV-8	図添1	

表IV-2 遺構出土遺物一覧

遺構種別	居住又は付属遺構名	遺物名	分類	石材	点数
土坑	JP-1	上堀	土器類		1
			土器類		1
			土器類		1
			土器類		1
			土器類		1
			土器類		1
		掘り下堀	土器類		2
			土器類		2
			土器類		1
			土器類		1
			土器類		1
			土器類		1
	掘り下堀	土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
JP-3	上堀	土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
	掘り下堀	土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
JP-4	上堀	土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
	掘り下堀	土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
JP-6	上堀	土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
	掘り下堀	土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
JP-7	上堀	土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
	掘り下堀	土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
JP-8	上堀	土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
	掘り下堀	土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
JP-10	上堀	土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
	掘り下堀	土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
JP-11	上堀	土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
	掘り下堀	土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
JP-12	上堀	土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
	掘り下堀	土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
JP-13	上堀	土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
	掘り下堀	土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
JP-14	上堀	土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
	掘り下堀	土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
JP-15	上堀	土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
	掘り下堀	土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
JP-16	上堀	土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
	掘り下堀	土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
JP-17	上堀	土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
	掘り下堀	土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
JP-18	上堀	土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
	掘り下堀	土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
JP-183	上堀	土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
	掘り下堀	土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
JP-1	上堀	土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
	掘り下堀	土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	
		土器類		1	

表IV-3 遺構出土土器点数一覧

遺構種別	遺構名	分類						合計
		Ⅰa	Ⅱa	Ⅱb	Ⅱc	Ⅱd	Ⅱe	
土坑	JP-1	7	2	1	21	1	43	
	JP-2			2	2	9	14	
	JP-3					23	23	
	JP-4	3	1		40		44	
	JP-6		22	22	6	14	65	
	JP-7	1		2	16		19	
	JP-9			29			29	
	JP-12		1				1	
	JP-14		1				1	
	JP-17				1	1	2	
	JP-18				1		1	
	JP-183		1	20	4		25	
	合計		11	23	113	90	95	237

表IV-4 遺構出土石器等点数一覧

遺構種別	遺構名	つぎみ付ナイフ	スクレイパー	リフレイク	割片	分類				土製品	合計	
						たたき石	凹み石	台石	すり石			
土坑	JP-1	1	3	3	2					16	25	
	JP-3	1		5	4	7	1			1	19	
	JP-5			2							2	
	JP-6	2	3	4	1					14	29	
	JP-7		1							2	3	
	JP-8							1			2	3
	JP-11										1	1
	JP-12		1								1	1
	JP-16		3								3	3
	JP-17		1								1	1
合計	1	3	6	20	7	7	1	1	34	7	87	

表IV-5 遺構出土石器一覧

遺構名	図番号	層位	遺物番号(点数)	小計	合計	大きさ(cm)			分類	図版番号	備考	
						長さ	幅	厚さ				
JP-1	図IV-3-1	J5 礫土	遺物1	5 (2)	2	44	(32.8)	(32.5)	—	IVa	図版30	
			遺物2	2 (9)	4 (16)							2
			遺物3	7 (1)	36 (1)							2
JP-3	図IV-4-1	礫土	遺物1	3 (1)	1	2	—	—	—	IVa	図版30	
			遺物2	8 (4)	10 (2)							11 (3)
			遺物3	2 (1)	3 (2)							12 (2)
JP-3	図IV-4-2	礫土	遺物1	1 (2)	2	5	16	(13.8)	—	(8.2)	IVc	図版30
			遺物2	8 (1)	1							
			遺物3	1 (1)	1							
JP-4	図IV-2-1	礫土	遺物1	2 (3)	2	64	(28.5)	45.2	(24.4)	IVb	図版30	
			遺物2	1 (9)	9							
			遺物3	6 (1)	15 (4)							5
JP-6	図IV-6-1	礫土	遺物1	4 (6)	4	7	—	—	—	IVb	図版31	
			遺物2	3 (1)	1							
			遺物3	4 (1)	1							
JP-7	図IV-7-1	J地区 カクラン	遺物1	1 (28)	1	30	(42.0)	—	(19.8)	IVc	図版31	
			遺物2	5 (2)	5							
			遺物3	6 (1)	1							
JP-8	図IV-8-1	J地区 礫土	遺物1	2 (20)	2	77	(32.7)	(28.0)	—	IVa	図版30	
			遺物2	16 (1)	16							
			遺物3	10 (12)	12							
JP-9	図IV-7-1	礫土	遺物1	1 (2)	1	48	—	—	—	IVb	図版31	
			遺物2	3 (1)	3							
			遺物3	36 (1)	36							
JP-12	図IV-6-1	礫土	遺物1	1 (1)	1	1	—	—	—	IVa	図版31	
			遺物2	1 (1)	1							
			遺物3	1 (1)	1							
JP-17	図IV-6-1	礫土	遺物1	1 (1)	1	1	—	—	—	IVa	図版31	
			遺物2	1 (1)	1							
			遺物3	1 (1)	1							
BP-14	図IV-7-2	礫土	遺物1	1 (1)	1	2	—	—	—	IVa	図版31	
			遺物2	1 (1)	1							
			遺物3	1 (1)	1							

表IV-6 遺構出土掘削石器等一覧

遺構名	図番号	遺物番号	層位	分類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	材質	図版番号	備考
JP-3	図IV-5-4	3	礫土3	たたき石	17.75	7.75	3.30	401.50	泥岩	図版30	No.7
	図IV-5-6	2	礫土3下	凹み石	(6.20)	(4.00)	(2.00)	(67.48)	泥岩	図版30	No.14
	図IV-5-7	6	礫土1	凹み石	14.25	5.45	2.70	248.38	泥岩	図版30	No.1
	図IV-5-9	10	礫土1	凹み石	11.80	9.20	5.20	625.00	泥岩	図版31	No.4
	図IV-5-10	12	礫土1	凹み石	9.90	5.30	4.50	246.94	泥岩	図版31	No.5
	図VI-5-11	15	礫土1	台石	23.70	30.60	11.80	1130.00	安山岩	図版31	No.5
	図VI-5-12	16	礫土1	礎	28.40	49.00	15.60	25000.00	チャート	図版31	No.6
JP-6	図IV-6-6	4	礫土1	スクレイパー	4.60	3.40	0.90	11.59	黒曜石	図版31	

表IV-7 包含層出土土器点数一覧

層名	分類							合計
	Ⅱb	Ⅲa	Ⅲb	Ⅳa	Ⅳb	Ⅳc	Vb	
I層						4		4
V層	1	14	53	82	61	142	4	357
攪乱		1	15	204	4	2	2	228
排土				25	2		2	29
合計	1	15	68	311	67	148	8	618

表IV-8 包含層出土石器点数一覧

層名	分類										合計			
	石 鏃	石 鏃	つまみ付 ナイフ	スクレイ パー	Rフ レイク	Uフ レイク	剥 片	たた き石	凹 み石	石 皿		碾 器	硬・ 礫片	土 製品
V層	1		1	3	1	6	23	3				56	8	103
攪乱		1		1	1	4	11					16	9	43
排土						3	7			1	1	32		44
合計	1	1	1	4	2	13	41	3	1	1	1	104	17	190

表IV-9 包含層出土掲載土器一覧

図番号	調査区	層位	遺物番号(点数)				小計	合計	大きさ(cm)			分類	図版番号	備考
			高さ	口径	底径	重さ								
図IV-9-1	J58	V層	5 (9)				9	11	-	-	-	IVb	図版32	
		J地区 排土	8 (2)				2							
図IV-9-2	J55	V層	3 (11)	17(36)	19 (5)	27 (1)	53	54	-	-	-	IVc	図版32	
		J地区 排土	17 (1)				1							
図IV-9-3	J58	V層	1 (3)	11 (1)			4	4	-	-	-	IVc	図版32	
図IV-9-4	J55	V層	9 (1)				1	1	-	-	-	Ⅲb	図版32	
図IV-9-5	J55	V層	15 (1)				1	1	-	-	-	Ⅲb	図版32	
図IV-9-6	J57	V層	15 (1)				2	2	-	-	-	Ⅲb	図版32	
図IV-9-7	J55	V層	15 (1)				1	1	-	-	-	Ⅲb	図版32	
図IV-9-8	J55	V層	1 (1)				1	1	-	-	-	Ⅲb	図版32	
図IV-9-9	J60	V層	6 (1)				1	1	-	-	-	Ⅲb	図版32	
図IV-9-10	J55	V層	9 (8)	15 (1)	22 (1)	29 (1)	33 (1)	12	12	-	-	Ⅲb	図版32	
図IV-9-11	J57	V層	11 (1)				1	1	-	-	-	IVa	図版32	
図IV-9-12	J56	V層	6 (2)				2	2	-	-	-	IVa	図版32	
図IV-9-13	J地区	排土	6 (2)				2	2	-	-	-	IVa	図版32	
図IV-9-14	J55	攪乱	10 (2)				2	11	-	-	-	IVa	図版32	
		J地区 排土	2 (6)	4 (3)			9							
図IV-9-15	J57	V層	13 (1)				1	1	-	-	-	IVa	図版32	
図IV-9-16	J60	攪乱	7 (1)				1	1	-	-	-	IVb	図版32	
図IV-9-17	J58	V層	5 (1)				1	1	-	-	-	IVb	図版32	
図IV-9-18	J57	V層	10 (1)				1	1	-	-	-	IVb	図版32	
図IV-9-19	J56	V層	10 (2)				2	2	-	-	-	IVb	図版32	

表IV-10 包含層出土掲載石器等一覧

図番号	発掘区	遺物番号	層位	分類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	材質	図版番号	備考
図IV-10-1	J55	34	V層	石鏃	2.60	1.06	0.40	1.42	頁岩	図版32	アスファルト付着
図IV-10-2	J55	12	攪乱	石鏃	(4.40)	2.50	0.90	(9.41)	頁岩	図版32	
図IV-10-3	J55	26	V層	つまみ付ナイフ	5.90	2.30	0.75	9.45	頁岩	図版32	
図IV-10-4	J56	4	V層	スクレイパー	4.80	3.75	0.86	21.67	頁岩	図版32	
図IV-10-5	J55	30	V層	スクレイパー片	(9.92)	(6.57)	1.57	(85.62)	頁岩	図版32	
図IV-10-6	J55	23	V層	たたき石	(11.35)	4.04	3.55	(185.55)	砂岩	図版32	
図IV-10-7	J55	14	V層	凹み石	13.70	4.70	2.90	249.84	泥岩	図版32	
図IV-10-8	排土	15	排土	碾器	8.54	5.87	3.29	221.80	泥岩	図版32	

V K地区の調査

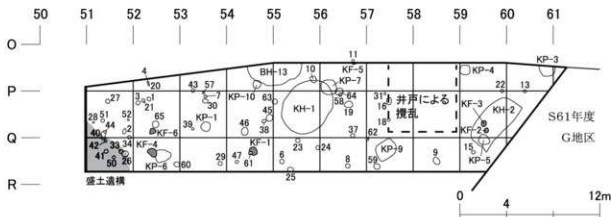
1 概要

K地区は昭和60年度B地区の南東側、昭和61年度G地区の北西側に位置する。長さ40m、幅8mほどの調査区で、面積は340㎡である。調査区はC地区の沢に向かってごく緩やかに傾斜する平坦地で、ここに遺構が分布する。標高は17～18mである。包含層の上部は畑作による耕作によって攪乱・削平されている。また、57～59ラインには井戸による大きな攪乱がある。I層中からは多数の遺物が出土していることから、重機で除去したI層の土を手作業によって調査し、遺物の回収を行っている。遺構は、竪穴住居跡3軒、土坑3基、プラスチック状土坑5基、柱穴様小ピット52基、焼土6か所を確認した。調査区南西端には、B地区からG地区に続く盛土遺構の一部が確認できる。包含層の遺物は、土器が3,161点、石器等は3,678点、合計6,839点が出土している(表V-7・8)。出土分布は、盛土遺構のある調査範囲南西側とG地区寄りの北東側から多く出土している。土器は縄文後期前葉のものが最も多く、次いで中期前半、前期後半、後期後葉、晩期中葉の順に多く出土している。出土点数のうち、剥片、礫・礫片が85%を占める。石器は、スクレイパー、たたき石、すり石が多い。石製品では三脚石器や線刻礫が出土している。

2 遺構

(1) 遺構の概要

K地区からは竪穴住居跡3軒、土坑8基、柱穴様小ピット52基、焼土6か所、盛土遺構1か所を確認した。竪穴住居跡は縄文時代中期1軒(BH-13)、後期前葉1軒(KH-2)、同後葉1軒(KH-1)である。BH-13からは石厨戸を検出している。土坑は前期後半3基(KP-7・9・10)、後期前葉4基(KP-1・3・5・6)、不明1基(KP-4)である。このうちKP-3・6・7・9・10はプラスチック状土坑である。底面中央に直径30cmほどの小土坑を伴う。KP-2・8は欠番である。柱穴様小ピットは52基が確認されている。とくに列などの規則性はみられず、用途は不明である。時期はよくわからないが、覆土中から出土する土器は後期前葉のものが多く、昭和60年度B地区にも小ピット群が確認されており、これの続きと考えられる。盛土遺構は調査範囲の南側で確認され、昭和60年度調査B地区と昭和61年度調査G地区で確認されたものの一部と考えられる。厚さは10cmほどで褐色のローム塊が混じる。遺物は後期前葉のものが出土している。遺構から出土した遺物は、土器950点、石器等525点、合計1,475点である(表V-3・4)。(酒井)



図V-1 遺構位置図

(2) 竪穴住居跡

KH-1 (図V-2~4/表V-1~6/図版7・8・33・34)

確認・調査 O・P55・56区のVI層上面を調査中に、黒褐色土の落ち込みを確認した。土層観察用のベルトを残し、黒褐色土を掘り下げたところ、しまりのある床面と地床炉、緩やかに立ち上がる壁面を検出した。

覆土 6層に分層した。1~3層は流れ込み等による自然堆積、4~6層は屋根葺き土や掘り上げ土の流入と考えられる。

形態 平面形は、東側がわずかに内側に張り出すぞら豆形である。壁面は、明瞭で緩やかに立ち上がる。床面は、平坦である。床面から地床炉1か所、小土坑5基、壁柱穴87基を検出した。

付属遺構 HF-1：床面の中央からやや北側に位置している。地床炉跡と考えられる。非常によく焼けている。

HSP-1~6：HSP-1・4は床面の西側、HSP-2は北側壁際、HSP-3・5は東側に位置する。柱穴と考えられる。HSP-1・2・5は深さ30~60cmほどである。

壁柱穴：床面の壁際に径3~5cm、深さ10cmほどの先端の尖った棒を打ち込んだとみられる穴を87基確認した。おおよそ10~15cmの間隔で検出している。

遺物出土状況 土器は65点出土した。II群a類土器3点、III群a類土器1点、III群b類土器1点、IV群a類土器22点、IV群c類土器39点、V群b類土器2点である。そのうち、床面からIV群c類土器18点、HSP-2からIV群a類土器1点が出土した。石器等は55点出土した。石錘2点、スクレイパー7点、Rフレイク2点、Uフレイク4点、石斧1点、たたき石2点、石皿2点、剥片23点、礫・礫片12点である。床面からは、南側壁際に石皿2点が出土している。

時期 出土した遺物とHF-1から検出した炭化材の放射性炭素年代測定の結果が3,170±30yrBPであった(VII章-1参照)ことから、縄文時代後期後葉と考えられる。(中山)

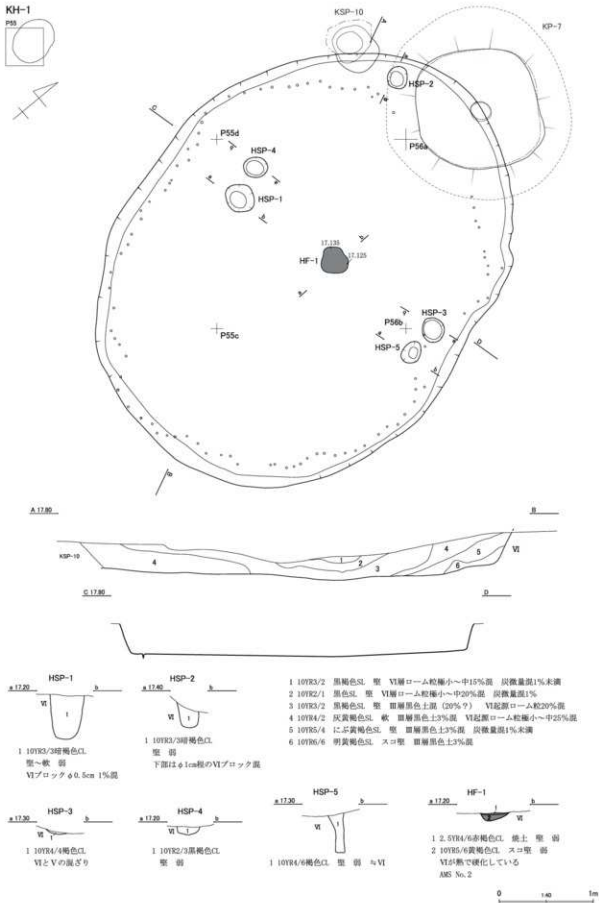
遺物土器：1・3~6は床面出土のIV群c類土器。1は底部を欠失する。口縁部は平縁で、口唇部の断面形は角形である。器面には斜行縄文が施されている。口縁部の内面から刺突が加えられ、外面に突瘤文が作出されている。3~6は器面に斜行縄文が施されている。2はHSP-2出土のIV群a類土器の胴部破片。粗い磨消文が施されている。(熊谷)

石器：7・8は石錘。縦長剥片の下端部に両面調整で機能部を作出したもの。9~13はスクレイパー。9は楕円形の剥片の周縁に刃部を設けたもの。10は縦長剥片の側縁に直線的な刃部を作出したもの。11・12は縦長剥片の側縁に刃部を作出したもの。13は横長剥片の下側縁に直線的な刃部を作出したもの。14・15はたたき石。14は円礫を打ち欠いてV字状にした部分に敲打痕がある。15は円礫の周縁に敲打痕があるもの。16は石皿。2点が接合している。おもて面に平坦なすり痕があるもの。使用面を敲打で調整したのち使用している。(酒井)

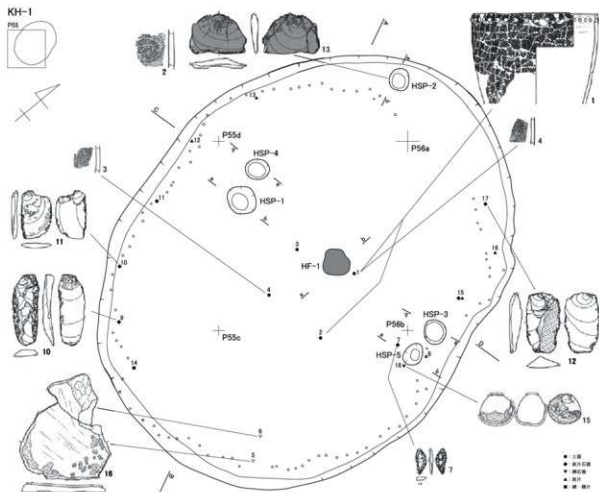
KH-2 (図V-5・6/表V-1~6/図版8・9・34)

確認・調査 P・Q59・60区のVI層上面を調査中に、黒褐色土の落ち込みを確認した。土層観察用のベルトを残し、黒褐色土を掘り下げたところ、しまりのある床面と地床炉、ベンチ部分の緩やかに立ち上がる壁面、南側の緩やかに立ち上がる壁面を検出した。北から西側にかけての壁面は耕作等による削平で確認できなかった。東側の約半分は昭和61年度G地区でも確認されており、G地区との間にある削平範囲にあったと考えられる。

覆土 6層に分層した。掘り上げ土の流れ込みや自然堆積と考えられる。



図V-2 KH-1 (1)



図V-3 KH-1 (2)

形態 平面形は、東側半分と北～西側の上部が削平されているため、不明である。内側の床面は円形～楕円形と考えられる。壁面は、緩やかに立ち上がる。床面は、平坦である。床面から地床炉1か所、小土坑6基を検出した。

付属遺構 HF-1：東側が削平されているが、床面の中央に位置していると考えられる。地床炉跡と考えられる。非常によく焼けている。

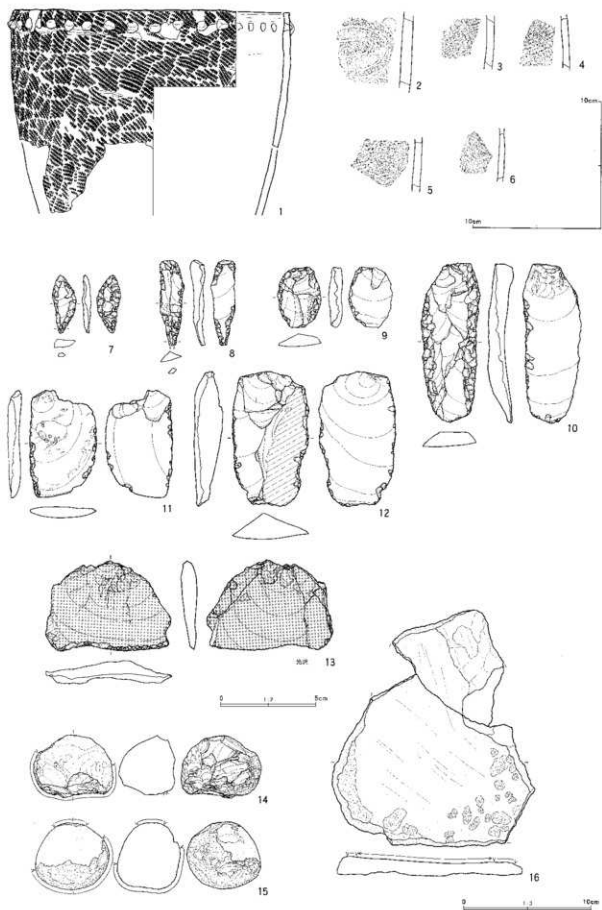
HSP-1～6：HSP-1・4は床面の西側、HSP-2は北側壁際、HSP-3・5は東側に位置する。HSP-1・2・5は深さ30～60cmほどで柱穴と考えられる。

遺物出土状況 覆土から土器が61点、石器等が33点出土した。内訳は、Ⅱ群b類土器14点、Ⅲ群a類土器35点、Ⅲ群b類土器2点、Ⅳ群a類土器9点、Ⅳ群c類土器1点、焼成粘土塊7点、スクレイパー2点、Rフレイク1点、Uフレイク1点、たたき石1点、割片5点、礫・礫片16点である。

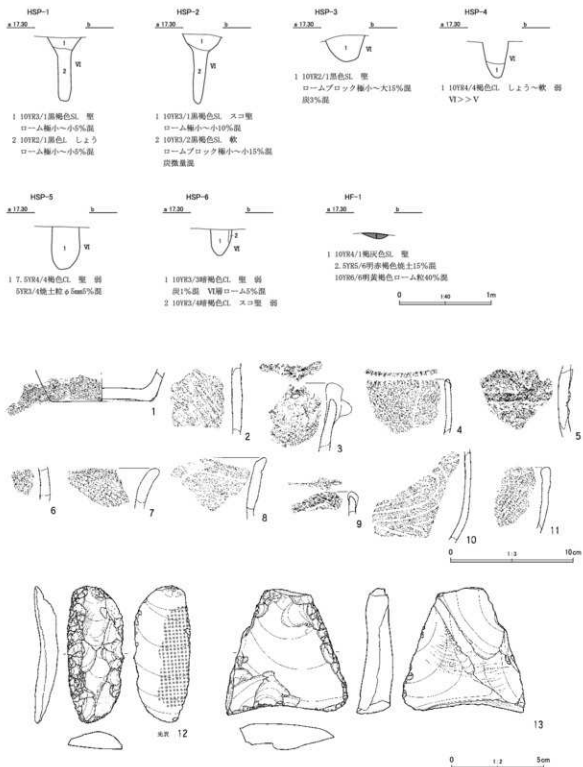
時期 出土した遺物から縄文時代後期前葉と考えられる。

(影浦)

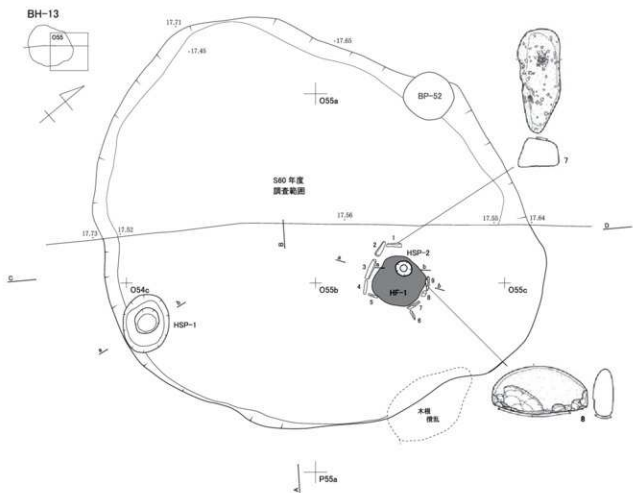
遺物 土器：2はⅡ群b類土器の胴部破片。器面には直前段反燃りを原体とする地文が施されている。3～6はⅢ群a類土器。3・4は口縁部破片。3は波頂部外面に瘤状の貼り付けが加えられている。4は口唇に縄の圧痕文が施されている。5・6は胴部破片。5は粘土紐を貼り付けた後、2～3本一組の撚糸圧痕文と半截竹管状工具による刺突列が加えられている。6はHSP-2から出土した。器面には結束羽状縄文が施されている。内面調整は丁寧である。胎土には砂粒を多量に含む。7はⅢ



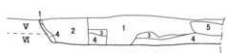
図V-4 KH-1 (3)



図V-6 KH-2 (2)

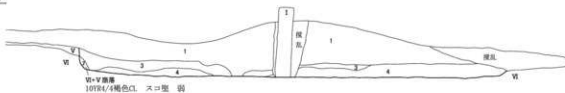


A.18.00



- 1 10YR2/2黒褐色CL 軟弱 砂
 2 10YR2/3黒褐色CL 堅弱
 3 10YR2/3黒褐色CL 2.2より弱い 堅弱 砂 V φ1cm程のVIブロック混15%
 4 10YR3/3暗褐色CL 堅弱 砂 V 3に似るがVIブロックが入らない
 5 5YR2/4暗赤褐色CL 焼土 堅弱

S.18.00



HSP-1

×17.82



- 1 10YR3/3暗褐色CL 堅弱
 2 10YR4/4褐色CL 堅弱
 3 10YR2/3黒褐色CL 堅弱 砂

HSP-2

×17.60



- 1 10YR3/3暗褐色CL 堅弱

HF-1

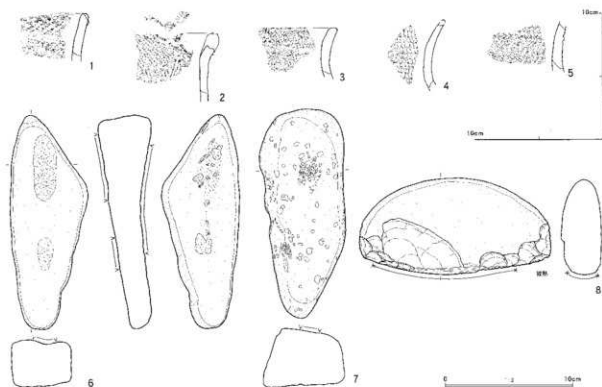
×17.80



- 1 5YR3/4暗赤褐色CL 堅弱 焼土
 AMS No. 3

0 1.40 1m

図V-7 BH-13 (1)



図V-8 BH-13 (2)

群b類土器の口縁部破片。複節の斜行縄文が施されている。1・8～10はIV群a類土器。1は平底で無文の底部破片。HSP-3から出土した。胎土は砂粒が多いが焼成・調整は固く、精緻である。8・9は口縁部破片、10は胴部破片。9・10はHSP-3から出土した。8～10は無文地に沈線文が加えられたもの。9は口唇部に貼付帯がめぐり、波頂部には細い粘土紐でドーナツ状の貼付文が施されている。11はIV群c類土器の口縁部破片。口唇の断面形は切り出し状で、胴部には斜行縄文が施されている。

(熊谷)

石器：12・13はスクレイパー。縦長剥片の側縁に直線的な刃部を作出している。12の裏面には使用痕とみられる光沢が確認できる。13は主剥離面側に刃部を作出している。

(酒井)

BH-13 (図V-7・8/表V-1～6/図版10・34)

確認・調査 O54・55区のVI層上面を調査中に、黒褐色土の落ち込みを確認した。昭和60年度調査で検出したBH-13の続きである可能性を考慮し、土層観察用のベルトを残し、黒褐色土を掘り下げたところ、しまりのある床面と石囲炉、緩やかに立ち上がる壁面を確認した。

覆土 5層に分層した。掘り上げ土の流れ込みや自然堆積と考えられる。

形態 平面形は、昭和60年度調査範囲部分と合わせると不整形である。壁面は、緩やかに立ち上がり、床面は平坦である。床面中央からやや東側に石囲炉があり、焼土の下から小土坑1基、南側壁際から土坑1基を確認した。

付属遺構 HF-1：床面の中央からやや東側に位置している。非常によく焼けている。焼土周縁を礫石器2点と礫7点で囲んでいる。炉石の大きさは、長さ10.5～19.0cm、幅5.4～9.3cm、厚さ2.9～5.8cm、重さ342.23～2476.5gである。

HSP-1・2：HSP-1は床面の南側壁際、HSP-2はHF-1の下に位置する。HSP-1は深さ90cmほどで柱穴と考えられる。

遺物出土状況 床面からはHF-1の炉石としてたたき石1点、すり石1点、礫7点、焼土中から剥片11点が出土している。覆土中からは土器43点、石器等22点が出土している。内訳はⅡ群b類土器11点、Ⅲ群a類土器10点、Ⅲ群b類土器4点、Ⅳ群a類土器18点、焼成粘土塊2点、Rフレイク2点、Uフレイク1点、剥片9点、たたき石1点、礫・礫片7点である。

時期 出土した遺物とHF-1から出土した炭化材の放射性炭素年代測定の結果が4,150±30yrBPであった(Ⅶ章-1参照)ことから、縄文時代中期後半と考えられる。(中山)

遺物 土器：1はⅢ群a類土器の口縁部破片。口縁部は波状で、口唇には縄の圧痕が加えられている。2～5はⅢ群b類土器。2・3は口縁部破片、4・5は胴部破片。2は波頂部に2個一対の突起が施され、口唇に沈線が加えられている。器面には斜行縄文が施され、沈線文が加えられている。3・4は横走する縄文が施されている。5は頸部を区画するために縄線文が加えられている。(熊谷)

石器：6はたたき石。扁平な棒状礫の平坦面に敲き痕がある。7・8は炉石として使用されていた。7はたたき石。扁平な棒状礫の平坦面に敲き痕がある。8はすり石。扁平な楕円礫の側縁を打ち欠いて半円状に整形し、弦の部分にすり面を作り出している。長軸両端には打ち欠きがある。(酒井)

(3) 土坑

KP-1 (図V-9/表V-1～6/図版11・34)

特徴 P53区のV層下位を調査中に暗褐色土の円形の落ち込みを検出した。半載して調査したところ、平坦な底面と壁の立ち上がりを確認した。平面形は円形である。覆土は埋戻しと考えられる。覆土中から土器24点、石器等12点が出土した。内訳はⅡ群b類土器1点、Ⅳ群a類土器23点、Rフレイク1点、凹み石、加工痕ある礫1点、剥片2点、礫・礫片7点である。

時期 出土遺物から縄文時代後期前葉と考えられる。(酒井)

遺物 土器：1はⅣ群a類土器。器形は底部からやや開き気味に立ち上がり、胴部上半でくびれをもち、口縁部は外反する。胴部上半に、太い沈線で区画された縄文帯が作出され、文様帯内には太い棒状工具で「クランク」状の沈線文が加えられている。口縁部内外面に暗赤褐色～にがい赤褐色のタール状の付着物が認められ、「ウルシ」の可能性がある。(熊谷)

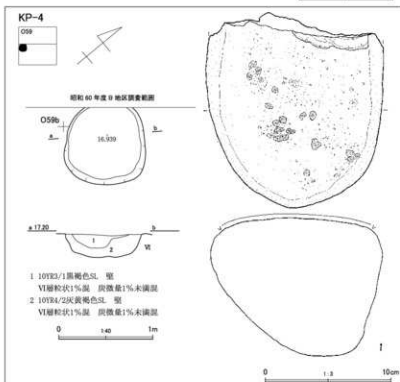
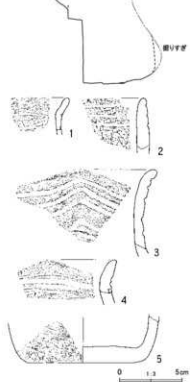
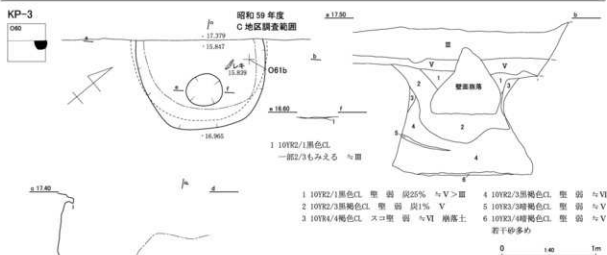
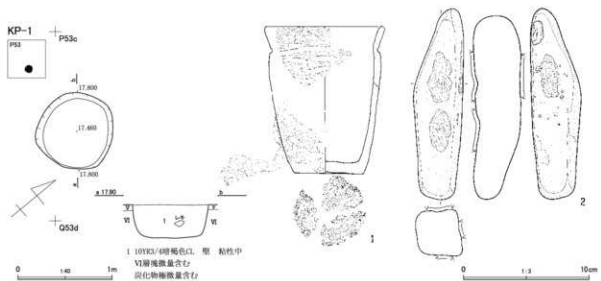
石器：2は凹み石。断面が方形の棒状礫の3面を使用している。くぼみの形状は不定形で浅い皿状をしている。(酒井)

KP-3 (図V-9/表V-1～3・5/図版11・34)

特徴 O60区のV層下位を調査中に黒色土の落ち込みを検出した。昭和59年度調査C地区との境界部分だったので、境界側を壁面にして半載して調査したところ、平坦な底面とオーバークラフする壁面を確認した。フラスコ状土坑と考えられる。C地区側では確認されていないが、検出面との底面の平面形は円形と考えられる。底面中央からやや南東側にごく浅い円形の凹みが確認されている。覆土は1～3層は流れ込み、4～6層が埋戻しと考えられる。覆土中から土器29点、石器等20点が出土している。内訳はⅢ群a類土器2点、Ⅳ群a類土器27点、剥片4点、礫・礫片16点である。

時期 出土遺物から縄文時代後期前葉と考えられる。(中山)

遺物 土器：1～4はⅣ群a類土器の口縁部破片。1・2は細い棒状工具で沈線文が加えられているもの。3・4は、緩やかな波頂部をもち、外面に太い棒状工具で沈線文が加えられているもの。5はⅣ群b類土器の底部破片。丸味をもって立ち上がる。胴部には無節の斜行縄文が施されている。(熊谷)



図V-9 KP-1・3・4

KP-4 (図V-9/表V-1・2・4・6/図版 11・34)

特徴 O59区のVI層上面を調査中に黒褐色土の落ち込みを検出した。半截して調査したところ、平坦な底面と緩やかに立ち上がる壁面を確認した。ごく一部分が昭和60年度調査B地区に続く。B地区側では確認されていないが、平面形は円形と考えられる。覆土は1～3層は流れ込み、4～6層が埋戻しと考えられる。覆土中から台石1点が出土している。

時期 時期を判断できる遺物がないため、不明である。(中山)

遺物 石器：1は台石。上端部を欠損している。楕円形の礫の平坦面に敲打痕がみられる。(酒井)

KP-5 (図V-10/表V-1～6/図版12・34・35)

特徴 Q59区のV層下位を調査中に暗褐色土の落ち込みを検出した。半截して調査したところ、平坦な底面と壁の立ち上がりを確認した。KH-2の覆土を切って作られている。平面形は不整形円形である。覆土は埋戻しと考えられる。覆土中から土器23点、石器等34点が出土した。内訳はⅡ群b類土器6点、Ⅲ群a類土器3点、Ⅲ群b類土器4点、Ⅳ群a類土器10点、スクレイパー2点、Rフレイク1点、砥石1点、石皿1点、剥片5点、礫・礫片24点である。

時期 出土遺物から縄文時代後期前葉と考えられる。(影浦)

遺物 土器：1・2はⅡ群b類土器。1は無文の底部破片。胎土には砂粒・繊維を含む。2は口縁部破片。波頂部付近である。丁寧な器面調整が施され、外面に部分的に無節の縄文が認められる。胎土は細かく、多量の高綿骨針が含まれている。3は小型のⅢ群a類土器の胴部破片。結束羽状縄文が施されている。内面には多量の炭化物が付着している。4・5はⅢ群b類土器の胴部破片。器面には不規則な縄文が施されている。5は複節の斜行縄文である。いずれも胎土に砂粒を多く含む。6～8はⅣ群a類土器。6は口縁部破片。下端を太い沈線で区画している。口縁部には横走気味の縄文が施されている。7は無文の底部付近の破片。6・7は胎土に多量の砂粒を含む。8は無文の底部破片。胎土には砂粒を含むが細かく、多量の高綿骨針を含む。Ⅱ群b類土器の可能性もある。(熊谷)

石器：9はスクレイパー。縦長剥片の縁辺部に刃部を作出している。10は砥石。おもて面には幅7cmほどのすり面と幅1.5cmほどの溝状のすり面がある。うら面には幅12cmほどの広いすり面がある。(酒井)

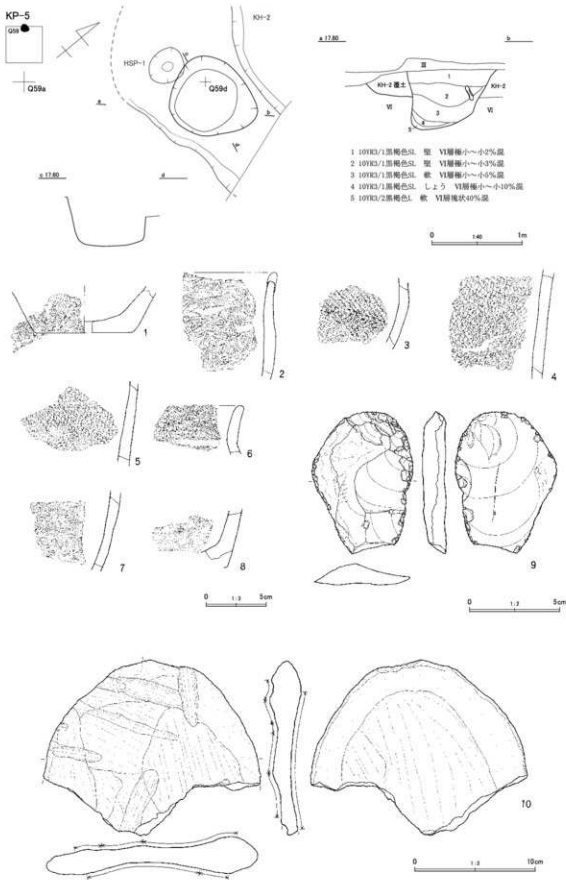
KP-6 (図V-11/表V-1～6/図版12・35)

特徴 Q52区のVI層上面を調査中に暗褐色土の落ち込みと焼土(KF-4)を検出した。KF-4とともに半截して調査したところ、平坦な底面とオーバーハングする壁面を確認した。フラスコ状土坑と考えられる。検出面の平面形は不整形で、底面の平面形は円形である。底面中央に深さ10cmほどの円形の小土坑が確認されている。覆土は1～4層は流れ込み、5～8層が埋戻しと考えられる。KF-4はKP-6が埋没後に形成されている。覆土中から土器6点、石器等17点が出土している。内訳はⅡ群b類土器1点、Ⅳ群a類土器5点、スクレイパー3点、Uフレイク3点、すり石(扁平打製石器)1点、石製品(有孔石)1点、剥片7点、礫・礫片2点である。

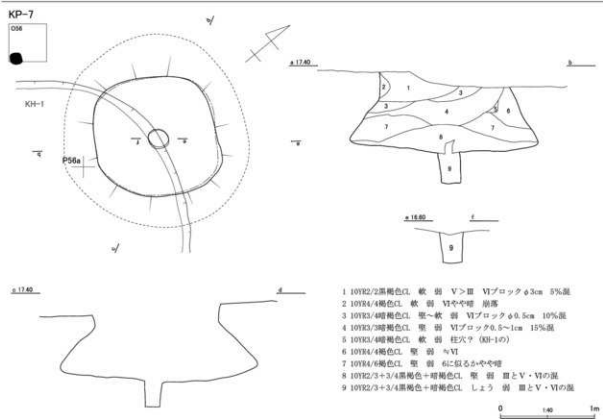
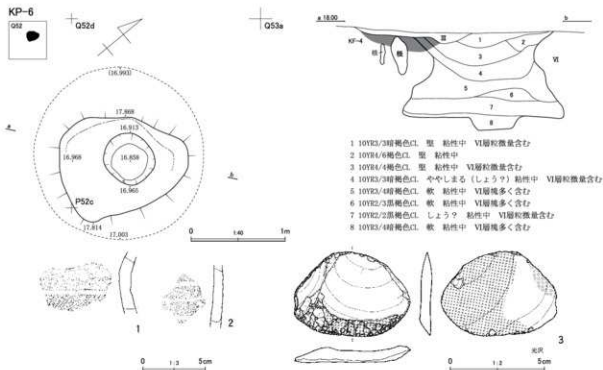
時期 遺構の形状から縄文時代前期後半と考えられる。(酒井)

遺物 土器：1・2はⅣ群a類土器の胴部破片。厚手で、胎土には砂粒を多く含む。1は覆土4層出土の頸部破片。器面に縄文を施した後、沈線で頸部を区画し、磨り消し・ナデ調整を行って無文帯を作り出している。2は磨消文が認められるもの。(熊谷)

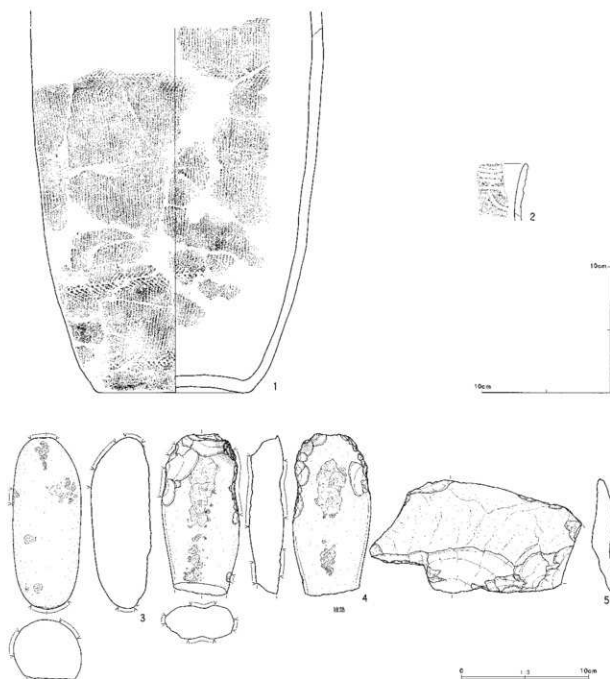
石器：3はスクレイパー。横長剥片の下側縁に刃部を作出したもの。刃部・腹面に使用による光沢が確認できる。(酒井)



図V-10 KP-5



図V-11 KP-6・7 (1)



図V-12 KP-7 (2)

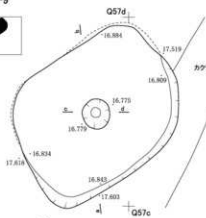
KP-7 (図V-11・12/表V-1～6/図版12・35)

特徴 O56区のKH-1を調査中に北側壁付近で黒褐色土の落ち込みを検出した。KH-1の調査と並行して北西側を半載したところ、平坦な底面とオーバーハングする壁面を確認した。フラスコ状土坑と考えられる。検出面の平面形は不整形で、底面の平面形は円形である。底面の直径は約2mである。底面中央に深さ30cmほどの円形の小土坑が確認されている。KH-1に切られている。覆土は1～4層は流れ込み、5～9層が埋戻しと考えられる。覆土中から土器84点、石器等11点が出土した。内訳はⅡ群b類土器83点、Ⅳ群a類土器1点、Uフレイク1点、たたき石1点、凹み石1点、すり石(扁平打製石器)1点、剥片2点、礫・礫片5点である。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考えられる。

(中山)

KP-9

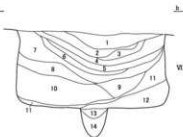


遺物出土状況図



- 土器
- 石器
- 銅器
- 鉄器
- 骨・角

±18.00

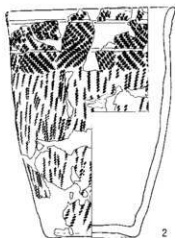
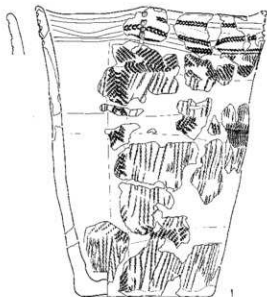


±18.00



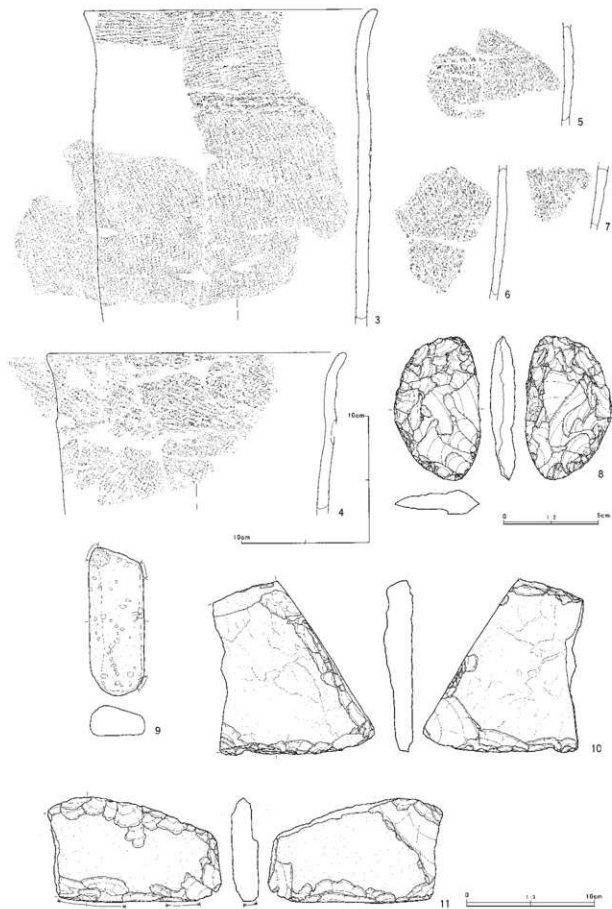
- 1 10YR2/1黒褐色S.L 型 ローム粒1%混
- 2 10YR2/1黒褐色S.L スロ型 ローム粒4%混
- 3 10YR3/1黒褐色L スロ型 ローム粒極小〜中7%混 炭微量混
- 4 10YR3/1黒褐色L 軟〜型 ローム粒極小〜中6%混 炭15%混
- 5 10YR2/2黒褐色L 軟 ローム粒極小〜小4%混 炭25%混
- 6 10YR1.7/1黒色土あるい3/1黒褐色土+炭屑 ローム粒極小3%混 炭60〜70%混
- 7 10YR2/2黒褐色S.L 型 ローム極小〜大30%混 (10YR7)1.7/1黒色5%混
- 8 10YR5/4にぶい黄褐色S.L 軟 ロームブロック極小〜大40%混 炭微量混
- 9 10YR6/6明黄褐色S.VI層主体崩落土 型
- 10 10YR5/4にぶい黄褐色S (崩落層) 軟 ロームブロック極小〜大30%混
- 11 10YR2/1黒色L〜S (崩落層) 一様ではない 軟 ロームブロック極小〜大40%混
- 12 10YR3/3明黄褐色S (崩落層) ロームブロック極小〜大60%混 軟 10YR3/1黒褐色20%混
- 13 10YR4/4褐色CL 軟弱 VI>>V
- 14 10YR2/2黒褐色CL しょう 弱 VI>V

0 1.00 1m



0 1.0 10cm

図V-13 KP-9 (1)



図V-14 KP-9 (2)

遺物 土器：1はⅡ群b類土器の胴部下半である。揚げ底の底部からほぼ垂直に立ち上がる器形である。胴部には単軸燃糸回転文と結束羽状縄文が施されている。胎土には多量の繊維・海綿骨針が混じる。極めてきめが細かく、砂粒は認められない。2はⅣ群a類土器の口縁部破片。無文地に太い沈線文が加えられている。胎土には多量の砂粒が混じる。(熊谷)

石器：3はたたき石。棒状礫の上下両端部および側面に敲打痕がある。4は凹み石。扁平礫の腹背部に凹み部および敲打痕がある。くぼみの形状は、不定形で円錐状である。また、側縁にも敲打痕がある。右側縁上部に被熱痕がある。5はすり石。いわゆる扁平打製石器といわれるもの。打ち欠きによって半円状に整形している。弦の部分にすり痕は認められない。(酒井)

KP-9 (図V-13・14/表V-1~6/図版12・35)

特徴 Q57区のⅥ層上面を調査中に黒褐色土の落ち込みを検出した。北西側を半截したところ、平坦な底面と軽くオーバーハングする壁面を確認した。フラスコ状土坑と考えられる。検出面と底面の平面形は不整形円形である。底面の長軸は約1.8mである。底面中央に深さ30cmほどの円形の小ピットが確認されている。覆土は1~8層は流れ込み、9~12層が壁面の崩落土、13・14は埋戻しと考えられる。覆土中から土器298点、石器等44点が出土している。覆土上位から104点、覆土中位から56点、覆土から182点である。内訳はⅡ群b類土器298点、焼成粘土塊9点、スクレイパー1点、両面調整石器1点、Uフレイク2点、石斧1点、たたき石2点、すり石(扁平打製石器)2点、剥片11点、礫・礫片15点である。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考えられる。(中山)

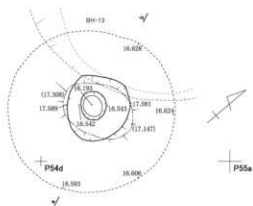
遺物 土器：1は覆土上位、2・3・6・7は覆土中位、4・5は覆土から出土した。1~7はⅡ群b類土器。1は揚げ底の底部からやや開き気味に立ち上がる器形である。口縁部は緩やかな波状で、文様帯は上下を組紐状の2本一組の燃糸圧痕文で区画された幅3cmほどの無文地である。文様帯には波頂部を頂点とする鋸歯状の燃糸圧痕文が施され、さらに波頂部から垂下する刺突列が加えられている。胴部には単軸燃糸回転文が施され、部分的に横縞・垂下する結束羽状縄文が加えられている。胎土は砂粒を含むが、きめが細かい。多量の繊維・海綿骨針を含む。2は口縁部が幅広く、菱目状に縄文が施されている。胴部は自縄自巻の原体ないし直前段反摺りの原体による縄文が施されている。底部は揚げ底である。胎土はきめが細かく、多量の繊維・海綿骨針を含む。3・4は口縁部へ胴部破片。大型の器形になるものと思われる。3は口頸部の下端が上下を縄線文に挟まれた刺突文で区画されている。4は口縁部が直前段反摺りによる縄文、胴部には斜行縄文が施されている。5~7は同一個体の胴部破片。頸部下端は2本の縄線文で区画され、頸部には菱目状の縄文、胴部には網目状燃糸文が施されている。胎土は砂粒を含まず細かい。多量の繊維・海綿骨針を含む。(熊谷)

石器：8は両面調整石器。9はたたき石。扁平な棒状礫の3隅に敲打痕がある。10・11はすり石。扁平打製石器と称されるもの。10は打ち欠きによって台形状に整形している。すり痕は認められない。11は打ち欠きによって半円形に整形されている。弦の部分にすり痕が認められる。うら面に被熱痕がある。(酒井)

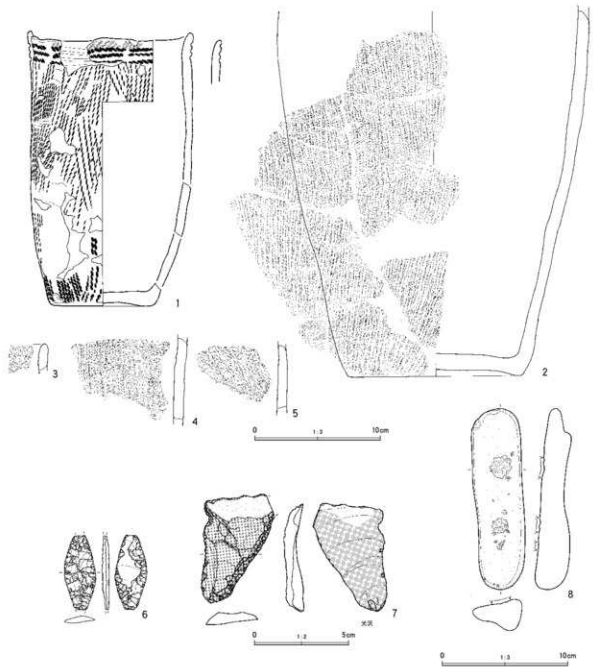
KP-10 (図V-15/表V-1~6/図版13・35)

特徴 Q54区のⅥ層上面およびKH-1を調査中に南側壁付近で黒褐色土の落ち込みを検出した。BH-13の調査終了後、東側を半截したところ、平坦な底面とオーバーハングする壁面を確認した。フラスコ状土坑と考えられる。検出面の平面形は不整形円形で、底面の平面形は円形である。底面の直径は約1.8mである。底面中央に深さ35cmほどの円形の小ピットが確認されている。BH-13に切られている。覆土は埋戻しと考えられる。2層には暗赤褐色の焼土粒が含まれている。覆土中から土器

KP-10



- 1 10YR2/2黒褐色CL しょう 粘性中
VI層粒を含む 土器片・石器含む
2 10YR3/4暗褐色CL 軟 粘性中
VI層粒を含む 5YR3/4暗赤褐色粘土含む
※BH-13に類される。



図V-15 KP-10

100点、石器等21点が出土した。覆土1層18点、覆土2層39点、覆土64点である。内訳はⅡ群b類土器100点、石織1点、スクレイパー1点、たたき石2点、剥片8点、礫・礫片9点である。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考えられる。(酒井)

遺物 土器：1～5はⅡ群b類土器。1は覆土2層から出土した。器形は揚げ底の底部からほぼ垂直に立ち上がり、胴部上半が緩やかにくびれる。口縁は緩やかな4か所の波頂部をもつ波状である。口縁には斜行縄文施文後、波状口縁に沿って3本の縄線文が加えられている。胴部には車軸系回転文が施されている。2は胴部～底部の破片である。胴部は自縄自巻的な原体による縄文が施されている。3は口縁部破片、4・5は胴部破片である。3・4は自縄自巻的な原体による縄文、5は付加縄文が施されている。胎土は1～4が砂粒を含まず細かい。多量の繊維・海綿骨針を含む。5は砂粒が多く、海綿骨針を含まない。(熊谷)

石器：6は石織。有茎で尖基。7はスクレイパー。縦型剥片の側縁に片面調整で刃部を出している。左側縁上部に抉りがみられることから、つまみ付ナイフの可能性もある。8はたたき石。扁平な棒状礫の背部に敲打痕がある。(酒井)

(4) 柱穴様小ビット (図V-16～22/表V-1～6/図版13・14・36)

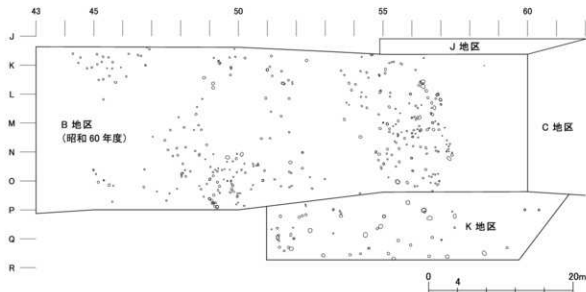
特徴 柱穴様小ビットは52基確認されている。KSP-1～65である。KSP-5・12・14・17・32・35・36・48・49・53～56は欠番である。形状は多くは円形もしくは不整形円で、直径は0.16～0.72mで、0.4m以下のものが7割を占める。深さは0.80～1.14mで、0.2～0.8mのものが8割を占める。昭和60年度B地区の49～57ラインで約250基の小ビット群が確認されており、これの続きであると考えられる。この時に確認されたグライ層のあるビットは、今回の調査では検出していない。柱穴様小ビットから出土した遺物は、各柱穴様小ビットの覆土中から、土器126点、石器等90点が出土した。内訳はⅡ群b類土器31点、Ⅲ群a類土器11点・Ⅲ群b類土器3点、Ⅳ群a類土器80点、Ⅳ群c類土器1点、焼成粘土塊2点、スクレイパー2点、Rフレイク3点、Uフレイク4点、たたき石3点、凹み石1点、剥片44点、礫・礫片31点である。各遺構の出土遺物については、表V-2に記載している。

時期 時期を決められる出土遺物がない遺構も多いが、多くは縄文時代後期前葉と考えられる。KSP-44のように前期後半と考えられるものも含まれる。(酒井)

遺物 土器：KSP-1-1はⅡ群b類土器の胴部破片。胴部に自縄自巻的な原体による縄文が施されている。KSP-7-1・2はⅣ群a類土器。1は小型土器の底部破片。器面は無文である。胎土には多量の砂粒を含む。2は胴部破片。無文地に太い棒状工具で曲線状の沈線文が加えられている。KSP-8-1・2はⅣ群a類土器の胴部破片。1は無文の器面に細い棒状工具で、細い沈線文が施されている。2は無文地に太い棒状工具で曲線状の沈線文が施され、さらに櫛歯状工具による擦痕文が加えられている。いずれも胎土には多量の砂粒を含む。KSP-10-1はⅢ群a類土器の口縁部破片。口縁部は波状で、波頂部外面には刺突文が加えられた瘤状の貼り付けが施されている。胴部には斜行縄文を施した後、波頂部にモールド状の太い棒状工具で曲線状の沈線文が加えられている。胎土には砂粒が多く含む。KSP-11-1はⅣ群a類土器の底部破片。器面外面は無文で、胎土には砂粒を多く含む。KSP-13-1はⅢ群a類土器の胴部破片。器面外面は斜行縄文が施されている。KSP-16-1はⅣ群c類土器の口縁部破片。口唇部の断面形は切り出し状、器面外面には細かな縄文が施されている。KSP-16-2はⅣ群a類土器の胴部破片。無文地に太い棒状工具で曲線状の沈線文が施され、さらに櫛歯状工具による擦痕文が加えられている。1・2は胎土に多量の砂粒を含む。KSP-19-1はⅣ群a類土器の底部破片。器面外面には細い沈線文が施されている。胎土には砂粒を含む。KSP-24-1はⅣ

群a類土器の胴部破片。無文地に細い棒状工具で曲線状の沈線文が施されている。胎土には多量の砂粒を含む。KSP-25-1はIV群a類土器の胴部破片。磨消文が施されている。器面調整は丁寧である。KSP-25-2・3はIV群c類土器の同一個体の胴部破片。磨消文が施されている。胎土には多量の砂粒を含み、脆弱である。KSP-26-1はIV群a類土器の胴部破片。薄手で、無文地に太い棒状工具で曲線状の沈線文が施されている。さらに櫛歯状工具による擦痕文が加えられている。KSP-27-1はIV群a類土器の口縁部の小破片。無文地上に沈線文が施されている。KSP-34-1はIV群a類土器の無文の胴部破片。胎土には多量の砂粒を含む。器面調整は丁寧である。KSP-38-1はIV群a類土器の胴部破片。無文地上に曲線的な沈線文が施されている。KSP-41-1はIV群a類土器の胴部小破片。無文地上に細い沈線文が施されている。胎土には多量の砂粒を含む。KSP-44-1はII群b類土器の底部破片。器形は揚げ底からやや開き気味に立ち上がる。器面には単軸捻糸回転文が施されている。内面・底面調整は丁寧である。胎土には海綿骨針を多量に含み、細かく、砂粒を含まない。KSP-45-1・2はIV群a類土器。1は頸部破片。無文地に1条の縄線文が加えられている。胎土には砂粒を含むが、きめが細かい。2は無文の胴部破片。胎土には多量の砂粒を含む。器面調整は粗雑である。KSP-46-1はIV群a類土器の無文の胴部破片。胎土には多量の砂粒を含む。器面調整は丁寧である。KSP-47-1はIV群a類土器の胴部破片。太い沈線が施されている。胎土には多量の砂粒を含む。器面調整は丁寧である。KSP-58-1はIV群a類土器の胴部小破片。縄文が施されている。内外面の調整は丁寧である。KSP-59-1・2はIII群a類土器。1は口縁部破片。口縁部は肥厚し、幅5cm程の肥厚帯をもつ。肥厚帯には縄の押捺が加えられた貼付文と半截竹管状工具内面による刺突列が加えられている。2は縄文が施された胴部破片。胎土には砂粒を含む。内面調整は丁寧である。KSP-60-1はIV群a類土器の無文の胴部破片。壺形になるものと考えられる。上端は沈線で区画され、不規則な縄文が施されている。胎土には砂粒を含み、脆弱である。KSP-61-1・2はIV群a類土器。1は磨消文が施された胴部破片。磨消文は太い沈線で区画されている。2は無文の底部破片。いずれも胎土には少量の砂粒を含むが、精緻である。(熊谷)

石器：KSP-19-2はスクレイパー。縦長剥片の主剥離面側に直線状の刃部を出している。KSP-30-1はたたき石。扁平な棒状礫の下端部と背面上部に敲打痕がある。KSP-38-2はたたき石。扁平な楕円礫の周縁部に敲打痕がある。KSP-45-3は凹み石。扁平な棒状礫の背面に凹み、腹面と両側縁に敲打痕がある。くぼみの形状は円形で円錐状である。(酒井)



図V-16 柱穴様小ピット位置図(B・K地区)

KSP-1 ~ 4, 7, 20-21, 26 ~ 30, 33, 34, 39 ~ 44, 50 ~ 52, 57-60, 65

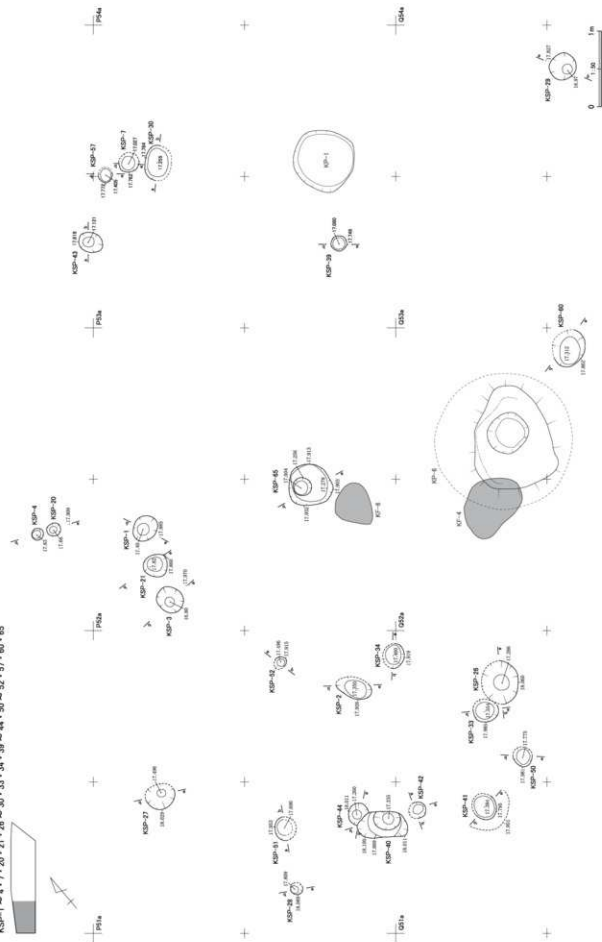


図 V-17 KSP位置図 (51-54線間)

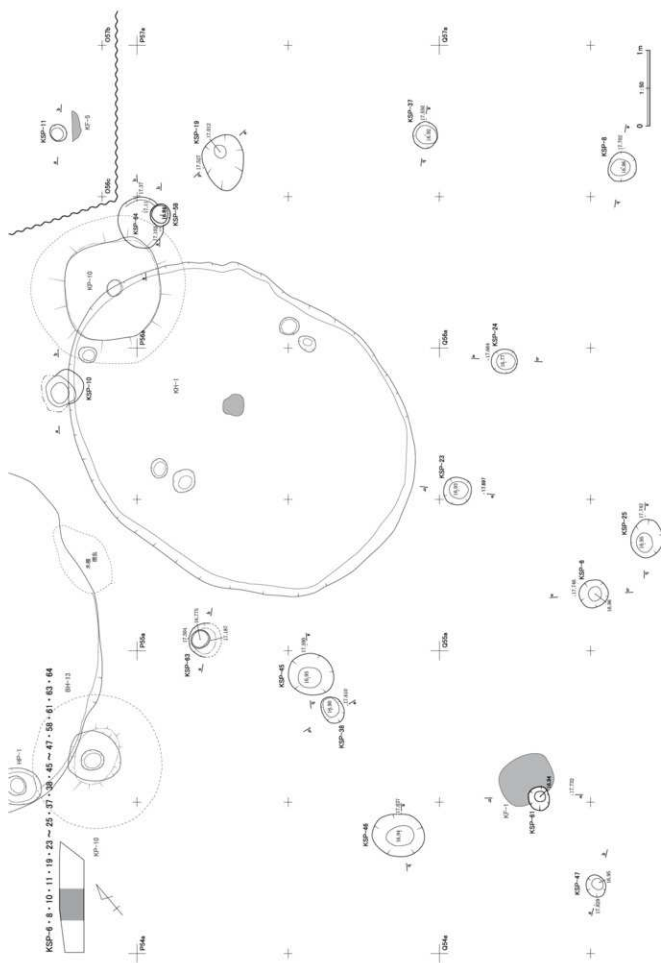
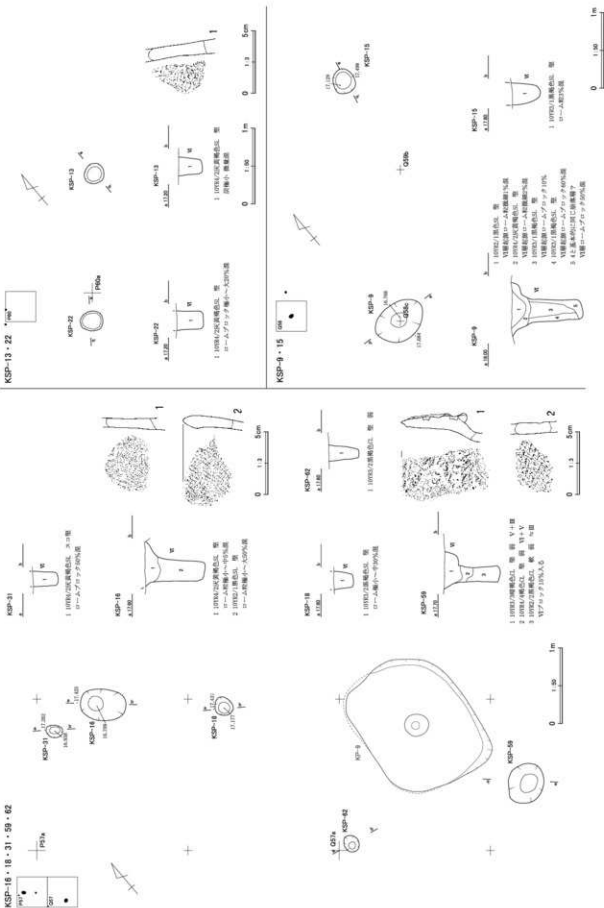
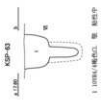
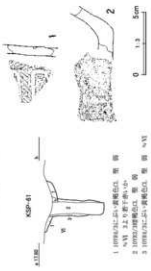
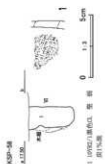
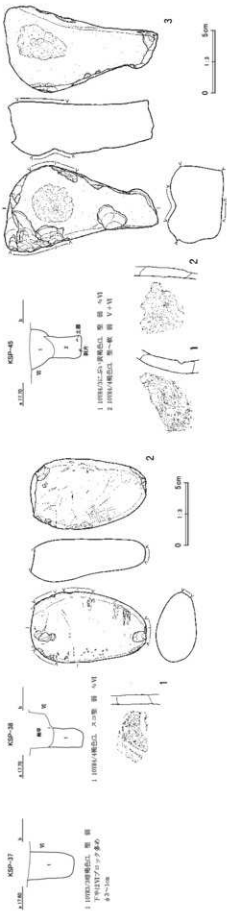


図 V-18 KSP位置図 (54-57線間)



図V-19 KSP位置図 (57-61線間)

54-57 層 (KSP-37・38・39・40・41・42・43・44)



0 1.0 5m

図 V-22 KSP断面図 (54-57層間) (2)

(5) 焼土

KF-1 (図V-23/表V-1/図版14)

特徴 Q54区のVI層上面を調査中に焼土粒を含む暗褐色土の範囲を検出した。半截して調査したところ、下位から明赤褐色の焼成面が確認された。焼土は非常によく焼けている。遺物は出土していない。KSP-61に切られている。

時期 KSP-61が縄文時代後期前葉と考えられるため、後期前葉以前である。(酒井)

KF-2 (図V-23/表V-1/図版 14)

特徴 P59区のVI層上面を調査中に焼土粒を含む黒褐色土の範囲を検出した。半截して調査したところ、赤色の焼土塊や微細骨片、炭化材を含むものであった。土層の状況からKF-3に由来する焼土の廃棄場所の可能性ある。遺物は出土していない。

時期 時期を特定する遺物がないため、不明である。(中山)

KF-3 (図V-23/表V-1/図版14)

特徴 P59区のVI層上面を調査中に焼土粒を含む黒褐色土の範囲を検出した。半截して調査したところ、下位から赤色焼土を含む焼成面が確認された。焼土は非常によく焼けている。遺物は出土していない。

時期 時期を特定する遺物がないため、不明である。(中山)

KF-4 (図V-23/表V-1・2)

特徴 Q52区のVI層上面を調査中にKP-6とともににぶい赤褐色焼土の範囲を検出した。半截して調査したところ、KP-6の壁面と覆土にかかって焼成されていることを確認した。焼土は非常によく焼けている。遺物は出土していない。

時期 時期を特定する遺物がないため不明だが、KP-6が後期後葉と考えられるので、それ以降である。(酒井)

KF-5 (図V-23/表V-1・2/図版14)

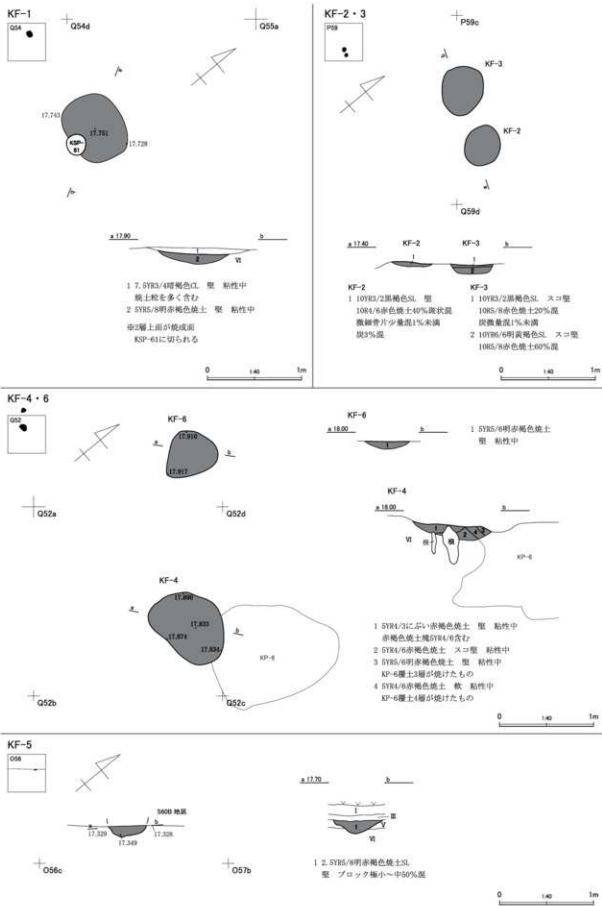
特徴 O56区のV層中位を調査中に、昭和60年度B地区との境界壁際で明赤褐色焼土の範囲を検出した。半分以上は昭和60年度B地区にある。境界壁面で断面を確認したところ、V層上面で形成されたと考えられる。焼土は非常によく焼けている。遺物はIV群a類土器1点・剥片4点が出土している。

時期 出土した遺物から縄文後期前葉の可能性ある。(中山)

KF-6 (図V-23/表V-1/図版14)

特徴 P52区のVI層上面を調査中に明赤褐色焼土の範囲を検出した。半截して調査したところ、焼土は非常によく焼けている。遺物は剥片5点が出土している。

時期 時期を特定する遺物がないため、不明である。(酒井)



図V-23 KF-1・2・3・4・5・6

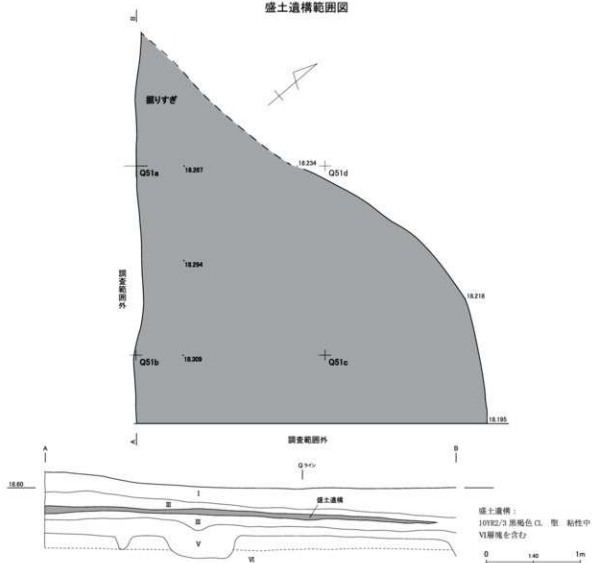
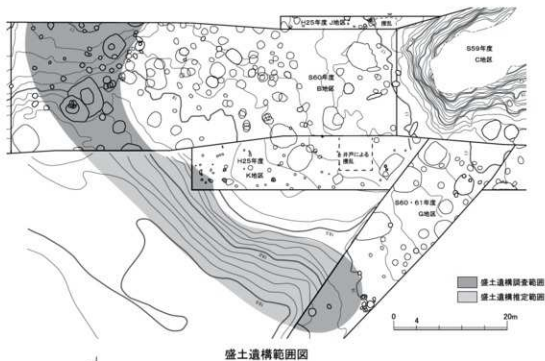


図 V-24 盛土遺構 (1)

(6) 盛土遺構 (図V-24・25/表V-1~6/図版14・15・36)

特徴 昭和60年度B地区および昭和61年度G地区において縄文時代後期前葉の盛土遺構が確認されている。両地区での調査では、確認された部分で長さ80m、幅15~25m、厚さ1.30~1.50mの大規模な盛土であることがわかった。B地区北側の舌状台地の基部からC地区の沢を大きく囲むように弧状に形成されていることが確認されている。出土した土器はトリサキ式(盛土1類)・大津式(盛土2~4類)・白坂3式(盛土5類)である。両地区の盛土遺構をつなげた推定範囲がK地区にもかかっていたことから、調査範囲南端部分で盛土遺構が確認されることを想定して調査を行った。

盛土遺構範囲図(図V-24)は、B・G・K地区の盛土遺構の範囲と昭和61年度に行った未調査部分の測量図を合成し、盛土遺構の推定範囲を示したものである。調査終了範囲は最終面、未調査範囲は地表面の標高等等高線を引いている。未調査範囲では、盛土遺構の先端が標高18.6mの等高線に沿っているようである。

P・Q51区のⅢ層を調査中に黒褐色土中に褐色土塊が含まれる範囲を確認した。層厚は厚いところで10cmほどである。範囲はK地区南角の8㎡ほどである。土器は93点出土している。Ⅳ群a類土器87点、焼成粘土塊6点である。石器等は122点出土している。石鏃4点、石錐1点、Rフレイク5点、たたき石2点、すり石1点、剥片66点、礫・礫片43点である。

時期 出土物から縄文時代後期前葉と考えられる。

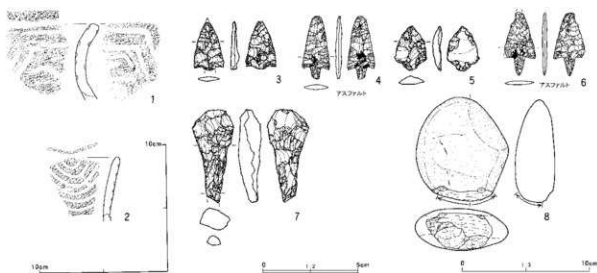
(中山)

遺物 土器：1・2はⅣ群a類土器の口縁部破片。1は強く外反する口縁部の内外面に縄文を施した後、太い沈線文が加えられている。口唇部に縄文が施されている。器厚は厚い。胎土には砂粒を多く含む。2は波頂部、口唇の断面形は角形で、口唇端部に縄文が施されている。器面外面に縄文が施され、波頂部を中心に入れ子の弧線文が加えられている。器厚は薄く、胎土には多量の砂粒を含む。

(熊谷)

石器：3~6は有茎の石鏃。3・4は凹基、5・6は凸基。4・6はアスファルトが付着している。7は石錐。棒状に加工して機能部を作出している。8はすり石。扁平な亜円礫の下端部を敲打によって平坦な面を作り出し、そこを擦っている。

(酒井)



図V-25 盛土遺構(2)

3 包含層の遺物

(1) 土器 (図V-26~29-1~63/表V-7・9/図版37~39)

包含層から出土した土器は3,161点である。出土層位はⅡ層が1点、Ⅲ層が724点、Ⅴ層が1,364点、排土や攪乱が1,072点である。時期は後期前葉が最も多く、後期後葉、中期後半、後期中葉がこれに続く。Ⅳ群a類土器は盛土遺構のある南西側から多く出土した。Ⅲ群a類、Ⅳ群c類、Ⅴ群b類土器は北東側のG地区寄りから多く出土している。

Ⅰ群b-3類 (図V-28-10/表V-7・9/図版37)

10は微隆起線・短縄文が施された胴部破片。薄手である。

Ⅱ群b類 (図V-26~28-1・11~21/表V-7・8/図版36・37)

1は口縁部に欠失する。器形は複節の縄文が施された揚げ底の底部からほぼ垂直に立ち上がる。胴部には複節の斜行縄文が施されている。胎土は細かく、多量の繊維を含む。

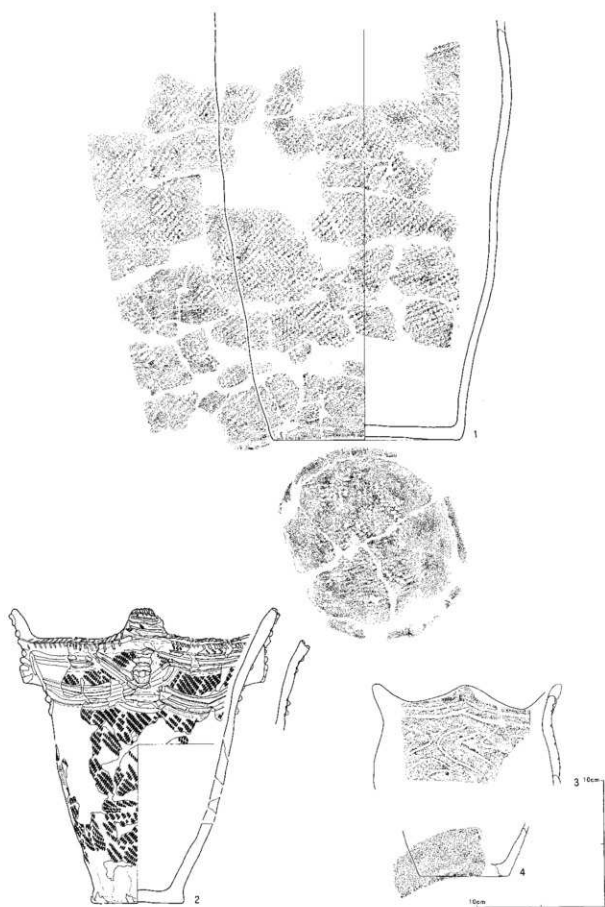
11~14は口縁部破片。11は頸部に隆帯をもつ。無文で器面にナデ調整が加えられている。胎土には多量の砂粒を含む。繊維は含まない。12は半截竹管内面の刺突列で口頸部文様帯の下端が区画されている。無文地の文様帯内には4列の絡条体圧痕文が加えられ、胴部には直前段反摺りの縄文が施されている。13は口縁部に貝殻条痕文、胴部に複節の斜行縄文が施されたもの。14~21は胴部破片。14・19は器面に直前段反摺りの縄文が施されているもの。頸部に2本一組の縄線文が加えられ、口頸部文様帯が作出されている。15・18は器面に直前段反摺りの縄文が施されたもの。16は器面に複節の斜行縄文が施されたもの。17は器面に直前段反摺りの縄文と斜行縄文を組み合わせて施されたもの。21は底部破片。器面に直前段反摺りの縄文が施されている。

Ⅲ群a類 (図V-26~28-2・22~35/表V-7・9/図版36~38)

2は底面中央部がわずかにくぼむ底部から開き気味に立ち上がる器形である。口縁部は4か所の波頂部をもつ。器面には斜行縄文が施され、底部付近にはナデ調整で無文帯が作り出されている。口縁部の断面形は端部が広い切り出し状である。端部中央に沈線が施され、矢羽状に刻目文を加えている。波頂部下位には橋状の突起が施されている。波頂部と胴部上半に2本一組の細い紐状の貼り付けがモール状に施されている。そして、細い紐状の貼り付けの上下には沈線が加えられている。胎土には多量の砂粒、少量の繊維を含む。22~30は口縁部破片、31~35は胴部破片。22・31は絡条体圧痕文による馬蹄形圧痕文が施されたもの。貼付帯には捺糸圧痕文が加えられている。31には3本一組の捺糸圧痕文も施されている。24は半截竹管による「C」字状の刺突文が加えられたもの。25・32は連続刺突文が施されたもの。23は無文地の口縁部に捺糸圧痕文が加えられた貼付帯が施されたもの。26・33は地文地上に縄文が加えられた貼付帯が施されているもの。27は無文地の頸部文様帯に細い粘土紐を貼り付けた後、貼付帯に2本一組の捺糸圧痕文を加えたもの。28~30は口唇部に縄の圧痕が加えられ、胴部に斜行縄文が施されたもの。34・35はサケタイプの魚骨回転文が施されたもの。胎土・調整から本類に含めた。

Ⅳ群a類 (図V-26・29-3・4・36~39/表V-7・9/図版37・38)

36は口縁部破片の波頂部。器面には粗い斜行縄文が施されている。胎土・器面調整から本類に含めたが、Ⅲ群b類の可能性もある。3・4・37・38は細い沈線文が施されたもの。3・37・38は口縁部破片。3は粗いナデ調整が加えられた無文地に、細い沈線文が施されている。37は無文地の波頂部に「8」字状の貼り付けが加えられている。38は粗い斜行縄文を地文とし、口縁に沿って3本の細い沈線文が加えられている。4は底部破片。39は壺形土器の肩~頸部部分。肩部分には縄文が加えられた細い粘土紐が工字文風に貼り付けられている。無文の頸部には縦位の橋状の握手が作出され、握手の上面に



図V-26 包含層出土土器 (1)

も同様の粘土の貼り付けが加えられている。一部分に赤色顔料の付着が認められる。

IV群b類 (図V-29-40/表V-7・9/図版38)

40は口縁部破片。口唇部の断面形は角形である。口縁端部は無文で、ミガキ調整が加えられている。胎土には多量の砂粒を含む。

IV群c類 (図V-27・29-5~7・41~54/表V-7・9/図版37・38)

5~7・41~48は口縁部破片。口唇部の断面形はいずれも切り出し状である。口唇端部は内斜し、1個ないし2個一對の貼り付け瘤が施されている。5は羽状縄文が施された大型破片。6は波状口縁に沿って斜行縄文地文とし、沈線と刺突文が加えられた文様帯を作出している。7は口唇に指頭圧痕が加えられたもの。42は口唇直下を沈線で区画し、無文帯を作出している。器面外面には無節の斜行縄文が施されている。42~48は器面外面に細い原体で羽状縄文が施されている。49・50は胴部破片。同一個体と思われる。文様帯を区画する沈線が施され、上半には縄文が加えられている。下半にはナデ調整が加えられ、無文である。文様帯を区画する沈線上に貼瘤が加えられている。51は注口土器の注口部分。注口先端部を欠失する。注口根元部分に縄文が加えられている。52~54は口縁部破片。口縁部には内面から刺突が施されている。口唇に指頭圧痕が加えられ、小波状の口縁が作出されている。

V群a類 (図V-29-55~58/表V-7・9/図版38)

55~57は口縁部破片。口唇部を欠失する。口縁部に沈線と「メクレ」をもつ爪形文が施されている。58は斜行縄文が施された胴部破片。

V群b類 (図V-27・29-8・9・59~63/表V-7・9/図版37~39)

59~61は鉢形土器。59は大型のもの。幅の狭い口頸部に沈線が施され、頸部下端には2個一對のA状突起が加えられている。60は小型のもの。頸部下端にはA状突起が加えられ、胴部には雲形文が施されている。61は雲形文が施された胴部破片である。8・9・62・63は壺形土器。8・62は無文の頸部破片。8は口唇直下にB状突起が施される。63は肩部分破片。頸部下端は沈線で区画され、B状突起が加えられている。9は底部破片。器面には縦位の縄文が施されている。 (熊谷)

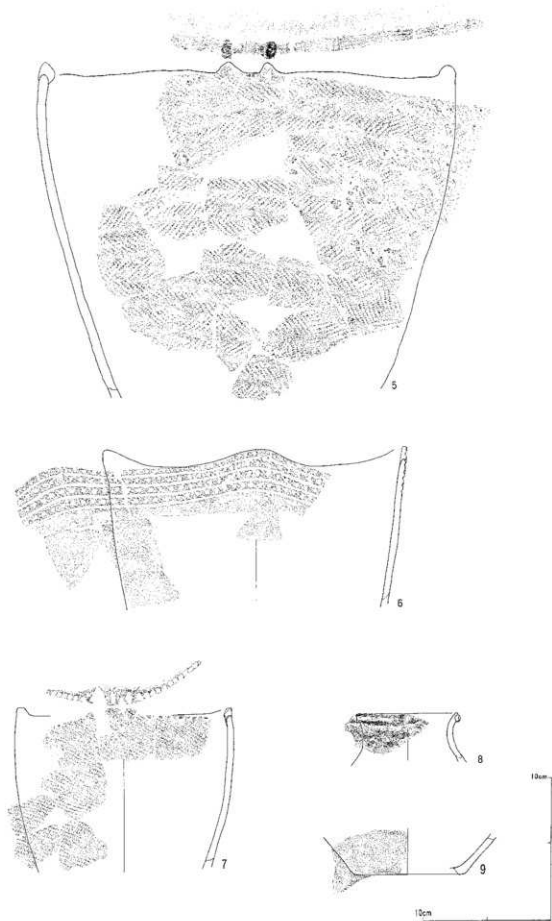
(2) 石器等 (図V-30~33-1~50/表V-8・10/図版38・39)

包含層から出土した石器等は3,678点である。I層耕作土や排土などから1,827点が出土し、次いでV層から1,075点、III層から769点、II層から7点が出土している。出土分布は、盛土遺構や柱穴塚小ビットのある調査範囲南西側とG地区寄りの北東側に多い。器種は、石鏃、石錐、つまみ付ナイフ、スクレイパー、Rフレイク、Uフレイク、たたき石、すり石、剥片、礫・礫片、焼成粘土塊、土製品などが出土している。出土点数のうち、剥片と礫・礫片で約85%を占める。スクレイパーやたたき石が多い。石材は、頁岩1,648点と泥岩1,231点が多く、次いでチャート245点、安山岩132点、砂岩113点などとなる。剥片石器では頁岩がほとんどである。礫石器では泥岩が最も多く、次いで砂岩、安山岩、頁岩が多い。また、剥片では1,283点のうち頁岩が1,237点を占める。礫・礫片では1,770点のうち泥岩が1,156点を占め、次いでチャート229点、安山岩113点、砂岩95点などとなる。赤色顔料とみられる赤色の塊が13点出土している。蛍光X線分析装置による分析を試みたが、何物かは不明であった。

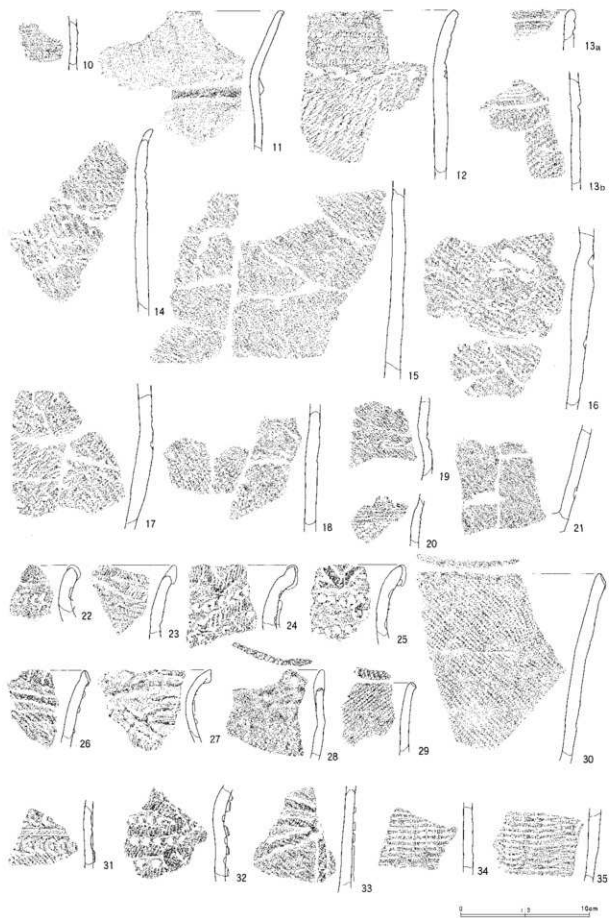
石鏃 (図V-30-1~9/表V-8・10/図版38)

石鏃は18点出土している。このうち9点を掲載した。有茎鏃17点、破片1点である。石材は頁岩16点、メノウ2点である。

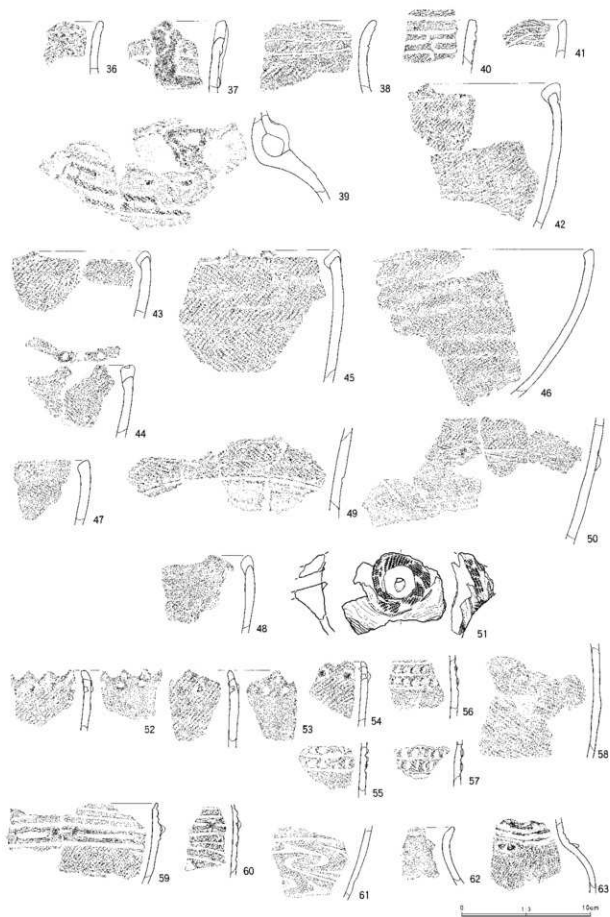
1~10は有茎鏃。1・2は平基。1は尖頭部が五角形の形状をしている。3~5は凸基。3・4はかえしが不明瞭である。基部にアスファルトが付着する。5は未成品の可能性がある。6~8は凹基。8の基部にアスファルトが付着する。9は木葉形。すべて頁岩製。



図V-27 包含層出土土器(2)



图V-28 包含层出土土器(3)



図V-29 包含層出土器 (4)

石槍・ナイフ類 (図V-30-10/表V-8・10/図版38)

石槍は1点出土している。1点を掲載した。

10は有茎の石槍。かえしは不明瞭で基部端部は平坦である。頁岩製。

石錐 (図V-30-11~13/表V-8・10/図版38)

石錐は8点出土している。このうち3点を掲載した。棒状のもの1点、剥片の一部に機能部を設けたもの7点である。石材はすべて頁岩である。

11は棒状のもの。石錐の基部を転用したものの可能性がある。12・13は剥片の下端部に機能部を作出したもの。すべて頁岩製。

つまみ付ナイフ (図V-30-14・15/表V-8・10/図版38)

つまみ付ナイフは8点出土している。このうち2点を掲載した。石材はすべて頁岩である。

14・15は縦長剥片の周縁を調整したもの。14は腹面側縁に連続した調整が行われている。

スクレイパー (図V-30-31-16~29/表V-8・10/図版39)

スクレイパーは90点出土している。このうち14点を掲載した。石材は頁岩89点、緑色泥岩1点である。へら状のものが4点確認され、その他は剥片の周縁を加工して刃部を作出したものである。

16・17はへら状のもの。16は片面加工で下端に円弧状の刃部のあるもの。17は両面加工で下端が直線的、切り出し状の刃部のあるもの。18~20は円形のもの。18は片面加工で主剥離面側の周縁に円弧状の刃部を作出したもの。19・20は両面加工で円弧状の刃部を作出したもの。22~26は縦長剥片の側縁を片面加工で直線的な刃部を作出したもの。21・27は縦長剥片の下端に収束する刃部のあるもの。剥片の周縁に片面加工で刃部を作出している。28・29は横長剥片の周縁に片面加工で刃部を作出したもの。29は主剥離面側の周縁に刃部を作出している。22・23・24・26・27・28・29には、使用痕とみられる光沢が確認できる。16~29は頁岩製。

たたき石 (図V-31・32-30~38/表V-8・10/図版39)

たたき石は91点出土している。このうち9点を掲載した。石材は泥岩が59点で最も多く、次いで安山岩8点、頁岩6点、砂岩5点などである。扁平な礫の端部や周縁を使用しているものが多い。

30・31は棒状礫の周縁や端部を使用したもの。敲打により平坦な面ができています。32・33は扁平礫の周縁を使用したもの。34~36は扁平礫の側縁を打ち欠いて狭い面を作り出し、敲打しているもの。礫器の刃部を敲打して利用したと考えられる。34は被熱している。37は扁平礫の腹背面を使用したもの。腹背面にはすり痕も確認でき、すり石として利用したのちにたたき石として再利用されたと考えられる。38は扁平な棒状礫の両端部、側縁、腹背部を使用したもの。石材は34・35・38が泥岩、30・31が頁岩、32が珪岩、33が閃緑岩、36がチャート、37が安山岩である。

凹み石 (図V-32-39/表V-8・10/図版39)

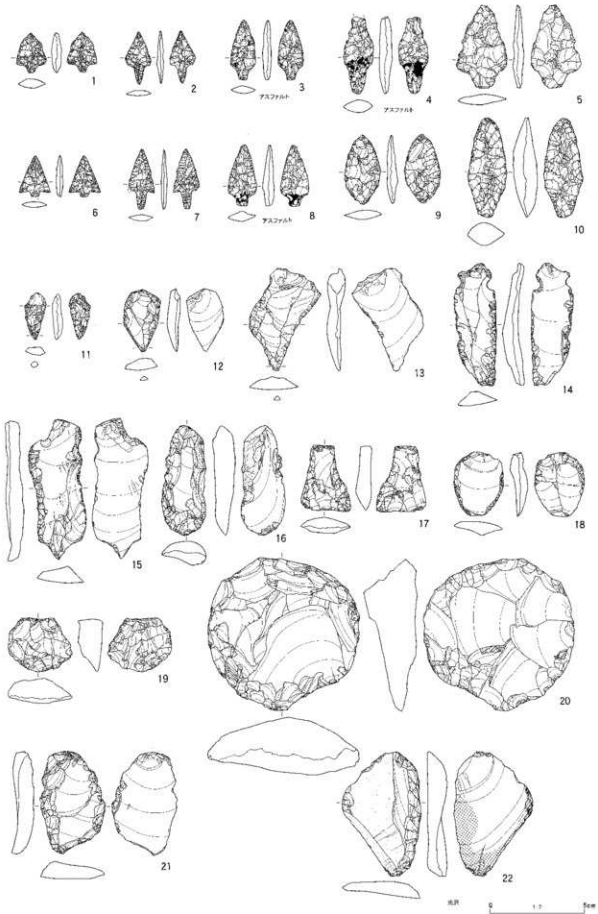
凹み石は1点出土している。この1点を掲載した。石材は泥岩である。

39は礫の腹背部にくぼみのあるもの。くぼみの形状は不定形で円錐形である。

すり石 (図V-32-40~42/表V-8・10/図版39)

すり石は21点出土している。このうち3点を掲載した。石材は砂岩が11点で最も多く、次いで安山岩8点、泥岩と斑レイ岩が各1点である。破片が14点を占める。扁平礫の側縁を使用しているものが多い。北海道式石冠の破片が1点出土している。扁平打製石器は5点出土し、すべて半円状のもの。3点は破片である。調査範囲北側から出土している。

40は扁平礫の側縁にすり面があるもの。周縁に敲打痕もみられる。砂岩製。41・42は扁平打製石器といわれるもの。41は扁平な楕円礫の側縁を打ち欠いてすり面を作出したもの。長軸両端を打ち欠い



図V-30 包含層出土石器等(1)

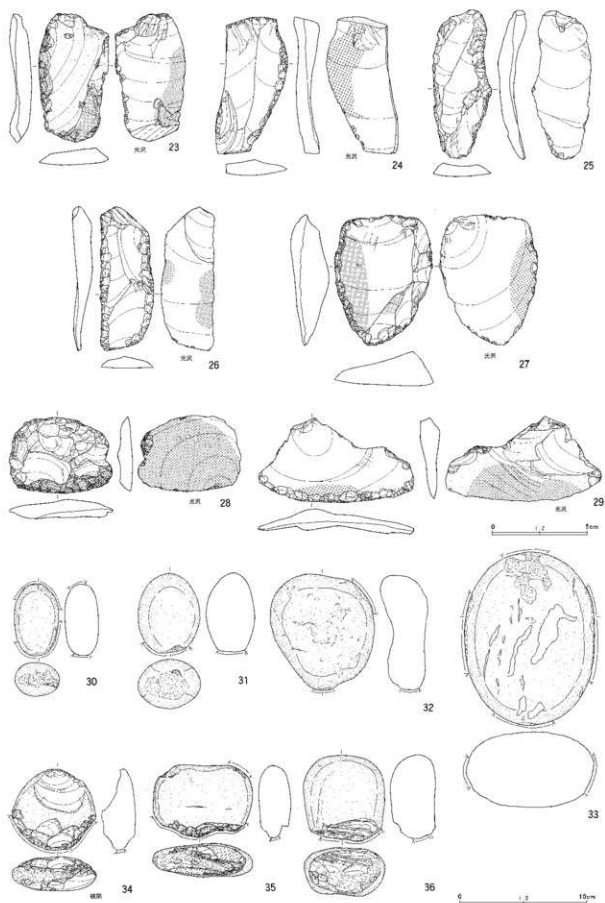
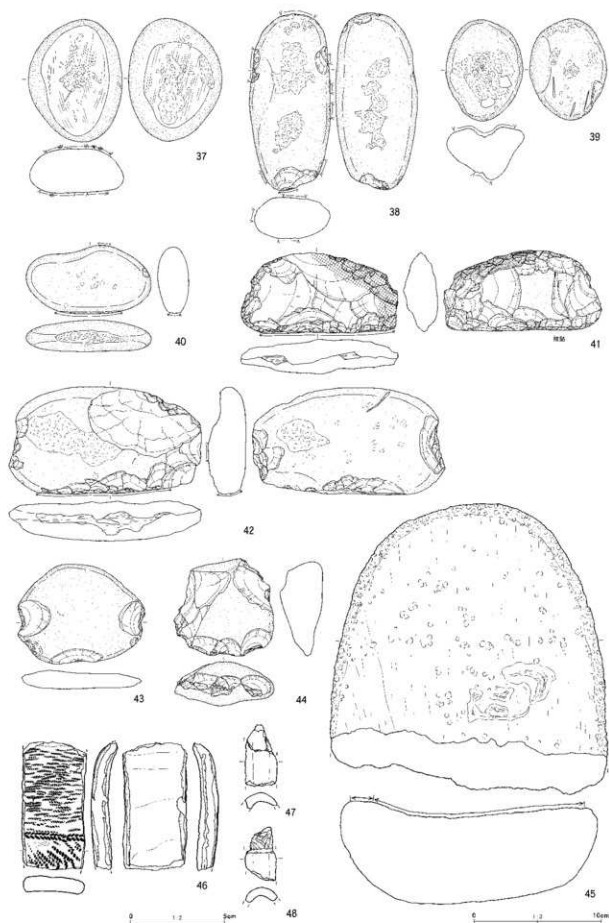
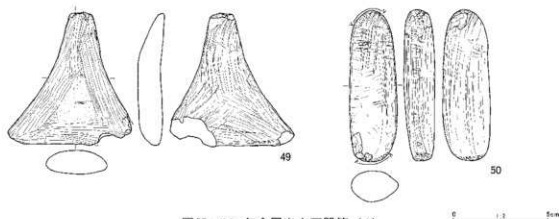


图 V-31 包含层出土石器 etc (2)



図V-32 包含層出土石器等(3)



図V-33 包含層出土石器等(4)

て、半円状の形状としている。腹背面に敲打痕がみられる。たたき石を転用したと考えられる。安山岩製。42は扁平礫の周囲を打ち欠きによって半円状に整形し、弦の部分に幅の狭いすり面がみられるもの。安山岩製。

石錘 (図V-32-43/表V-8・10/図版39)

石錘は1点出土している。全点を掲載した。石材は泥岩である。

43は打ち欠きが2か所のもの。扁平な楕円礫の長軸両端に打ち欠きがある。泥岩製。

礫器 (図V-32-44/表V-8・10/図版39)

礫器は2点出土している。このうち1点を掲載した。1点は破片である。石材はすべて泥岩である。

44は扁平礫の周縁を片面から打ち欠いている。下端の一部を両面加工で両刃の刃部のよう加工している。石核の可能性も考えられる。泥岩製。

石皿 (図V-32-45/表V-8・10/図版39)

石皿は2点出土している。このうち1点を掲載した。石材はすべて安山岩である。

45は広い平坦なすり面のあるもの。全面を敲打調整して整形し、平坦で浅い皿状のすり面がある。

下半部は欠損している。安山岩製。

砥石 (表V-9)

砥石は2点出土している。幅の広い平坦面のあるものである。小破片のため掲載していない。石材は凝灰岩と砂岩が各1点である。

土製品 (図V-32-46~48/表V-8・10/図版39)

土製品は101点出土している。このうち96点は焼成粘土塊である。3点を掲載した。

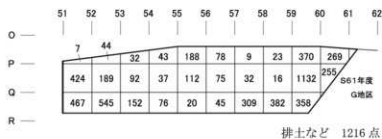
46は土器片擦り切り。両面からの擦り切り加工によって両側縁を直線状に整形し、長方形状に加工している。利用した土器片は円筒土器下層c式の口縁部破片で、口頸部を2本一組の摺永圧痕文で区画し、口頸部には直前段反摺りの原体を用いた縄文、胴部には直前段反摺りの縄文ないし斜行縄文が施されている。47・48は円筒状の土製品の破片。注口土器の注口部分の可能性ある。47は器面にナデ調整を行い無文である。48は沈線で文様を施している。

石製品 (図V-33-49・50/表V-8・10/図版39)

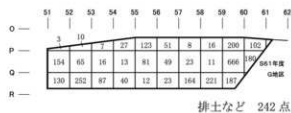
石製品は2点出土している。2点とも掲載した。

47は三脚石器。おもて面の一部に原石面を残して、全面をへら状の工具で調整したとみられる。48は線刻礫。棒状礫の両端部に敲き痕があり、もとはたたき石と考えられる。上半部に横方向の線刻がされたのちに縦方向の線刻がされている。(酒井)

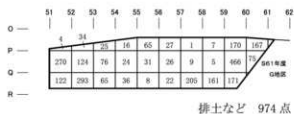
K地区 包含層出土遺物総計 6839点



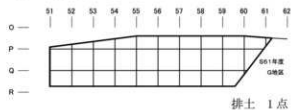
K地区 土器合計 3161点



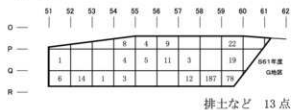
K地区 石器等合計 3678点



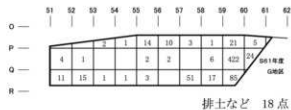
I群 b-3 類土器 1点



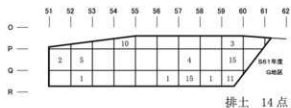
II群 b 類土器 400点



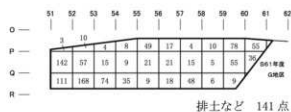
III群 a 類土器 720点



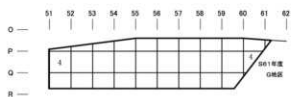
III群 b 類土器 82点



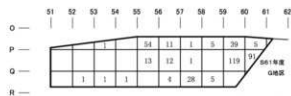
IV群 a 類土器 1232点



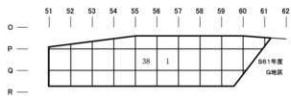
IV群 b 類土器 8点



IV群 c 類土器 394点

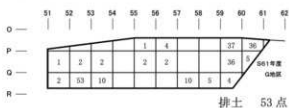


V群 a 類土器 39点

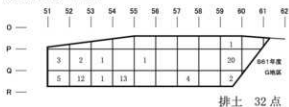


図V-34 包含層出土遺物分布図(1)

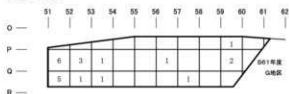
V群 b 類土器 265 点



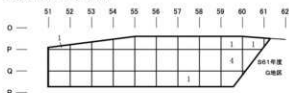
焼成粘土塊 96 点



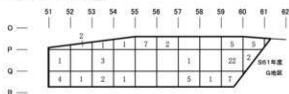
石鏝 18 点



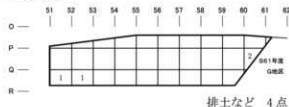
つまみ付ナイフ 8 点



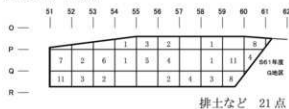
スクレイパー 90 点



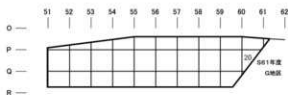
石核 8 点



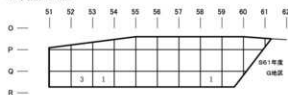
Uフレイク 110 点



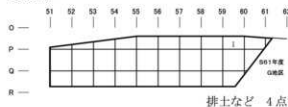
V群 c 類土器 20 点



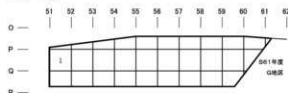
土製品 5 点



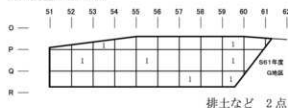
石鏝 8 点



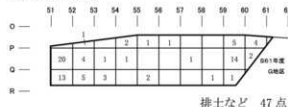
石槍 1 点



両面調整石器 9 点



Rフレイク 129 点



剥片 1280 点

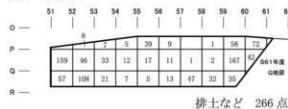
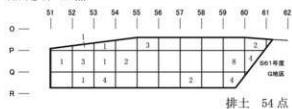


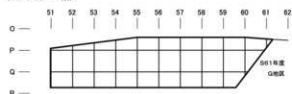
図 V-35 包含層出土遺物分布図 (2)

たたき石 91点



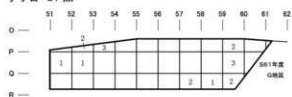
排土 54点

凹み石 1点



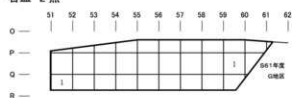
排土 1点

すり石 21点

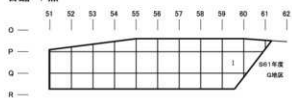


排土 4点

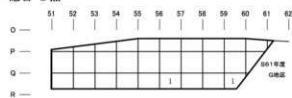
石皿 2点



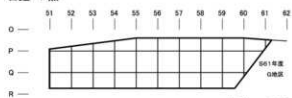
石鋸 1点



砥石 2点

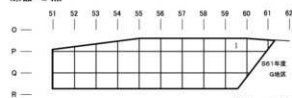


石錘 1点



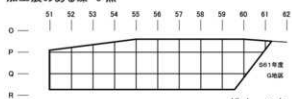
排土 1点

礮器 2点



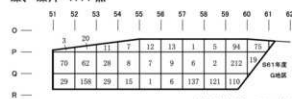
排土 1点

加工痕のある礮 9点



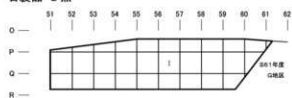
排土 9点

礮、礮片 1771点



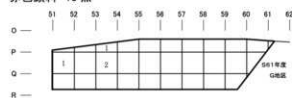
排土など 501点

石製品 2点



排土 1点

赤色顔料 13点



排土 9点

図V-36 包含層出土遺物分布図(3)

表V-1 遺構規模一覧

遺構種別	遺構名	調査区	規模 (m)				形状	長軸方向	時期 (縄文時代)	特徴	図番号	図版番号		
			上層	下層	長さ	幅								
住居跡	K31-1	O33a・O36a・P56abed・P56ab	5.00	3.84	4.32	3.56	0.19	ネら直前	N12°-W	単柱穴あり	図V-2~4	図版7・8・33・34		
			HSP-1	P56c	0.32	0.20	0.30	0.16	0.06	不明				柱穴
			HSP-2	O35c	0.22	0.16	0.20	0.14	0.20	不明				柱穴
			HSP-3	P56ab	0.26	0.24	0.20	0.18	0.02	不明				柱穴
			HSP-4	P56c	0.26	0.18	0.22	0.14	0.08	不明				柱穴
			HSP-5	P56c・P56b	0.26	0.20	0.12	0.10	0.28	不明				柱穴
			HSP-6	P56d	0.32	0.28	—	—	—	不明				溝状跡
			HSP-7	P56abed	2.38	(1.60)	2.22	(1.52)	0.12	不明				ベンチ状構造
			HSP-8	Q36a	0.40	0.36	0.12	0.10	0.08	不明				柱穴
			HSP-9	O38a	0.40	0.20	0.06	0.06	0.74	不明				柱穴
			HSP-10	Q36a	0.40	0.32	0.14	0.14	0.28	不明				柱穴
	HSP-11	O36a・P46b	0.26	0.22	0.08	0.08	0.14	不明		柱穴				
	HSP-12	O36a・O36a	0.28	0.28	0.12	0.10	0.46	不明		柱穴				
	HSP-13	P36c	0.46	0.20	—	—	—	溝状跡		柱状跡				
	HSP-14	O36a・P56abed	1.56	1.10	4.00	3.58	0.28	不明		石階状あり				
	HSP-15	O36a	0.62	0.48	0.20	0.18	0.62	不明		柱穴				
	HSP-16	O35a	0.18	0.16	0.08	0.08	0.24	不明		柱穴				
	HSP-17	O35ab	0.28	0.64	—	—	—	不明		石階跡				
	土坑	KP-1	P56a	0.84	0.60	0.72	0.70	0.24	不明		後期前葉	図V-9	図版11・24	
KP-2		O36b・O36ab	1.42	(1.00)	1.28	(0.80)	1.58	不明		後期前葉	図V-9	図版11・24		
KP-3		O36ab	0.92	0.82	0.90	0.80	0.24	不明		不明	図V-9	図版11・34		
KP-5		Q36ab・P36a	1.00	0.80	0.78	0.60	0.40	不明		後期前葉	図V-10	図版12・34・35		
KP-6		Q35a	1.26	0.98	1.82	1.80	1.04	不明		前期後半	図V-11	図版12・35		
KP-7		O36a・P36a	1.48	1.34	2.04	1.92	0.38	不明		前期後半	図V-11・12	図版12・35		
KP-9		Q37ab	2.02	1.64	1.92	1.58	0.84	不明		前期後半	図V-13・14	図版12・35		
KP-10		O36a・P56ab	0.70	0.64	1.76	1.70	1.40	不明		前期後半	図V-15	図版13・35		
KSP-1		P36a	0.44	0.32	0.18	0.16	0.24	不明		後期前葉	図V-17・20	図版13・36		
KSP-2		P36c	0.48	0.28	0.30	0.20	0.38	不明		後期前葉	図V-17・20	図版13		
KSP-3		P36a	0.36	0.32	0.16	0.12	1.14	不明		後期前葉	図V-17・20	図版13		
KSP-4		O37a	0.16	0.16	0.12	0.12	0.80	不明		後期前葉	図V-17・20	図版13		
KSP-6		Q36a	0.40	0.23	0.20	0.18	0.62	不明		後期前葉	図V-18・21	図版13		
KSP-7		P36c	0.28	0.26	0.18	0.16	0.74	不明		後期前葉	図V-17・20	図版13・36		
KSP-8		Q36c	0.36	0.24	0.34	0.26	0.86	不明		後期前葉	図V-18・21	図版13・36		
KSP-9		Q36abed	0.70	0.50	0.25	0.20	0.92	不明		後期前葉	図V-19	図版13		
KSP-10		O35a	0.36	0.42	0.28	0.24	0.78	不明		後期前葉	図V-18・21	図版13・36		
KSP-11		O36a	0.25	0.20	0.15	0.15	0.24	不明		後期前葉	図V-18・21	図版13・36		
KSP-13		P36a	0.28	0.26	0.20	0.18	0.36	不明		後期前葉	図V-19	図版36		
KSP-15		Q36a	0.28	0.30	0.20	0.20	0.38	不明		後期前葉	図V-19	図版13		
KSP-16		Q36a	0.40	0.40	0.20	0.20	0.72	不明		後期前葉	図V-19	図版13		
KSP-18		P36a	0.25	0.25	0.15	0.15	0.28	不明		後期前葉	図V-19	図版13		
KSP-19		P36a	0.16	0.56	0.30	0.24	0.54	不明		後期前葉	図V-18・21	図版36		
KSP-20		O32a	0.18	0.16	0.19	0.10	0.22	不明		後期前葉	図V-17・20	図版13		
KSP-21		Q36a	0.32	0.26	0.20	0.18	0.44	不明		後期前葉	図V-17・20	図版13		
KSP-22		P36a・O36a	0.30	0.26	0.24	0.20	0.34	不明		後期前葉	図V-19	図版13		
KSP-23		Q35a,b	0.35	0.35	0.25	0.20	0.72	不明		後期前葉	図V-18・21	図版13		
KSP-24		Q35a	0.30	0.16	0.22	0.12	0.86	不明		後期前葉	図V-18・21	図版13・36		
KSP-25		Q35b	0.50	0.40	0.25	0.20	0.78	不明		後期前葉	図V-18・21	図版13・36		
KSP-26		Q31a	0.58	0.48	0.20	0.20	0.77	不明		後期前葉	図V-17・20	図版13・36		
KSP-27		P31a	0.40	0.32	0.12	0.10	0.53	不明		後期前葉	図V-17・20	図版36		
KSP-28	P51a	0.16	0.16	0.10	0.10	0.28	不明		後期前葉	図V-17・20	図版13			
KSP-29	Q35a	0.35	0.35	0.15	0.15	0.86	不明		後期前葉	図V-17・20	図版13			
KSP-30	P56ab	0.46	0.36	0.36	0.26	0.53	不明		後期前葉	図V-17・20	図版13・36			
KSP-31	P57a	0.20	0.15	0.15	0.10	0.34	不明		後期前葉	図V-19	図版13			
KSP-33	Q31a	0.34	0.30	0.24	0.22	0.43	不明		後期前葉	図V-17・20	図版13			
KSP-34	P51a・Q32a	0.32	0.28	0.28	0.28	0.46	不明		後期前葉	図V-17・20	図版36			
KSP-37	P36c	0.38	0.30	0.28	0.28	0.58	不明		後期前葉	図V-18・22	図版13			
KSP-38	P54a	0.35	0.30	0.25	0.20	0.38	不明		後期前葉	図V-18・22	図版36			
KSP-39	P52a	0.22	0.20	0.16	0.14	0.67	不明		後期前葉	図V-17・20	図版13			
KSP-40	P51a・Q31a	0.68	0.31	0.16	0.14	0.77	不明		後期前葉	図V-17・20	図版13			
KSP-41	Q31a	0.36	0.30	0.30	0.20	0.57	不明		後期前葉	図V-17・21	図版36			
KSP-42	Q31a	0.22	0.22	0.16	0.12	0.20	不明		後期前葉	図V-17・21	図版36			
KSP-43	P51a・Q31a	0.32	0.26	0.18	0.14	0.37	不明		後期前葉	図V-17・21	図版36			
KSP-44	P51a	0.30	0.22	0.14	0.12	0.75	不明		前期後半	図V-17・21	図版13・36			
KSP-45	P36a	0.60	0.55	0.30	0.25	0.68	不明		後期前葉	図V-18・22	図版13・36			
KSP-46	P54b	0.72	0.56	0.52	0.40	0.72	不明		後期前葉	図V-18・22	図版36			
KSP-47	Q31a	0.32	0.30	0.22	0.20	0.84	不明		後期前葉	図V-18・22	図版13・36			
KSP-50	Q31a	0.28	0.24	0.20	0.18	0.24	不明		後期前葉	図V-17・21	図版13			
KSP-51	P51b	0.32	0.28	0.20	0.20	0.28	不明		後期前葉	図V-17・21	図版36			
KSP-52	P52c	0.20	0.15	0.10	0.10	0.28	不明		後期前葉	図V-17・21	図版36			
KSP-53	P36a	0.18	0.16	0.14	0.12	0.37	不明		後期前葉	図V-17・21	図版36			
KSP-58	P36a	0.30	0.25	0.22	0.20	0.60	不明		後期前葉	図V-18・22	図版13・36			
KSP-59	Q35a	0.50	0.45	0.25	0.20	0.72	不明		後期前葉	図V-19	図版14・36			
KSP-60	Q32c	0.30	0.44	0.36	0.30	0.55	不明		後期前葉	図V-17・21	図版14・36			
KSP-61	Q34a	0.30	0.24	0.20	0.20	0.78	不明		後期前葉	図V-18・22	図版14・36			
KSP-62	Q32a	0.25	0.20	0.10	0.10	0.40	不明		後期前葉	図V-19	図版14			
KSP-63	P55a・P54d	0.26	0.22	0.22	0.20	0.74	不明		後期前葉	図V-18・22	図版14			
KSP-64	O36b・P36a	0.68	0.58	0.40	0.40	0.82	不明		後期前葉	図V-18・22	図版14			
KSP-65	Q36a	0.38	0.34	0.18	0.18	0.32	不明		後期前葉	図V-18・22	図版14			
墳土	KF-1	Q34a	0.76	0.64	—	—	—	不明		後期前葉(前期)	図V-23	図版14		
	KF-2	P36c	0.44	0.36	—	—	—	不明		不明	図V-23	図版14		
	KF-3	P36c	0.32	0.44	—	—	—	不明		不明	図V-23	図版14		
	KF-4	Q35a	0.84	0.62	—	—	—	不明		後期後葉(前期)	図V-23	図版14		
	KF-5	O36a・O32a	0.49	0.10	—	—	—	不明		後期前葉?	図V-23	図版14		
KF-6	P52a	0.58	0.46	—	—	—	不明		不明	図V-23	図版14			
墳土遺構	墳土遺構	P51a・Q31abed	—	—	—	—	—		後期前葉	昭和40年代調査報告の録	図V-24・25	図版11・15・36		

表V-2 遺構出土遺物一覧

遺構名	層位又は付属遺構名	遺物名	分類	石材	点数	
KH-1	床面	土器	IV焼物		18	
		織石器	石皿	緑灰岩	2	
			合 計		20	
	HSP-2	割片石器	スタレイバー	灰岩		1
		割片	灰岩		1	
			合 計		2	
	HSP-3	織石器	織・織片	灰岩		2
			合 計		2	
	HF-1	割片石器	割片	灰岩		1
			合 計		1	
NH-1	土器	II焼物			3	
		III焼物			1	
		IV焼物			1	
		V焼物			21	
		V焼物			2	
	割片石器	右蓋	灰岩		2	
		スタレイバー	灰岩		6	
		右フレイク	灰岩		1	
		右フレイク	灰岩		2	
		右フレイク	灰岩		4	
		割片	灰岩		23	
		石斧	緑色灰岩		1	
		たたき石	灰岩		2	
			成岩		5	
		織石器	織・織片	安山岩		1
			チャート		1	
			砂岩		5	
			合 計		163	
			部 計		130	
	HSP-2	織石器	織片	成岩		1
		合 計		1		
HSP-3		織石器	織	砂岩		1
			合 計		1	
NH-2		土器	II焼物			11
			III焼物			35
			IV焼物			2
			IV焼物			9
		土製品	焼成粘土塊			7
			スタレイバー	灰岩		1
	右フレイク		灰岩		1	
	割片		灰岩		1	
	織石器	たたき石	灰岩		1	
		織・織片	成岩		6	
	チャート		1			
	合 計		29			
NH-3	割片石器	スタレイバー	灰岩		1	
		右フレイク	灰岩		1	
	織石器	割片	灰岩		4	
		織・織片	成岩		7	
	合 計		13			
HF-1	割片石器	割片	灰岩		11	
		たたき石	安山岩		1	
	織石器	すり石	砂岩		1	
		織・織片	安山岩		2	
		成岩		1		
		砂岩		4		
		合 計		20		
	HSP-13	割片石器	割片	灰岩		1
			合 計		1	
		土器	II焼物			11
III焼物					10	
III焼物					3	
IV焼物					18	
土製品		焼成粘土塊			2	
		右フレイク	灰岩		2	
割片石器		右フレイク	灰岩		1	
		割片	灰岩		4	
織石器	たたき石	安山岩		1		
	織・織片	メノウ		1		
		安山岩		1		
		成岩		5		
	合 計		63			
NH-4	土器	III焼物			1	
	合 計			1		
		部 計		85		
NH-5	土器	II焼物			1	
		IV焼物			21	
割片石器	右フレイク	灰岩		1		
	割片	灰岩		2		

遺構名	層位又は付属遺構名	遺物名	分類	石材	点数		
KH-1	NH-1	織石器	皿状石	成岩	1		
			加工済のある織	成岩	1		
			織・織片	成岩	6		
			チャート		1		
			合 計		26		
KH-3	NH-2	土器	III焼物		2		
			IV焼物		27		
		割片石器	割片	灰岩		4	
			成岩		12		
		砂岩		2			
		安山岩		2			
		合 計		69			
KH-4	NH-3	織石器	右石	安山岩	1		
			合 計		1		
			部 計		6		
KH-5	NH-4	土器	II焼物		3		
			III焼物		4		
			IV焼物		10		
			スタレイバー	灰岩	2		
			右フレイク	灰岩	1		
	割片石器	右フレイク	灰岩		3		
		割片	チャート		2		
		右蓋	安山岩		1		
		砥石	緑灰岩		1		
		石斧	成岩		1		
NH-5	織石器	織・織片	成岩		1		
		チャート		2			
		成岩		19			
		安山岩		1			
		合 計		37			
KH-6	NH-6	土器	II焼物		4		
			IV焼物		4		
			スタレイバー	灰岩	1		
			右フレイク	灰岩	2		
			割片	灰岩	1		
	NH-7	織石器	織・織片	成岩		1	
			合 計		11		
	NH-8	NH-8	土器	IV焼物		1	
				織石器	すり石 (扁平打製石)	安山岩	1
			合 計		2		
NH-9	NH-9	割片石器	スタレイバー	灰岩	2		
			右フレイク	灰岩	1		
NH-10	NH-10	石製品	割片	灰岩	2		
			右石製品	有孔石	灰岩	1	
		合 計		6			
NH-11	NH-11	割片石器	割片	灰岩	3		
			織石器	織・織片	チャート	1	
		合 計		4			
			部 計		23		
KH-7	NH-12	土器	II焼物		83		
			IV焼物		1		
			割片石器	右フレイク	成岩	2	
			皿状石	成岩	1		
NH-13	NH-13	織石器	皿状石	成岩	1		
			たたき石	砂岩	1		
			すり石 (扁平打製石)	成岩	1		
			織・織片	成岩	4		
		合 計		85			
KH-8	NH-14	土器	II焼物		112		
			III焼物		17		
			III焼物		27		
			土製品	焼成粘土塊		7	
			割片石器	割片	成岩	6	
	NH-15	NH-15	織石器	石斧	成岩	1	
				たたき石	安山岩	1	
				すり石 (扁平打製石)	成岩	1	
				織・織片	成岩	1	
				成岩		8	
		合 計		183			
KH-9	NH-16	土器	II焼物		104		
			合 計		104		
	NH-17	NH-17	土器	II焼物		18	
				III焼物		20	
				土製品	焼成粘土塊		7
				スタレイバー	灰岩	1	
	NH-18	NH-18	割片石器	表面磨製石	灰岩	1	
				右フレイク	灰岩	2	
				すり石 (扁平打製石)	成岩	1	
				砥石	成岩	1	
		合 計		183			
NH-19	NH-19	土器	II焼物		1		
			成岩		2		
		合 計		3			
			部 計		315		

表V-2 遺構出土遺物一覧

遺構名	層位又は付属遺構名	遺物名	分類	石材	点数
KSP-10	覆土1	土器	Ⅱ形土器		64
		石鏝		瓦葺	1
		割片石器	つまみ付ナイフ	瓦葺	1
		割片		瓦葺	8
		破石器	縄・縄片	チャート	1
	破石器	縄・縄片	瓦葺	7	
			合 計		82
	覆土5	土器	Ⅱ形土器		36
		破石器	たたき石	瓦葺	2
		破石器	縄・縄片	チャート	1
		合 計		39	
KSP-11	覆土	土器	Ⅱ形土器		121
			合 計		2
			合 計		2
KSP-17	覆土2	土器	Ⅳ形土器		2
			合 計		2
			合 計		2
KSP-8	覆土	土器	Ⅳ形土器		6
			合 計		6
			合 計		6
KSP-9	覆土5	割片石器	割片	瓦葺	2
		破石器	縄・縄片	メノウ	1
		破石器	縄・縄片	瓦葺	1
			合 計		4
			合 計		4
KSP-10	覆見	土器	Ⅱ形土器		3
		土器	Ⅳ形土器		3
		割片石器	割片	瓦葺	19
		破石器	縄・縄片	瓦葺	3
			合 計		28
KSP-11	覆土	土器	Ⅳ形土器		1
			合 計		1
			合 計		1
KSP-13	覆土	土器	Ⅱ形土器		1
		割片石器	割片	瓦葺	1
		破石器	縄	瓦葺	1
			合 計		3
KSP-16	覆土	土器	Ⅳ形土器		3
		土器	Ⅳ形土器		3
		割片石器	割片	瓦葺	1
			合 計		5
			合 計		5
KSP-18	覆土	土器	Ⅳ形土器		1
		割片石器	スフレイバー	瓦葺	1
		割片		瓦葺	1
			合 計		3
KSP-22	覆土	破石器	縄・縄片	瓦葺	2
			合 計		2
			合 計		2
			合 計		2
KSP-24	覆土	土器	Ⅳ形土器		1
			合 計		1
			合 計		1
			合 計		1
			合 計		1
KSP-25	覆土	土器	Ⅱ形土器		5
		土器	Ⅳ形土器		3
		破石器	縄・縄片	瓦葺	3
			合 計		12
			合 計		12
KSP-26	覆土	土器	Ⅱ形土器		1
		土器	Ⅳ形土器		1
		割片石器	スフレイバー	瓦葺	1
		破石器	縄・縄片	瓦葺	2
			合 計		13
KSP-27	覆土	土器	Ⅳ形土器		13
			合 計		3
			合 計		3
			合 計		3
KSP-28	覆土	割片石器	割片	瓦葺	1
		破石器	縄・縄片	瓦葺	4
			合 計		5
			合 計		5
KSP-30	覆土	破石器	たたき石	瓦葺	1
		破石器	縄・縄片	瓦葺	1
			合 計		2
			合 計		2
KSP-32	覆土	割片石器	割片	瓦葺	2
			合 計		1
			合 計		1
KSP-34	覆土	土器	Ⅳ形土器		1
		割片石器	スフレイバー	瓦葺	1
			合 計		2

遺構名	層位又は付属遺構名	遺物名	分類	石材	点数
KSP-38	覆土	土器	Ⅱ形土器		2
		土製品	埴輪土塊		2
		破石器	たたき石	瓦葺	1
			合 計		5
			合 計		5
KSP-41	覆土	土器	Ⅱ形土器		1
		土器	Ⅳ形土器		1
		破石器	縄・縄片	瓦葺	1
			合 計		3
			合 計		3
KSP-42	覆土	割片石器	スフレイバー	瓦葺	1
			合 計		1
			合 計		1
KSP-44	覆土	土器	Ⅱ形土器		19
			合 計		19
			合 計		19
KSP-45	覆土	土器	Ⅳ形土器		4
		破石器	たたき石	瓦葺	1
		破石器	縄	瓦葺	1
			合 計		7
			合 計		7
KSP-46	覆土	土器	Ⅳ形土器		2
		割片石器	スフレイバー	瓦葺	1
			合 計		3
			合 計		3
KSP-47	覆土	土器	Ⅳ形土器		2
		割片石器	割片	瓦葺	1
		割片石器	スフレイバー	瓦葺	1
			合 計		4
KSP-47	覆土	土器	Ⅳ形土器		2
		割片石器	割片	瓦葺	1
		割片石器	スフレイバー	瓦葺	1
			合 計		4
KSP-47	覆土	割片石器	スフレイバー	瓦葺	1
			合 計		1
			合 計		1
			合 計		1
KSP-49	覆土	土器	Ⅱ形土器		4
		土器	Ⅳ形土器		3
		割片石器	割片	瓦葺	1
		割片石器	スフレイバー	瓦葺	2
			合 計		10
KSP-49	覆土	土器	Ⅱ形土器		5
		土器	Ⅳ形土器		4
		割片石器	割片	瓦葺	2
		破石器	縄片	瓦葺	2
			合 計		13
KSP-49	覆土	土器	Ⅱ形土器		5
		土器	Ⅳ形土器		4
		割片石器	割片	瓦葺	2
		破石器	縄片	瓦葺	2
			合 計		13
KSP-50	覆土	土器	Ⅳ形土器		2
		割片石器	割片	瓦葺	2
		破石器	縄片	瓦葺	2
			合 計		6
KSP-51	覆土	土器	Ⅳ形土器		4
		割片石器	割片	瓦葺	1
		破石器	縄・縄片	瓦葺	3
			合 計		11
KSP-53	覆土	土器	Ⅳ形土器		1
		割片石器	割片	瓦葺	1
		破石器	縄・縄片	瓦葺	4
			合 計		6
			合 計		6
KF-4	覆土	割片石器	割片	瓦葺	1
			合 計		4
			合 計		4
KF-5	覆土	土器	Ⅳ形土器		1
		割片石器	割片	瓦葺	5
遺構遺構	遺土		合 計		6
			合 計		6
		土器	Ⅳ形土器		87
		土製品	埴輪土塊		6
		石鏝		瓦葺	1
		石鏝		瓦葺	1
		割片石器	スフレイバー	瓦葺	4
		割片石器	割片	瓦葺	1
		割片石器	メノウ	瓦葺	4
		割片石器	メノウ	瓦葺	2
		割片石器	メノウ	瓦葺	2
		破石器	チャート	瓦葺	1
		破石器	たたき石	瓦葺	2
		破石器	縄・縄片	瓦葺	3
		破石器	縄・縄片	瓦葺	36
			合 計		214
			合 計		214

表V-3 遺構出土土器点数一覧

遺構種別	遺構名	分類							合計	
		Ⅱb	Ⅱb-2	Ⅱb-3	Ⅲa	Ⅲb	Ⅳa	Ⅳc		Vb
住居跡	KH-1	3			1	22	39	2	68	
	KH-2	14			35	2	9	1	61	
	BH-13	11			10	4	18		43	
土坑	KP-1	1				23			24	
	KP-3				2	27			29	
	KP-5	6			3	4	10		23	
	KP-6	1				5			6	
	KP-7	83				1			84	
	KP-9	234	17	47					298	
	KP-10	100							100	
柱穴様 小ピット	KSP-1	2							2	
	KSP-7					2			2	
	KSP-8					6			6	
	KSP-10	1			3	24			28	
	KSP-11					1			1	
	KSP-13				1				1	
	KSP-16					3	1		4	
	KSP-19					1			1	
	KSP-24					1			1	
	KSP-25				1	5	3		9	
	KSP-26				1	7			8	
	KSP-27					3			3	
	KSP-34					1			1	
	KSP-38					2			2	
	KSP-41				1	1			2	
	KSP-44	19							19	
	KSP-45					4			4	
	KSP-46					2			2	
	KSP-47					2			2	
	KSP-58	4				3	3		10	
	KSP-59	5			4	2	2		11	
	KSP-60					2			2	
	KSP-61					4	4		4	
KSP-63					1			1		
埴土	KP-5					1			1	
盛土遺構	盛土遺構					87			87	
合計		484	17	47	62	14	280	44	2	950

表V-4 遺構出土土器等点数一覧

遺構種別	遺構名	分類													合計						
		石 蕨	石 鏃	つまみ付ナイフ	スクレイパー	歯面調整石器	Rフレイク	Uフレイク	剥片	石 斧	たたまき石	凹み石	台石	すり石		石 皿	砥石	加工痕ある 礫	礫・ 礫片	土 製品	石 製品
住居跡	KH-1		2		9	2	4	27	1	3					2			14			64
	KH-2				2		1	1	5	1								16	7		33
	BH-13						2	1	20	2				1				14	2		42
土坑	KP-1						1	2				1					1	7			12
	KP-3								4									16			20
	KP-4												1								1
	KP-5				2		1		5						1	1		24			34
	KP-6				3			3	7						1			2		1	17
	KP-7							1	2		1	1		1				5			11
	KP-9				1	1		2	11	1	2				2			15	9		44
	KP-10	1		1					8		2							9			21
	KSP-9								2									2			4
	KSP-10								19									5			24
柱穴様 小ピット	KSP-13								1									1			2
	KSP-16								1												1
	KSP-19				1				1												2
	KSP-22																	2			2
	KSP-25									2								3			3
	KSP-26				1				2									2			5
KSP-29								1									4			5	

表V-4 遺構出土石器等点数一覧

遺構種別	遺構名	分類														合計					
		石 錐	石 鏃	つまみ付ナイフ	スクレイパー	遺物調整石器	Rフレイク	Lフレイク	剥片	石 斧	たたき石	凹み石	台石	すり石	石 皿		砥石	加工痕ある礫	礫・礫片	土製品	石製品
柱穴様 小ピット	KSP-30									1							1				2
	KSP-33								1												1
	KSP-34							1													1
	KSP-38										1								2		3
	KSP-41																	1			1
	KSP-42								1												1
	KSP-45										1	1						1			3
	KSP-46							1													1
	KSP-47								1	1											2
	KSP-57									1											1
	KSP-58								2	1											3
	KSP-59									4								2			6
	KSP-60									2								2			4
KSP-61									4								3			7	
KSP-63									4								2			6	
焼土	KF-4								4											4	
	KF-5								5											5	
盛土遺構	盛土遺構	4	1				5	66		2			1				42	6		127	
合 計		5	3	1	19	1	15	16	210	2	16	3	1	6	3	1	1	195	26	1	525

表V-5 遺構出土掲載土器一覧

遺構名	図番号	層位	遺物番号 (点数)	小計	合計	点取 番号	大きさ (cm)			分類	図番番号	備考			
							高さ	口径	底径						
KH-1	図V-4-1	灰	4 (2)	11 (5)	12 (6)	14	14			Pc	図版33				
	図V-4-2	焼土	3 (1)			1	1			Pc	図版33	HSP-2			
	図V-4-3	灰	9 (1)			1	1	4		Pc	図版33				
	図V-4-4	灰	12 (1)			1	1	1		Pc	図版33				
	図V-4-5	灰	13 (1)			1	1			Pc	図版33				
	図V-4-6	灰	15 (1)			1	1			Pc	図版33				
	図V-6-1	焼土	6 (1)			1	1			Pc	図版34	HSP-3			
	図V-6-2	焼土	12 (1)			1	1			Bb	図版34				
	図V-6-3	焼土	13 (1)			1	1			Bb	図版34				
	図V-6-4	焼土	13 (2)			2	2			Bb	図版34				
KH-2	図V-6-5	焼土	15 (1)			1	1			Bb	図版34				
	図V-6-6	焼土	16 (1)			1	1			Bb	図版34	HSP-2			
	図V-6-7	焼土	16 (1)			1	1			Bb	図版34				
	図V-6-8	焼土	14 (1)			1	1			Pc	図版34				
	図V-6-9	焼土	6 (1)			1	1			Pc	図版34	HSP-3			
	図V-6-10	焼土	6 (2)			2	2			Pc	図版34	HSP-3			
	図V-6-11	焼土	8 (1)			1	1			Pc	図版34				
	図V-6-1	焼土	3 (1)			1	1			Bb	図版34				
	図V-6-2	焼土	14 (1)			1	1			Bb	図版34				
	図V-6-3	焼土	8 (1)			1	1			Pc	図版34				
BH-13	図V-6-4	焼土下	11 (1)			1	1			Bb	図版34				
	図V-6-5	焼土	4 (1)			1	1			Bb	図版34				
	図V-9-1	焼土	2 (3)	6 (1)		4	1			Pc	図版34				
	図V-9-1	焼土	3 (1)	6 (1)		2	6			Pc	図版34				
	図V-9-1	焼土	2 (1)			1	1			Pc	図版34				
	図V-9-2	焼土	2 (1)			1	1			Pc	図版34				
	図V-9-3	焼土	2 (1)			1	1			Pc	図版34				
	図V-9-4	焼土	2 (1)			1	1			Pc	図版34				
	図V-9-5	焼土	4 (2)			2	2			Pc	図版34				
	図V-10-1	焼土	7 (1)			1	1			Bb	図版34				
KP-5	図V-10-2	焼土	6 (1)	7 (1)		2	2			Bb	図版34				
	図V-10-3	焼土	2 (1)			1	1			Bb	図版34				
	図V-10-4	焼土	2 (1)	8 (1)		2	2			Bb	図版34				
	図V-10-5	焼土	2 (2)			2	2			Bb	図版34				
	図V-10-6	焼土	3 (1)			1	1			Pc	図版34				
	図V-10-7	焼土	5 (2)			2	2			Pc	図版34				
	図V-10-8	焼土	2 (1)			1	1			Pc	図版34				
KP-6	図V-11-1	焼土	1 (1)			1	1			Pc	図版35				
	図V-11-2	焼土	3 (1)			1	1			Pc	図版35				
	焼土	2 (67)			67										
KP-7	図V-12-1	灰 カタラン	5 (1)			1	69			(39.3)		(16.2)	Bb	図版35	
	焼土	4 (1)			1								Pc	図版35	
	図V-12-2	焼土	3 (1)			1	1						Pc	図版35	

表V-5 遺構出土掘載土器一覧

遺構名	図番号	層位	遺物番号(点数)	小計	合計	直線番号	大きさ(m)			分類	図版番号	備考
							高さ	口徑	底径			
KH-9	図V-13-1	層上土	7 (56)	30	30		12.77	17.4	11.0	II b-3	図版35	
	図V-13-2	層土	6 (32)	32	30					II b-3	図版35	
	図V-13-3	層土中	9 (7)	7			18.0	13.0	7.2	II b-3	図版35	
	図V-14-3	層土中	9 (4)	4	5					II b-3	図版35	
	図V-14-3	層土	11 (1)	1						II b-3	図版35	
	図V-14-4	層土	13 (16)	16	16					II b-3	図版35	
	図V-14-5	層土	15 (3)	3	3					II b-3	図版35	
	図V-14-6	層土中	3 (2)	2	2					II b-3	図版35	
	図V-14-7	層土中	14 (1)	1	1					II b-3	図版35	
図V-15-1	層土2	2 (42)	42	42		21.6	12.5	8.1	III a	図版35		
KP-10	図V-15-2	層土1	1 (4)	3 (7)	11	11				III b	図版35	
	図V-15-3	層土1	1 (1)	1	1	1				III b	図版35	
	図V-15-4	層土1	1 (1)	1	1	1				III b	図版35	
KSP-1	図V-20-1	層土1	1 (1)	1	1	1				III b	図版36	
	図V-20-1	層土2	1 (2)	2	2	2				III b	図版36	
KSP-7	図V-20-1	層土2	1 (1)	1	1	1				III b	図版36	
	図V-20-2	層土2	1 (1)	1	1	1				III b	図版36	
KSP-8	図V-21-1	層土	1 (1)	1	1	1				III b	図版36	
	図V-21-2	層土	1 (1)	1	1	1				III b	図版36	
KSP-10	図V-21-1	カクラン	2 (1)	1	1	1				III b	図版36	
	図V-21-1	層土	1 (1)	1	1	1				III b	図版36	
KSP-11	図V-19-1	層土	1 (1)	1	1	1				III b	図版36	
	図V-19-1	層土	1 (1)	1	1	1				III b	図版36	
KSP-16	図V-19-1	層土	2 (1)	1	1	1				III b	図版36	
	図V-19-2	層土	1 (1)	1	1	1				III b	図版36	
KSP-19	図V-21-1	層土	1 (1)	1	1	1				III b	図版36	
	図V-21-1	層土	1 (1)	1	1	1				III b	図版36	
KSP-24	図V-21-1	層土	1 (1)	1	1	1				III b	図版36	
	図V-21-1	層土	1 (1)	1	1	1				III b	図版36	
KSP-25	図V-21-2	層土	1 (2)	2	2	2				III b	図版36	
	図V-21-3	層土	1 (1)	1	1	1				III b	図版36	
KSP-26	図V-20-1	層土	2 (1)	1	1	1				III b	図版36	
	図V-20-1	層土	1 (1)	1	1	1				III b	図版36	
KSP-27	図V-20-1	層土	1 (1)	1	1	1				III b	図版36	
	図V-20-1	層土	1 (1)	1	1	1				III b	図版36	
KSP-28	図V-22-1	層土	2 (1)	1	1	1				III b	図版36	
	図V-21-1	層土	1 (1)	1	1	1				III b	図版36	
KSP-41	図V-21-1	層土	1 (1)	1	1	1				III b	図版36	
	図V-21-1	層土	1 (19)	19	19	19	13.5		(12.8)	III b	図版36	
KSP-44	図V-22-1	層土	1 (1)	1	1	1				III b	図版36	
	図V-22-2	層土	1 (1)	1	1	1				III b	図版36	
KSP-45	図V-22-2	層土	1 (1)	1	1	1				III b	図版36	
	図V-22-1	層土	1 (1)	1	1	1				III b	図版36	
KSP-46	図V-22-1	層土	1 (1)	1	1	1				III b	図版36	
	図V-22-1	層土	1 (1)	1	1	1				III b	図版36	
KSP-47	図V-22-1	層土	1 (1)	1	1	1				III b	図版36	
	図V-22-1	層土	1 (1)	1	1	1				III b	図版36	
KSP-55	図V-19-1	層土	1 (1)	1	1	1				III b	図版36	
	図V-19-2	層土	1 (1)	1	1	1				III b	図版36	
KSP-60	図V-21-1	層土	1 (1)	1	1	1				III b	図版36	
	図V-21-2	層土	1 (1)	1	1	1				III b	図版36	
KSP-61	図V-22-3	層土	1 (1)	1	1	1				III b	図版36	
	図V-22-1	層土	1 (1)	1	1	1				III b	図版36	
層土遺構	図V-25-2	層土	4 (1)	6 (1)	2	2				III b	図版36	

表V-6 遺構出土掘載石器等一覧

遺構名	図番号	遺物番号	層位	分類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	材質	図版番号	備考
KH-1	図V-4-7	26	層土	石鏃	3.00	1.25	0.50	1.43	頁岩	図版33	No7
	図V-4-8	7	層土	石鏃	(4.80)	1.20	0.75	(3.09)	頁岩	図版33	
	図V-4-9	6	層土	スクレイパー	3.15	2.30	0.65	5.56	頁岩	図版33	
	図V-4-10	28	層土	スクレイパー	8.30	3.00	1.30	19.85	頁岩	図版33	No9
	図V-4-11	29	層土	スクレイパー	5.60	3.55	0.75	8.48	泥岩	図版33	No10
	図V-4-12	37	層土	スクレイパー	7.05	4.00	1.50	36.40	頁岩	図版34	No17
	図V-4-13	15	層土	スクレイパー	4.20	6.60	1.20	27.80	頁岩	図版34	
	図V-4-14	24	層土	たたき石	4.90	6.20	4.40	152.14	頁岩	図版34	
	図V-4-15	38	層土	たたき石	5.20	5.80	5.00	197.78	頁岩	図版34	
	図V-4-16	17 18	床面	石皿片	24.80	(21.00)	2.00	(984.50)	凝灰岩	図版34	⑥ ⑤
KH-2	図V-6-12	4	層土中	スクレイパー	7.40	3.00	1.10	24.72	頁岩	図版34	
	図V-6-13	9	層土	スクレイパー	6.75	6.55	1.70	64.80	頁岩	図版34	
	図V-8-6	2	層土	たたき石	16.70	6.10	4.50	392.00	安山岩	図版34	
BH-13	図V-8-7	20	HF-1	たたき石	16.35	6.65	4.70	728.50	安山岩	図版34	No1 伊石
	図V-8-8	14	HF-1	すり石	7.50	15.10	3.35	514.50	砂岩	図版34	No9 伊石 被熱
	15	HF-1	鏝	10.70	6.10	3.80	342.23	安山岩		No8 伊石	
	16	HF-1	鏝	14.90	7.00	2.90	477.23	安山岩		No7 伊石 被熱	
	17	HF-1	鏝	13.30	5.60	2.90	321.39	砂岩		No6 伊石	
	18	HF-1	鏝	10.50	9.30	3.30	537.00	片岩		No5 伊石	
	19	HF-1	鏝	16.00	6.40	3.00	513.50	砂岩		No4 伊石	
	21	HF-1	鏝	18.00	8.10	5.80	971.00	砂岩		No2 伊石	
22	HF-1	鏝	19.00	18.30	5.40	2476.50	砂岩		No3 伊石		

表V-6 遺構出土掘載石器等一覧

遺構名	図番号	遺物番号	層位	分類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	材質	図版番号	備考	
KP-1	図V-9-2	6	覆土	即み石	14.85	3.90	3.75	268.16	泥岩	図版34		
KP-4	図V-9-1	1	覆土	台石片	(15.20)	14.00	10.60	(2900.00)	安山岩	図版34		
KP-5	図V-10-9	10	覆土	スクレイパー	7.60	5.45	1.15	52.46	頁岩	図版34		
	図V-10-10	7	覆土	砥石片	(14.20)	(17.60)	(3.55)	(488.00)	凝灰岩	図版35		
KP-6	図V-11-3	3	覆土5	スクレイパー	4.40	6.10	0.70	21.19	頁岩	図版35		
	図V-12-3	8	覆土	たたき石	13.40	5.40	4.60	528.00	砂岩	図版35		
KP-7	図V-12-4	1	覆土	即み石	(12.65)	6.05	2.75	(252.75)	泥岩	図版35		
	図V-12-5	2	覆土	すり石	8.90	(16.70)	1.55	(261.50)	玄武岩	図版35	扁平打製石器	
KP-9	図V-14-8	16	覆土上	両面調整石器	7.45	4.50	1.30	44.63	頁岩	図版35		
	図V-14-9	19	覆土	たたき石	11.60	4.30	2.55	191.85	安山岩	図版35		
	図V-14-10	4	覆土中	すり石片	13.65	(12.05)	2.50	(380.50)	凝灰岩	図版35	扁平打製石器片	
	図V-14-11	10	覆土	すり石	8.20	(13.10)	2.10	(355.00)	安山岩	図版35	扁平打製石器	
KP-10	図V-15-6	9	覆土1	石鏃	(3.85)	1.65	0.30	(2.23)	頁岩	図版35		
	図V-15-7	8	覆土1	つまみ付ナイフ	5.65	3.50	0.65	13.63	頁岩	図版35	光沢あり	
	図V-15-8	1	覆土5	たたき石	14.10	3.90	2.75	178.89	泥岩	図版35		
KSP-19	図V-21-2	2	覆土	スクレイパー	5.80	3.25	1.30	19.80	頁岩	図版36		
KSP-30	図V-20-1	1	覆土	たたき石	13.10	3.90	2.85	182.27	泥岩	図版36		
KSP-38	図V-22-2	1	覆土	たたき石	9.00	5.50	3.30	180.12	泥岩	図版36		
盛土遺構	KSP-45	図V-22-2	2	覆土	即み石	12.00	6.40	4.20	332.18	泥岩	図版36	
	図VI-25-3	12	盛土	石鏃	(2.50)	1.60	0.40	(1.10)	頁岩	図版36		
	図V-25-4	13	盛土	石鏃	3.26	1.42	0.27	1.24	頁岩	図版36	アスファルト付着	
	図VI-25-5	11	盛土	石鏃	2.30	1.70	0.40	1.42	頁岩	図版36		
	図V-25-6	28	盛土	石鏃	(3.28)	1.53	0.25	(1.10)	頁岩	図版36	アスファルト付着	
	図VI-25-7	10	盛土	石鏃	(4.90)	2.20	1.10	(9.23)	頁岩	図版36		
	図VI-25-8	4	盛土	すり石	8.10	7.30	3.30	257.60	チャート	図版36		

表V-7 包含層出土土器点数一覧

層名	分類									合計
	Ib-3	IIb	IIIa	IIIb	IVa	IVb	Va	Vb	Vc	
I層		80	129	15	280		96	34	27	661
II層		1								1
III層		29	121	22	255		155		122	724
V層		262	408	12	501	8	112	5	56	1364
表探		5	7		3		2			17
撥乱		12	37	19	35		26		5	134
排土	1	7	11	14	133				53	219
不明		4	7		25		3		2	41
合計	1	400	720	82	1232	8	394	39	265	3161

表V-8 包含層出土石器等点数一覧

層名	分類														合計										
	石鏃	石鏃	石鏃	つまみ付ナイフ	スクレイパー	両面調整石器	石核	Rフレイク	Uフレイク	割片	たたき石	即み石	すり石	石皿		砥石	石鏃	石鏃	石器	加工痕ある種	礫・礫片	土製品	石製品	赤色顔料	
I層		1		1	18	2		59	38	346	6		6		1						409	4	1	4	896
II層											2										5				7
III層		2	2	3	21	1	4	13	21	260	12		2		1						416	11			769
V層	15	1	1	4	33	3	1	13	27	424	16		8	2					1		475	51			1075
表探				1					3	6											21				31
撥乱		1		5	1		1	3	33	3	3	1									30	2			80
排土		3			12	2	3	41	17	209	54	1	4					1	1	9	414	32	1	9	813
不明	1							2	1												1	1			7
合計	18	8	1	8	90	9	8	129	110	1280	91	1	21	2	2	1	1	2	9	1771	101	2	13	3678	

表V-9 包含層出土掲載土器一覧

図番号	調査区	層位	遺物番号(点数)				小計	合計	大きさ (cm)			分期	図録番号	備考		
									高さ	口径	底部					
図V-26-1	Q59	V	I	15 (50)				50					Ⅱb	図録36		
				3 (7)				7	106	(31.7)	—	(20.0)				
	Q58	V	I	11 (43)	14 (4)			49								
図V-26-2	P59	V	V	29 (34)	54 (27)			61	23.2	20.6	7.4	Ⅱa	図録36			
図V-26-3	P59	露層		2 (3)				5	5	—	—	Ⅱa	図録37			
図V-26-4	P59	露層		2 (1)				1	1	—	—	Ⅱa	図録37			
図V-27-5	P60	V層	I	31 (3)				3					Ⅱc	図録37		
				19 (7)				7	22	—	—	—				
	P60	V層	I	6 (1)	11 (8)			12								
	O55	I層	I	15 (7)				7								
図V-27-6	P56	V層	I	5 (1)				1				9	—	—	Ⅱc	図録37
				2 (1)				1								
	O55	I層	I	15 (2)				2				7	—	—	Ⅱc	図録37
	P55	I層	I	4 (3)	9 (2)			5				3	—	—	Ⅱb	図録37
図V-27-8	Q53	V層	V	2 (1)				1				1	—	—	Ⅱb	図録37
図V-27-9	K地区	挿土		23 (1)				1				1	—	—	Ⅱb	図録37
図V-28-10	K地区	挿土		11 (1)				1				1	—	—	Ⅱb-3	図録37
図V-28-11	O54	I層	I	6 (2)				2				2	—	—	Ⅱb	図録37
	Q58	I層	I	3 (1)				1				1	—	—	Ⅱb	図録37
図V-28-12	Q58	V層	V	11 (2)				2				4	—	—	Ⅱb	図録37
図V-28-13a	Q59	V層	V	15 (1)				1				1	—	—	Ⅱb	図録37
図V-28-13b	Q58	V層	V	11 (2)				2				2	—	—	Ⅱb	図録37
図V-28-14	Q59	V層	V	15 (2)				2				2	—	—	Ⅱb	図録37
図V-28-15	Q58	I層	I	3 (4)				4				10	—	—	Ⅱb	図録37
				11 (6)				6								
図V-28-16	Q56	V層	V	11 (4)				4				4	—	—	Ⅱb	図録37
図V-28-17	Q58	V層	V	11 (6)				6				6	—	—	Ⅱb	図録37
図V-28-18	Q56	I層	I	3 (1)				1				1	—	—	Ⅱb	図録37
				11 (2)				2								
	I層	I	22 (1)				1					1	—	—	Ⅱb	図録37
図V-28-19	Q59	V層	V	29 (1)				1				2	—	—	Ⅱb	図録37
図V-28-20	Q59	V層	V	15 (1)				1				1	—	—	Ⅱb	図録37
図V-28-21	Q58	V層	V	11 (4)				4				4	—	—	Ⅱb	図録37
図V-28-22	P60	V層	V	4 (1)				1				1	—	—	Ⅱa	図録37
図V-28-23	Q59	露層		27 (1)				1				1	—	—	Ⅱa	図録37
図V-28-24	Q59	V層	V	6 (1)				1				1	—	—	Ⅱa	図録37
図V-28-25	Q57	V層	V	4 (1)				1				1	—	—	Ⅱa	図録37
図V-28-26	Q57	撚乱		20 (2)				2				2	—	—	Ⅱa	図録37
図V-28-27	Q57	V層	V	4 (1)				1				1	—	—	Ⅱa	図録37
図V-28-28	P59	V層	V	60 (1)				1				1	—	—	Ⅱa	図録37
図V-28-29	P59	V層	V	60 (1)				1				1	—	—	Ⅱa	図録37
図V-28-30	Q52	V層	V	13 (1)				1				1	—	—	Ⅱa	図録38
図V-28-31	P59	V層	V	29 (1)				1				1	—	—	Ⅱa	図録37
図V-28-32	P60	V層	V	12 (1)				1				1	—	—	Ⅱa	図録37
図V-28-33	Q57	撚乱		20 (1)				1				1	—	—	Ⅱa	図録38
図V-28-34	P56	V層	V	28 (1)				1				1	—	—	Ⅱa	図録38
図V-28-35	P59	V層	V	28 (1)				1				1	—	—	Ⅱa	図録38
図V-29-36	O55	I層	I	10 (1)				1				1	—	—	Ⅱa	図録38
図V-29-37	O55	I層	I	10 (1)				1				1	—	—	Ⅱa	図録38
図V-29-38	P59	不明		14 (1)				1				1	—	—	Ⅱa	図録38
図V-29-39	O55	撚乱		2 (5)				5				5	—	—	Ⅱa	図録38
図V-29-40	P60	V層	V	16 (1)				1				1	—	—	Ⅱb	図録38
図V-29-41	P60	露層		19 (1)				1				1	—	—	Ⅱc	図録38
図V-29-42	P60	露層		19 (2)				2				2	—	—	Ⅱc	図録38
図V-29-43	P56	露層		44 (2)				2				2	—	—	Ⅱc	図録38
図V-29-44	Q57	撚乱		17 (2)				2				2	—	—	Ⅱc	図録38
図V-29-45	O59	V層	V	11 (1)				1				1	—	—	Ⅱc	図録38
図V-29-46	P60	露層		19 (3)				3				3	—	—	Ⅱa	図録38
図V-29-47	Q57	撚乱		17 (1)				1				1	—	—	Ⅱc	図録38
図V-29-48	P59	V層	V	56 (1)				1				1	—	—	Ⅱc	図録38
図V-29-49	P59	露層		21 (1)	42 (2)	43 (1)	44 (1)	5				5	—	—	Ⅱc	図録38
図V-29-50	Q57	撚乱		17 (4)				4				4	—	—	Ⅱc	図録38
図V-29-51	P60	露層		19 (4)				4				4	—	—	Ⅱc	図録38
図V-29-52	P55	I層	I	9 (1)				1				1	—	—	Ⅱc	図録38
図V-29-53	O55	I層	I	13 (1)				1				1	—	—	Ⅱc	図録38
図V-29-54	O55	I層	I	15 (1)				1				1	—	—	Ⅱc	図録38
図V-29-55	P56	V層	V	12 (1)				1				1	—	—	Ⅱa	図録38
図V-29-56	P55	I層	I	16 (2)				2				2	—	—	Ⅱa	図録38
図V-29-57	P55	I層	I	16 (1)				1				1	—	—	Ⅱa	図録38
図V-29-58	P55	V層	I	4 (1)	13 (3)			4				4	—	—	Ⅱa	図録38
				6 (1)				1				5	—	—	Ⅱa	図録38
図V-29-59	Q52	露層		9 (1)	25 (1)			2				2	—	—	Ⅱb	図録38
図V-29-60	K地区	挿土		49 (1)				1				1	—	—	Ⅱb	図録38
図V-29-61	K地区	挿土		11 (1)				1				1	—	—	Ⅱb	図録38
図V-29-62	Q53	V層	V	2 (3)				3				3	—	—	Ⅱb	図録38
図V-29-63	Q53	V層	V	16 (1)				1				1	—	—	Ⅱb	図録38
図V-32-46	Q56	V層	V	15 (1)				1				1	—	—	土製品	図録39
図V-32-47	Q57	V層	V	15 (1)				1				1	—	—	土製品	図録39
図V-32-48	Q52	V層	V	34 (1)				1				1	—	—	土製品	図録39

表V-10 包含層出土掲載石器等一覧

図番号	発掘区	遺物番号	層位	分類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	材質	図版番号	備考
図V-30-1	P51	70	V層	石鏃	2.05	1.53	0.49	1.08	真岩	図版38	
図V-30-2	P51	71	V層	石鏃	2.73	1.29	0.35	0.78	真岩	図版38	
図V-30-3	P51	2	V層	石鏃	3.10	1.34	0.46	1.67	真岩	図版38	アスファルト付着
図V-30-4	P51	1	V層	石鏃	(3.95)	1.55	0.65	(3.93)	真岩	図版38	アスファルト付着
図V-30-5	Q51	4	III層	石鏃	4.27	2.62	0.54	5.10	真岩	図版38	
図V-30-6	Q52	57	V層	石鏃	(2.10)	1.62	0.31	(0.79)	メノウ	図版38	
図V-30-7	Q57	34	V層	石鏃	3.11	1.34	0.32	0.94	真岩	図版38	
図V-30-8	P59	126	V層	石鏃	3.13	1.49	0.57	2.07	真岩	図版38	アスファルト付着
図V-30-9	P52	8	V層	石鏃	3.56	1.90	0.53	3.07	真岩	図版38	
図V-30-10	P51	27	V層	石鏃	5.19	2.01	1.25	12.13	真岩	図版38	
図V-30-11	排土	138	排土	石鏃	2.41	1.07	0.46	1.30	真岩	図版38	
図V-30-12	Q58	12	V層	石鏃	3.10	1.82	0.65	4.25	真岩	図版38	
図V-30-13	059	33	III層	石鏃	4.77	2.72	0.91	10.68	真岩	図版38	
図V-30-14	060	22	III層	つまみ付ナイフ	6.38	2.19	0.82	11.42	真岩	図版38	
図V-30-15	059	25	V層	つまみ付ナイフ	7.24	2.81	0.88	18.73	真岩	図版38	
図V-30-16	060	21	III層	スクレイパー	5.74	2.32	1.20	17.13	真岩	図版39	へら状石器
図V-30-17	不明	19	III層	スクレイパー	3.37	2.59	0.85	7.25	真岩	図版39	へら状石器
図V-30-18	059	6	III層	スクレイパー	3.41	2.63	0.72	6.29	真岩	図版39	
図V-30-19	055	8	I層	スクレイパー	2.78	3.35	1.30	12.76	真岩	図版39	
図V-30-20	052	1	I層	スクレイパー	7.91	7.90	2.81	149.97	真岩	図版39	
図V-30-21	Q57	25	攪乱	スクレイパー	5.33	3.44	1.00	18.59	真岩	図版39	
図V-30-22	P59	59	V層	スクレイパー	6.46	4.11	0.77	20.93	真岩	図版39	光沢あり
図V-30-23	P59	68	V層	スクレイパー	6.37	3.68	0.95	25.50	真岩	図版39	光沢あり
図V-31-24	Q58	11	V層	スクレイパー	7.11	3.22	1.16	26.79	真岩	図版39	光沢あり
図V-31-25	Q59	34	V層	スクレイパー	7.77	3.00	0.91	19.90	真岩	図版39	
図V-31-26	P59	84	V層	スクレイパー	7.49	2.78	0.96	19.77	真岩	図版39	光沢あり
図V-31-27	P59	60	V層	スクレイパー	6.63	5.00	1.81	58.19	真岩	図版39	光沢あり
図V-31-28	P59	95	V層	スクレイパー	3.88	5.33	0.93	19.94	真岩	図版39	光沢あり
図V-31-29	Q59	19	III層	スクレイパー	4.42	8.20	1.08	25.18	真岩	図版39	光沢あり
図V-31-30	P59	105	III層	たたき石	5.65	3.52	2.62	75.79	真岩	図版39	
図V-31-31	P59	122	III層	たたき石	6.25	4.85	3.84	143.85	真岩	図版39	
図V-31-32	060	23	III層	たたき石	9.00	8.03	3.53	379.31	珪岩	図版39	
図V-31-33	Q59	1	III層	たたき石	13.66	10.34	5.96	1311.50	閃緑岩	図版39	
図V-31-34	Q59	3	III層	たたき石	6.44	6.50	2.66	126.07	泥岩	図版39	被熱
図V-31-35	P60	23	III層	たたき石	5.62	7.91	2.59	173.41	泥岩	図版39	
図V-31-36	P60	16	III層	たたき石	6.57	6.36	3.51	240.70	チャート	図版39	
図V-32-37	055	10	I層	たたき石	9.54	7.36	3.53	369.11	安山岩	図版39	
図V-32-38	排土	182	排土	たたき石	13.80	6.30	3.44	401.36	泥岩	図版39	
図V-32-39	排土	120	排土	即み石	7.91	6.14	4.07	153.84	泥岩	図版39	
図V-32-40	053	3	I層	すり石	5.36	9.83	2.41	187.59	砂岩	図版39	
図V-32-41	P59	27	V層	すり石	6.29	12.26	2.67	240.63	安山岩	図版39	扁平打製石器 被熱
図V-32-42	053	4	I層	すり石	8.30	15.08	3.06	472.18	安山岩	図版39	扁平打製石器
図V-32-43	排土	86	排土	石鏃	7.77	10.06	1.35	128.42	泥岩	図版39	
図V-32-44	排土	268	排土	礫器	7.53	7.82	3.26	168.00	泥岩	図版39	
図V-32-45	Q51	1	V層	石鏃	(22.80)	(21.90)	(8.10)	(5150.00)	安山岩	図版39	
図V-32-46	Q58	18	V層	土製品	10.00	5.10	1.23	65.80		図版39	土器片断り切り
図V-32-47	Q52	18	V層	土製品	3.20	1.70	0.50	2.92		図版39	
図V-32-48	Q52	34	V層	土製品	2.90	1.70	0.40	2.27		図版39	
図V-33-49	P56	13	I層	土製品	7.00	(6.60)	1.30	(44.97)	泥岩	図版39	三脚石器
図V-33-50	排土	34	排土	石製品	8.00	2.80	1.60	42.02	泥岩	図版39	線刻網 たたき石転用

(2) 竪穴住居跡

LH-1 (図VI-2~5/表IV-1~6/図版17・18・40・41)

確認・調査 P・Q69・70区のVI層上面を調査中に、黒褐色土の落ち込みを確認した。土層観察用のベルトを残し、黒褐色土を掘り下げたところ、しまりのある床面と地床炉、急角度に立ち上がる壁面を検出した。覆土には焼土や炭化材が多く見られ、焼失住居と考えられる。

覆土 9層に分層した。1~7層は屋根葺き土や掘り上げ土の流入と考えられる。炭化材が多く含まれる。8・9層は住居が焼失した際に屋根葺き土が焼けた焼土と考えられる。耕作による攪乱が南北方向に多く入っている。

形態 平面形は、北側がわずかに内側に張り出すそら豆形である。壁面は、明瞭で急角度に立ち上がる。床面は、平坦である。床面から地床炉2か所、小土坑1基を確認した。

付属遺構 HF-1・2: HF-1は床面の中央に位置している。地床炉跡と考えられる。よく焼けている。HF-2は床面の中央からやや東側に位置している。焼成は弱いが、地床炉跡と考えられる。

HSP-1: HSP-1は床面中央からやや北西側に位置する。深さ30cmほどで柱穴と考えられる。

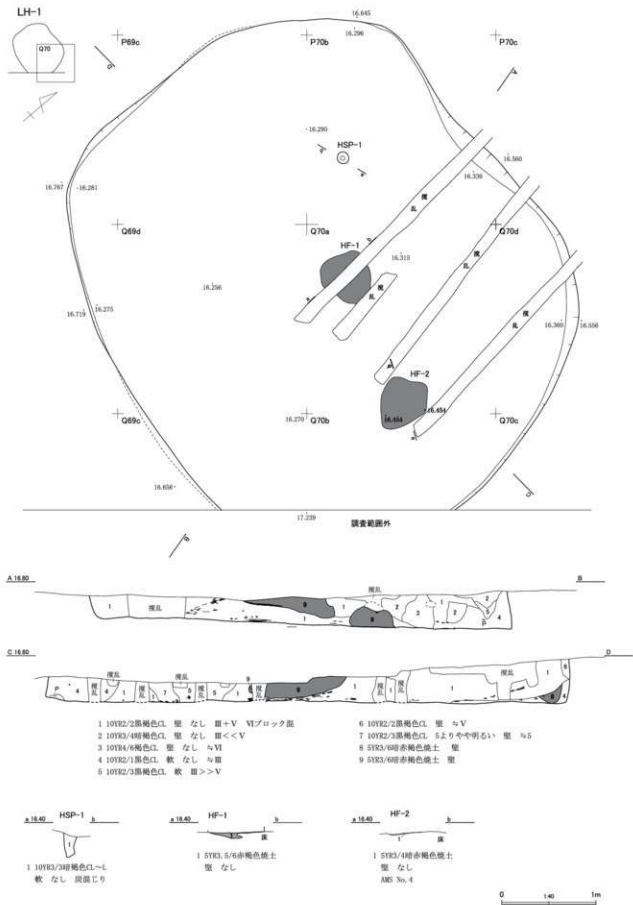
遺物出土状況 床面からIV群c類土器258点、石鏝1点、スクレイパー1点、剥片15点、礫・礫片16点などが出土している。遺物は土器963点、石器等419点が出土した。内訳は、I群b-3類土器2点、II群b類土器6点、III群a類土器30点、III群b類土器41点、IV群a類土器332点、IV群c類土器271点、V群b類土器280点、V群c類土器1点、焼成粘土塊13点、石鏝2点、石槍1点、石錐2点、つまみ付ナイフ5点、スクレイパー4点、両面調整石器1点、Rフレイク16点、Uフレイク13点、たたき石7点、凹み石1点、加工痕ある礫1点、剥片176点、礫・礫片177点である。

時期 HF-2から出土した炭化材と床面出土の炭化材を用いて放射性炭素年代測定を行い、それぞれ3,360±30yrBP、3,160±30yrBPの測定値を得た(VII章-1参照)。これらの結果と出土した遺物から縄文時代後期後葉と考えられる。(中山)

遺物 土器: 2・3・7・12・14・15は床面出土及び床面出土の資料と接合したもの。その他は覆土から出土したものである。

6はIII群a類土器。縦文施文の縄文を地文とした口縁部破片。波頂部には縄線が加えられた細い貼付文が、内外面および口唇に施されている。胴部には曲線的な沈線文が加えられている。7・8はIII群b類土器である。7は頸部破片。太い貼付帯がめぐり、胴部には横走気味の縄文が施されている。8は口縁部破片。複節の斜行縄文上に2本一組の沈線文が加えられている。9~12はIV群a類土器である。いずれも無文地に沈線文が施されたもの。9~11は口縁部破片。9の口縁部断面形は切り出し状で、口唇端部に棒状工具による刻み加えられている。10は口頸部に沈線文が加えられているもの。11は折り返し口縁で、口縁部の肥厚帯には2本の沈線文、胴部には曲線的な沈線文が加えられている。12は胴部破片。胴部文様帯下端を2本一組の沈線で区画し、無文地の文様帯内には「クランク」状の沈線文が加えられている。

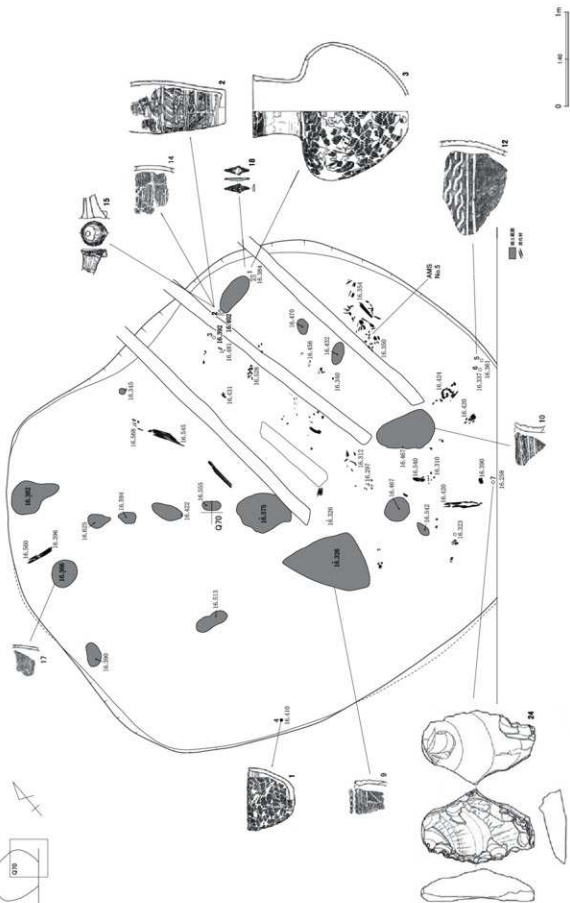
1~3・13~15はIV群c類土器。1は小型の土器。器面にはLR斜行縄文が施されている。2は口縁部を欠失する筒形土器。器面にLRの斜行縄文を施した後、横環する12~14本ほどの沈線が施され、部分的に横環する沈線間に斜位の沈線が加えられている。胎土に砂粒を多く含む。3は壺形土器。底部を欠失する。小さな底部から聞き気味に立ち上がり、肩部分は大きく張り出す。頸部はほぼ垂直に立ち上がる。口縁部は平縁で、断面形は肥厚する切り出し状である。13は口縁部の波頂部の破片。口縁部断面形は切り出し状で、内面が肥厚する。外面には磨消文が施されている。14は胴部破片。器形・胎土等は2に類似する。器面に横位の「木の葉」状の磨消文が施されている。15は注口土器の注口部



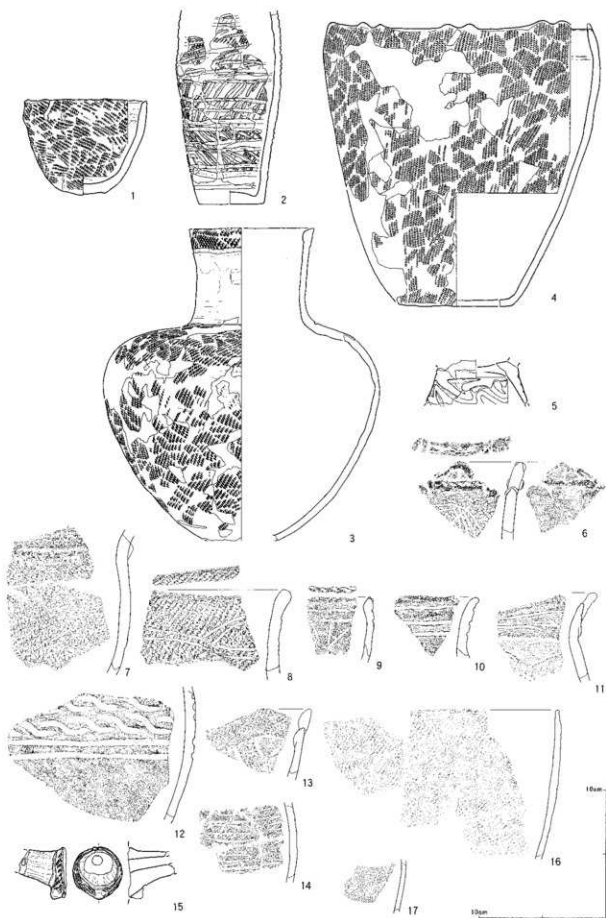
図VI-2 LH-1 (1)

遺物・炭土・炭化物抽出状況

LH-1



図VI-3 LH-1 (2)



図VI-4 LH-1 (3)

分。先端部は欠失する。根元部分に貼瘤と磨消文が施され、注口部分にはヘラ調整が加えられている。

4・5・16・17はV群b類土器。4は深鉢形土器。口縁は平縁である。口縁部は内湾し、断面形は切り出し状で、内面が肥厚する。口縁全周の一方の偏った位置に2個一対の小突起が3か所施されている。5は台付土器の台部分。透かし彫りの雲形文・三叉文が施されている。16は深鉢形土器。口縁は平縁で、胴部に斜行縄文が施されている。17は胴部破片。細かな縄文が施されている。(熊谷)

石器：18・24は床面出土、そのほかは覆土出土のものである。

18は石鏃。有茎平基、うら面に主刺断面を残している。19・20は石錐。19は両面調整で棒状の機能部を作出している。20は割片の周囲を調整して下端部に機能部を作出したもの。21～23はつまみ付ナイフ。21・22は縦長で切り出し状の刃部があるもの。うら面右側縁に連続した調整がある。21のうら面左側には使用痕とみられる光沢がある。23はヘラ状のもの。周縁を両面加工している。24はスクレイパー。縦長割片の側縁に刃部を作出したもの。25は凹み石。扁平礫の腹骨部・左右側面に凹みがある。くぼみの形状は不定形で円錐状である。(酒井)

LH-2 (図VI-6/表IV-1～6/図版18・19・41)

確認・調査 Q71区の調査範囲壁際でVI層上面を調査中に、黒褐色土の落ち込みを確認した。土層観察用のベルトを残し、黒褐色土と攪乱を掘り下げたところ、しまりのある床面と急角度に立ち上がる壁面を検出した。覆土には焼土や炭化材が多く見られ、焼失住居と考えられる。

覆土 7層に分層した。1層は自然堆積、2～7層は住居が焼失した際に入った屋根葺き土や掘り上げ土と考えられる。耕作による攪乱が南北方向に多く入っている。

形態 平面形は、大半が調査範囲外のため不明である。壁面は、明瞭で急角度に立ち上がる。床面は、平坦である。床面から地床炉や小土坑は確認していない。

遺物出土状況 遺物は土器24点、石器等24点が出土している。床面からはIV群a類土器5点、つまみ付ナイフ1点が出土している。覆土中からはIII群a類土器3点、IV群a類土器15点、IV群c類土器1点、スクレイパー1点、石製品1点、割片19点、礫・礫片2点が出土している。

時期 床面から出土した炭化材を用いて放射性炭素年代測定を行い、3,180±30yrBPという測定値を得た(Ⅶ章-1参照)。床面から出土した土器はIV群a類であるが、放射性炭素年代測定の結果と焼失家屋が中期後半もしくは後期後葉であることを踏まえて、縄文時代後期後葉と推定する。(中山)

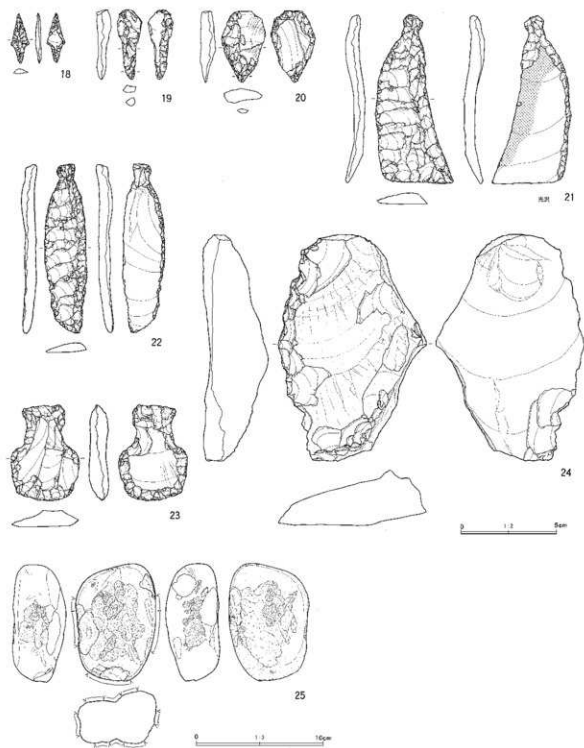
遺物土器：1・3・4は床面、2は覆土下層出土である。1～4はIV群a類土器の胴部破片。1は無文地に曲線状の太い沈線文が施されている。2は太い沈線に区画された磨消文が施されている。3は無文で内外にササラ状工具による擦痕が認められる。4は「く」字状の沈線文が施されたもの。3を除き、胎土には多量の砂粒を含む。(熊谷)

石器：5は床面、6・7は覆土から出土である。5はつまみ付ナイフ。縦長割片につまみ部を作出し、周縁に調整を施している。6はスクレイパー。ヘラ状のもの。下端部に両面調整で刃部を作出している。7は軽石製石製模造品。すり石を模していると思われ、底面は平坦である。(酒井)

LH-3 (図VI-7・8/表IV-1～6/図版19・30・41)

確認・調査 Q64・65区の調査範囲壁際でVI層上面を調査中に、黒褐色土の落ち込みを確認した。土層観察用のベルトを残し、黒褐色土と攪乱を掘り下げたところ、しまりのある床面と急角度に立ち上がる壁面を検出した。LP-2に切られており、LP-13・15を切っている。

覆土 5層に分層した。1～3層は自然堆積、4・5層は住居廃絶後に入った屋根葺き土や掘り上げ土と考えられる。耕作による攪乱が南北方向に多く入っている。



図VI-5 LH-1 (4)

形態 平面形は大半が調査範囲外のため不明である。壁面は明瞭で急角度に立ち上がる。床面は平坦である。床面から地床炉は確認していない。小土坑は床面に5基、屋外に3基確認している。

付属遺構 HSP-1~8: HSP-1~5は床面、HSP-6~8は屋外に位置する。直径20~30cm、深さ10~40cmで柱穴と考えられる。

遺物出土状況 遺物は土器41点、石器等53点が出土している。床面からIV群a類土器1点、礫2点が出土した。そのほか、覆土からIII群a類土器2点、III群b類土器2点、IV群a類土器30点、IV群c類土

器2点、V群b類土器4点、焼成粘土塊1点、Rフレイク1点、Uフレイク2点、スクレイパー5点、すり石（扁平打製石器）1点、剥片25点、礫・礫片16点が出土している。

時期 出土した遺物から縄文時代後期前葉と考えられる。（酒井）

遺物 土器：6は床面、4・5は覆土5層、1～3は覆土から出土した。1・2はⅢ群b類土器の胴部破片。いずれも横走る縄文が施される。1は地文上に沈線と刺突文が加えられている。3～6はIV群a類土器。3・4は斜行縄文を地文とし、曲線的な沈線文が施されている。5は斜行縄文が施されたもの。6は無文のもの。いずれも胎土には砂粒を多量に含み、器面調整は粗雑である。（熊谷）

石器：7～10は覆土5層から出土した。7～10はスクレイパー。縦長剥片の側縁に刃部を作出したもの。10はヘラ状のもの。背面左側縁と腹面右側縁に使用痕とみられる光沢が確認できる。（酒井）

LH-4（図VI-9～11／表IV-1～6／図版20・41・42）

確認・調査 Q65・66区の調査範囲壁際でVI層上面を調査中に、黒褐色土とにぶい黄褐色土の落ち込みを確認した。土層観察用のベルトを残し、覆土と攪乱を掘り下げたところ、しまりのある床面とベンチ構造、急角度に立ち上がる壁面を検出した。耕作による南北方向の筋状の攪乱によって、床面までかなりの削平を受けている。

覆土 3層に分層した。1～3層は自然堆積、3層は住居廃絶後に入った屋根葺き土や掘り上げ土の流れ込みと考えられる。耕作による攪乱が南北方向に多く入っている。2層と3層の層界にはLF-7が形成されている。

形態 平面形は、楕円形で長軸方向は北北東である。ベンチ構造があり、床面壁際には溝が巡る。壁面は、明瞭で急角度に立ち上がる。床面は、平坦である。床面から地床炉は確認していない。小土坑は床面に5基、ベンチ上に11基、屋外に11基を確認している。

付属遺構 HSP-1～27：HSP-4・15・18・25・26は床面、HSP-2・3・5・6・9・10・16・17・21・23・24はベンチ上、HSP-1・7・8・11～14・19・20・22・27は屋外に位置する。HSP-4・15・25・26は長軸方向に直線状に並ぶ。HSP-26はⅢ群b-1類土器が埋設されている。HSP-26は掘方のある深さ94cmのもので、床面中央からやや南側に位置する。焼土は確認できないが当該期にみられる埋裏炉と考えられる。上面は攪乱により削平された可能性がある。HSP-2・4・10・15・21・24が住居内の主柱穴、HSP-1・7・8・11・13・19が屋外の主柱穴と推定される。HSPの規模は、直径20～30cm、深さ10～40cmですべて柱穴と考えられる。

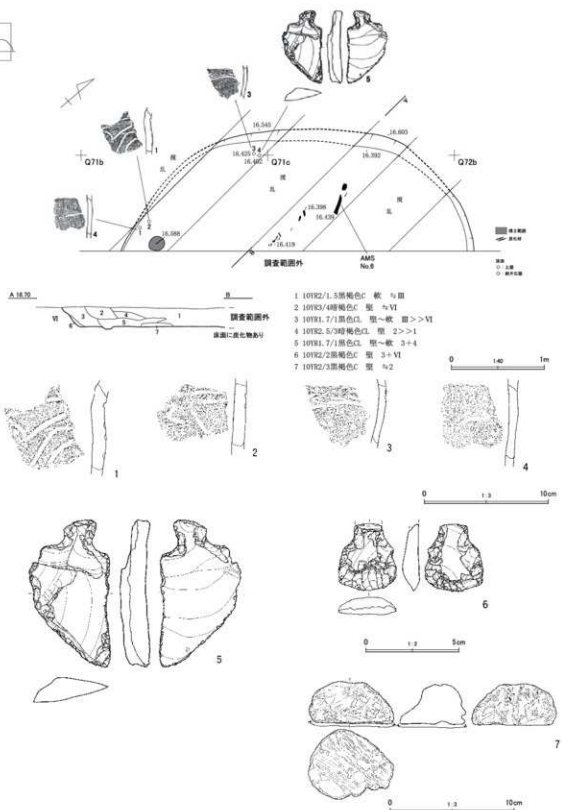
溝：床面のベンチ壁際に南側を除いて巡っている。幅20～30cm、床面からの深さ1～5cmである。

遺物出土状況 遺物は土器425点、石器等252点が出土している。覆土からI群b-4類土器1点、II群b類土器5点、Ⅲ群a類土器7点、Ⅲ群b類土器193点、IV群a類土器215点、IV群b類土器1点、IV群c類土器1点、V群b類土器2点、焼成粘土塊4点、石鏃3点、石錐1点、つまみ付ナイフ1点、スクレイパー2点、Rフレイク6点、Uフレイク8点、たたき石1点、すり石2点、石錐1点、剥片123点、礫・礫片100点が出土している。覆土1・2層からはIV群a類土器、覆土3層からはⅢ群b類土器が多く出土している。また、HSP-1からⅢ群b類土器・IV群a類土器、HSP-14からIV群a類土器、HSP-16からすり石が出土している。

時期 埋裏炉と考えられるHSP-26の覆土から出土した炭化材を用いて放射性炭素年代測定を行い、4,150±30yrBPという測定値を得た（Ⅶ章-1参照）。HSP-26からはⅢ群b-1類土器が出土しており、遺物と年代測定結果から判断して縄文時代中期後半と考えられる。（酒井）

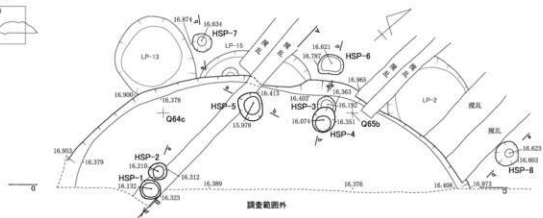
遺物 土器：1～8はⅢ群b類土器。1は昭和59年度調査のCH-6出土資料（北埋調報43 図Ⅷ-27-4）と同一個体と思われる。口頸部は外反する。口縁部には不規則な斜行縄文が施された後、

LH-2

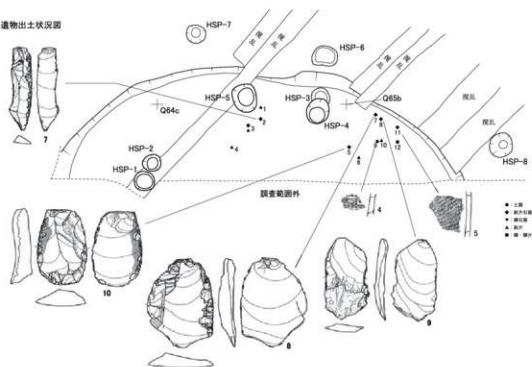


図VI-6 LH-2

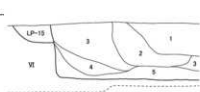
LH-3



遺物出土状況図

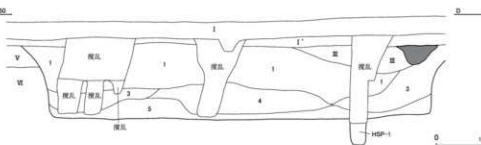


A 17.00

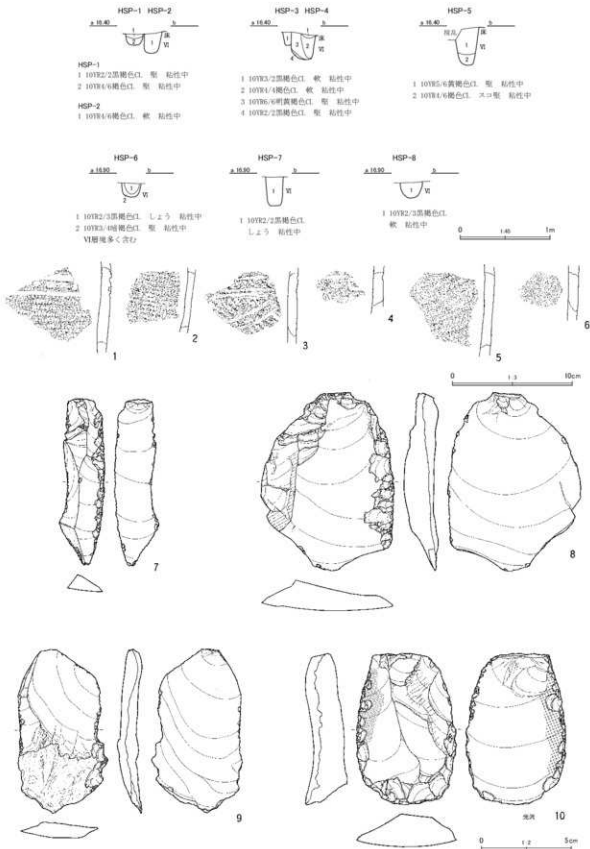


- 1 10YR2/2黒褐色CL 型 粘性中 VI層粒少量含む
- 2 10YR3/2黒褐色CL 型 粘性中 VI層粒多く含む
- 3 10YR3/4暗褐色CL 型 粘性中 VI層粒少量含む
- 4 10YR4/6褐色CL 型 粘性中
- 5 10YR2/3黒褐色CL 型 粘性中 VI層粒多く含む

G 17.50



図VI-7 LH-3 (1)



図VI-8 LH-3 (2)

口唇直下に2条の縄線文が加えられている。口頸部は刺突が加えられた貼付帯で頸部文様帯を区画し、文様帯内には「ドーナツ」状の貼付文が加えられている。2はHSP-26から出土したもの。口縁部分(2b)と胴部(2a)は接合しなかった。底部から開き気味に立ち上がる器形で、上面観は歪な楕円形である。口縁部の断面形は丸味をもち、端部にはヘラ調整が加えられている。器面には無節の単軸縹糸回転文が縦位に施されている。胎土には多量の砂粒を含む。3は底部。器面に横走する縄文が施されている。胎土は細かく、少量の海綿骨針を含む。4は底部破片。外面には擦痕が認められ、胎土には多量の砂礫粒を含む。5～7は口縁部破片。5は口縁部断面形が角形で、口唇に縄文が施されている。外面には縦位の縄文を施した後、横環する沈線と刺突列が加えられている。6・7は斜行縄文が施されたもの。胎土には多量の砂粒を含む。8は付加条の原体による縄文が施されたもの。頸部下端には3本の横環する縄線文が加えられている。胎土には多量の砂粒を含む。9～13はIV群a類土器。9～11は縄文上に太い沈線文が加えられたもの。12・13は無文で、ナデ調整が加えられているもの。

(熊谷)

石器：14は石鏝。有茶で平基。アスファルトの付着がみられる。15は石錐。全面を調整して棒状にしているもの。16・17はすり石。16は扁平な棒状礫の全面に非常に細かく擦り痕がみられ、光沢がある。17は扁平な楕円礫を半円状に整形し、長軸両端部を打ち欠いている。

(酒井)

LH-5 (図VI-12/表IV-1～6/図版21・40・42)

確認・調査 Q68区の調査範囲壁際でVI層上面を調査中に、黒褐色土の落ち込みを確認した。土層観察用のベルトを残し、覆土と攪乱を掘り下げたところ、しまりのある床面とベンチ構造、急角度に立ち上がる壁面を検出した。耕作による南北方向の筋状の攪乱によって、削平を受けている。

覆土 5層に分層した。1～3層は自然堆積、住居廃絶後に掘り上げ土が流れ込んだと考えられる。耕作による攪乱が南北方向に多く入っている。

形態 平面形は、大半が調査範囲外のため不明である。壁面は、明瞭で急角度に立ち上がる。床面は平坦であり、ベンチ構造が確認できる。地床炉や小土坑は確認していない。

遺物出土状況 覆土から土器54点、石器等41点が出土した。内訳はIII群a類土器1点、III群b類土器41点、IV群a類土器11点、V群b類土器1点、石鏝1点、スクレイパー3点、両面調整石器1点、Rフレイク1点、Uフレイク1点、たたき石2点、石皿1点、扁平打製石器1点、剥片10点、礫・礫片20点である。遺物の多くは覆土3層から出土している。

時期 周囲の状況と出土した遺物から縄文時代中期後半と推定される。

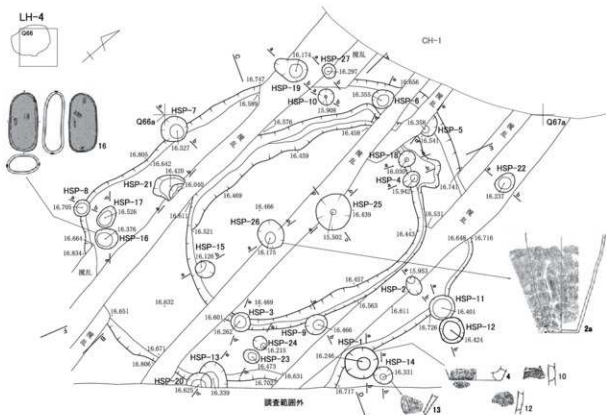
(酒井)

遺物 土器：1を除き覆土3層出土である。1・4はIV群a類土器。1は覆土2層出土の小型土器である。底部を欠失する。器形は胴部上半で大きくくびれる。口縁は平縁で、口縁部は貼り付けにより肥厚する。胴部には櫛歯状工具により縦位の擦痕が加えられている。4は口縁部破片。口縁部の断面形は角形で、胴部には横位の擦痕が加えられている。2・3はIII群b類土器。2は平底の底部。胴部に横走気味の縄文が施されている。3は波頂部を持つ口縁部破片。胴部には不規則な斜行縄文が施されている。

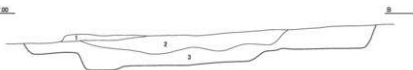
(熊谷)

石器：5はスクレイパー。縦長剥片の側縁に直線的な刃部を作出したもの。6はたたき石。打ち欠いた楕円礫の下端部に敲打痕がある。

(酒井)



A 17.00



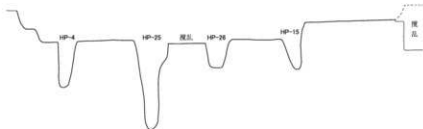
G 17.00



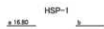
D

- 1 101R3/4暗褐色CL 堅 粘性中
 - 2 101R2/2黒褐色CL 堅 粘性中
同化材・VI層粘土含む
 - 3 101R4/3ICI・黄褐色CL 堅 粘性中
VI層粒多く含む
- ※2層・3層の層界でU-7が形成される。

E 17.00



F



- 1 101R3/3暗褐色CL 堅 粘性中
VI層粒多く含む



- 1 101R2/2黒褐色CL 堅 粘性中
VI層粒を微量含む



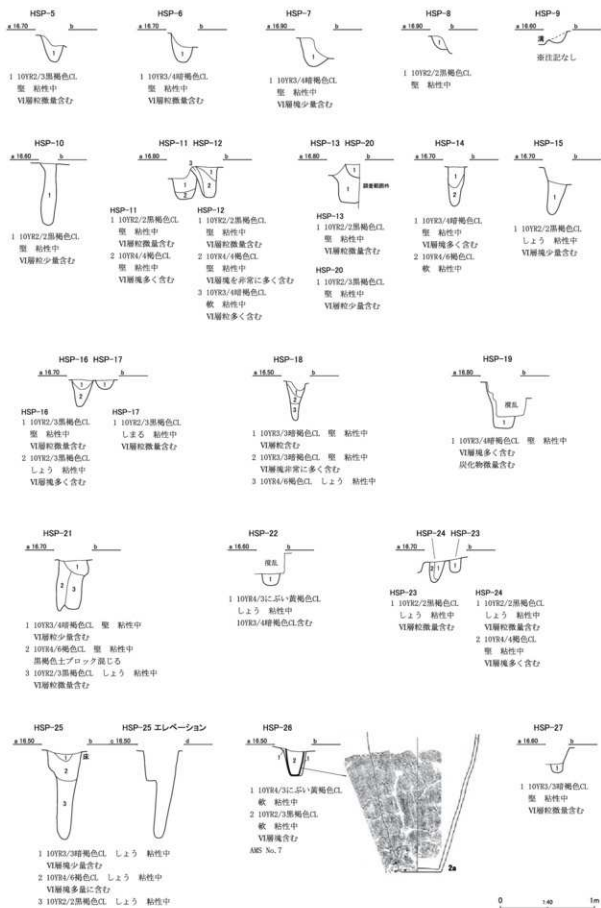
- 1 101R2/2黒褐色CL 堅 粘性中
VI層粒微量含む
- 2 101R2/2黒褐色CL 堅 粘性中
VI層粒多く含む



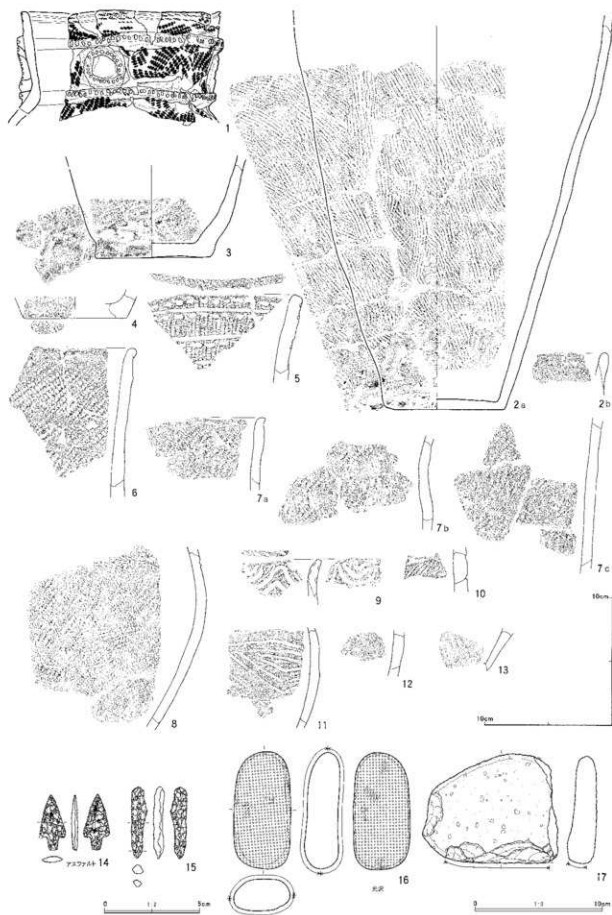
- 1 101R3/4暗褐色CL 堅 粘性中
- 2 101R4/6褐色CL 堅 粘性中
- 3 101R2/2黒褐色CL 堅 粘性中
VI層粒を少量含む

0 1.00 1m

図VI-9 LH-4 (1)

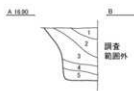
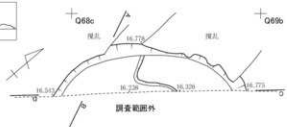


図VI-10 LH-4 (2)



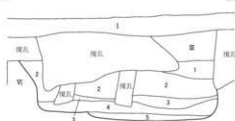
図VI-11 LH-4 (3)

LH-5

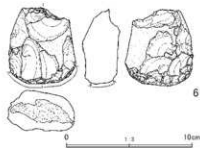
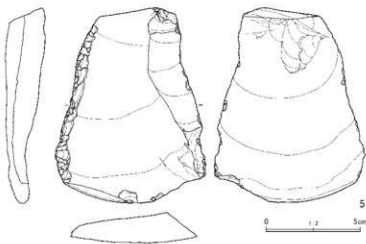
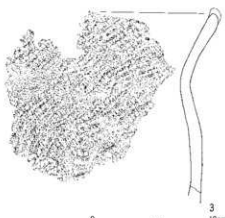
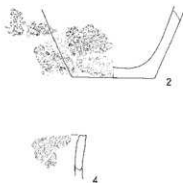
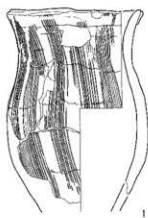


G 1/20

B



- 1 10YR2/3黒褐色G、埋 粘性中
VI層粘土、炭化材微量含む
- 2 10YR2/2黒褐色G、埋 粘性中
VI層粘土、炭化材微量含む
- 3 10YR3/3暗褐色G、埋 粘性中
VI層粘土多く含む、炭化材微量含む
- 4 10YR2/2黒褐色G、埋 粘性中
炭化材微量含む
- 5 10YR4/6暗褐色G、埋 粘性中



图VI-12 LH-5

CH-1 (図VI-13~31/表IV-1~6/図版21~24・42~51)

確認・調査 O・P66・67区を表土除去後の清掃中に、黒褐色土の落ち込みを確認した。昭和59年度調査で確認したCH-1の続きである可能性を考慮し、土層観察用のベルトを残して黒褐色土を掘り下げた。覆土中から焼土(LF-6)を検出し、晩期中葉の遺物が多く出土した。LF-6の調査と遺物を取上げたのちさらに掘り下げたところ、覆土下位から多量の炭化材と焼土塊を確認した。これらを残しながらさらに掘り進めると、しまりのある床面と地床炉、急角度に立ち上がる壁面を検出した。覆土から検出した焼土・炭化材および床面の焼土・炭化材の位置・範囲を記録し図化している(図VI-16)。焼失住居と考えられる。CH-1が埋没する過程で凹みになっていた場所に晩期中葉の焼土が作られ遺物が廃棄されたと考えられる。

覆土 11層に分層した。1~8層は流れ込み等による自然堆積である。1層は10世紀ころ降灰の白頭山-苦小牧火山灰(B-Tm)である。3層には渡島大島b降下火山灰(Os-b)が混じる。4~6層には縄文晩期中葉の遺物が多数含まれ、5層と6層の層界にはLF-6が形成されている。7・8層からは後期前葉の遺物が多く出土している。9~11層は焼土塊や炭化材が多量に確認できることから、住居の焼失時に焼け落ちた屋根葺き土や掘り上げ土の流入と考えられる。覆土の遺物は、分層前に上・中・下層に分けて取上げを行っている。おおよそ覆土1~3層が上層、4~8層が中層、9~11層が下層にあたる。

形態 平面形は、東側がわずかに内側に張り出すぞら豆形である。壁面は、明瞭で急角度に立ち上がる。床面は、平坦である。床面から地床炉1か所、柱穴2基、溝2か所、壁柱穴19基を検出した。

付属遺構 HF-1: 床面の中央からやや北側に位置している。地床炉跡と考えられる。非常によく焼けている。

HSP-1・2: HSP-1は床面中央からやや西側、HSP-2は南西に位置する。形状は円形である。HSP-1・2は深さ30cmほどで柱穴と考えられる。

溝: 内側に張り出した部分の両側で、壁面に直交する位置に2か所確認した。長さ90~100cm、幅30~40cm、床面からの深さ25~30cmで不整長楕円形の形状をしている。出入口施設と考えられる。

壁柱穴: 床面東側半分の壁際に径3~5cm、深さ10cmほどの先端の尖った棒を打ち込んだとみられる穴が19か所並んでいる。おおよそ25~50cm間隔で確認できる。

遺物出土状況 床面・床面直上からはIV群a類土器6点、IV群c類土器297点、スクレイパー2点、Rフレイク1点、Uフレイク3点、たたき石3点、砥石1点、台石1点、石皿1点、剥片9点、礫・礫片6点が出土している。床面南側壁際に台石(34)・石皿(35)、東側に後期後葉の大型深鉢3個体(1・2・4)が倒立して出土した。1の下からは浅黄色粘土の塊が出土している。北側からは後期後葉の小型鉢(3)・台付鉢の台部(10)・注口土器(6)が出土している。昭和59年度調査ではこの近くから完形の小型鉢(北埋調報43(図VIII-5-1))が出土している。

覆土3~6層と覆土上位・下位からは縄文時代晩期中葉の遺物、覆土7・8層と覆土下位からは後期前葉の遺物が多く出土している。土器は6,218点、石器等は3,524点が出土した。内訳は、I群b-3類土器2点、II群b類土器20点、III群a類土器68点、III群b類土器16点、IV群a類土器937点、IV群b類土器20点、IV群c類土器417点、V群b類土器4,738点、土偶1点、土製品2点、有孔土製品2点、焼成粘土塊51点、石鏝10点、石錐6点、石槍1点、つまみ付ナイフ6点、スクレイパー60点、両面調整石器2点、Rフレイク72点、Uフレイク140点、石核3点、石斧5点、たたき石55点、凹み石5点、台石6点、すり石9点、石錘1点、石皿4点、砥石20点、礫器1点、加工痕のある礫5点、剥片1,755点、礫・礫片1,311点である。

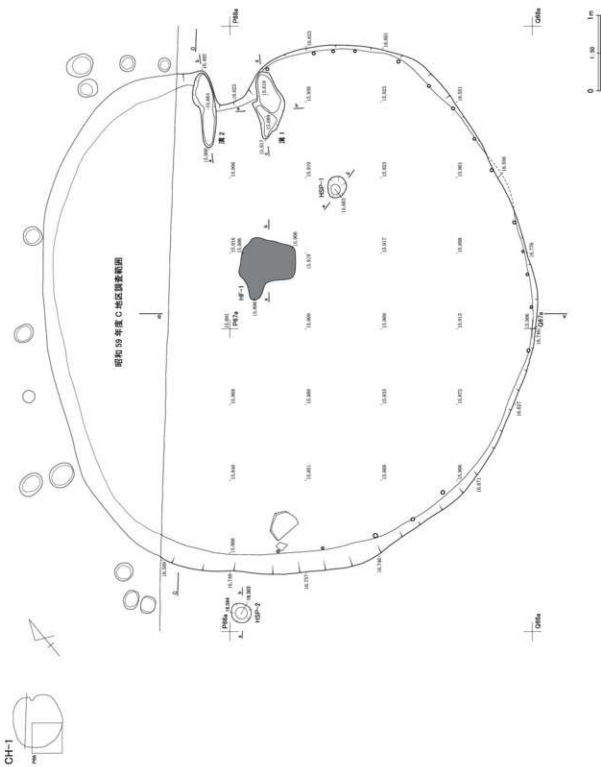
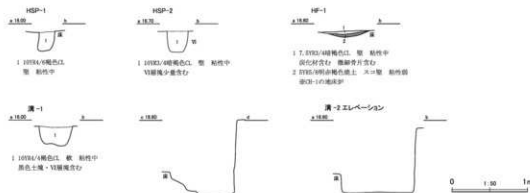
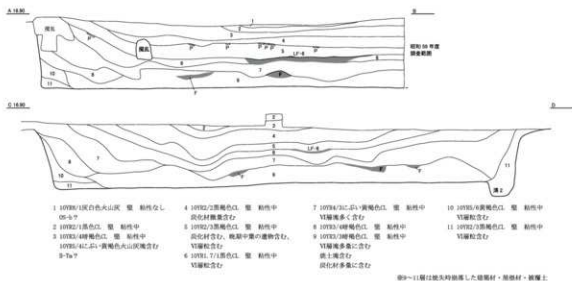


图 VI-13 CH-1 (1)

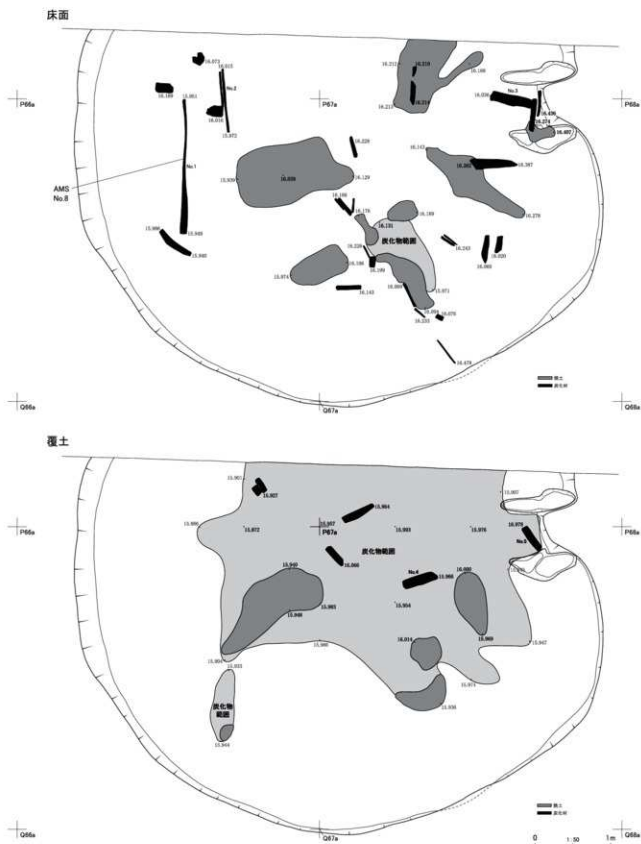


図VI-15 CH-1 (3)

時期 床面直上から出土した炭化材を用いて放射性炭素年代測定を行い、 $3,120 \pm 30 \text{yrBP}$ という測定値を得た (VII章-1 参照)。この結果と床面出土の遺物から縄文時代後期後葉と考えられる。

遺物 土器：1～28はII群～IV群土器。V群b類土器については別記する (図VI-26～31)。11～22・27・28はIV群a類土器。12・21・22は床面直上出土である。12は台付土器の台部分。外面には不規則な斜行縄文上に曲線的な沈線文と刺突文が施されている。21・22は無文の土器である。11・13～20は覆土出土である。13は無文地に細い沈線文が施されたもの。13aは口縁部破片、13bは胴部破片。14～20は太い沈線文が施されたもの。14～16は無文地に太い沈線文が施されたもの。口縁部は無文で、胴部には14が曲線的な文様、16が「クランク」状の沈線文が施されている。17・18は、胴部に縄文地に沈線文が施され、部分的に磨り消しを加えられているもの。19・20は胴部破片。19は「クランク状」の沈線文が施されたもの。20は曲線的な沈線文が施されたもの。11・23・24は断面が角形の口唇端部に縄文が施され、口頭部に無文帯が作出されたもの。11は小型の土器。器面に斜行縄文を施した後、口縁部に波状文、胴部に磨消文を加えられている。23・24は口縁部に波状の沈線文が施されている。27・28は同一個体である。胴部上半に磨消文が施され、地面上に円形刺突文が加えられている。器面調整は丁寧である。

焼土・炭化材検出状況図



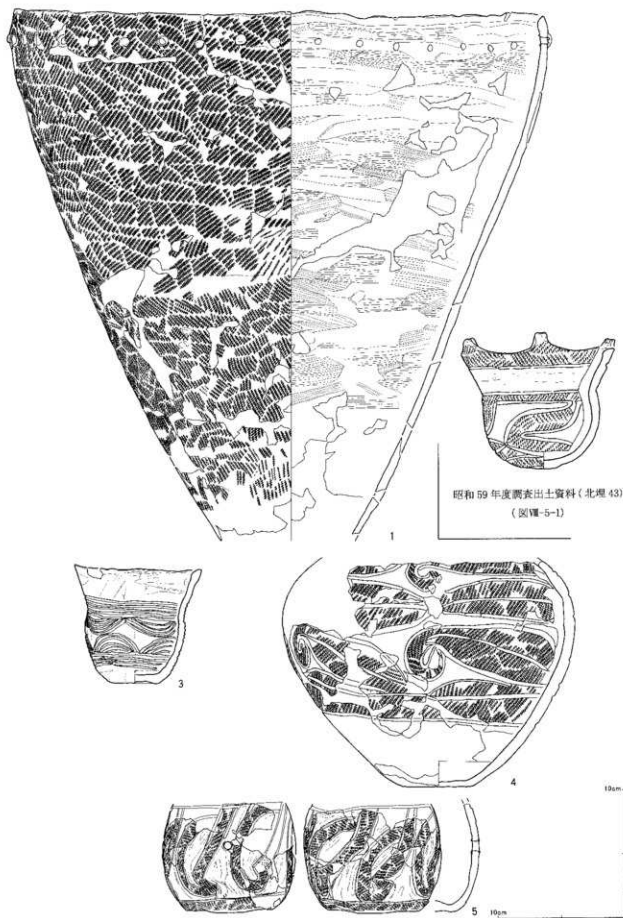
図VI-16 CH-1 (4)

25・26はIV群b類土器の胴部破片。覆土中から出土した。胴部上半に縄文を施した後、横位の沈線を加えたもの。部分的に磨り消しを加えられている。

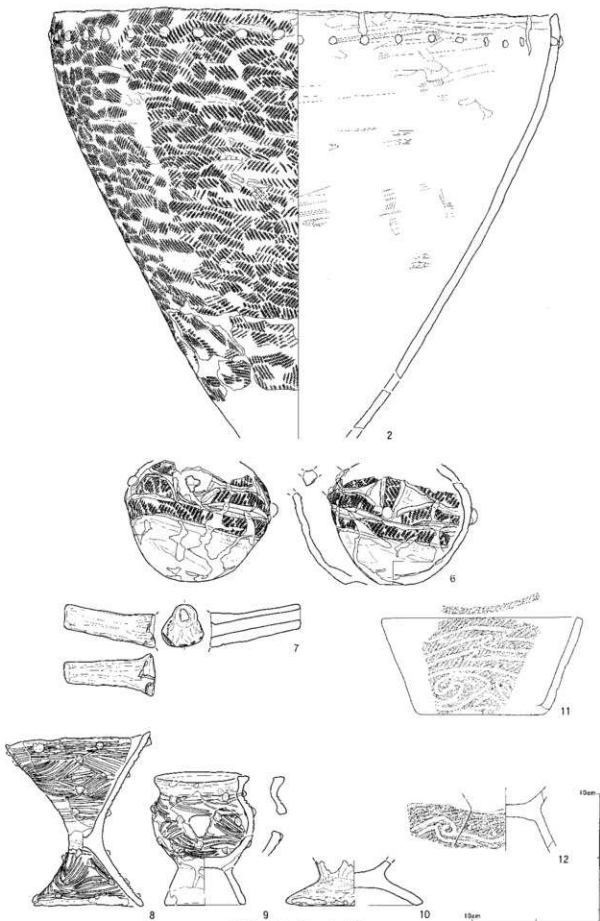
1～10はIV群c類土器。1～6・10は床面出土である。1・2は大型の土器。いずれも底部を欠失する。口縁部は平縁で、底部から大きく開き気味に立ち上がる器形である。口縁部の断面形は肥厚する切り出し状である。口縁部に内面からの刺突文が加えられ、外面に突瘤が作出されている。1は胴部上半にLRの斜行縄文、下半にRLの斜行縄文が施されている。2は胴部に不規則な羽状縄文が施されている。いずれも胎土には砂粒を多く含む。3は小型の土器。口縁部は平縁で、断面形は肥厚する切り出し状である。器形は揚げ底気味の底部から丸味をもって立ち上がり、胴部上半で大きく開く。無文地の頭部と胴部下半に4～5本一組の沈線で上下を区画し、胴部文様帯を作出している。文様帯内には上下2段の4本一組の連弧文が加えられている。4・5は広口の壺形土器と思われる。いずれも口縁部を欠失する。4は小さな底部から大きく開き気味に立ち上がり、胴部上半で丸味をもって内湾する器形である。胴部には沈線で区画された「木葉」状と横位の「J」字の磨消文が施されている。胴部付近は無文である。「木葉」状の磨消文の連結部分に剥離が認められ、瘤状の貼り付けがあった可能性がある。5は胴部に穿孔が施された穿孔土器。器面全体に磨消文が施されている。6・7は注口土器。6は口縁部、注口部を欠失する。胴部上半の文様帯に弧線状の磨消文が施され、弧線文の連結部分に瘤状の貼り付けが加えられている。7は注口部分。無文で根元部分に弧線状の沈線が認められる。8～10は台付土器。8・9は覆土出土である。8は「ツツミ」形の器形である。9は丸味をもつ胴部に、外反する口縁部の器形である。これらは器形の違いが認められるものの、同様の文様構成で、無文地に弧線状の沈線文と小さな貼り瘤が加えられている。10は床面出土の無文の台部分である。(熊谷)

石器：29～35は床面出土の石器。29・30はスクレイパー。縦長剥片の側縁部に刃部を設けたもの。31～33はたたき石。31は扁平な棒状礫の平坦面に使用痕のあるもの。32は扁平な円礫の平坦面に使用痕のあるもの。平坦面にはすり痕もみられ、すり石としても利用していたと考えられる。33は扁平な円礫の周縁に敲打痕のあるもの。34は台石片。平坦面に敲打痕がある。35は石皿。扁平な角礫の平坦面に使用痕がみられる。おもて面に被熱痕がある。

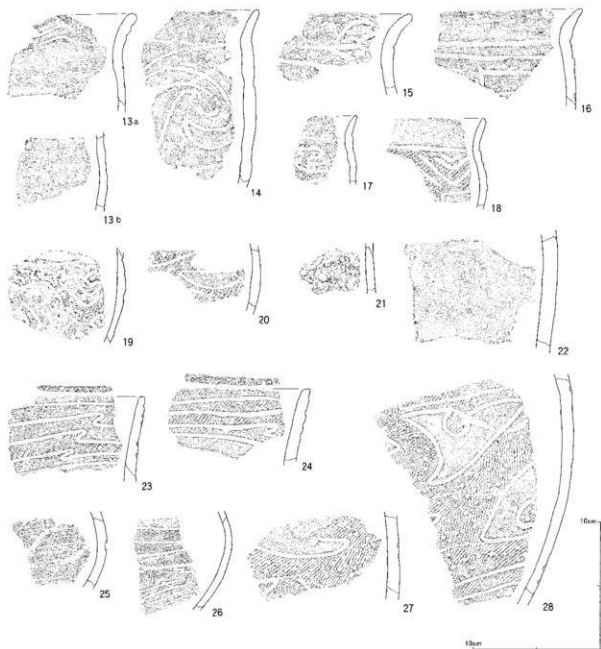
36～98は覆土出土の石器・土製品。36～41は石畿。36～40は有茎畿。36・37は凸基。38・39は凹基。40は尖基の未成品。41は無茎畿凹基。38・41はアスファルトが付着する。42～47は石錐。42は有茎畿の先端部を機能部に加工した転用品。アスファルトが付着する。43・44は縦長剥片の端部に機能部を作出したもの。45は縦長剥片の下半部をV字状に加工している。下端部と左端部に機能部がある。46・47は剥片の一部を加工して棒状の機能部を作出したもの。48・49はつまみ付ナイフ。剥片につまみ部を作出し、周縁を片面加工で整形している。50～68はスクレイパー。50～53はへら状石器。50～52は両面加工、53は片面加工である。52は使用痕とみられる光沢がある。54は縦長剥片の側縁を直線状に加工し、下端部を両面調整でV字状にしたもの。55～57は小型剥片の端部に刃部を設けたもの。56は刃部が鋸歯状になっている。58～68は剥片の周縁を加工して刃部を作出したもの。59・63・66・67には使用痕とみられる光沢がある。69は両面調整石器。縦長の剥片に粗い加工が施されている。被熱痕がみられる。70・71は石斧。70は楕形で両刃円刃。全面を敲打によって整形したのち研磨している。被熱痕がみられる。71は短冊形で両刃円刃。全面を敲打によって整形したのち研磨している。72～84はたたき石。72～74は扁平な楕円礫の端部を使用したもの。75は扁平な隅丸三角形礫の頂部を使用したもの。76～79は扁平礫の端部や周縁の一部を使用したもの。76は被熱痕がみられる。80は円礫の周縁を使用したもの。81は円礫を半割し、その断面周縁に敲打痕がある。82～84は扁平礫の平坦面と周縁部の一部に使用痕のあるもの。85～88は凹み石。くぼみの形状は、85が不定形で円錐状のもの、



図VI-17 CH-1 (5)

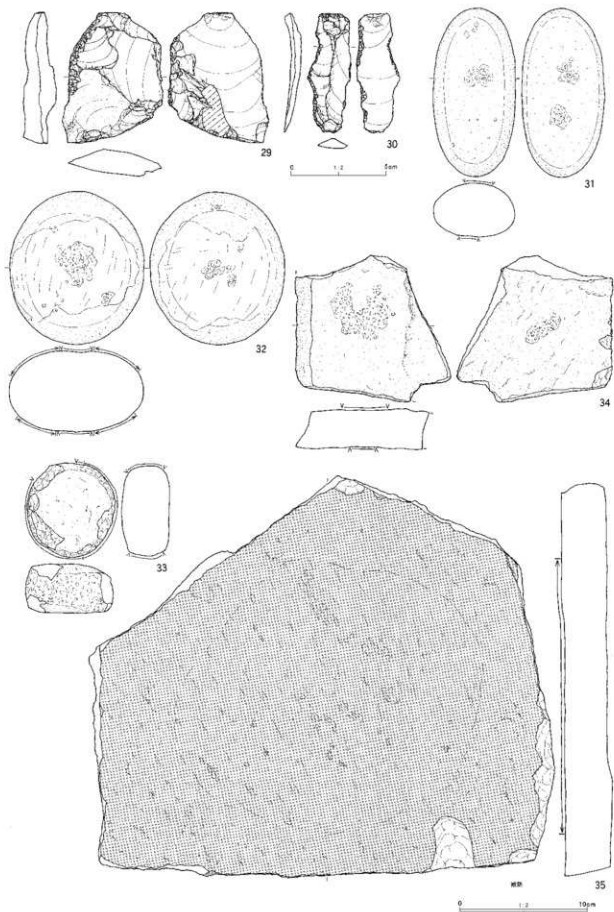


图VI-18 CH-1 (6)

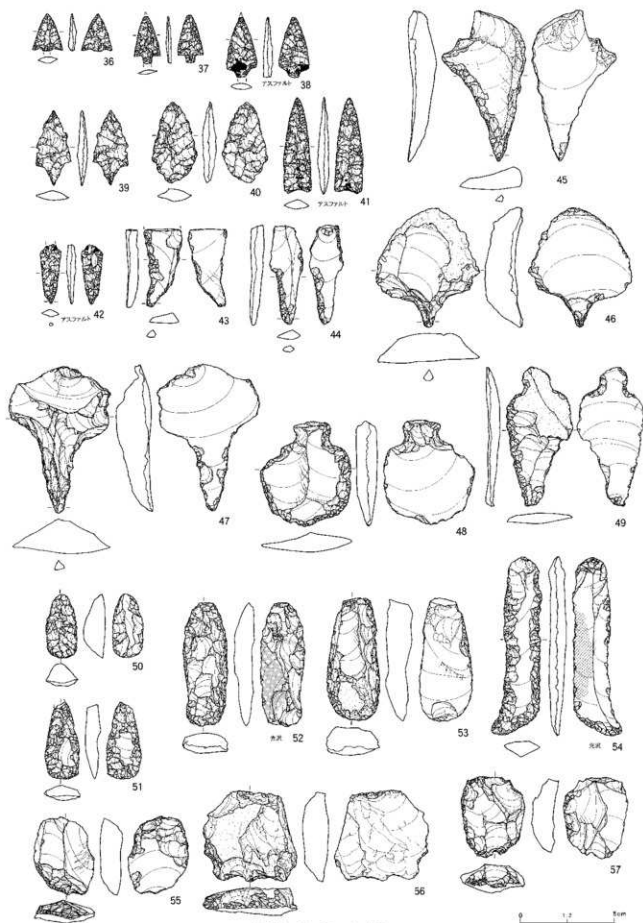


図VI-19 CH-1 (7)

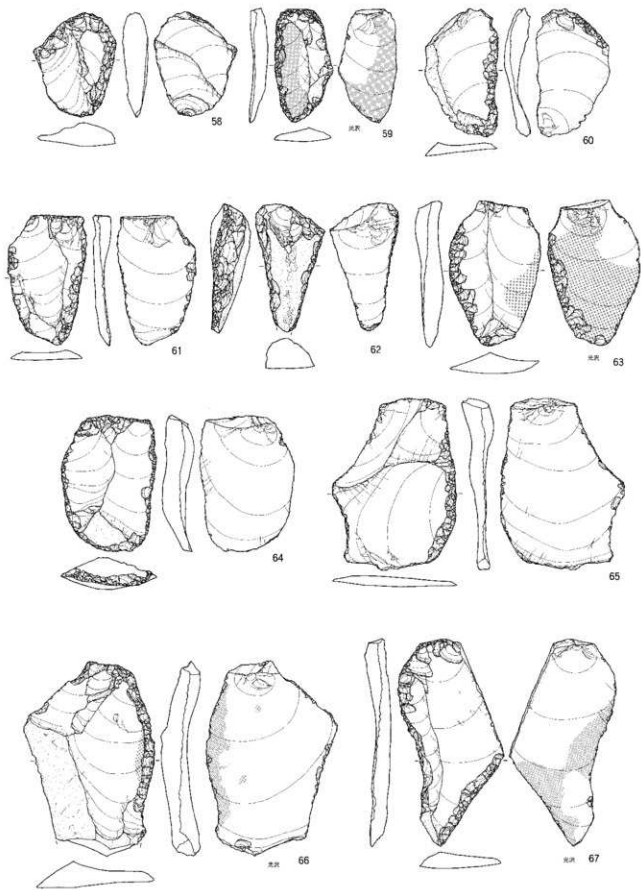
86が不定形で円錐状と浅い皿状のもの、87が不定形で浅い皿状のもの、88が円形で半円状のもの。87は上部に被熱痕がある。89～91はすり石。89・90は扁平打製石器と称されるもの。89は打ち欠きによって半円状に整形され、弦の部分にすり面がみられる。90は台形状に整形され、下底に狭いすり面がみられる。91は北海道式石冠と称されるもの。92は礫器。扁平な楕円礫を打ち欠いて両刃の刃部としたと思われる。93・94は砥石。幅の広い平坦なすり面があるもの。95は台石。扁平な楕円礫の平坦面に敲打痕のあるもの。被熱痕がみられる。96～98は土製品。96は板状土偶の胸部。頭部・四肢は欠損している。胸部と腰部には沈線で施文されている。97は板状土偶の右腕と考えられ、先端を欠損する。98は有孔土製品。(酒井)



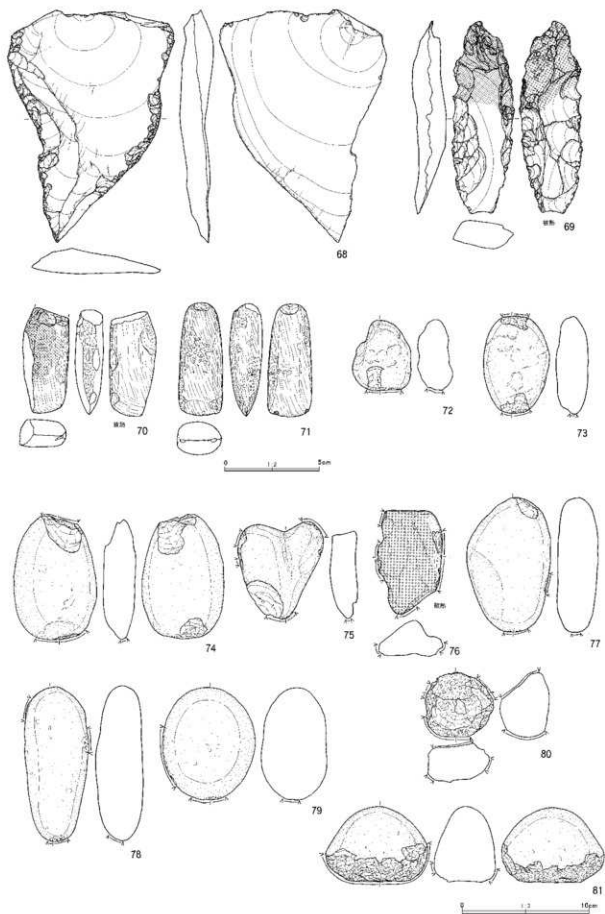
图VI-20 CH-1 (8)



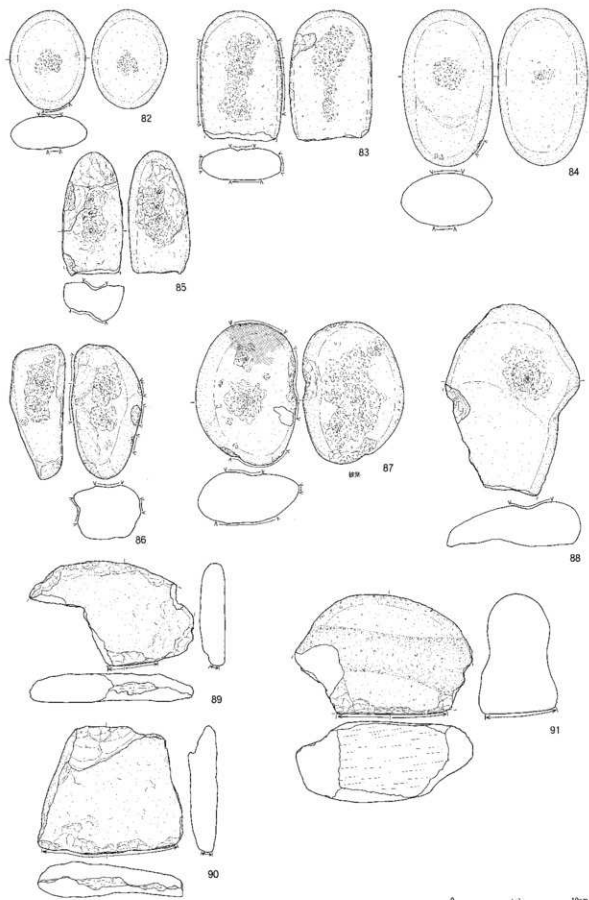
図VI-21 CH-1 (9)



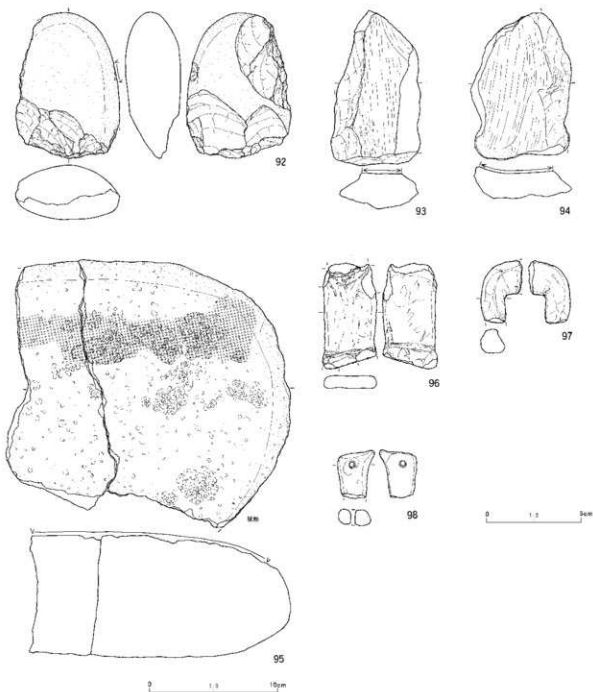
图VI-22 CH-1 (10)



図VI-23 CH-1 (11)



图VI-24 CH-1 (12)



図VI-25 CH-1 (13)

V群b類土器 (図VI-26~31-1~57/表VI-5/図版47~51)

概要 CH-1の覆土3~6層から多量のV群b類土器が出土した。CH-1が廃絶したのち埋没する過程で凹み状の窪地となっていたところに、遺物を多量に廃棄したと考えられる。V群b類土器が多量に出土していることやLF-6の年代測定結果(Ⅶ章-1)から、縄文時代晩期中葉の時期に廃棄が行われたと考えられる。覆土3~6層および覆土上位と中位からはV群b類土器が何個体も横倒しで潰れた状態で確認されている。出土したV群b類土器は4,737点である。そのうち、覆土3~6層および覆土・覆土上位と中位からは4,200点が出土している。

深鉢形土器 (図VI-26・31-1・2・36)

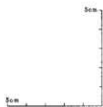
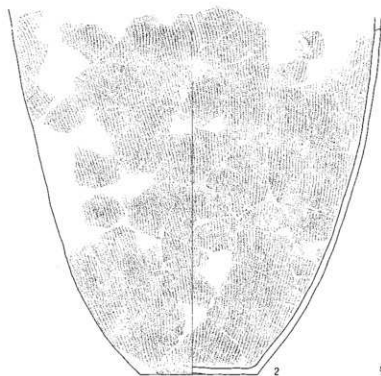
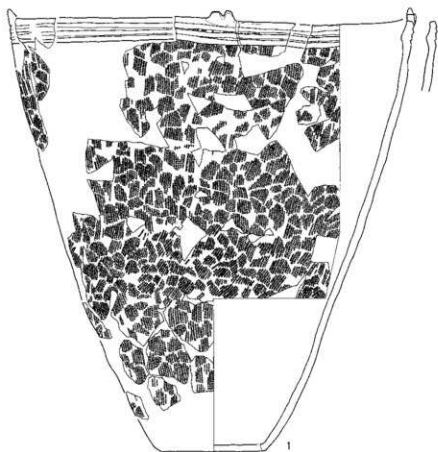
1は口縁部が平縁である。沈線が3本施された幅の狭い頸部をもつ。突起は、2個一對の突起が口唇に加えられている。突起は2か所確認できるが、いずれも対角の位置をなす部分に突起の痕跡が認められない。ほかの復原土器を観察すると、突起は片側に寄った位置に2~3個加えられるものがあり、本資料も同様と考えられる。2は胴部上半が欠失する。底面は中央部にナデ調整が認められ、周縁は砂目となっている。36は突起に2つの突起を結ぶ「S」字状の沈線文が加えられている。

鉢形土器 (図VI-27・28・31-3~9・37)

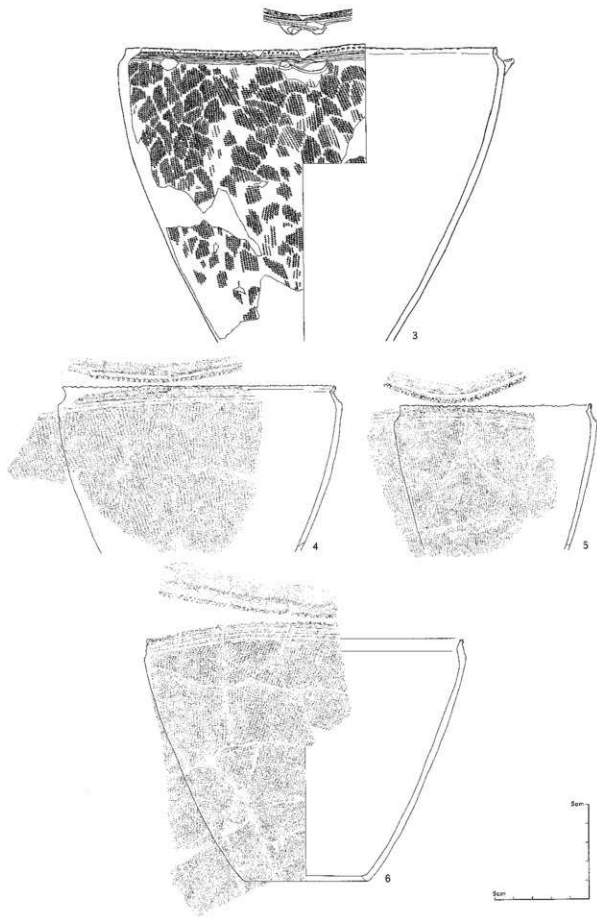
3~6は口唇に細かな刻みが施されている。3~5は沈線文が施された逆「く」字状の幅の狭い口頸部に細い棒状の工具で刺突列が加えられたもの。6・7は同様の頸部で、刺突列が加えられていないもの。6は頸部に細い沈線3本が施されている。7は頸部に幅広の沈線が2本施されている。8・9は頸部を作り出すず地文を施した後、口縁に沿って沈線文が加えられたもの。8・37は口縁部が大きく内湾する。口唇部は丸味をもち、2個一對の突起が2か所作出されている。突起は右側が山形に作出され、左側の突起には弧線状の沈線が加えられている。9は口縁部の断面形が8に類似し、口唇に2個一對の突起が作出されている。

浅鉢形土器 (図VI-28・29・31-10~20・38~42・44)

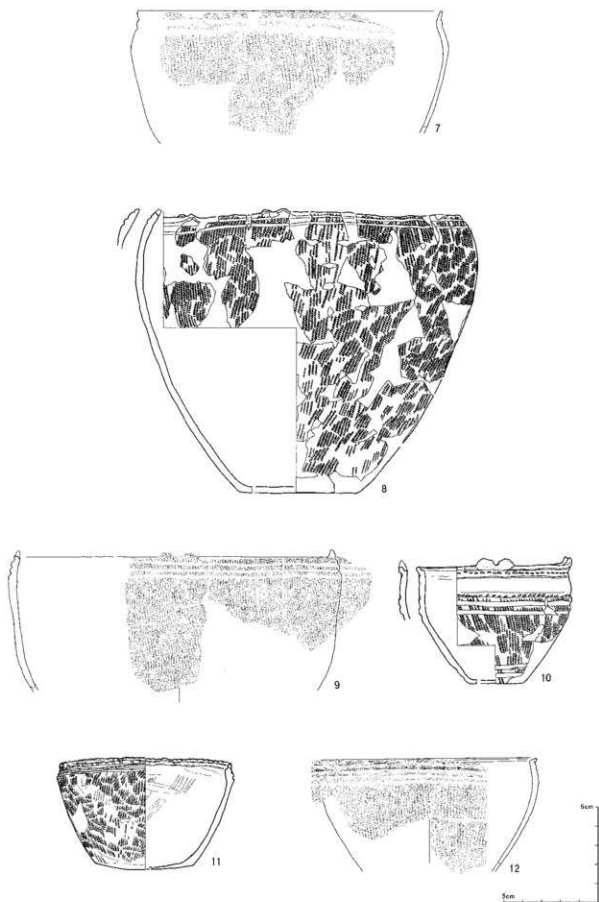
10・17・19・41・42は頸部に幅広の無文帯をもつもの。10は頸部がほぼ垂直に立ち上がり、無文帯の上下に沈線と細い棒状の工具で刺突列が加えられている。口唇には2個一對の突起が2か所確認されるが、本来4か所に施されたものと思われる。17は胴部上半が大きく内湾する器形である。幅の狭い無文帯と肩部分に3本の沈線文が組み合わされて頸部文様帯を構成している。口唇・肩部分の突起や細かな刺突列は認められない。肩部分に2個一對のb状突起が施されている。19は幅広の頸部無文帯がほぼ垂直に立ち上がる器形である。口唇部にはA状突起が施されている。41は口唇に2個一對のb状突起が施されている。42は無文帯の幅がやや狭い。肩部分に2本の沈線がめぐり、胴部には雲形文が施されている。11・12・18・38・39は沈線文が施された逆「く」字状の幅の狭い口頸部に細い棒状の工具で刺突列が加えられたもの。11は口唇に刻み目が施されている。12は口頸部に幅広の沈線が4本施されている。11・12は口唇部・肩部分に突起が施されていない。38・39は肩部分に2個一對のb状突起が施されている。13~16・40は同様の頸部で、刺突列が加えられていないもの。13~15・40は口唇端部に細かな刻み目が加えられているもの。13は肩部分にb状突起が施されている。14・15は口唇・肩部分に突起が認められない。16は口唇に2個一對の突起が作出されている。18は小型のもの。頸部には3本の沈線、肩部分にはb状突起、胴部には入組文と三叉文が描かれている。20は縄文のみもの。胴部は球形状で、口縁部は大きく内湾する。口縁部の上面観は楕円形である。内外とも多量の炭化物が付着し、煮炊きに使用した痕跡が窺える。44は口縁部破片。口唇に指頭圧痕が加えられ、口縁部は小波状である。



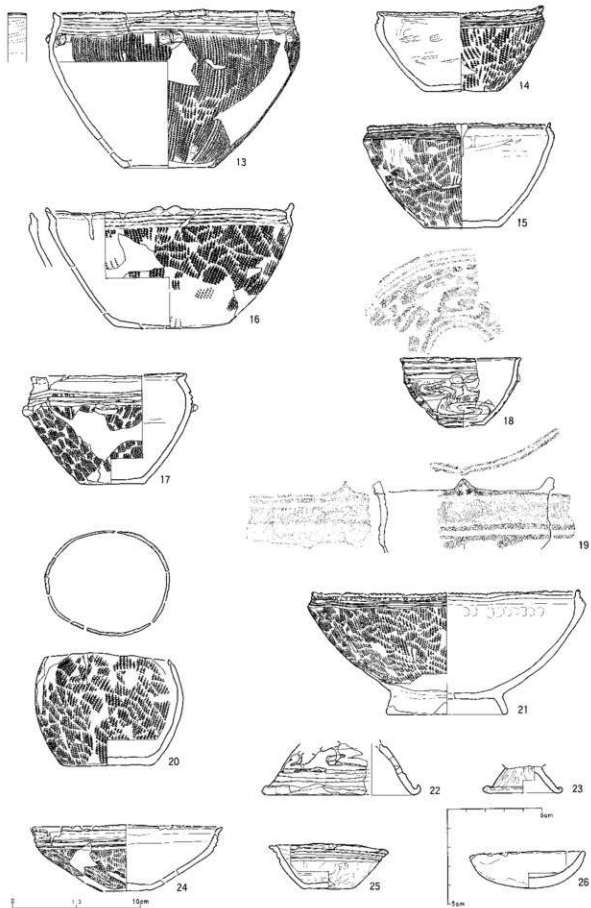
図VI-26 CH-1 (14)



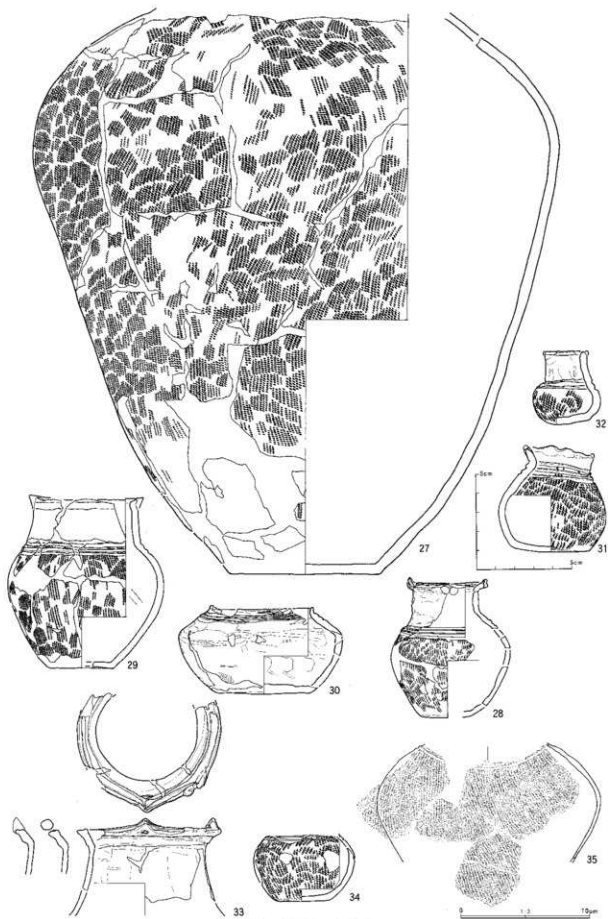
图VI-27 CH-1 (15)



図VI-28 CH-1 (16)



图VI-29 CH-1 (17)



図VI-30 CH-1 (18)

台付鉢形土器 (図VI-29・31-21~23・43)

21は口唇に細かな刻み目が加えられ、沈線文が施された逆「く」字状の幅の狭い口頸部に細い棒状の工具で刺突列が加えられたもの。口唇・肩部分に突起が認められない。22・23・43は台部分。22は「半肉彫り」「透かし彫り」の入組文と三叉文が施されている。23は小型で無文の台部分。43は内外に炭化物の付着が認められ、胴部に縦走縄文が施されている。

皿形土器 (図VI-29・31-24~26・45~47)

24は幅の狭い無文帯と肩部分の3本の沈線文が組み合わされて頸部文様帯を構成しているもの。底部はやや削り込まれている。25は口唇部が大きく外側に張り出す断面形で、口唇部に沈線文が加えられている。口縁部は2本の沈線文が施されている。胎土に多量の砂粒を含み、器面調整は粗雑である。26は無文で小型の皿形土器。丸底の底部から緩やかに立ち上がる器形である。胎土は細かい。25・26に明瞭な炭化物付着は認められない。45~47は同一個体である。口唇部を肥厚させ、口唇上に沈線文を施し、口唇の外側に刻み目が加えられている。口唇直下に2本の沈線、胴部に雲形文が施されている。46は口唇にA状突起が加えられている。47は胴部~底部破片。入組文と三叉文が施されている。内外面に赤色顔料の付着が認められる。

壺形土器 (図VI-30・31-27~35・48~52)

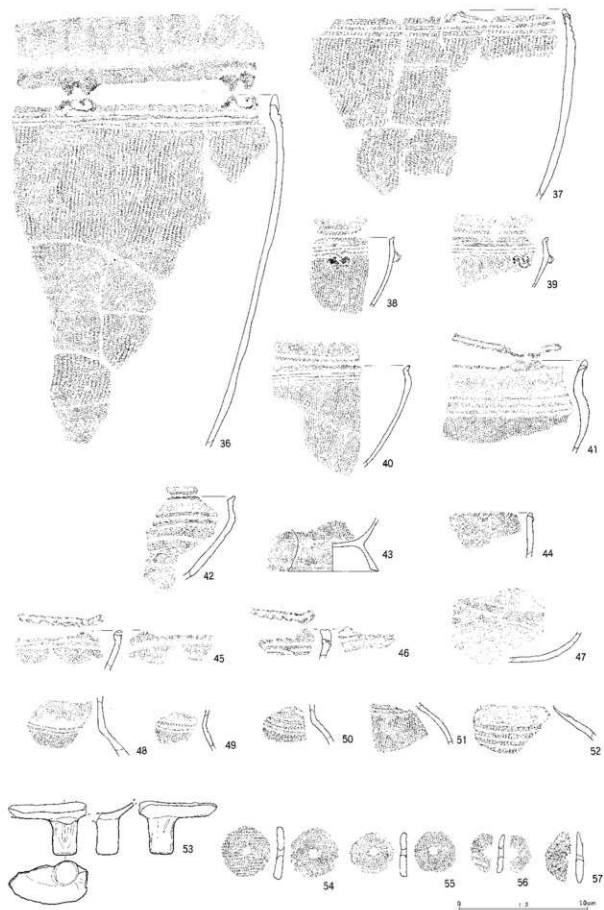
27は大型のもの。口頸部を欠失する。28・29は小型のもの。28は口縁に貼り付けが加えられ、断面三角形の口縁部を作り出している。口唇内面及び外面に沈線文が施され、外面には2個一對のb状突起が4か所に加えられている。頸部は無文で、ほぼ垂直に立ち上がる。頸部下端に3条の沈線、胴部に縦位の縄文が施されている。29は口唇部の張り出し部分を欠失する。口唇部は逆三角形になるものと考えられる。内傾して立ち上がる頸部の下端に3条の沈線、胴部に縦位の縄文が施されている。30は壺形の口頸部を作り出さなかった様な器形で、肩部分は強く張り出す。口縁部の作りは粗雑で、わずかにヘラ調整がされている程度である。口唇直下に3条の沈線が加えられ、階段状である。器面はヘラ調整がされて無文である。31は「く」字状の幅が狭い無文の頸部を作り出している。口唇は2個一對の突起が加えられている。胴部に縦位の縄文を施した後、頸部に3条の沈線が加えられている。32の底部は丸底である。口唇は外側に張り出す。頸部に粗いナデ調整がされ、頸部下端に2条の沈線が加えられている。胴部には縄文が縦位に疎らに施されている。胎土には砂粒を多く含む。33は口頸部破片。口唇部断面形は段状に張り出し、幅広の口唇を作り出している。口唇に1条の沈線文を施し、A状突起とb状突起が作出されている。頸部には丁寧なナデ調整がされている。34は口頸部を欠失する。頸部下端に2条の沈線が加えられ、胴部には縦位の縄文が施されている。35・48~52は頸部~胴部破片。いずれも頸部は無文である。胴部に縦位の縄文を施した後、頸部下端に3~4本の沈線が加えられている。

支脚土器 (図VI-31-53)

53は支脚をもつもの。支脚は円柱状で、径1.7cm、長さ2.7cmである。器部分の器厚は3mm程で薄い作りである。胎土には砂粒を含む。調整は丁寧である。本来は4か所の支脚があった可能性がある。

有孔土製円盤 (図VI-31-54~57)

54~57はいずれもV群b類の土器の破片を用いたもの。54・56・57は胴部破片、55は底面を用いたものである。(熊谷)



図VI-31 CH-1 (19)

CH-12 (図VI-32/表VI-1~3・5/図版25・51)

確認・調査 O65区の調査範囲壁際でVI層上面を調査中に、黒褐色土の落ち込みを検出した。昭和59年度調査のCH-12の続きと判断して、覆土を掘り下げたところ、しまりのある床面と急角度に立ち上がる壁面を確認した。

覆土 昭和59年度の調査では2層に分層している。

形態 平面形は、昭和59年度の調査と合わせると、隅丸方形となる。壁面は、明瞭で急角度に立ち上がる。床面は平坦であり、昭和59年度調査側に地床炉2か所が確認されている。

遺物出土状況 床面から横倒してつぶれた状態のⅢ群b類土器(1)が出土している。床面・覆土から土器226点、石器等36点が出土している。内訳は、Ⅱ群b類土器1点、Ⅲ群a類土器2点、Ⅲ群b類土器211点、Ⅳ群a類土器6点、Ⅳ群c類土器5点、Ⅴ群b類土器1点、スクレイパー1点、Rフレイク2点、Uフレイク2点、剥片9点、礫・礫片22点である。

時期 出土した遺物から縄文時代中期後半と考えられる。(酒井)

遺物 土器：2はⅢ群a類土器の胴部破片。2条一組の貼り付けで胴部文様帯を区画し、鋸歯状の細い貼付文が施されている。1・3・4はⅢ群b類土器。1は床面出土である。底面を欠失する。4か所の波頂部をもつ波状口縁である。口縁部は肥厚する。波頂部外面に縦位に貼り付けが加えられている。胴部には横走る縄文が施されている。胎土には砂粒を含む。器面調整は粗雑である。3は複筋の斜行縄文を地文とし、口縁部に2条の縄線文が加えられている。4は胴部破片。横走気味の縄文上に2本一組の沈線文が加えられている。(熊谷)

(3) 土坑

LP-1 (図VI-33/表VI-1・2・4・6/図版25・51)

特徴 Q68区のV層下位を調査中に暗褐色土の半円形の落ち込みを検出した。攪乱部分を除去して断面を観察したところ、ボウル状の底面と壁の立ち上がりを確認した。約半分を耕作によって削平されているが、平面形は楕円形と推測される。覆土は埋戻しと考えられる。覆土から石器等5点が出土している。内訳は、Rフレイク1点、すり石1点、剥片3点である。

時期 出土遺物と周囲の状況から縄文時代中期前半と考えられる。

遺物 石器：1はすり石。北海道式石冠と称されるもの。扁平礫を敲打によって整形し、握部とすり面を作り出している。(酒井)

LP-2 (図VI-33/表VI-1~6/図版25・51)

特徴 Q65区のV層下位を調査中に、LH-3の黒褐色土の落ち込みとともに、黒褐色土の半円形の落ち込みを検出した。攪乱部分を除去して断面を観察したところ、平坦な底面と緩やかに立ち上がる壁面を確認した。LH-3を切って構築されている。東西方向両端を耕作によって削平されているが、平面形は楕円形と推測される。覆土は埋戻しと考えられる。覆土1層から土器21点、石器等17点が出土した。内訳は、Ⅲ群a類土器2点、Ⅲ群b類土器1点、Ⅳ群a類土器16点、Ⅴ群b類土器2点、すり石(扁平打製石器)、剥片6点、礫・礫片10点が出土している。

時期 出土遺物と後期前葉のLH-3を切って構築されていることから、後期前葉もしくは晩期中葉と考えられる。(酒井)

遺物 土器：1はⅢ群a類土器の胴部破片。摺糸圧痕文が加えられた貼付帯、馬蹄形圧痕文が施されている。2はⅢ群b類土器の口縁部破片。口唇に沈線が加えられ、斜行縄文が施されている。3・4はⅣ群a類土器。3は口縁部破片。頸部に無文帯をもち、波頂部には入子の山形の沈線文が施され

ている。4は無文の土器。5・6はV群b類土器の口縁部破片。5は浅鉢形土器。口唇端部に刻み目に加えられ、頸部は無文帯である。6は無文地の壺形土器の口頸部破片。口縁部内面に2本の沈線が加えられている。(熊谷)

石器：7はすり石。扁平打製石器と称されるもの。扁平礫の周縁を加工して、半円状に整形している。弦の部分は両面を打ち欠いて断面がV字型に調整されている。すり面はほとんど確認できない。(酒井)

LP-3 (図VI-34/表VI-1~5/図版26・51)

特徴 P65区のVI層上面を調査中に、暗褐色土の半円形の落ち込みを検出した。66線を断面線として半載したところ、平坦な底面と緩やかに立ち上がる壁面を確認した。構築面はV層上面である。平面形は不整楕円形である。覆土は埋戻しと考えられる。覆土2層から土器5点、石器等6点が出土している。内訳はIV群a類土器5点、礫・礫片6点である。

時期 出土遺物から後期前葉と考えられる。(酒井)

遺物 土器：1・2はIV群a類土器の胴部破片。1には斜行縄文が施される。2は無文の土器である。(熊谷)

LP-4 (図VI-34/表VI-1~5/図版26・51)

特徴 O69区の調査区壁際でVI層上面を調査中に、黒色土の半円形の落ち込みを検出した。半載したところ、平坦な底面と急に立ち上がる壁面を確認した。北西側は削平されているため平面形は不明である。昭和59年度調査範囲ではLP-4に続く遺構は確認されていない。覆土は埋戻しと考えられる。覆土から土器2点、石器等2点が出土している。内訳は、IV群a類土器2点、剥片1点、礫・礫片1点が出土している。

時期 出土遺物から後期前葉と考えられる。(酒井)

遺物 土器：1はIV群a類土器の胴部破片。無文で、器面にナデ調整がされている。(熊谷)

LP-7 (図VI-34/表VI-1~3・5/図版26・51)

特徴 P76区のV層を調査中に、黒色土の円形の落ち込みを検出した。半載したところ、ボウル状の底面と緩やかに立ち上がる壁面を確認した。平面形は円形である。覆土は埋戻しと考えられる。覆土1層から土器4点が出土している。V群c類土器4点である。

時期 出土遺物から晩期後葉と考えられる。(中山)

遺物 土器：1は浅鉢形土器。本土坑出土資料1点がP76区V層出土の破片資料5点と接合した。底部から開き気味に立ち上がり、頸部はくびれをもたずストレートである。頸部にはA状突起が作出されている。口縁部には「V」字状の大型突起があったと推定される。本来は1か所の大きな「Y」字突起と5か所の「V」字状の大型突起が施されていたものと思われる。口縁部内面に1~2本の沈線が施され、突起部分の内面にはさらに突起間を結ぶ弧状の沈線が加えられている。胴部には細かな斜行縄文が施されている。(熊谷)

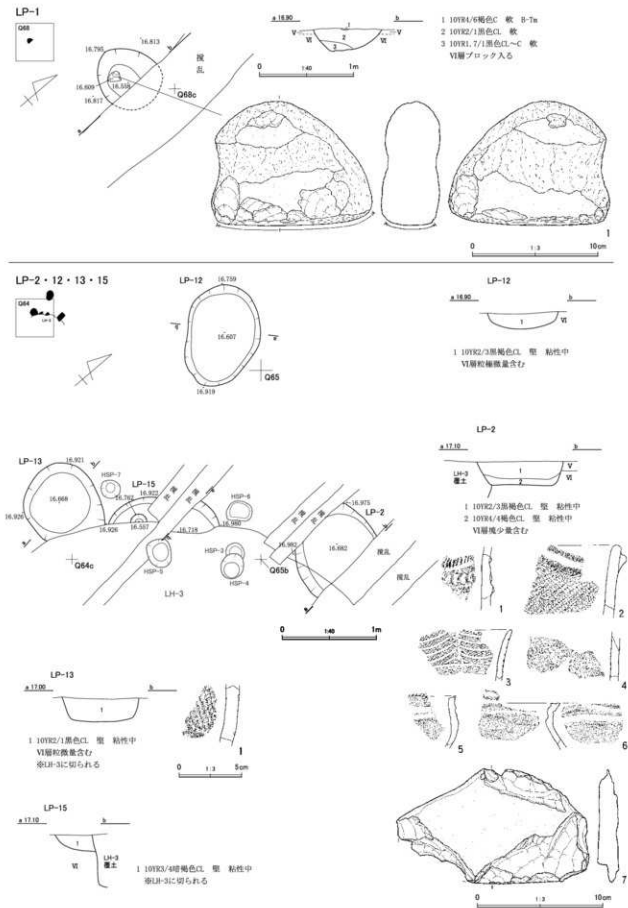
LP-8 (図VI-35/表VI-1/図版26)

特徴 Q72区のV層を調査中に、筋状の攪乱に切られた黒褐色土の円形の落ち込みを検出した。攪乱を除去後に断面を観察したところ、平坦な底面と急に立ち上がる壁面を確認した。平面形は円形と推定される。覆土は埋戻しと考えられる。遺物は出土していない。

時期 時期を判断できる遺物が出土していないので、不明である。(中山)

LP-9 (図VI-35/表VI-1~3・5/図版26・27・51)

特徴 Q68区のVI層上面を調査中に、筋状の攪乱に切られた黒褐色土の円形の落ち込みを検出し



た。攪乱を除去後に断面を観察したところ、平坦な底面と緩やかに立ち上がる壁面を確認した。平面形は楕円形と推定される。覆土は埋戻しと考えられる。覆土から土器5点が出土している。内訳は、Ⅲ群a類2点、Ⅴ群b類土器3点である。

時期 晩期中葉の可能性がある。(中山)

遺物 土器：1はⅢ群a類土器の胴部破片。結束羽状縄文が施されている。(熊谷)

LP-10 (図VI-35/表VI-1/図版27)

特徴 P69区のⅥ層上面を調査中に、筋状の攪乱に切られた黒色土の円形の落ち込みを検出した。攪乱を除去後に断面を観察したところ、平坦な底面と緩やかに立ち上がる壁面を確認した。平面形は楕円形と推定される。覆土は埋戻しと考えられる。遺物は出土していない。

時期 時期を判断できる遺物が出土していないので、不明である。(中山)

LP-11 (図VI-34/表VI-1~5/図版27・51)

特徴 P65区のⅥ層上面を調査中に、暗褐色土の楕円形の落ち込みを検出した。半截したところ、平坦な底面と緩やかに立ち上がる壁面を確認した。平面形は楕円形である。覆土は埋戻しと考えられる。覆土1層から土器7点、石器等8点が出土している。内訳は、Ⅲ群a類1点、Ⅳ群a類土器6点、Rフレイク1点、剥片3点、礫・礫片4点である。

時期 出土遺物から後期前葉と考えられる。(酒井)

遺物 土器：1はⅢ群a類土器の口縁部破片。波状口縁で、地文にオオバコ回転文が施され、波状口縁に沿って2条の圧痕文が加えられている。Ⅲ群b類土器の可能性もある。2はⅣ群a類土器の胴部破片。無文である。(熊谷)

LP-12 (図VI-33/表VI-1/図版27)

特徴 P64区のⅥ層上面を調査中に黒褐色土の楕円形の落ち込みを検出した。半截したところ、ボウル状の底面と壁の立ち上がりを確認した。平面形は楕円形である。覆土は埋戻しと考えられる。遺物は出土していない。

時期 時期を判別できる遺物が出土していないため、不明である。(酒井)

LP-13 (図VI-33/表VI-1~5/図版27・28・51)

特徴 Q64区のⅥ層上面を調査中に、LH-3の黒褐色土の落ち込みとともに、黒色土の円形の落ち込みを検出した。LH-3の調査終了後、半截したところ、平坦な底面と緩やかに立ち上がる壁面を確認した。南東側の一部をLH-3に切られている。平面形は円形と推測される。覆土は埋戻しとである。覆土1層から土器13点、石器等3点が出土している。内訳は、Ⅲ群a類土器13点、剥片1点、礫・礫片2点である。

時期 出土遺物と後期前葉のLH-3に切られていることから、中期前半と考えられる。(酒井)

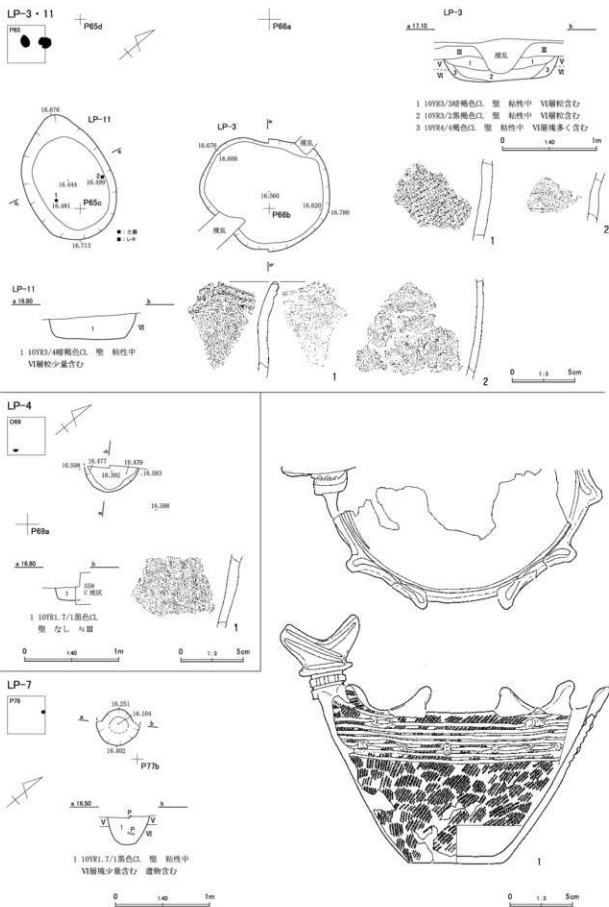
遺物 土器：1はⅢ群a類土器の胴部破片。斜行縄文が施されている。(熊谷)

LP-14 (図VI-35/表VI-1~5/図版28・51)

特徴 P66区のⅥ層上面を調査中に、礫が3点まとまって出土していることを確認した。さらにその周囲の黒褐色土の円形の落ち込みを検出した。半截したところ、平坦な底面と緩やかに立ち上がる壁面を確認した。平面形は不整形円形で、覆土は埋戻しである。遺物は石器等2点が確認面からまとまって出土している。たつき石1点とこぶし大の礫2点である。

時期 時期を判断できる遺物が出土していないので、不明である。

遺物 石器：1はたつき石。棒状礫の両端部に敲打痕があるもの。(酒井)



図VI-34 LP-3・4・7・11

LP-15 (図VI-33/表VI-1・2・4/図版28)

特徴 Q64区においてLH-3の調査中、壁面に覆土が暗褐色土の土坑断面を検出した。LH-3の調査終了後、半載したところ、平坦な底面と緩やかに立ち上がる壁面を確認した。南東側の半分以上をLH-3に切られて削平されている。平面形は削平部分が多く不明である。覆土は埋戻しと考えられる。覆土から礫・礫片3点が出土している。

時期 時期を判断する遺物が出土していないため不明である。後期前葉のLH-3に切られていることから、それ以前に構築されたことは確認できる。(酒井)

LP-16 (VI-35/表VI-1・2・4/図版28)

特徴 Q66区のVI層上面を調査中に、褐色土の円形の落ち込みを検出した。半載したところ、平坦な底面と緩やかに立ち上がる壁面を確認した。平面形は不整形円で、覆土は埋戻しである。覆土からスクレイパー1点が出土している。

時期 時期を判断できる遺物が出土していないので、不明である。(酒井)

LP-17 (VI-35/表VI-1～5/図版28・51)

特徴 Q65区のVI層上面を調査中に、LH-4とともに暗褐色土の楕円形の落ち込みを検出した。半載したところ、平坦な底面と急に立ち上がる壁面を確認した。平面形は長楕円形で、覆土は埋戻しである。LH-4を切って構築されている。覆土から土器7点、石器等23点が出土した。内訳は、IV群a類土器7点、加工痕のある礫1点、礫・礫片22点である。

時期 出土遺物や中期後半のLH-4を切っていることから、後期前葉と考えられる。(酒井)

遺物 土器：1・2はIV群a類土器。1は無文の胴部破片。頸部下端を区画する沈線文が加えられている。2は口縁部破片。斜行縄文が施されている。(熊谷)

(4) 焼土

LF-1 (図VI-36/表VI-1・2・4/図版28)

特徴 Q66区のV層を調査中に暗赤褐色焼土の範囲を検出した。半載したところ、現地で焼成されたことが確認された。焼土はよく焼けている。焼骨の確認されたところは全量採集し、フローテーション処理を行った。IV群a類土器4点や剥片7点、焼骨片(0.11g)が出土している。焼骨片は魚類と種不明であることが同定されている(Ⅶ章-2参照)。周囲の状況から、LF-2・3・7と同時期のものと考えられる。

時期 LF-7の放射性炭素年代測定結果から縄文後期前葉と推定される。(酒井)

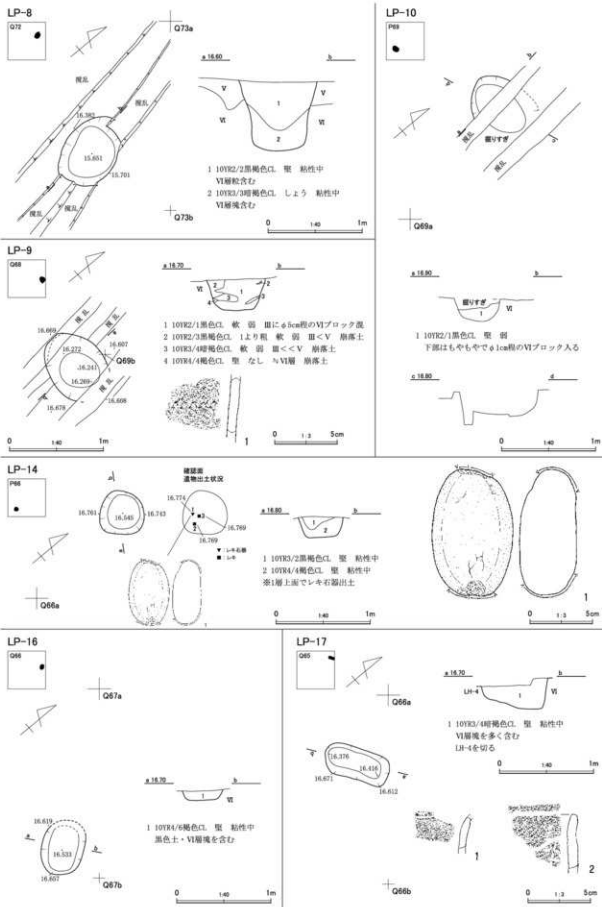
LF-2 (図VI-36/表VI-1・2・4/図版29)

特徴 Q65区のV層を調査中に暗赤褐色焼土の範囲を検出した。東側を攪乱によって削平されている。半載したところ、現地で焼成されたことが確認された。焼土はよく焼けている。焼骨の確認されたところは全量採集し、フローテーション処理を行った。IV群a類土器6点や剥片10点、焼骨片(0.26g)が出土している。焼骨片は哺乳類(陸獣)と種不明であることが同定されている(Ⅶ章-2参照)。周囲の状況から、LF-1・3・7と同時期のものと考えられる。

時期 LF-7の放射性炭素年代測定結果から縄文後期前葉と推定される。(酒井)

LF-3 (図VI-36/表VI-1・2・4/図版29)

特徴 PQ65区を調査中に暗赤褐色焼土の範囲を検出した。西側の一部を攪乱によって削平されている。半載したところ、LH-4の覆土中に現地で焼成されたことが確認された。焼土はよく焼けている。焼土中から剥片4点が出土している。周囲の状況から、LF-1・2・7と同時期のものと



図VI-35 LP-8・9・10・14・16・17

考えられる。

時期 LF-7の放射性炭素年代測定結果から縄文後期前葉と推定される。(酒井)

LF-4 (図VI-36/表VI-1~4/図版51)

特徴 P71区を調査中に暗赤褐色焼土の範囲を検出した。北西側は昭和59年度D地区調査範囲であるが、この時の調査では確認されていない。半載したところ、炭化材が混じり、ブロック状の焼土塊が確認された。焼土中からIV群a類土器2点、剥片28点、礫・礫片3点が出土している。

時期 焼土中から出土した土器から後期前葉の可能性がある。(中山)

LF-5 (図VI-36/表VI-1/図版29)

特徴 P73区を調査中に暗赤褐色焼土の範囲を検出した。半載したところ、ブロック状の焼土塊が確認された。遺物は出土していない。

時期 時期の判別できる遺物が出土していないことから不明である。(中山)

LF-6 (図VI-36/表VI-1~5/図版22・51・57)

特徴 P・Q66・67区のCH-1を調査中に、覆土6層上面においてにぶい赤褐色焼土の範囲を検出した。半載したところ、焼土はよく焼けており、CH-1の覆土6層上面で焼成したことを確認している。焼土中からはV群b類土器7点、両面調整石器1点、剥片84点、礫・礫片1点が出土している。確認面からは焼骨片が出土している。焼骨の確認されたところは全量採集し、フローテーション処理を行った結果81.91gの焼骨片を得た。焼骨片は魚類3.29g(サケ科・ニシン科・ツノザメ科など)、哺乳類73.17g(陸獣類(ニホンジカなど)・海獣類)、鳥類1.15g(ウミガラス属など)、種不明4.30gが同定されている。また、鹿角製の髪針の体部破片4点がみついている(Ⅶ章-2参照)。長さ0.9~1.2cmと微細なため図化はしていないが、図版57に写真を掲載している。

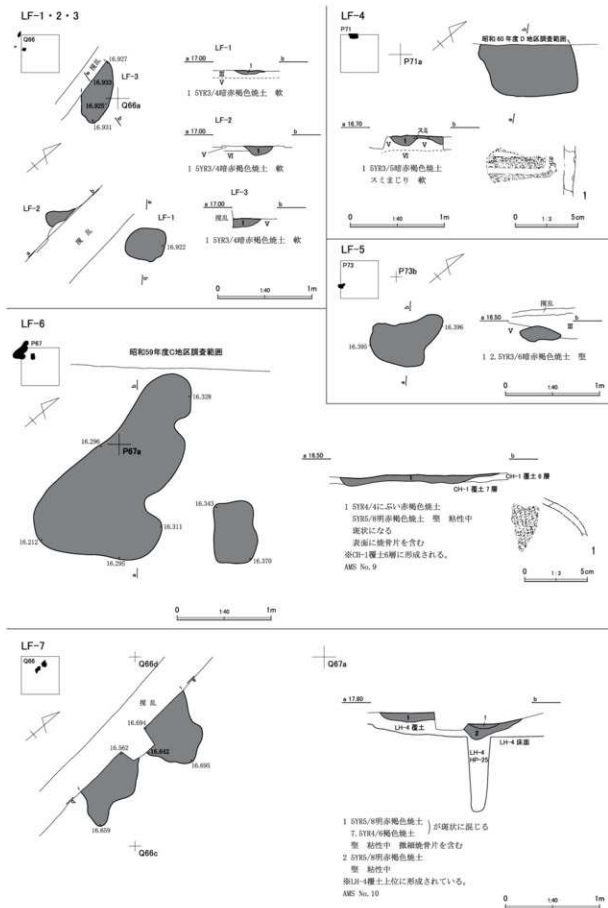
時期 フローテーション処理で出土した炭化材を用いて放射性炭素年代測定を行い、2,830±20yrBPという測定値を得た(Ⅶ章-1参照)。この結果や周辺からV群b類土器が多く出土していることから、縄文晩期中葉と考えられる。(酒井)

遺物 土器：1はV群b類土器。壺形土器の胴部破片。縦位の縄文が施されている。(熊谷)

LF-7 (図VI-36/表VI-1・2・4/図版29)

特徴 Q66区でLH-4を調査中に覆土中から明赤褐色焼土の範囲を検出した。西側半分を攪乱によって削平されている。攪乱を除去し断面を調査したところ、LH-4の覆土上位に現地で焼成されたことが確認された。焼土は非常によく焼けている。焼骨の確認されたところは全量採集し、フローテーション処理を行った。剥片20点や焼骨片(1.46g)が出土している。焼骨片は魚類(ニシン・サケ科など)が同定されている(Ⅶ章-2参照)。周囲の状況から、LF-1・2・3と同時期のものと考えられる。

時期 フローテーション処理で出土した炭化材を用いて放射性炭素年代測定を行い、3,740±30yrBPという測定値を得た(Ⅶ章-1参照)。このことから、縄文後期前葉と考えられる。(酒井)



図VI-36 LF-1・2・3・4・5・6・7

3 包含層出土の遺物

(1) 土器 (図VI-37~40・1~101/表VI-7・9/図版52~54)

包含層から出土した土器は10,753点である。Ⅲ層から1,407点、Ⅴ層から3,704点、排土や擾乱から5,642点が出土している。時期は後期前葉が5,345点で最も多く、晩期中葉3,829点、中期前半696点、中期後半426点がこれに続く。出土分布は、遺構のある西側から多く出土している。Ⅴ群b類土器はとくに西側に分布が偏ってみられる。

Ⅰ群b-3類土器 (図VI-37・38-1・12~25/表VI-7・9/図版52・53)

1・14・15は同一個体である。1は底部破片、14・15は胴部破片。微隆起線文が微かに認められる。底部付近はナデ調整が加えられ無文上に2本一組の綾絡文が施される。胴部は微隆起線文上に浅い斜行縄文が施されている。胎土は細かく、器厚は薄い。調整は丁寧である。12・13は口縁部破片、16~25は胴部破片。12~21は短縄文の圧痕文や絡条体圧痕文が、微隆起線文上ないし微隆起線間に加えられているもの。22・23は細かく斜行縄文が施されているもの。24は絡条体圧痕文が加えられているもの。25はヘラ状工具による押引文が施されているもの。

Ⅱ群b類土器 (図VI-38-26~28/表VI-7・9/図版53)

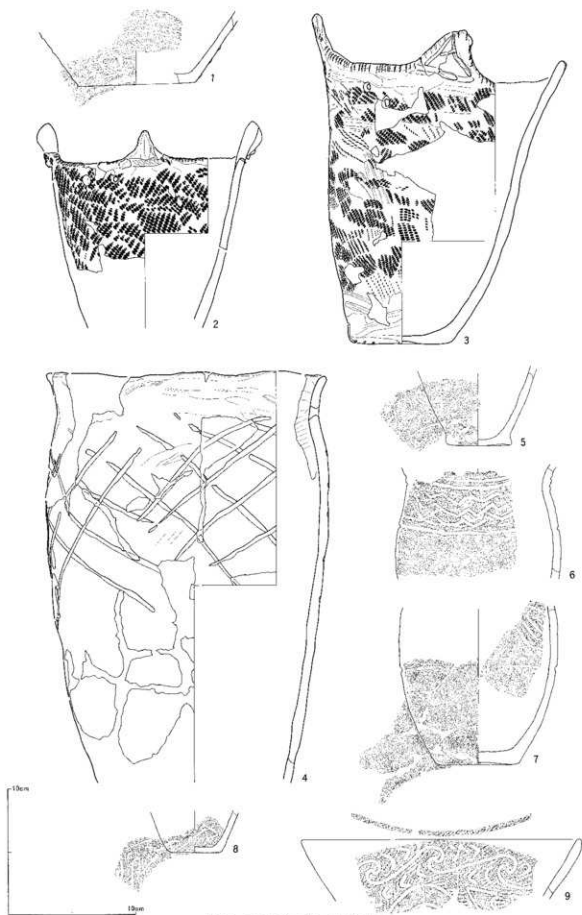
26~28は口縁部破片。26は無文地の口縁部文様帯に横位の縄線文と刺突列が交互に施されているもの。胴部は斜行縄文と思われる。27は口唇直下に斜行縄文が、頸部に横走る縄文が施され、頸部の上に3本一組の縄線文が施されたもの。他の資料より軽く、器面調整は丁寧で光沢がある。触感がつるつるし、異質である。28は幅の狭い口頸部文様帯をもつもの。

Ⅲ群a類土器 (図VI-37・38-2・3・29~38/表VI-7・9/図版52・53)

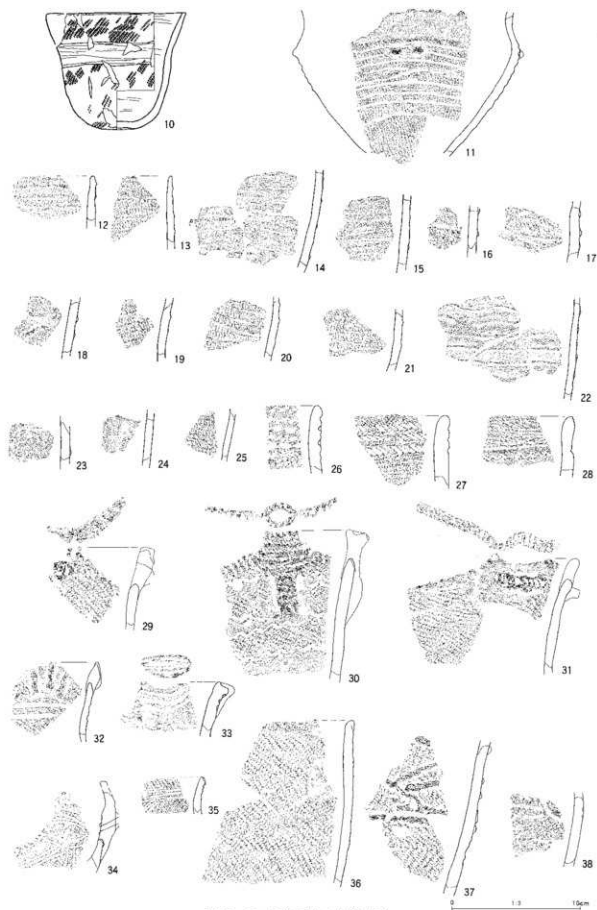
2は小型の土器。底部を欠失する。口縁部に4か所の波頂部を作出している。口縁部の断面形は外傾する角形で、端部に縄文が加えられている。波頂部の断面形は切り出し状で、縦位の粘土紐が施されている。その下端に縄線文が加えられた横位の貼り付けが施されている。胴部には斜行縄文が施されている。3は器形が大きく斜傾する。口縁部は波状口縁で、4か所の波頂部をもつ。波頂部には三角形に細い粘土紐が貼り付けられている。口縁部の断面形は丸味をもつ切り出し状で、口唇には縄の圧痕文が加えられている。胴部には不規則な斜行縄文が施されている。胎土は細かく、調整は丁寧である。29~36は口縁部破片。29は波頂部に縄の圧痕が加えられている。2個一対の波頂部を作出し、直下に粘土粒が加えられている。30は波頂部を作出した後、下位に橋状の粘土紐が貼り付けられている。31は2個一対の波頂部をもつもの。口唇にはヘラ状工具により刻みが施されている。波頂部の下位には刻みが加えられた横位の粘土紐が貼り付けられている。32~35は胴部に沈線文が施されたもの。32は2本一組の沈線、33~35は3本一組の沈線文が施されている。36は縄文のみのもの。口縁部は波状になるものと思われる。断面形は切り出し状である。37・38は細い粘土紐の貼り付けが施された胴部破片。37は結束羽状縄文上に燃糸圧痕文が加えられた貼付文、38は無文の粘土紐が施されている。

Ⅲ群b類土器 (図VI-39-39~57/表VI-7・9/図版53)

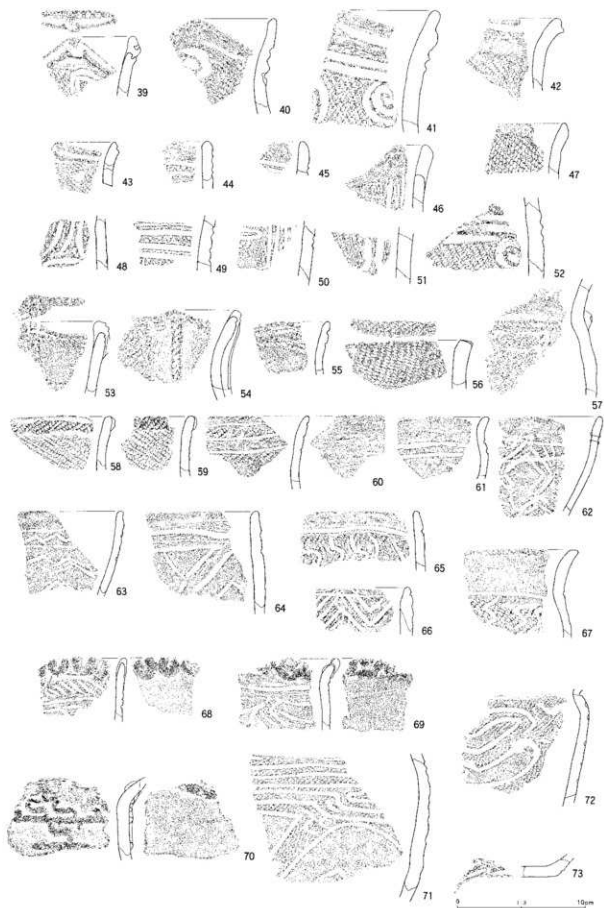
39~47・49~52は太い沈線文が多用されるもの。39~47は口縁部破片。39~43は外傾する口唇に沈線文が加えられているもの。44~47は口唇に沈線文が加えられていないもの。49~52は胴部破片。いずれも胎土の砂粒を多く含むが精緻である。53~55は縄線文・貼付帯が多用されたもの。口頸部が縄線文・貼付帯によって区画され、大きく外反する。53・54は波状口縁で、波頂部から縄線文が加えられた貼付帯が垂下している。48・56は縄文のみの口縁部破片。48は口縁部の断面形が切り出し状で、器面には複節の斜行縄文が施されている。56は口縁部の断面形が角形で、口唇にも縄文が施されている。胴部には縦走る縄文が施されている。Ⅳ群a類の可能性もある。57は頸部~胴部上半の破片。頸部



図VI-37 包含層出土土器 (1)



图VI-38 包含层出土土器(2)



図VI-39 包含層出土土器 (3)

文様帯の下端を区画する貼付帯が認められる。添付帯には縄線文が加えられている。頸部は無文、胴部には斜行縄文が施されている。

IV群a類土器 (図VI-37・39-4~9・58~73/表VI-7・9/図版52・53)

58・59は口縁部に貼り付けが加えられたもの。口縁部の断面形は角形で、器面には縦位の斜行縄文が施されている。5は細い沈線文が施されたもの。胴部上半を欠失する。胴部に曲線的な沈線文を施した後、ナデ調整がされている。4・6~9・60~73は太い沈線文が施されたもの。4は底部を欠失する。無文地の胴部上半に斜位の沈線を組み合わせ、菱目状の沈線文が施されている。胎土には多量の粘土粒を含み、粗い。6・7は大型の破片。6は胴部上半の沈線文で区画された文様帯に、3段の鋸歯状の沈線文が加えられている。7は胴部上半に磨消文が施されている。60~70は口縁部破片。60は斜行縄文上に沈線文が施されている。61は無文で、頸部に2本の沈線文が加えられている。62~67は口縁部に無文帯をもつもの。胴部に幾何学的な沈線文・磨消文が施されている。68~70は口縁部に粘土紐が施されているもの。71・72は胴部破片。磨消文・沈線文が施されている。9は浅鉢形土器の大型破片。口唇部に縄文が施され、胴部に磨消文・沈線文が施されている。8・73は底部破片。地文上に沈線文が施されている。

IV群c類土器 (図VI-38・40-10・74~76/表VI-7・9/図版52・53)

10は小型の土器。小さな底部から聞き気味に立ち上がる器形である。口縁部は平縁で、胴部上半に無文のくびれをもつ。器面には斜行縄文が施されている。74・75は口縁部破片。器面に斜行縄文を施した後、内面からの刺突文・沈線文が施されたもの。76は注口土器の注口部分である。

V群a類土器 (図VI-40-77・78/表VI-7/図版53)

77・78は小波状口縁部破片。口縁部の断面形は丸味をもち、口唇端部には指頭による押捺が加えられている。

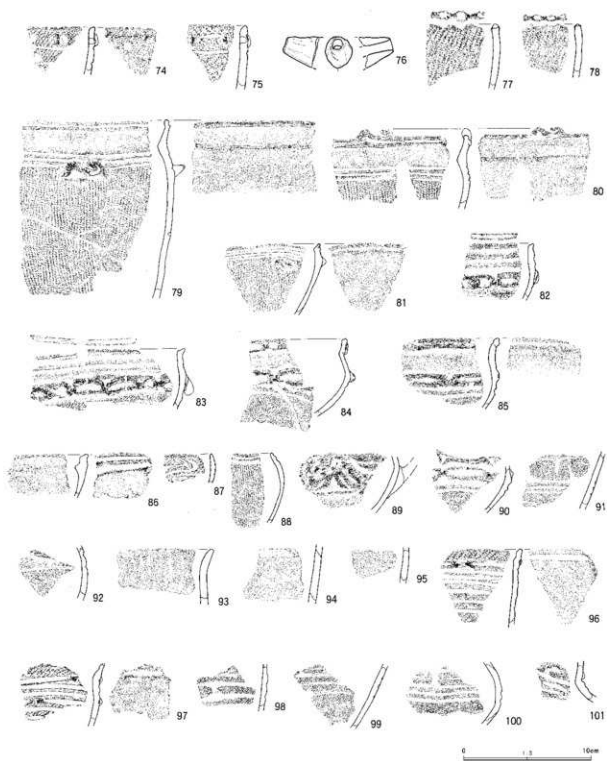
V群b類土器 (図VI-38・40-11・79~95/表VI-7・9/図版52~54)

79・80は深鉢形土器の口頸部破片。口頸部に幅広の無文帯をもつもの。79は無文帯の上部が1条、下端が3条の沈線で区画されている。肩部分に「S」字状の沈線が加えられた2個一対の瘤状の突起が付けられている。80は口唇部に2個一対の突起が付けられている。11・81~95は浅鉢形土器。11は口縁部を欠失する。頸部は幅広の無文帯である。胴部は縄文が施された後、上半に8条の横環する沈線が加えられ、肩部分には2個一対の瘤状の貼り付けが施されている。81~90は口縁部破片。81は「く」字状の幅の狭い頸部に細い沈線が施されている。肩部分には「S」字状の沈線が加えられた2個一対の瘤状の突起が付けられている。82・83は幅広の頸部に沈線が施されている。肩部分にはA状突起が施されている。84・85は幅広の無文の頸部で、肩部分にはA状突起が施されている。86は幅広で内傾する口唇部直下に2条の沈線が加えられている。器面の外面は無文である。87・88は小型の土器。口縁部が内湾する。87は雲形文が、88は口縁部に2本の沈線が施されている。89~92は胴部破片。89は肩部分にA状突起が施されている。90は肩部分に大型の突起の痕跡が認められる。91・92は雲形文が施されている。93~95は無文である。

V群c類土器 (図VI-40-96~101/表VI-7・9/図版54)

96~99は鉢形土器。96・97は口縁部破片。口唇部直下にb状突起、頸部に2本の沈線が施されている。下端にb状突起が施されている。98・99は胴部破片。横位連続工字文が施されている。100・101は壺形土器。100は胴部上半の破片。横位連続工字文が施されている。101は赤色顔料が附着した口頸部から肩部分の破片。頸部下端には貼り付けが認められ、突起が剥離した痕跡がある。肩部分は工字文が施されている。

(熊谷)



図VI-40 包含層出土器 (4)

(2) 石器等 (図VI-41-48-1~111/表VI-8・10/図版54~57)

包含層から出土した石器等は11,240点である。I層耕作土や排土などから7,328点が出土し、次いでV層2,836点、III層1,076点が出土している。出土分布は、遺構のある調査範囲西側から多く出土している。器種は、石鏃、石錐、つまみ付ナイフ、スクレイパー、石斧、たたき石、すり石、礫器、剥片、礫・礫片、焼成粘土塊、土製品が出土している。石鏃、スクレイパー、たたき石が多く出土している。出土点数のうち、剥片と礫・礫片で約80%を占める。利用される石材は、頁岩が8,080点と多く、次いで泥岩1,582点、チャート432点、安山岩343点、砂岩277点などである。剥片石器では頁岩がほとんどで、礫石器では泥岩と安山岩が多く、次いで砂岩、頁岩、チャートである。剥片6,484点のうち頁岩が6,188点を占める。礫・礫片では2,404点のうち泥岩が1,420点を占め、次いでチャート265点、安山岩239点、砂岩193点などとなる。

石鏃 (図VI-41-1~18/表VI-8・10/図版54)

石鏃は52点出土している。このうち18点を掲載した。有茎鏃が41点、無茎鏃が2点、破片8点である。石材は頁岩46点、メノウ4点、黒曜石2点である。アスファルトが付着しているものが4点確認されている。

1は無茎鏃。凹基。右側縁を欠損している。2~18は有茎鏃。2~5は平基でかえしが明瞭なもの。2は尖頭部が正三角形で基部との長さがほぼ1:1である。4はアスファルトが付着している。6~11は凸基で、かえしが明瞭なもの。9は調整が粗く、未成品の可能性がある。12~16は凹基でかえしが明瞭なもの。16は調整が粗く、未成品の可能性がある。17・18は調整が粗く、未成品と考えられる。2・17は黒曜石製、6はメノウ製、その他は頁岩製である。

石槍・ナイフ類 (図VI-41-19/表VI-8・10/図版54)

石槍・ナイフ類は4点出土している。このうち1点を掲載した。有茎のものが1点、破片が3点である。石材は頁岩3点、メノウ1点である。

19は有茎のもの。かえしは不明瞭である。頁岩製。

石錐 (図VI-41-20~27/表VI-8・10/図版54)

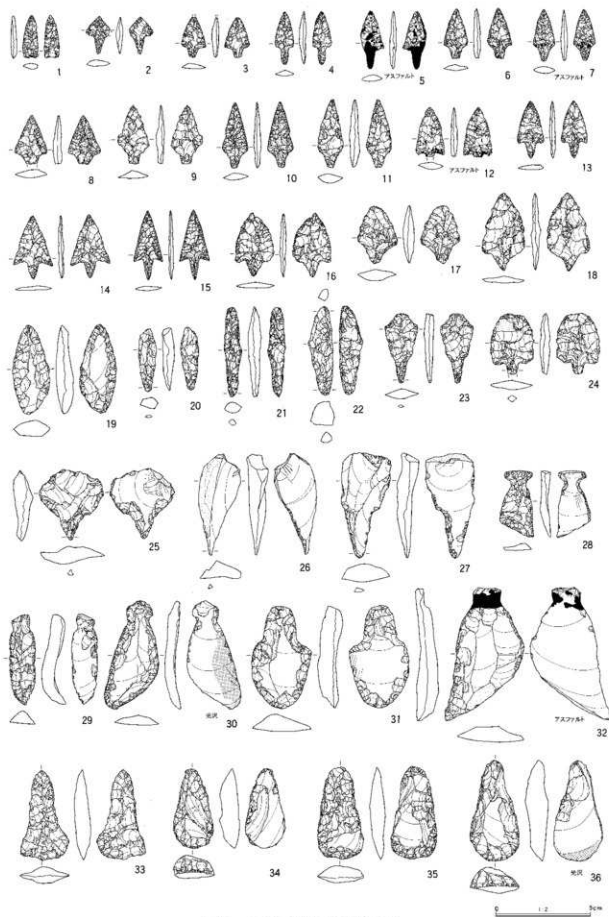
石錐は26点出土している。このうち8点を掲載した。棒状のものが10点、石鏃を転用したもの4点、剥片の一部に機能部を設けたもの12点である。石材はすべて頁岩製。

20~22は棒状のもの。両面加工で棒状に整形している。21の下半部、22の下端部には磨減痕が確認できる。23・24は石鏃を転用したもの。23は有茎凸基の石鏃の先端部を利用したもの。尖頭部の上半部を加工して棒状の機能部を作出している。24は有茎凹基の石鏃の基部を利用したもの。尖頭部の整形が粗いことから未成品を利用したと考えられる。25~27は剥片の一部に機能部を作出したもの。25の下端部には磨減痕がみられる。20~27はすべて頁岩製である。

つまみ付ナイフ (図VI-41-28~32/表VI-8・10/図版54)

つまみ付ナイフは15点出土している。このうち5点を掲載した。すべて縦型で、主に背面を調整したものの9点、腹面の側縁に連続した調整のあるもの5点、両面調整のもの1点である。石材は頁岩13点、チャートとメノウが各1点である。

28・29は背面の全面を調整しているもの。28は下端部が切り出し形で、腹面右側縁に連続した調整がみられる。29は素材剥片の形状により下端部が約50°下方へ曲がっている。30~32は背面の周縁を調整しているもの。30は片面調整で腹面右側に使用痕とみられる光沢がある。31は腹面の周縁に連続した調整がみられる。32は片面調整で右側縁に原石面が残る。つまみ部にアスファルトが帯状に付着する。28・29・30・32は頁岩製、31はメノウ製である。



図VI-41 包含層出土石器等(1)

スクレイパー (図VI-41~43・33~59/表VI-8・10/図版54・55)

スクレイパーは509点出土している。このうち27点を掲載した。へら状のもの17点、挟りのあるもの53点、素材剥片の周縁に調整のあるもの318点、破片121点である。石材は頁岩が482点と大半を占め、次いで泥岩12点、チャート7点などである。

33~37はへら状のもの。33・35は両面調整、34・36・37は片面調整で楕形の形状をしている。33は石槍の基部を再利用した可能性がある。36は使用痕とみられる光沢がある。38~55は素材剥片の周縁に調整があるもの。38~41は円形や楕円形で両面調整のもの。42~51は縦長剥片の側縁を調整したものの。42・48は腹背面の左側縁を調整している。43は主剥離面側に調整をしている。50・51は下端部にも調整している。52~55は横長剥片の周縁に調整があるもの。腹面周縁の一部にも調整がみられる。42・43・44・45・49・50・53・54・55には使用痕とみられる光沢がある。56~59は挟りのあるもの。58は主剥離面側を調整して挟りを作出している。59は右側縁に直線的な刃部、左側縁に3か所の挟りを作出している。33~59はすべて頁岩製である。

楔形石器 (図VI-43-60~64/表VI-8・10/図版55)

楔形石器は9点出土している。このうち5点を掲載した。石材はすべて頁岩である。

60~64は楔形石器。相対する両端の縁辺部に細かい剥離痕がみられ、階段状に剥離している。縦断面は厚い両凸レンズ状をしている。60~64はすべて頁岩製である。

石斧 (図VI-44-65~68/表VI-8・10/図版55)

石斧は15点出土している。このうち4点を掲載した。平面の形状が判別できるものは、楕形が4点、短冊形1点である。このほか、形状の判別できない破片が10点ある。石材は緑色泥岩が8点で最も多く、泥岩4点、砂岩2点、片岩1点である。

65は短冊形のもの。両刃で直刃、全面を研磨している。右側縁に擦り切り痕が残る。66~68は楕形のもの。両刃で曲刃、全面を研磨している。67・68は基部を欠損している。67は両側縁を擦り切り、敲打整形したのち全面を研磨している。65~68はすべて緑色泥岩製である。

石のみ (図VI-44-69/表VI-8・10/図版55)

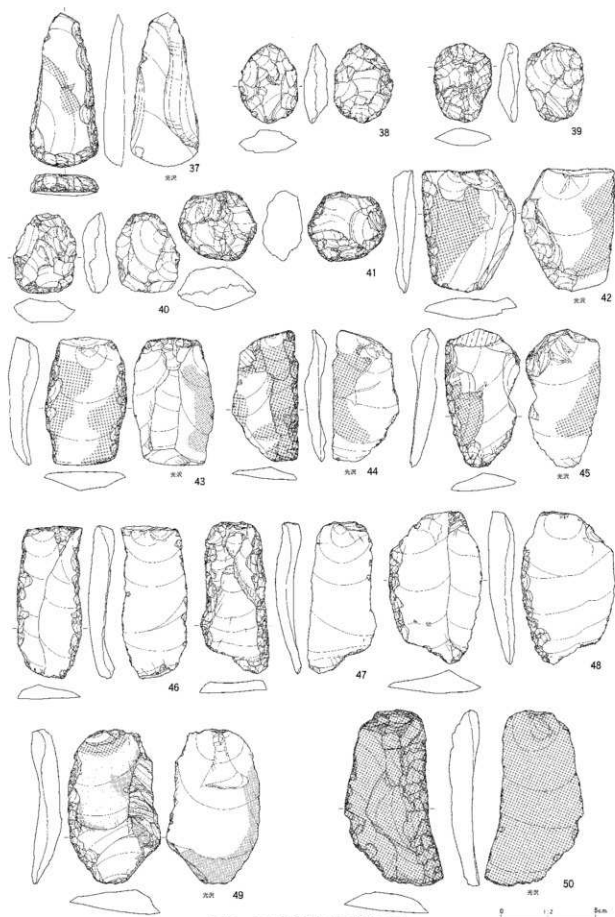
石のみは1点出土している。1点を掲載した。石材はチャートである。

69は短冊形のもの。扁平礫の片側を擦り切り、下端に両刃の刃部を設け、全面を軽く研磨している。たたき石 (図VI-44・45-70~79/表VI-8・10/図版55・56)

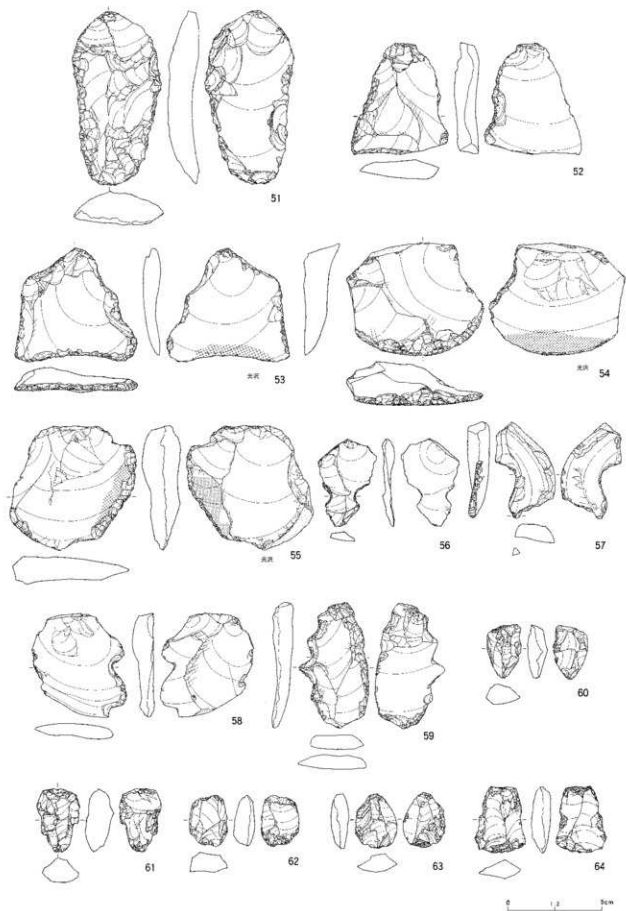
たたき石は253点出土している。このうち10点を掲載した。扁平礫の端部や周縁を使用しているものが多い。石材は泥岩85点と最も多く、次いで安山岩46点、砂岩37点、頁岩29点、チャート24点、珪岩20点などである。

70~73は扁平礫の端部や周縁を利用したもの。73は赤色顔料が付着している。74~76は扁平礫の周縁と腹背部を利用したもの。74は周縁の敲打面が平坦面になっており、すり面の可能性もある。

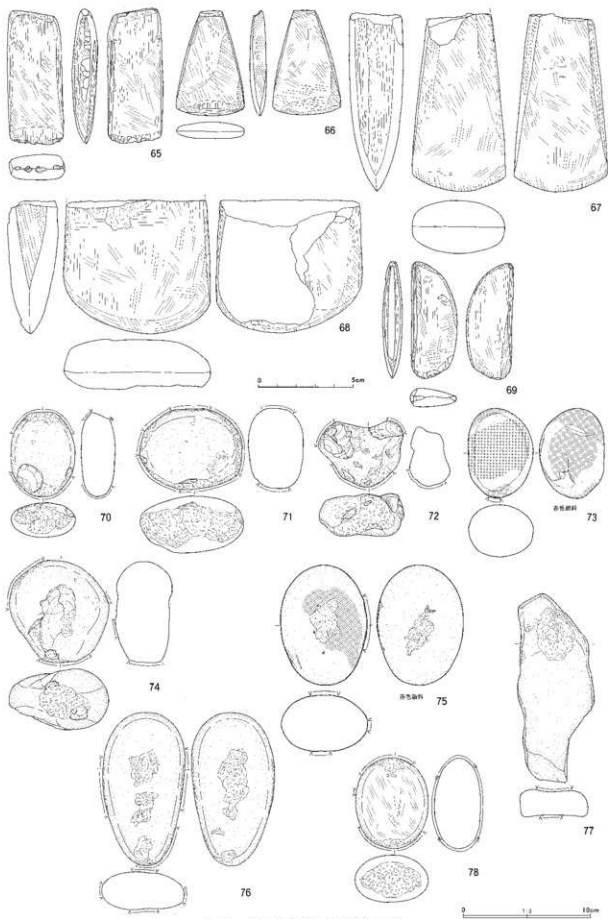
75は赤色顔料が付着している。背面は赤色顔料が付着したあとに敲打されている。77は扁平な棒状礫の腹背面を利用したもの。78・79は扁平礫の平坦面にすり痕がみられるもの。最終使用がたたき石として利用されたと考えられることから、たたき石として分類した。78は扁平礫の周縁に敲打痕があり、腹背面にはすり痕がみられる。79は扁平礫の周縁と腹背面に敲打痕があり、腹背面にすり痕がみられる。70は珪岩製、71・79は安山岩製、72はメノウ製、73・74・78は頁岩製、75・76は砂岩製、77は泥岩製である。73・75に付着していた赤色顔料は、道立埋蔵文化財センターの蛍光X線分析装置で分析したところ、ベンガラであることが確認された。



図VI-42 包含層出土石器等(2)



图VI-43 包含层出土石器等 (3)



图VI-44 包含層出土石器等(4)

凹み石 (図VI-45-80・81/表VI-8・10/図版56)

凹み石は6点出土している。このうち2点を掲載した。石材は泥岩5点、凝灰岩1点である。

80は扁平な棒状礫の腹背部に不定形で浅い凹みのあるもの。側縁には敲打痕がみられる。81は扁平な棒状礫の腹背部に円形で断面半円形の凹みと、不定形で断面円錐状の凹みと浅い凹みのあるもの。80・81は泥岩製である。

すり石 (図VI-45-82~86/表VI-8・10/図版56)

すり石は74点出土している。このうち5点を掲載した。北海道式石冠と称されるものは8点、断面三角形の礫の稜を使っているもの1点、扁平礫の側縁にすり面のあるもの29点、扁平打製石器36点である。扁平打製石器は、扁平礫を打ち欠いて半円形に整形し、弦の部分を両刃のように整形しているものやすり面のあるものがある。完形品は少なく、破片が28点を占める。石材は、安山岩が48点と最も多く、次いで砂岩18点、斑レイ岩4点、凝灰岩3点、泥岩1点である。

82は北海道式石冠と称されるもの。全面を敲打によって整形している。安山岩製。83・84は扁平礫の側縁に擦り面があるもの。腹背部には敲打痕がみられる。たたき石としても利用していた可能性がある。被熱した痕跡がみられる。83は安山岩製、84は砂岩製である。85・86は扁平打製石器。85は楕円形の扁平礫の長軸両端部と一側縁を打ち欠いて半円形に整形し、弦の部分に非常に狭いすり面があるもの。86は扁平礫の周縁を打ち欠いて半円形に整形し、弦の部分にやや幅の広いすり面のあるもの。85は凝灰岩製、86は安山岩製である。

石錐 (図VI-46-87・88/表VI-8・10/図版56)

石錐は3点出土している。このうち2点を掲載した。石材は安山岩2点、砂岩1点である。

87は断面三角形の棒状礫を全面敲打によって調整し、握部のようなへこみを作り出している。使用部位は一部打ち欠いて整形しており、断面形はU字形をしている。88は板状礫の両側縁が使用されているもの。使用部位の断面形状は上側がU字形、下側はV字形に近いU字形である。87は砂岩製、88は安山岩製である。

石錘 (図VI-46-89・90/表VI-8・10/図版56)

石錘は4点出土している。このうち2点を掲載した。扁平礫に抉り状の打ち欠きのあるもの3点、有溝石錘1点である。石材は、安山岩2点、泥岩と砂岩が各1点である。

89は扁平礫の両側縁を打ち欠いたもの。90は有溝石錘といわれるもの。棒状礫を敲打整形し、長軸方向に幅1cm、深さ2mmほどの溝を廻らせている。89は泥岩製、90は安山岩製である。

礫器 (図VI-46-91~96/表VI-8・10/図版56)

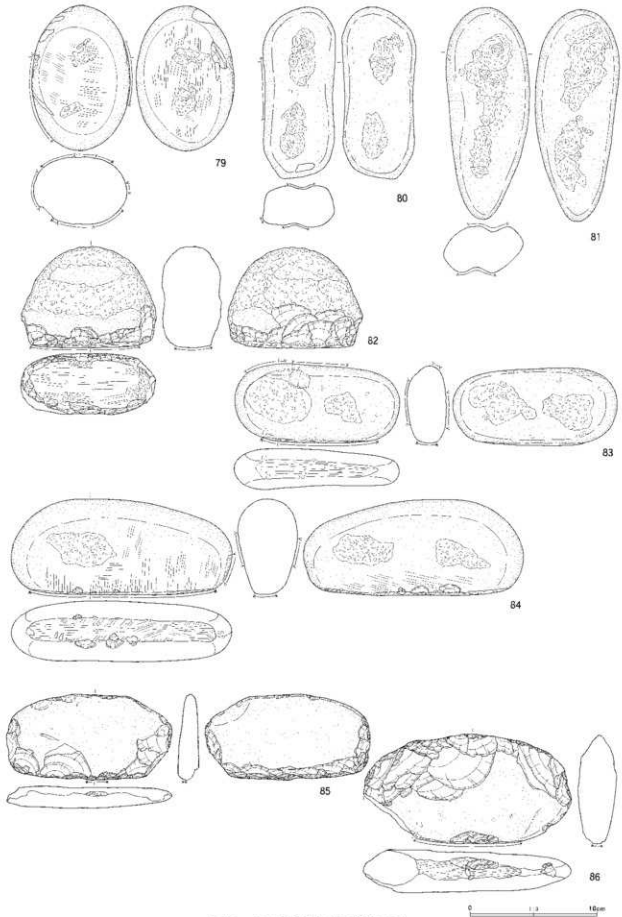
礫器は26点出土している。このうち6点を掲載した。礫を打ち欠いて両刃の刃部を作り出している。石核の可能性もある。石材は、頁岩が17点と最も多く、次いで泥岩6点、安山岩と砂岩とチャート各1点である。

91~96は礫を打ち欠いて両刃の刃部を作り出しているもの。92・95は一部片刃の刃部がある。92・93は腹背面に敲打痕があり、たたき石を転用したと考えられる。96は両端部に敲打痕がみられる。91~96は頁岩製である。

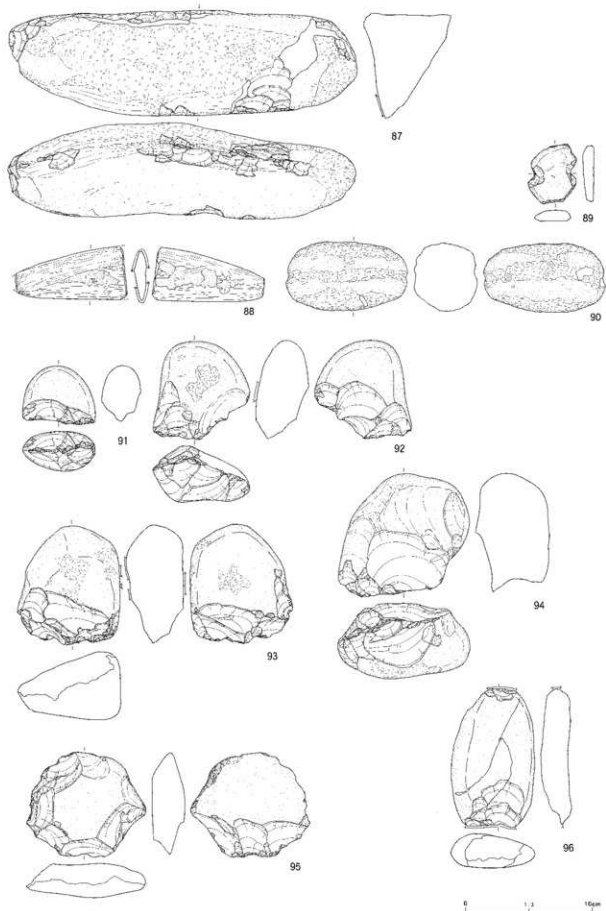
台石 (図VI-47-97・98/表VI-8・10/図版56)

台石は4点出土している。このうち2点を掲載した。扁平礫の平坦面に敲打痕があるもの3点、楕円礫に敲打痕があるもの1点である。石材は、砂岩と安山岩が各2点である。

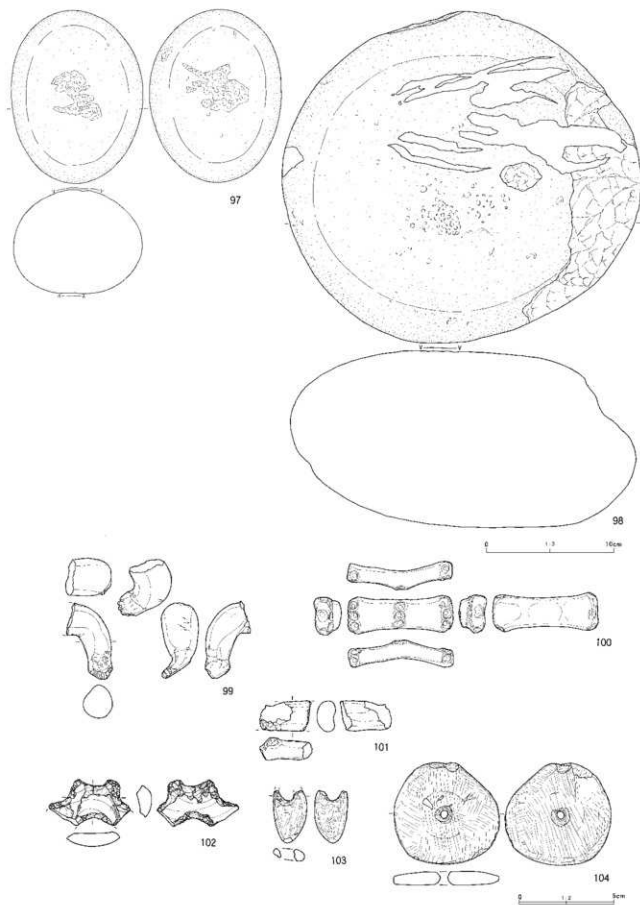
97は楕円礫の腹背部中央に敲打痕がある。たたき石との併用も考えられるが、礫の厚さや重量を考慮し台石に分類した。98は扁平な重円礫の平坦な背部中央に敲打痕がある。97・98は安山岩製である。



図VI-45 包含層出土石器等 (5)



图VI-46 包含层出土石器等(6)



図VI-47 包含層出土石器等 (7)

土製品 (図VI-47-99~101/表VI-8・10/図版57)

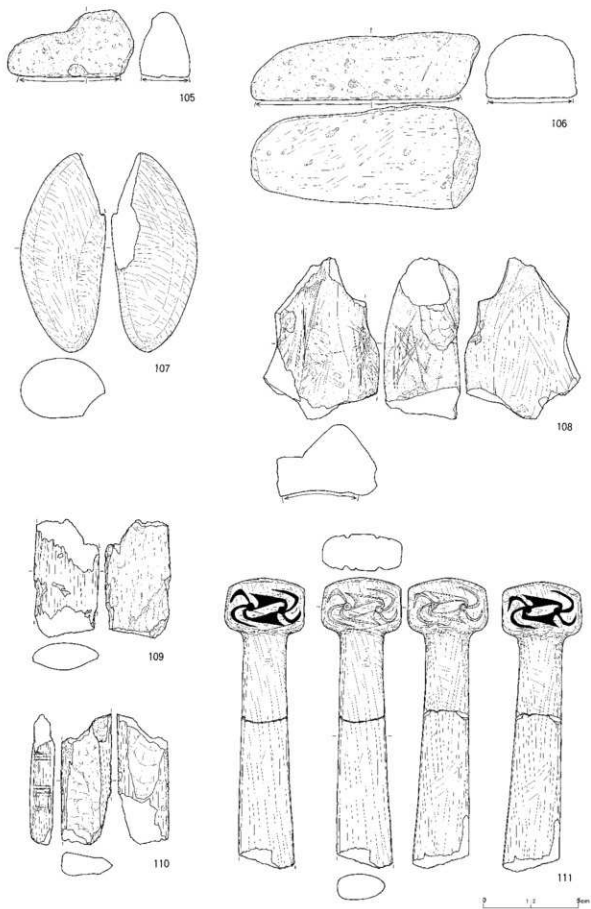
土製品は62点出土している。土偶1点、象嵌土製品2点、焼成粘土塊59点を確認している。このうち土偶と象嵌土製品の3点を掲載した。

99は板状土偶の左腕とみられるもの。肩口の接合部分から折損している。腕の部分は磨きによって整形されている。手と五本の指が表現されている。100・101は象嵌土製品で腕飾りと考えられる。100は形状が長方形で弓状のもの。象嵌部は両端および中央の3か所である。象嵌穴数は両端部が各6か所、中央部が3か所、合計15か所である。象嵌部分にはメノウなどの石があったと推測されるが、残存していない。象嵌穴内に接着剤のような付着物は確認できなかった。象嵌穴は円形で直径3~4mm、深さ2~4mmの円錐状をしている。文様は特に施されていない。101は破片。中央部とみられる部分が残存している。現状で確認できる象嵌穴は1か所のみだが、おそらく100と同様の形状と推定される。これらの様な土製品で弓状をしているものは渡島半島津軽海峡側で出土し、時期は聖山I式期即ち大洞C₂式に並行する時期に伴うと考えられている(児玉, 1998)。

石製品 (図VI-47・48-102~111/表VI-8・10/図版57)

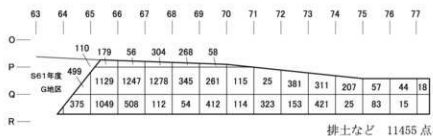
石製品は14点出土している。異形石器1点、有孔石製品2点、軽石製石製品3点、線刻礫3点、石刀4点、石製品1点を確認されている。このうち11点を掲載した。

102は異形石器。横長剥片の側縁を挟り、鋸歯状に加工している。左右両端を折損しているが、左右対称であったと推測される。石材は頁岩である。103・104は有孔石製品。103は垂飾。全面を研磨調整している。穿孔痕は研磨によって消されている。石材は滑石である。104は薄い扁平な礫を円盤状に加工して、中心に穿孔したものを。研磨によって全体を整形したのち、円盤の中心に両面から穿孔している。穿孔時に付いたとみられる同心円状の線刻がみられる。石材は泥岩である。105・106は軽石製石製品。軽石の側縁に幅広の平坦な面を作出したものを。すり石の可能性もあるが、軽石製の模造品と判断した。石材は2点とも軽石である。105は白っぽくて灰白色(2.5Y 7/1)、106はやや赤みがあり明黄褐色(10YR 6/6)をしている。107は、紡錘形の礫の全面が研磨されているもの。すり石の一種の可能性もある。石材は泥岩である。108は線刻礫。砥石片とみられるものに線刻がされているもの。背面と側面に線刻がみられる。規則性などはみられない。刃潰しなどのためにつけられた可能性もある。石材は泥岩である。109~111は石刀。109・110は破片で身の一部。研磨で調整している。110は背の部分に背に直交する4本一組の刻線が3か所施されている。111は、柄頭~柄の部分と柄~刃の部分の2点が接合している。身の形状は内反り刃で、身の途中で折損している。刃間ははっきりとしていない。全面を敲打整形後、研磨によって調整している。柄頭の平面形は胴の張る長方形で、両面に相対する2個の孔とS字状入組文が陰刻で施されている。図では実測図のほかに、陰刻部分を黒塗りして表したものを併記した。全体の残存長は15.3cm、柄と刃は残存長12.5cm、最大幅3.0cm、最大厚1.4cm、柄頭は長さ2.8cm、幅4.2cm、最大厚2.0cmである。石材は片岩である。(酒井)

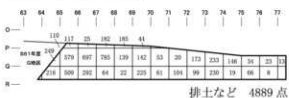


図VI-48 包含層出土石器等(8)

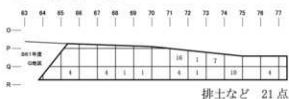
L地区 包含出土遺物総計 21993点



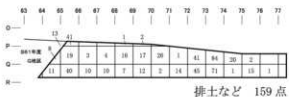
L地区 土器合計 10753点



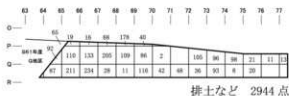
I群 b-3類土器 74点



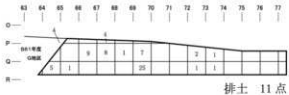
III群 a類土器 696点



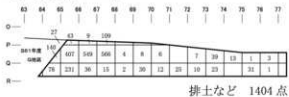
IV群 a類土器 5345点



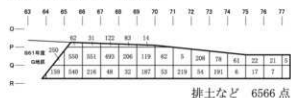
IV群 c類土器 80点



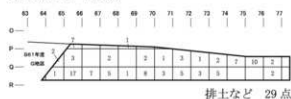
V群 b類土器 3829点



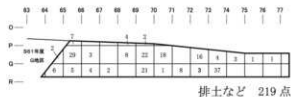
L地区 石器等合計 11240点



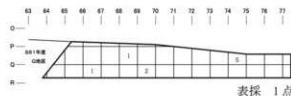
II群 b類土器 129点



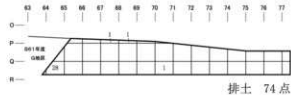
III群 b類土器 426点



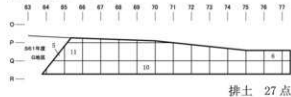
IV群 b類土器 10点



V群 a類土器 105点

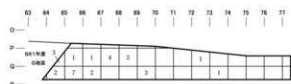


V群 c類土器 59点



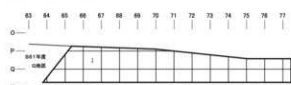
図VI-49 包含層出土遺物分布図(1)

焼成粘土塊 59点



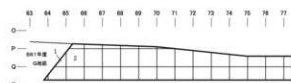
排土など 32点

象嵌土製品 2点



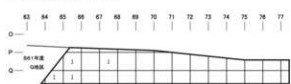
表採 1点

石槽 4点



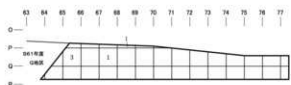
排土 1点

つまみ付ナイフ 15点



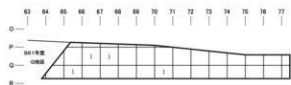
排土 11点

両面調整石器 20点



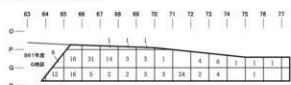
排土 15点

楔形石器 9点



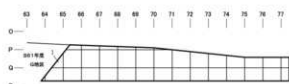
排土など 5点

Uフレイク 526点

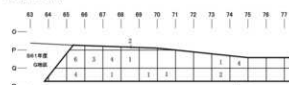


排土など 360点

土偶 1点

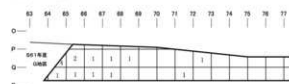


石鏃 53点



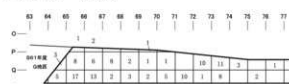
排土 23点

石錐 25点



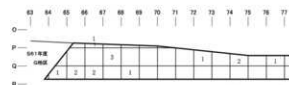
排土など 10点

スクレイパー 509点



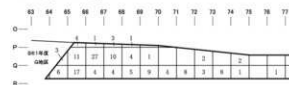
排土など 383点

石核 103点



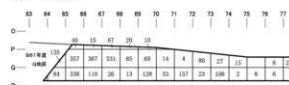
排土 89点

Rフレイク 588点



排土など 449点

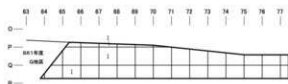
剥片 6484点



排土など 3806点

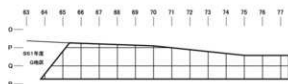
図VI-50 包含層出土遺物分布図(2)

石斧 15点



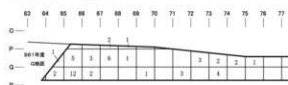
排土など 12点

石のみ 1点



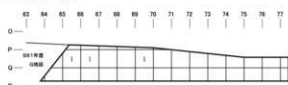
排土など 1点

たたき石 253点



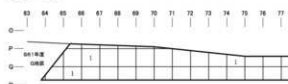
排土など 202点

凹み石 6点



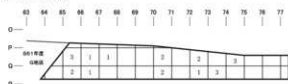
排土 3点

台石 4点



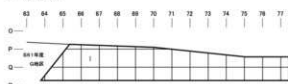
排土 1点

すり石 74点



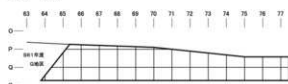
排土 53点

石皿 3点



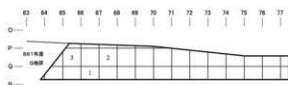
排土 2点

石鏝 3点



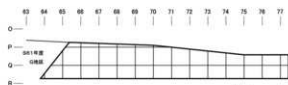
排土 3点

砥石 26点



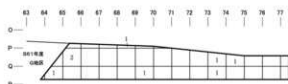
排土など 20点

石鍾 4点



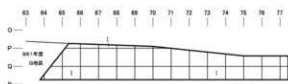
排土 4点

礫器 26点



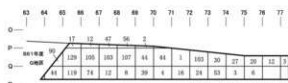
排土など 18点

加工痕のある礫 10点



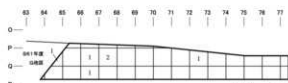
排土 7点

礫・礫片 2403点



排土など 1049点

石製品 14点



排土 8点

図VI-51 包含層出土遺物分布図 (3)

表VI-1 遺構規模一覧

遺構 種別	遺構名	調査区	規模 (m)				形状	長軸方向	時期 (縄文時代)	特徴	図番号	図面番号	
			上層		下層								深さ
			長軸	短軸	長軸	短軸							
LJ1-1	HSP-1	O60a・O70a・ P60a・P70ab・ Q60a/Q70ab	5.10	4.58	5.38	4.44	1.98	そろ豆形	N-80°-W	後期後葉	焼火住居	図版17・18・ 40・41	
			0.42	0.12	0.04	0.04	0.22	不明	不明	不明	不明		図版2-5
LJ1-2	HSP-2	Q70ab	0.82	0.46	—	—	—	不整形	不明	不明	不明	図版18・19・ 41	
			3.22	(1.30)	3.02	(1.22)	0.21	不明	不明	不明	不明		不明
LJ1-3	HSP-3	Q60a	3.88	(1.10)	3.64	(1.02)	0.60	不明	不明	不明	不明	図版19・41	
			0.22	0.20	0.16	0.14	0.19	不明	不明	不明	不明		不明
LJ1-4	HSP-4	Q60a	0.20	0.18	0.12	0.10	0.16	不明	不明	不明	不明	図版19・41	
			0.20	0.10	0.14	0.08	0.12	不明	不明	不明	不明		不明
LJ1-5	HSP-5	Q60a	0.38	0.24	0.16	0.16	0.28	不明	不明	不明	不明	図版19・41	
			0.30	0.24	0.18	0.16	0.44	不明	不明	不明	不明		不明
LJ1-6	HSP-6	Q60a	0.28	0.20	0.20	0.14	0.12	不明	不明	不明	不明	図版19・41	
			0.20	0.18	0.12	0.08	0.24	不明	不明	不明	不明		不明
LJ1-7	HSP-7	Q60b	0.24	0.24	0.08	0.08	0.18	不明	不明	不明	不明	図版19・41	
			4.00	3.16	3.56	3.00	0.38	不整形四角	N-10°-E	不明	不明		不明
LJ1-8	HSP-8	Q60a	0.38	0.32	0.12	0.12	0.38	不明	不明	不明	不明	図版20・41・ 42	
			0.20	0.14	0.08	0.08	0.62	不明	不明	不明	不明		不明
LJ1-9	HSP-9	Q60b	0.20	0.20	0.12	0.12	0.18	不明	不明	不明	不明	図版20・41・ 42	
			0.20	0.16	0.08	0.08	0.56	不明	不明	不明	不明		不明
LJ1-10	HSP-10	Q60a	0.24	0.10	0.08	0.08	0.28	不明	不明	不明	不明	図版20・41・ 42	
			0.24	0.20	0.14	0.10	0.30	不明	不明	不明	不明		不明
LJ1-11	HSP-11	Q60a	0.28	0.28	0.20	0.20	0.30	不明	不明	不明	不明	図版20・41・ 42	
			0.28	0.28	0.18	0.18	0.24	不明	不明	不明	不明		不明
LJ1-12	HSP-12	Q60a	0.32	0.20	0.20	0.20	0.40	不明	不明	不明	不明	図版20・41・ 42	
			0.20	0.18	0.08	0.08	0.42	不明	不明	不明	不明		不明
LJ1-13	HSP-13	Q60a	0.20	0.18	0.12	0.08	0.30	不明	不明	不明	不明	図版21・40・ 42	
			0.24	0.20	0.16	0.16	0.48	不明	不明	不明	不明		不明
LJ1-14	HSP-14	Q60a	0.24	0.14	0.16	0.12	0.10	不明	不明	不明	不明	図版21・40・ 42	
			0.18	0.16	0.04	0.04	0.42	不明	不明	不明	不明		不明
LJ1-15	HSP-15	Q60a	0.36	0.22	0.14	0.14	0.50	不明	不明	不明	不明	図版21・40・ 42	
			0.24	0.20	0.16	0.16	0.48	不明	不明	不明	不明		不明
LJ1-16	HSP-16	Q60a	0.24	0.14	0.14	0.14	0.50	不明	不明	不明	不明	図版21・40・ 42	
			0.36	0.24	0.20	0.20	0.64	不明	不明	不明	不明		不明
LJ1-17	HSP-17	Q60a	0.22	0.18	0.12	0.12	0.12	不明	不明	不明	不明	図版21・40・ 42	
			0.18	0.14	0.10	0.08	0.16	不明	不明	不明	不明		不明
LJ1-18	HSP-18	Q60a	0.18	0.14	0.08	0.08	0.16	不明	不明	不明	不明	図版21・40・ 42	
			0.18	0.14	0.06	0.06	0.14	不明	不明	不明	不明		不明
LJ1-19	HSP-19	Q60a	0.28	0.28	0.12	0.12	0.28	不明	不明	不明	不明	図版21・40・ 42	
			0.30	0.28	0.12	0.10	0.28	不明	不明	不明	不明		不明
LJ1-20	HSP-20	Q60a	0.16	0.14	0.12	0.08	0.18	不明	不明	不明	不明	図版21・40・ 42	
			1.76	0.80	1.86	0.30	1.16	不明	不明	不明	不明		不明
LJ1-21	HSP-21	Q60bc	1.76	0.80	1.86	0.30	1.16	不明	不明	不明	不明	図版21・40・ 42	
			5.26	(4.26)	5.02	(4.24)	0.82	そろ豆形	N-80°-W	不明	不明		不明
CJ1-1	HSP-1	P60a	0.24	0.20	0.10	0.10	0.26	不明	不明	不明	不明	図版21・24・ 42・51	
			0.25	0.25	0.15	0.15	0.29	不明	不明	不明	不明		不明
CJ1-2	HSP-2	P60a	0.50	0.32	0.42	0.18	0.30	長軸四角	不明	不明	不明	図版21・24・ 42・51	
			0.18	0.16	0.24	0.08	0.82	長軸四角	不明	不明	不明		不明
CJ1-3	HSP-3	P60a	0.18	0.16	0.24	0.08	0.82	長軸四角	不明	不明	不明	図版21・24・ 42・51	
			0.42	0.46	—	—	—	不明	不明	不明	不明		不明
CJ1-4	HSP-4	P60a	2.10	0.62	1.82	0.36	0.36	隅丸方形	N-90°-E	不明	不明	図版21・24・ 42・51	
			0.38	0.24	0.10	0.10	0.38	不明	不明	不明	不明		不明
CJ1-5	HSP-5	O60c	0.26	0.22	0.16	0.16	0.40	不明	不明	不明	不明	図版25・51	
			0.24	0.22	0.12	0.10	0.64	不明	不明	不明	不明		不明
CJ1-6	HSP-6	O60c	0.44	0.34	0.20	0.14	0.29	不明	不明	不明	不明	図版25・51	
			0.24	0.20	0.16	0.16	0.36	不明	不明	不明	不明		不明
CJ1-7	HSP-7	P60a	0.10	0.12	0.06	0.06	0.12	不明	不明	不明	不明	図版27・28・ 51	
			0.20	0.62	0.32	0.16	0.26	隅四角	N-80°-E	中期前半	不明		不明
LJ1-1	LP-2	Q60ab	1.02	(0.60)	0.64	(0.60)	0.30	隅四角	N-75°-W	後期前葉	焼火住居	図版27・28・ 51	
			1.36	1.16	1.24	1.04	0.23	不整形四角	N-60°-E	後期前葉	不明		不明
LJ1-2	LP-3	P60a	0.52	0.26	0.44	0.22	0.21	不明	不明	不明	不明	図版27・28・ 51	
			0.46	0.38	0.20	0.18	0.30	不明	不明	不明	不明		不明
LJ1-3	LP-4	Q60a	0.76	0.54	0.54	0.44	0.72	不明	不明	不明	不明	図版27・28・ 51	
			0.72	0.62	0.44	0.34	0.44	隅四角	N-87°-E	中期前半	不明		不明
LJ1-4	LP-5	P60a	0.52	0.20	0.32	0.18	0.20	隅四角	N-84°-E	不明	不明	図版27・28・ 51	
			1.14	0.92	1.08	0.72	0.23	隅四角	N-77°-W	後期前葉	不明		不明
LJ1-5	LP-6	P60a	1.06	0.78	0.90	0.66	0.31	隅四角	N-37°-W	不明	不明	図版27・28・ 51	
			0.88	0.84	0.62	0.60	0.26	不明	不明	不明	不明		不明
LJ1-6	LP-7	Q60a	0.88	0.84	0.62	0.60	0.26	不明	不明	不明	不明	図版27・28・ 51	
			0.46	0.46	0.36	0.34	0.22	不整形四角	不明	不明	不明		不明
LJ1-7	LP-8	Q60a	1.14	0.92	0.98	0.64	0.42	不明	不明	不明	不明	図版27・28・ 51	
			0.56	0.54	0.48	0.30	0.12	不整形四角	不明	不明	不明		不明
LJ1-8	LP-9	Q60a	0.70	0.32	0.56	0.18	0.36	長軸四角	N-67°-E	後期前葉	不明	図版28・51	
			0.42	0.32	0.12	—	—	不明	不明	不明	不明		不明
LJ1-9	LP-10	P60a	0.68	0.28	—	—	—	不整形四角	不明	不明	不明	図版28・51	
			0.94	0.54	—	—	—	不明	不明	不明	不明		不明
LJ1-10	LP-11	Q60a	0.58	0.14	—	—	—	不明	不明	不明	不明	図版28・51	
			0.58	0.14	—	—	—	不明	不明	不明	不明		不明
LJ1-11	LP-12	Q60a	0.20	0.12	—	—	—	不明	不明	不明	不明	図版28・51	
			0.20	0.12	—	—	—	不明	不明	不明	不明		不明
LJ1-12	LP-13	Q60a	0.20	0.12	—	—	—	不明	不明	不明	不明	図版28・51	
			0.20	0.12	—	—	—	不明	不明	不明	不明		不明
LJ1-13	LP-14	Q60a	0.20	0.12	—	—	—	不明	不明	不明	不明	図版28・51	
			0.20	0.12	—	—	—	不明	不明	不明	不明		不明
LJ1-14	LP-15	Q60a	0.20	0.12	—	—	—	不明	不明	不明	不明	図版28・51	
			0.20	0.12	—	—	—	不明	不明	不明	不明		不明
LJ1-15	LP-16	Q60a	0.20	0.12	—	—	—	不明	不明	不明	不明	図版28・51	
			0.20	0.12	—	—	—	不明	不明	不明	不明		不明
LJ1-16	LP-17	Q60a	0.20	0.12	—	—	—	不明	不明	不明	不明	図版28・51	
			0.20	0.12	—	—	—	不明	不明	不明	不明		不明
LJ1-17	LP-18	Q60a	0.20	0.12	—	—	—	不明	不明	不明	不明	図版28・51	
			0.20	0.12	—	—	—	不明	不明	不明	不明		不明
LJ1-18	LP-19	Q60a	0.20	0.12	—	—	—	不明	不明	不明	不明	図版28・51	
			0.20	0.12	—	—	—	不明	不明	不明	不明		不明
LJ1-19	LP-20	Q60a	0.20	0.12	—	—	—	不明	不明	不明	不明	図版28・51	
			0.20	0.12	—	—	—	不明	不明	不明	不明		不明
LJ1-20	LP-21	Q60a	0.20	0.12	—	—	—	不明	不明	不明	不明	図版28・51	
			0.20	0.12	—	—	—	不明	不明	不明	不明		不明
LJ1-21	LP-22	Q60a	0.20	0.12	—	—	—	不明	不明	不明	不明	図版28・51	
			0.20	0.12	—	—	—	不明	不明	不明	不明		不明
LJ1-22	LP-23	Q60a	0.20	0.12	—	—	—	不明	不明	不明	不明	図版28・51	
			0.20	0.12	—	—	—	不明	不明	不明	不明		不明
LJ1-23	LP-24	Q60a	0.20	0.12	—	—	—	不明	不明	不明	不明	図版28・51	
			0.20	0.12	—	—	—	不明	不明	不明	不明		不明
LJ1-24	LP-25	Q60a	0.20	0.12	—	—	—	不明					

表VI-3 遺構出土土器点数一覧

遺構種別	遺構名	分類											合計	
		Ib-3	Ib-4	IIb	IIIa	IIIb	IIIb-1	IIIb-2	IVa	IVb	IVc	Vb		Vc
住居跡	LH-1	2		6	30	41			332		271	280	1	963
	LH-2				3				30		1		24	
	LH-3				2			2	31		2	4	41	
	LH-4		1	5	7	33	133	27	215	1	1	2	425	
	LH-5				1	41			11			1	54	
	CH-1	2		20	68	16			937	20	417	4738	6218	
CH-12			1	2	211			6		5	1	226		
土坑	LP-2				2	1			16		2		21	
	LP-3								5				5	
	LP-4								2				2	
	LP-7											4	4	
	LP-9				2						3		5	
	LP-11				1				6				7	
	LP-13				13								13	
	LP-17								7				7	
焼土	LF-1								4				4	
	LF-2								6				6	
	LF-4								2				2	
	LF-6									1	7		8	
合計	4	1	32	131	343	133	29	1600	22	697	5638	5	8035	

表VI-4 遺構出土石器点数一覧

遺構種別	遺構名	分類																合計							
		石 鉄	石 鏃	石 槌	つまみ骨ナイフ	スクレイパー	面状面状石器	石 槌	Rフレイク	Uフレイク	剥 片	石 斧	たつき石	凹み石	台石	すり石	石 皿		砥石	石 錐	礫 器	加工痕ある礫	礫・礫片	土製品	石製品
住居跡	LH-1	2	2	1	5	4	1		16	13	176		7	1							1	177	13		419
	LH-2				1	1					19											2		1	24
	LH-3				5			1	2	25						1							18	1	53
	LH-4	3	1		1	2			6	8	123		1			2					1		100	4	252
	LH-5	1			3	1		1	1	10		2				1	1						20		41
	CH-1	10	6	1	6	60	2	3	72	140	1755		5	56	5	6	9	4	11		1	5	1311	56	3524
CH-12				1				2	2	9												22			36
土坑	LP-1							1	3						1										5
	LP-2								6						1							10			17
	LP-3																					6			6
	LP-4									1													1		2
	LP-11							1	3														4		8
	LP-13								1														2		3
	LP-14																						2		3
	LP-15												1										3		3
焼土	LP-16				1																1	22			23
	LP-17																								23
	LF-1									7															7
	LF-2									10															10
	LF-3									4															4
	LF-4									99												3			102
	LF-6					1				84												1			86
合計	16	9	2	13	77	5	3	100	166	2355	5	67	6	6	15	5	11	1	1	7	1704	74	1	4649	

表VI-5 遺構出土掲載土器一覧

遺構名	調査号	層位	遺物番号(点数)	小計	合計	高取番号	最大径(mm)		分類	図録番号	備考	
							高さ	口径				
UH-1	RV1-1	層1	65 (1)						IVc	図録G1		
	RV1-2	層1	11 (62)	63	63			(11.9)	(12.7)	IVc	図録G1	
	RV1-3	層1	42 (85)	85	85			(24.5)	9.6 (15.5)	IVc	図録G1	
	RV1-4	層1	62 (269)	69	69			(22.9)	20.5 (16.0)	Vb	図録G1	
	RV1-5	1段目(層1)	154 (1)	192	1			(3.0)	(6.7)	(8.0)	Vb	図録G1
	RV1-6	層1上	72 (2)	2	2						IVa	図録G1
	RV1-7	層1	4 (2)	1	1						IVa	図録G1
	RV1-8	層1上	65 (1)	1	1						IVa	図録G1
	RV1-9	層1	55 (1)	1	1						IVa	図録G1
	RV1-10	層1	69 (1)	1	1						IVa	図録G1
	RV1-11	層1下	10 (2)	2	2						IVa	図録G1
	RV1-12	層1	41 (1)	1	1						IVa	図録G1
	RV1-13	層1	33 (1)	1	1						IVc	図録G1
	RV1-14	層1	14 (9)	9	9						IVc	図録G1
	RV1-15	層1	92 (1)	1	1	2					IVc	図録G1
RV1-16	層1下	62 (81)	6	6						Vb	図録G1	
RV1-17	層1	37 (1)	1	1						Vb	図録G1	
RV1-18	層1	7 (1)	1	1						IVa	図録G1	
RV1-19	層1下	6 (1)	1	1						IVa	図録G1	
RV1-20	層1	8 (1)	1	1						IVa	図録G1	
RV1-21	層1	3 (2)	2	2						IVa	図録G1	
RV1-22	層1	13 (1)	1	1						IVa	図録G1	
RV1-23	層1	14 (1)	1	1						IVa	図録G1	
RV1-24	層1	8 (1)	1	1						IVa	図録G1	
RV1-25	層1	9 (1)	1	1						IVa	図録G1	
RV1-26	層1	11 (1)	1	1						IVa	図録G1	
RV1-11-1	層1	27 (2)	2	10			(9.1)	(15.6)	(16.5)	IIIb-2	図録G1	
RV1-11-2	層1	3 (8)	3	10						IIIb-1	図録G1	
RV1-11-2b	層1	13 (102)	102	102			(26.3)		(12.8)	IIIb-1	図録G1	
RV1-11-2c	層1	36 (1)	1	1						IIIb-1	図録G1	
RV1-11-3	層1	25 (2)	2	11			(6.1)		(12.2)	IIIb-2	図録G1	
RV1-11-4	層1	22 (1)	1	1						IVa	図録G1	
RV1-11-5	層1	1 (2)	2	2						IIIb-2	図録G1	
RV1-11-6	層1	17 (1)	1	1						IIIb-2	図録G1	
RV1-11-7a	層1	38 (3)	3	3						IIIb-2	図録G1	
RV1-11-7b	層1	40 (3)	3	4						IIIb-2	図録G1	
RV1-11-7c	層1	39 (3)	3	4						IIIb-2	図録G1	
RV1-11-7d	層1	28 (4)	4	4						IIIb-2	図録G1	
RV1-11-8	層1	1 (2)	2	2						IIIb-2	図録G1	
RV1-11-9	層1	2 (1)	1	1						IVa	図録G1	
RV1-11-10	層1	42 (1)	1	1						IVa	図録G1	
RV1-11-11	層1	7 (2)	2	3						IVa	図録G1	
RV1-11-12	層1	23 (1)	1	1						IVa	図録G1	
RV1-11-13	層1	15 (1)	1	1						IVa	図録G1	
RV1-11-14	層1	1 (1)	1	1			(15.9)	(16.7)		IVa	図録G1	
RV1-12-1	層1	8 (2)	8	8						IIIb	図録G1	
RV1-12-2	層1	3 (8)	6	6						IIIb	図録G1	
RV1-12-3	層1	7 (1)	1	1						IIIb	図録G1	
RV1-17-1	層1	270 (165)	153	153			(41.7)	41.6 (38.3)	IVc	図録G1		
RV1-18-1	層1上	218 (7)	7	53			(33.7)	39.8 (9.2)	IVc	図録G1		
RV1-18-2	層1	209 (25)	25	25						IVc	図録G1	
RV1-17-3	灰層	272 (3)	3	1	20		9.3	9.8	3.8	IVc	図録G1	
RV1-17-4	層1下	122 (4)	4	81			(17.7)		(5.0)	IVc	図録G1	
RV1-17-5	層1	1 (72)	72	73						IVc	図録G1	
RV1-17-5	II-1 層1上	19 (4)	4	24			(8.5)	(9.8)	7.0	IVc	図録G1	
RV1-18-6	層1	275 (96)	96	96			(19.4)		1.8	IVc	図録G1	
RV1-18-7	層1	273 (1)	1	1						IVc	図録G1	
RV1-18-8	層1	297 (2)	2	13			(2.7)	11.2	8.6	IVc	図録G1	
RV1-18-9	層1下	244 (10)	10	18			(6.5)	7.4	6.2	IVa	図録G1	
RV1-18-10	灰層	271 (1)	1	1	20		(3.5)	(6.1)	(9.8)	IVc	図録G1	
RV1-18-11	層1	249 (1)	1	1						IVa	図録G1	
RV1-18-12	灰層	252 (1)	1	1	11					IVc	図録G1	
RV1-18-13a	層1	264 (1)	1	1						IVa	図録G1	
RV1-18-13b	層1	64 (1)	1	1						IVc	図録G1	
RV1-18-14	層1	8 (2)	2	2						IVa	図録G1	
RV1-18-15	層1上	165 (1)	1	1						IVa	図録G1	
RV1-18-16	層1	261 (1)	1	1						IVa	図録G1	
RV1-18-17	層1	93 (1)	1	1						IVa	図録G1	
RV1-18-18	層1	192 (1)	1	1						IVa	図録G1	
RV1-18-19	層1	32 (1)	1	1						IVa	図録G1	
RV1-18-20	灰層	64 (1)	1	2	2					IVa	図録G1	
RV1-18-21	灰層	243 (1)	1	1	11					IVa	図録G1	
RV1-18-22	灰層	220 (1)	1	1	13					IVa	図録G1	
RV1-18-23	層1	253 (1)	1	1						IVa	図録G1	
RV1-18-24	層1	253 (1)	1	1						IVa	図録G1	
RV1-18-25	層1	358 (1)	1	2						IVb	図録G1	
RV1-18-26	層1	239 (1)	1	1						IVb	図録G1	
RV1-18-27	層1	302 (1)	1	1						IVb	図録G1	
RV1-18-28	層1	303 (1)	1	2						IVb	図録G1	
RV1-18-29	層1	164 (2)	2	2						IVb	図録G1	
RV1-18-28	層1	202 (2)	2	4						IVb	図録G1	
RV1-20-1	層1	2 (8)	8	8						IVb	図録G1	
RV1-20-1	層1上	50 (5)	5	150			(24.6)	(32.0)	(8.3)	Vb	図録G1	
RV1-20-1	層1	84 (12)	12	117						IVb	図録G1	
RV1-20-1	層1	184 (13)	13	13						IVb	図録G1	
RV1-20-2	層1	28 (12)	12	85						IVb	図録G1	
RV1-20-2	層1	56 (7)	7	146			(26.8)		(12.4)	Vb	図録G1	
RV1-20-2	層1	84 (1)	1	14						IVb	図録G1	
RV1-20-2	層1	185 (6)	6	40						IVb	図録G1	
RV1-27-3	層1	56 (1)	1	20			(23.4)	(29.3)		Vb	図録G1	
RV1-27-4	II-1 層1	62 (6)	6	6						Vb	図録G1	
RV1-27-4	層1	65 (10)	10	10						Vb	図録G1	
RV1-27-5	層1	257 (6)	6	7						Vb	図録G1	
RV1-27-6	層1	184 (22)	22	22						Vb	図録G1	
RV1-27-6	層1	2 (2)	2	3						Vb	図録G1	
RV1-28-7	層1上	267 (1)	1	4						Vb	図録G1	

表VI-5 遺構出土掘載土器一覧

遺構名	調査号	層位	遺物番号(点数)	小計	合計	数量 番号	最大径 (cm)			分類	図面番号	備考	
							高さ	口径	底径				
GH-1 V跡土器	IIVI-28-8	層上	17 (22)		17								
		層上中	56 (54)		56	135	22.4	(24.0)	(9.0)	Vh	図版47		
		層上	128 (22)		23								
	IIVI-28-9	層上中	81 (2)		2	4	-	-	-	Vh	図版47		
		層上	189 (1)		1								
	IIVI-28-10	層上	11 (1)		1	6	9.9	(12.3)	(4.4)	Vh	図版47		
		層上中	87 (3)		3								
	IIVI-28-11	層上中	257 (5)		5	7	18.8	(13.4)	7.6	Vh	図版47		
		層上	113 (2)	147 (1)	36 (2)	6	7	-	-	Vh	図版48		
	IIVI-28-12	層上	282 (1)		1								
		層上	142 (4)		4								
		層上中	2 (14)		14	51	(12.5)	18.0	(7.1)	Vh	図版48		
	IIVI-29-13	層上	50 (9)		9								
		層上中	87 (5)	88 (7)	147 (15)	27							
		層上	2 (9)		1	9	6.5	13.1	6.0	Vh	図版47		
	IIVI-29-14	層上	151 (1)		1								
		層上中	56 (2)		2								
	IIVI-29-15	層上中	237 (4)		4	6	8.2	14.3	6.0	Vh	図版48		
		層上	11 (2)		2								
	IIVI-29-16	層上中	219 (2)		2	23	9.8	19.3	9.0	Vh	図版48		
		層上	50 (1)		1	6	8.6	(12.1)	(5.0)	Vh	図版48		
	IIVI-29-17	層上中	87 (5)		5	6							
		層上	96 (1)		1								
	IIVI-29-18	層上中	95 (6)	184 (1)	7	8	5.5	(9.4)	(3.2)	Vh	図版48		
		層上	262 (1)		1	1	-	-	-	Vh	図版48		
	IIVI-29-20	層上	41 (1)	101 (4)	13	13	8.9	9.8	7.7	Vh	図版49		
		層上	2 (1)		1								
	IIVI-29-21	層上中	56 (1)	88 (1)	147 (1)	174 (3)	26	27	9.7	20.9	9.6	Vh	図版49
		層上中	419 (2)	332 (1)	203 (1)	1							
	IIVI-29-22	層上中	87 (1)	132 (2)	203 (1)	3	4	(4.0)	-	(12.5)	Vh	図版48	
		層上	187 (1)		1	1	12.1	14.9	8.3	Vh	図版49		
	IIVI-29-23	層上	151 (1)		1								
		層上	100 (1)	202 (4)		5	8	5.2	(15.0)	3.8	Vh	図版49	
	IIVI-29-24	層上中	56 (1)	192 (1)		6	6	3.0	4.0	4.0	Vh	図版49	
		層上中	87 (3)	191 (3)		4	1	1.9	6.0	-	Vh	図版49	
	IIVI-29-25	層上中	281 (1)		1	1							
		層上	189 (2)		2								
IIVI-30-27	層上	12 (1)		1									
	層上	100 (2)		2	90	43.9	-	(12.0)	Vh	図版49			
	層上中	84 (1)	219 (15)	205 (14)	20								
IIVI-30-28	層上	25 (2)	8 (1)	104 (22)	35								
	層上中	257 (2)	205 (10)		31	31	11.8	5.8	5.0	Vh	図版49		
IIVI-30-29	層上中	87 (1)	88 (18)		29	29	13.4	18.1	(5.0)	Vh	図版49		
	層上	188 (1)		1	1	1	17.0	(13.1)	12.4	Vh	図版49		
IIVI-30-31	層上	271 (1)		1	1	1	5.8	3.7	3.0	Vh	図版49		
	層上	279 (1)		1	1	1	3.8	2.4	2.2	Vh	図版49		
IIVI-30-32	層上中	95 (2)	112 (1)		10	10	(17.4)	(11.3)	(12.2)	Vh	図版49		
	層上	284 (1)		1	1	1	15.1	15.0	4.3	Vh	図版49		
IIVI-30-33	層上	28 (1)		1	1								
	層上	14 (2)		2	5								
IIVI-31-35	層上	219 (1)		1									
	層上	28 (7)	104 (1)		8	8	-	-	-	Vh	図版50		
IIVI-31-36	層上中	147 (8)		8	2								
	層上	109 (1)		1									
IIVI-31-38	層上	28 (2)		2									
	層上	41 (2)		2									
IIVI-31-40	層上	11 (1)	104 (1)		2	2	-	-	-	Vh	図版50		
	層上中	92 (1)		1	1								
IIVI-31-41	層上	96 (1)		1	1								
	層上	96 (4)		4	4								
IIVI-31-42	層上中	257 (1)		1	1								
	層上	156 (1)		1	1								
IIVI-31-43	層上	92 (2)		2	2								
	層上	84 (1)		1	1								
IIVI-31-44	層上	286 (1)		1	1								
	層上中	265 (1)		1	1								
IIVI-31-45	層上中	56 (1)		1	1								
	層上中	112 (1)		1	1								
IIVI-31-46	層上中	56 (1)		1	1								
	層上	56 (1)		1	1								
IIVI-31-51	層上	50 (1)		1	1								
	層上	278 (1)		1	1								
IIVI-31-52	層上中	282 (1)		1	1								
	層上	280 (1)		1	1								
IIVI-31-53	層上	157 (1)		1	1								
	層上	284 (1)		1	1								
IIVI-31-54	層上	9 (85)		95	95	(23.3)	18.4	(7.3)	Vh	図版51	支那土器		
	層上	8 (1)		1	1								
GH-12	IIVI-32-1	層上	2 (1)		1								
	IIVI-32-2	層上	1 (1)		1								
	IIVI-32-3	層上	1 (1)		1								
LP-2	IIVI-33-1	層上	3 (1)		1								
	IIVI-33-2	層上	2 (1)		1								
	IIVI-33-3	層上	4 (2)		2								
LP-3	IIVI-34-1	層上	4 (2)		2								
	IIVI-34-2	層上	1 (1)		1								
	IIVI-34-3	層上	1 (1)		1								
LP-4	IIVI-35-1	層上	1 (1)		1								
	IIVI-35-2	層上	1 (2)		2								
	IIVI-35-3	層上	1 (1)		1								
LP-7	IIVI-36-1	層上	1 (2)		2								
	IIVI-36-2	層上	5 (7)		7		(14.0)	7	(7.0)	Vc	図版51		
	IIVI-36-3	層上	1 (1)		1								
LP-8	IIVI-37-1	層上	2 (1)		1								
	IIVI-37-2	層上	2 (1)		1								
	IIVI-37-3	層上	1 (8)		8	1							
LP-13	IIVI-38-1	層上	1 (1)		1								
	IIVI-38-2	層上	1 (1)		1								
	IIVI-38-3	層上	1 (1)		1								
LP-17	IIVI-39-1	層上	1 (2)		2								
	IIVI-39-2	層上	1 (1)		1								
	IIVI-39-3	層上	1 (1)		1								
LP-9	IIVI-40-1	層上	1 (1)		1								
	IIVI-40-2	層上	1 (1)		1								

表VI-6 遺構出土掘載石器等一覧

遺構名	図番号	遺物番号	層位	分類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	材質	図版番号	備考
LH-1	図VI-5-18	124	床面	石鏃	2.60	0.95	0.25	0.37	頁岩	図版40	①
	図VI-5-19	23	覆土中	石鏃	3.60	1.30	0.70	2.79	頁岩	図版40	
	図VI-5-20	40	覆土下	石鏃	3.80	2.30	0.70	5.66	頁岩	図版40	
	図VI-5-21	38	覆土下	つまみ付ナイフ	8.80	3.60	0.70	20.20	頁岩	図版40	
	図VI-5-22	67	横乱	つまみ付ナイフ	8.80	2.20	0.70	13.02	頁岩	図版40	
	図VI-5-23	68	横乱	つまみ付ナイフ	5.00	3.60	1.00	17.49	頁岩	図版40	
	図VI-5-24	101	床面	スタレイバー	11.90	7.80	2.90	228.93	頁岩	図版41	⑦
LH-2	図VI-5-25	128	覆土上	凹み石	9.20	6.30	4.10	277.93	泥岩	図版41	
	図VI-6-5	2	床面	つまみ付ナイフ	7.70	4.20	1.20	35.42	頁岩	図版41	④
LH-3	図VI-6-6	7	覆土下	スタレイバー	(3.50)	3.00	0.95	(10.61)	頁岩	図版41	へら状石器
	図VI-6-7	4	覆土上	ナリ石	3.30	6.70	5.45	14.02	軽石	図版41	
	図VI-8-7	21	覆土5	スタレイバー	8.70	2.20	1.00	18.79	頁岩	図版41	No2
	図VI-8-8	24	覆土5	スタレイバー	9.35	7.00	1.50	90.17	頁岩	図版41	No7
	図VI-8-9	26	覆土5	スタレイバー	8.60	4.70	1.10	35.66	頁岩	図版41	No8
LH-4	図VI-8-10	25	覆土5	スタレイバー	7.90	5.20	1.80	89.18	頁岩	図版41	No5 へら状石器
	図VI-11-14	51	覆土1	石鏃	2.90	1.35	0.35	0.97	頁岩	図版42	アスファルト付着
	図VI-11-15	31	覆土2	石鏃	3.80	0.80	0.50	1.82	頁岩	図版42	
	図VI-11-16	28	覆土上	ナリ石	9.10	4.45	2.70	180.75	泥岩	図版42	HSP-16
LH-5	図VI-11-17	17	覆土上	ナリ石	8.50	(10.70)	2.25	(272.60)	安山岩	図版42	
	図VI-12-5	14	覆土上	スタレイバー	10.20	7.90	2.05	139.67	頁岩	図版42	
	図VI-12-6	13	覆土上	たたき石	5.90	5.25	3.20	121.50	頁岩	図版42	
	図VI-20-29	540	床面	スタレイバー	6.90	5.30	1.80	52.06	頁岩	図版44	No5
	図VI-20-30	545	床面直上	スタレイバー	6.30	2.30	0.90	6.37	頁岩	図版44	No10
	図VI-20-31	382	床面	たたき石	13.20	6.40	4.20	864.00	安山岩	図版44	No2
	図VI-20-32	660	床面	たたき石	12.00	10.40	6.20	1068.00	安山岩	図版44	No15
	図VI-20-33	542	床面直上	たたき石	7.40	7.00	4.00	306.33	メノウ	図版44	No14
	図VI-20-34	851	床面	台石片	(11.50)	(12.30)	(4.00)	(763.50)	安山岩	図版44	No16
	図VI-20-35	852	床面	台石	31.40	36.70	3.70	7309.00	安山岩	図版44	No17
CH-1	図VI-21-36	28	覆土中	石鏃	(2.00)	1.60	0.40	(0.71)	頁岩	図版44	
	図VI-21-37	284	覆土中	石鏃	(2.50)	1.40	0.30	(0.67)	頁岩	図版44	
	図VI-21-38	112	覆土下	石鏃	(3.10)	1.60	0.50	(1.90)	頁岩	図版44	アスファルト付着
	図VI-21-39	283	覆土上	石鏃	3.90	1.90	0.50	2.23	頁岩	図版44	
	図VI-21-40	694	覆土中	石鏃	4.30	2.40	0.80	5.52	頁岩	図版44	
	図VI-21-41	754	覆土上	石鏃	5.19	1.20	0.60	3.40	頁岩	図版44	アスファルト付着
	図VI-21-42	753	覆土上	石鏃	(3.10)	1.10	0.50	(1.31)	メノウ	図版44	アスファルト付着
	図VI-21-43	324	覆土上	石鏃	(4.10)	2.20	0.70	(4.47)	頁岩	図版44	
	図VI-21-44	603	覆土中	石鏃	5.20	1.80	0.70	4.57	頁岩	図版44	
	図VI-21-45	89	覆土中	石鏃	7.90	4.40	1.50	26.61	頁岩	図版44	
	図VI-21-46	794	覆土6	石鏃	6.30	5.50	2.00	55.21	頁岩	図版44	
	図VI-21-47	283	覆土中	石鏃	7.70	5.40	1.80	41.73	頁岩	図版45	
	図VI-21-48	752	覆土上	つまみ付ナイフ	5.50	4.80	1.10	14.80	頁岩	図版45	
	図VI-21-49	806	覆土中	つまみ付ナイフ	7.30	3.50	0.80	11.89	頁岩	図版45	
	図VI-21-50	356	覆土3	スタレイバー	3.30	1.70	1.20	6.16	メノウ	図版45	へら状石器
	図VI-21-51	590	覆土中	スタレイバー	(4.10)	1.90	0.80	(5.92)	頁岩	図版45	へら状石器
	図VI-21-52	252	覆土中	スタレイバー	6.50	2.40	1.10	18.08	頁岩	図版45	へら状石器 光沢あり
図VI-21-53	332	覆土上	スタレイバー	6.50	2.80	1.50	29.17	頁岩	図版45	へら状石器	
図VI-21-54	697	覆土中	スタレイバー	9.40	2.60	1.00	18.06	頁岩	図版45	光沢あり	
図VI-21-55	604	覆土中	スタレイバー	4.10	3.20	1.20	15.33	頁岩	図版45		
図VI-21-56	308	覆土上	スタレイバー	4.80	5.00	1.50	40.76	頁岩	図版45	侵入石器	
図VI-21-57	696	覆土中	スタレイバー	4.50	3.40	1.40	18.51	頁岩	図版45		
図VI-22-58	250	覆土中	スタレイバー	5.50	4.40	1.40	26.23	頁岩	図版45		
図VI-22-59	30	覆土上	スタレイバー	6.00	3.10	1.00	15.38	頁岩	図版45	光沢あり	
図VI-22-60	558	覆土下	スタレイバー	6.70	3.90	1.40	18.36	頁岩	図版45		
図VI-22-61	698	覆土中	スタレイバー	6.90	4.20	1.00	22.14	頁岩	図版45		
図VI-22-62	628	覆土7	スタレイバー	6.70	3.60	2.10	40.91	頁岩	図版45		
図VI-22-63	309	覆土上	スタレイバー	7.70	4.90	1.50	38.05	頁岩	図版45	光沢あり	
図VI-22-64	425	覆土上	スタレイバー	7.20	5.00	1.70	48.80	頁岩	図版45		
図VI-22-65	591	覆土中	スタレイバー	9.00	6.60	1.70	54.79	頁岩	図版45		
図VI-22-66	705	覆土上	スタレイバー	(10.20)	6.90	2.10	(83.41)	頁岩	図版45	光沢あり	
図VI-22-67	307	覆土上	スタレイバー	10.90	5.60	1.40	50.84	頁岩	図版45	光沢あり	
図VI-23-68	430	覆土上	スタレイバー	12.20	8.80	1.80	119.31	頁岩	図版45		
図VI-23-69	361	覆土7	両面調整石器	10.10	3.30	1.80	45.51	頁岩	図版45	被熱	
図VI-23-70	577	覆土上	石芥	(8.20)	3.70	2.20	(98.20)	泥岩	図版45	被熱	
図VI-23-71	640	覆土上	石芥	8.80	3.50	2.60	114.03	泥岩	図版45	被熱	
図VI-23-72	670	覆土上	たたき石	5.50	4.70	2.70	93.31	チャート	図版45		
図VI-23-73	390	覆土5	たたき石	7.60	5.20	2.60	145.11	チャート	図版45		
図VI-23-74	160	覆土中	たたき石	9.70	6.60	2.60	179.67	泥岩	図版45		
図VI-23-75	328	覆土上	たたき石	7.60	6.80	2.50	136.57	凝灰岩	図版45		

表VI-6 遺構出土掲載石器等一覧

遺構名	図番号	遺物番号	層位	分類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	材質	図版番号	備考
CH-1	図VI-23-76	592	礫土中	たたき石	8.20	5.20	2.80	107.20	泥岩	図版45	被熱
	図VI-23-77	575	礫土中	たたき石	10.50	6.60	3.20	291.66	頁岩	図版45	
	図VI-23-78	716	礫土中	たたき石	12.10	5.10	3.80	324.18	安山岩	図版45	
	図VI-23-79	715	礫土中	たたき石	8.80	7.30	5.20	485.59	安山岩	図版45	
	図VI-23-80	652	礫土下	たたき石	5.10	5.40	3.90	145.89	メノウ	図版45	
	図VI-23-81	637	礫土上	たたき石	6.90	8.10	4.80	294.03	頁岩	図版45	
	図VI-24-82	712	礫土中	たたき石	7.80	6.00	2.60	169.70	安山岩	図版45	
	図VI-24-83	714	礫土中	たたき石	(10.20)	6.50	2.50	(251.81)	安山岩	図版46	
	図VI-24-84	346	礫土中	たたき石	12.20	7.10	4.20	523.50	砂岩	図版46	
	図VI-24-85	148	礫土中	叩み石	(9.70)	4.80	3.00	(125.78)	泥岩	図版46	
	図VI-24-86	150	礫土5	叩み石	10.60	5.60	4.40	243.83	泥岩	図版46	
	図VI-24-87	383	礫土8	叩み石	11.10	8.00	4.50	402.50	泥岩	図版46	被熱
	図VI-24-88	347	礫土中	叩み石	(15.00)	10.60	3.50	(406.50)	泥岩	図版46	
	図VI-24-89	532	礫土上	すり石	8.20	(13.00)	2.30	(231.24)	安山岩	図版46	扁平打製石器
	図VI-24-90	336	礫土中	すり石	10.00	11.50	2.90	385.92	安山岩	図版46	扁平打製石器
	図VI-24-91	683	礫土中	すり石	9.50	(14.00)	6.30	(995.00)	安山岩	図版46	北海道式石冠
	図VI-25-92	774	礫土中	石器	11.40	8.20	4.30	497.89	砂岩	図版46	
	図VI-25-93	834	礫土6	砥石片	(12.20)	(7.10)	(2.90)	(218.03)	砂岩	図版46	
図VI-25-94	274	礫土中	砥石片	(11.50)	(7.90)	(2.50)	(185.93)	砂岩	図版46		
図VI-25-95	646	礫土中	台石片	(20.20)	(22.40)	(9.80)	(5300.00)	安山岩	図版46	被熱	
図VI-25-96	155	礫土下	土製品	(5.60)	(2.90)	(0.90)	(18.00)		図版46	土偶(体部)	
図VI-25-97	276	礫土	土製品	(3.30)	(2.20)	(1.40)	(8.15)		図版46	土偶(右腕部)	
図VI-25-98	153	礫土中	土製品	(2.50)	2.00	1.10	(4.39)		図版46	有孔土製品	
LP-1	図VI-35-1	1	礫土	すり石	10.30	13.30	4.80	1074.50	流れい岩	図版51	北海道式石冠
LP-2	図VI-33-7	3	礫土1	すり石	9.40	(15.70)	1.70	(277.00)	砂岩	図版51	
LP-14	図VI-35-1	1	礫土1	たたき石	10.00	6.40	4.60	275.26	泥岩	図版51	

表VI-7 包含層出土土器点数一覧

層名	分類									合計	
	I b-3	II b	III a	III b	IV a	IV b	IV c	V a	V b		V c
I 層	6	9	19	7	215						428
III 層	6	30	119	60	736	5	40		411		1407
V 層	40	50	357	116	1271	3	27	30	1788	22	3704
表探	2	13	6	114					67		302
攪乱	3	12	45	25	311	2	2	1	92	10	503
排土	19	24	143	212	2698			11	74	1295	4503
不明	2								4		6
合計	74	129	696	426	5345	10	80	105	3829	59	10753

表VI-8 包含層出土石器等点数一覧

層名	分類																	合計									
	石 錐	石 錘	石 棒・ナイフ	つまみ付ナイフ	スクレイパー	面磨調整石器	楔形石器	石 核	Rフレイク	Uフレイク	剥片	石 斧	石 のみ	たたき石	叩み石	すり石	石 皿		砥石	石 籠	石 錘	石器	加工痕のある礫	礫・硬片	土製品	石製品	
I 層		1		6				7	20	210				2		1								1	26	2	276
III 層	9	3	1	34	1		4	29	36	564			11		2	4						1	1	370	5	1	1076
V 層	20	8	3	70	4	3	8	81	89	1581	3		28	3		15	1	5			5	1	882	20	3	2836	
表探	1		1	13			1	24	24	365	1		8					2						23	2	464	
攪乱	1	3		17			1	23	21	317			12			2	1				2			80	3	2	487
排土	23	9	1	11	365	15	4	88	421	336	3437	11	1	191	3	1	53	2	18	3	4	18	7	1018	29	8	6077
不明				4			1	3		10				1										4	1	24	
合計	53	25	4	15	509	20	9	103	588	526	6484	15	1	253	6	4	74	3	26	3	4	26	10	2403	62	14	11240

表VI-9 包含層出土掲載土器一覧

図番号	調査区	層位	遺物番号 (点数)	小計	合計	大きさ (cm)			分類	図番号	備考
						高さ	口径	底径			
図VI-20-1	S05	層土1	29 (2)	2	3	-	-	-	I b-3	図版52	
		I層	38 (1)	1							
図VI-20-2	Q71	V層	10 (12)	13	13	(16.2)	16.0	(9.0)	IIIa	図版52	
		P73	V層	9 (14)	19	31	25.8	(20.0)			
図VI-20-3	表探	表探	19 (1)	1					IVa	図版52	
		C08	層位	2 (60)	9	58	(32.3)	21.9			
図VI-20-4	表探	I層	4 (3)	16	16				IVa	図版52	
		C04	層位	12 (4)	4	4	-	-			
図VI-20-5	S04	層位	12 (4)	4	4	-	-	-	IVa	図版52	
図VI-20-6	L08C	跡土	136 (1)	1	1	-	-	-	IVa	図版52	
図VI-20-7	Q66	V層	9 (9)	9	10	-	-	-	IVa	図版52	
		V層	9 (1)	1							
図VI-20-8	L08C	I層	33 (2)	2	2	-	-	-	IVa	図版52	
		Q65	V層	12 (2)	2	3	-	-			
図VI-20-9	Q66	V層	29 (1)	1	3	-	-	-	IVa	図版52	
		Q69	層位	17 (18)	18	18	-	-			
図VI-20-10	Q61	V層	19 (4)	4	4	-	-	-	Va	図版52	
図VI-20-12	L08C	跡土	212 (1)	1	1	-	-	-	I b-3	図版52	
図VI-20-13	P73	V層	16 (1)	1	1	-	-	-	I b-3	図版52	
		Q65	層土1	29 (1)	1						
図VI-20-14	L08C	跡土	194 (1)	207	(1)	2	3	-	-	I b-3	図版52
図VI-20-15	L08C	跡土	53 (1)	1	1	-	-	-	I b-3	図版52	
		Q65	層土1	23 (1)	1	1	-	-			
図VI-20-16	L08C	跡土	216 (1)	1	1	-	-	-	I b-3	図版52	
図VI-20-18	L08C	跡土	164 (1)	1	1	-	-	-	I b-3	図版52	
図VI-20-19	P73	V層	28 (1)	1	1	-	-	-	I b-3	図版52	
図VI-20-20	P73	V層	16 (1)	1	1	-	-	-	I b-3	図版52	
図VI-20-21	P73	V層	26 (1)	1	1	-	-	-	I b-3	図版52	
図VI-20-22	Q67	V層	16 (2)	2	3	-	-	-	I b-3	図版52	
		L08C	跡土	167 (1)	1	1	-	-			
図VI-20-23	L08C	跡土	198 (1)	1	1	-	-	-	I b-3	図版52	
図VI-20-24	L08C	跡土	191 (1)	1	1	-	-	-	I b-3	図版52	
図VI-20-25	L08C	I層	33 (1)	1	1	-	-	-	I b-3	図版52	
図VI-20-26	Q71	層位	9 (1)	1	1	-	-	-	IIb	図版52	
図VI-20-27	Q69	層位	5 (1)	1	1	-	-	-	IIb	図版52	
図VI-20-28	L08C	跡土	130 (1)	1	1	-	-	-	IIb	図版52	
図VI-20-29	Q72	V層	8 (1)	1	1	-	-	-	IIIa	図版52	
図VI-20-30	Q72	V層	12 (1)	1	1	-	-	-	IIIa	図版52	
図VI-20-31	Q73	V層	8 (1)	1	2	-	-	-	IIIa	図版52	
		Q73	層位	8 (1)	1						
図VI-20-32	L08C	跡土	168 (1)	1	1	-	-	-	IIIa	図版52	
図VI-20-33	L08C	跡土	168 (1)	1	1	-	-	-	IIIa	図版52	
図VI-20-34	L08C	跡土	168 (1)	1	1	-	-	-	IIIa	図版52	
図VI-20-35	P72	層位	19 (1)	1	1	-	-	-	IIIa	図版52	
図VI-20-36	P73	V層	9 (2)	3	3	-	-	-	IIIa	図版52	
図VI-20-37	Q69	V層	14 (2)	1	1	-	-	-	IIIa	図版52	
図VI-20-38	Q72	層位	12 (1)	1	1	-	-	-	IIIa	図版52	
図VI-20-39	L08C	跡土	129 (1)	1	1	-	-	-	IIIb	図版52	
図VI-20-40	L08C	跡土	142 (1)	1	1	-	-	-	IIIb	図版52	
図VI-20-41	L08C	跡土	189 (1)	1	1	-	-	-	IIIb	図版52	
図VI-20-42	Q69	層位	21 (1)	1	1	-	-	-	IIIb	図版52	
図VI-20-43	L08C	跡土	195 (1)	1	1	-	-	-	IIIb	図版52	
図VI-20-44	Q65	V層	31 (1)	1	1	-	-	-	IIIb	図版52	
図VI-20-45	Q65	層位	13 (1)	1	1	-	-	-	IIIb	図版52	
図VI-20-46	Q69	V層	21 (1)	1	1	-	-	-	IIIb	図版52	
図VI-20-47	Q72	層位	24 (1)	1	1	-	-	-	IIIb	図版52	
図VI-20-48	L08C	跡土	165 (1)	1	1	-	-	-	IIIb	図版52	
図VI-20-49	Q69	V層	21 (1)	1	1	-	-	-	IIIb	図版52	
図VI-20-50	P69	V層	12 (1)	1	1	-	-	-	IIIb	図版52	
図VI-20-51	Q71	層位	28 (1)	1	1	-	-	-	IIIb	図版52	
図VI-20-52	Q68	V層	9 (1)	1	1	-	-	-	IIIb	図版52	
図VI-20-53	L08C	跡土	189 (1)	1	1	-	-	-	IIIb	図版52	
図VI-20-54	Q68	層位	19 (1)	1	1	-	-	-	IIIb	図版52	
図VI-20-55	Q67	層位	7 (1)	1	1	-	-	-	IIIb	図版52	
図VI-20-56	L08C	跡土	143 (1)	1	1	-	-	-	IIIb	図版52	
図VI-20-57	L08C	跡土	73 (1)	2	2	-	-	-	IIIb	図版52	
図VI-20-58	L08C	跡土	198 (1)	1	1	-	-	-	IVa	図版52	
図VI-20-59	L08C	跡土	193 (1)	1	1	-	-	-	IVa	図版52	
図VI-20-60	Q68	層位	8 (1)	1	1	-	-	-	IVa	図版52	
図VI-20-61	P69	V層	16 (1)	1	1	-	-	-	IVa	図版52	
図VI-20-62	P73	層位	14 (2)	2	2	-	-	-	IVa	図版52	
図VI-20-63	Q75	V層	2 (1)	1	1	-	-	-	IVa	図版52	
図VI-20-64	Q68	層位	8 (1)	1	1	-	-	-	IVa	図版52	
図VI-20-65	Q67	V層	11 (1)	2	2	-	-	-	IVa	図版52	
図VI-20-66	P74	層位	8 (2)	2	2	-	-	-	IVa	図版52	
図VI-20-67	P72	層位	21 (1)	1	1	-	-	-	IVa	図版52	
図VI-20-68	L08C	跡土	170 (1)	1	1	-	-	-	IVa	図版52	
図VI-20-69	L08C	跡土	170 (1)	1	1	-	-	-	IVa	図版52	
図VI-20-70	L08C	跡土	93 (1)	1	1	-	-	-	IVa	図版52	
図VI-20-71	P67	V層	8 (1)	1	1	-	-	-	IVa	図版52	
図VI-20-72	Q68	層位	8 (1)	1	1	-	-	-	IVa	図版52	
図VI-20-73	Q65	V層	46 (1)	1	1	-	-	-	IVa	図版52	
図VI-40-74	Q64	V層	20 (1)	1	1	-	-	-	IVc	図版52	
図VI-40-75	P69	V層	7 (1)	1	1	-	-	-	IVc	図版52	

表VI-9 包含層出土掲載土器一覧

調査番号	調査区	層位	遺物番号 (点数)	小計	合計	大きさ (mm)			分類	図録番号	備考
						高さ	口径	底径			
ⅡVI-40-76	Q69	遺層	10 (1)	1	1	-	-	-	Vc	図録53	
ⅡVI-40-77	Q70	遺層	9 (1)	1	1	-	-	-	Va	図録53	
ⅡVI-40-78	Q67	V層	17 (1)	1	1	-	-	-	Va	図録53	
ⅡVI-40-79	Q66	V層	3 (1)	1	1	-	-	-	Va	図録53	
ⅡVI-40-80	Q66	遺層	29 (3)	2	3	-	-	-	Vb	図録54	
ⅡVI-40-81	Q66	遺層	20 (1)	1	1	-	-	-	Vb	図録53	
ⅡVI-40-82	L地区	跡土	192 (1)	1	1	-	-	-	Vb	図録54	
ⅡVI-40-83	L地区	跡土	124 (1)	172 (1)	3	3	-	-	Vb	図録54	
ⅡVI-40-84	P64	V層	1 (1)	1	2	-	-	-	Vb	図録54	
	Q65	V層	23 (1)	1	1	-	-	-	Vb	図録54	
ⅡVI-40-85	L地区	跡土	12 (1)	1	1	-	-	-	Vb	図録54	
ⅡVI-40-86	Q64	V層	8 (1)	1	1	-	-	-	Vb	図録54	
ⅡVI-40-87	Q67	V層	16 (1)	1	1	-	-	-	Vb	図録54	
ⅡVI-40-88	Q67	V層	16 (1)	1	1	-	-	-	Vb	図録54	
ⅡVI-40-89	L地区	跡土	154 (1)	1	1	-	-	-	Vb	図録54	
ⅡVI-40-90	P64	V層	16 (1)	1	1	-	-	-	Vb	図録54	
ⅡVI-40-91	L地区	跡土	162 (1)	1	1	-	-	-	Vb	図録54	
ⅡVI-40-92	Q67	V層	12 (1)	1	1	-	-	-	Vb	図録54	
ⅡVI-40-93	L地区	跡土	192 (1)	1	1	-	-	-	Vb	図録54	
ⅡVI-40-94	Q65	V層	30 (1)	1	1	-	-	-	Vb	図録54	
ⅡVI-40-95	Q67	V層	23 (1)	1	1	-	-	-	Vb	図録54	
ⅡVI-40-96	L地区	跡土	255 (1)	1	1	-	-	-	Vc	図録54	
ⅡVI-40-97	L地区	跡土	254 (1)	1	1	-	-	-	Vc	図録54	
ⅡVI-40-98	Q64	V層	4 (1)	1	1	-	-	-	Vc	図録54	
ⅡVI-40-99	L地区	跡土	127 (1)	1	1	-	-	-	Vc	図録54	
ⅡVI-40-100	L地区	跡土	151 (1)	1	1	-	-	-	Vc	図録54	
ⅡVI-40-101	Q68	V層	6 (1)	1	1	-	-	-	Vc	図録54	未発見

表VI-10 包含層出土掲載石器等一覧

調査番号	調査区	遺物番号	層位	分類	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	材質	図録番号	備考
ⅡVI-41-1	P65	103	V層	石鏃	219	0.78	0.27	0.59	真直	図録54	
ⅡVI-41-2	跡土	428	跡土	石鏃	1.93	1.26	0.31	0.45	磨礫石	図録54	
ⅡVI-41-3	P66	20	V層	石鏃	(2.08)	1.23	0.37	10.82	真直	図録54	
ⅡVI-41-4	Q65	6	V層	石鏃	2.74	0.92	0.31	0.70	真直	図録54	
ⅡVI-41-5	跡土	2134	跡土	石鏃	2.98	1.12	0.32	0.75	真直	図録54	アスファルト付着
ⅡVI-41-6	Q67	1	V層	石鏃	2.57	1.21	0.35	0.93	真直	図録54	
ⅡVI-41-7	P65	80	V層	石鏃	2.66	1.14	0.34	0.74	真直	図録54	アスファルト付着
ⅡVI-41-8	Q67	2	V層	石鏃	2.54	1.69	0.46	1.37	真直	図録54	
ⅡVI-41-9	P65	30	V層	石鏃	2.65	1.60	0.43	1.38	真直	図録54	
ⅡVI-41-10	P73	2	遺層	石鏃	3.80	1.34	0.39	1.21	真直	図録54	
ⅡVI-41-11	P65	31	V層	石鏃	3.52	1.28	0.53	2.90	真直	図録54	
ⅡVI-41-12	P74	30	遺層	石鏃	(2.98)	1.44	0.51	(1.21)	真直	図録54	アスファルト付着
ⅡVI-41-13	P74	32	遺層	石鏃	2.94	1.35	0.26	0.85	真直	図録54	
ⅡVI-41-14	P74	31	遺層	石鏃	3.26	2.00	0.28	1.80	真直	図録54	
ⅡVI-41-15	P74	33	遺層	石鏃	3.66	1.51	0.23	0.85	真直	図録54	
ⅡVI-41-16	Q65	92	V層	石鏃	3.30	1.99	0.28	1.69	真直	図録54	
ⅡVI-41-17	Q65	5	V層	石鏃	3.62	2.07	0.59	2.49	磨礫石	図録54	
ⅡVI-41-18	Q68	6	V層	石鏃	4.03	2.21	0.47	2.80	真直	図録54	
ⅡVI-41-19	P64	4	V層	石鏃	4.63	1.90	0.84	7.65	真直	図録54	
ⅡVI-41-20	P64	39	遺層	石鏃	3.28	0.91	0.57	1.79	真直	図録54	
ⅡVI-41-21	P64	8	V層	石鏃	4.66	0.93	0.67	2.59	真直	図録54	
ⅡVI-41-22	P72	38	遺層	石鏃	4.52	1.23	1.25	8.08	真直	図録54	
ⅡVI-41-23	跡土	82	跡土	石鏃	3.62	1.71	0.51	2.33	真直	図録54	
ⅡVI-41-24	跡土	399	跡土	石鏃	(3.10)	2.26	0.52	(3.27)	真直	図録54	
ⅡVI-41-25	跡土	2003	跡土	石鏃	3.62	3.28	0.96	8.92	真直	図録54	
ⅡVI-41-26	Q65	6	I層	石鏃	5.29	2.10	0.82	7.20	真直	図録54	
ⅡVI-41-27	P66	22	V層	石鏃	5.28	2.58	1.00	11.52	真直	図録54	
ⅡVI-41-28	Q64	38	遺層	つばみ付ナイフ	3.96	1.73	0.17	2.70	真直	図録54	
ⅡVI-41-29	跡土	54	跡土	つばみ付ナイフ	4.60	1.32	0.24	3.65	真直	図録54	
ⅡVI-41-30	跡土	369	跡土	つばみ付ナイフ	5.53	2.40	0.55	9.07	真直	図録54	表裏あり
ⅡVI-41-31	P65	28	V層	つばみ付ナイフ	5.21	3.01	1.00	15.30	メノウ	図録54	
ⅡVI-41-32	Q67	7	V層	つばみ付ナイフ	6.37	3.52	0.86	22.50	真直	図録54	アスファルト付着
ⅡVI-41-33	表裏	100	表裏	スクレイパー	4.65	2.45	0.81	7.17	真直	図録54	へら状石鏃
ⅡVI-41-34	跡土	1709	跡土	スクレイパー	4.14	2.09	1.21	10.15	真直	図録54	へら状石鏃
ⅡVI-41-35	Q67	54	V層	スクレイパー	4.80	2.37	0.87	10.01	真直	図録54	へら状石鏃
ⅡVI-41-36	跡土	365	跡土	スクレイパー	5.22	2.57	1.24	16.24	真直	図録55	へら状石鏃 表裏あり
ⅡVI-42-37	P65	105	V層	スクレイパー	8.11	3.58	1.08	39.20	真直	図録55	へら状石鏃 表裏あり
ⅡVI-42-38	跡土	1270	跡土	スクレイパー	4.12	3.11	1.21	14.94	真直	図録55	
ⅡVI-42-39	Q66	4	遺層	スクレイパー	4.99	3.01	0.98	13.35	真直	図録55	
ⅡVI-42-40	Q75	5	V層	スクレイパー	4.10	3.22	1.31	16.47	真直	図録55	
ⅡVI-42-41	跡土	1166	跡土	スクレイパー	3.63	4.06	2.13	35.04	真直	図録55	
ⅡVI-42-42	P73	6	V層	スクレイパー	6.29	4.89	1.11	37.25	真直	図録55	表裏あり
ⅡVI-42-43	跡土	1181	跡土	スクレイパー	6.96	4.22	1.54	43.29	真直	図録55	表裏あり
ⅡVI-42-44	P68	23	V層	スクレイパー	6.76	3.44	0.80	19.45	真直	図録55	表裏あり
ⅡVI-42-45	跡土	1767	跡土	スクレイパー	7.27	3.92	1.36	35.93	真直	図録55	表裏あり
ⅡVI-42-46	Q67	9	V層	スクレイパー	7.58	3.38	0.86	32.01	真直	図録55	

表VI-10 包含層出土掲載石器等一覧

図番	発掘層	遺物番号	層位	分類	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	材質	図録番号	備考
図VI-42-47	P64	2	V層	スクレイパー	7.91	3.43	0.94	27.17	頁岩	図録55	
図VI-42-48	P64	3	V層	スクレイパー	2.90	4.96	1.20	47.41	頁岩	図録55	
図VI-42-49	Q73	61	V層	スクレイパー	8.01	4.80	1.25	45.52	頁岩	図録55	
図VI-42-50	跡土	804	跡土	スクレイパー	9.17	4.38	1.28	56.97	頁岩	図録55	
図VI-43-01	Q65	133	V層	スクレイパー	9.12	4.50	1.32	64.62	頁岩	図録55	
図VI-43-02	Q66	5	遺物	スクレイパー	5.78	5.00	1.11	32.66	頁岩	図録55	
図VI-43-52	跡土	1004	跡土	スクレイパー	5.89	6.34	0.93	31.23	頁岩	図録55	先沢あり
図VI-43-54	P67	67	V層	スクレイパー	5.97	6.84	1.82	65.77	頁岩	図録55	先沢あり
図VI-43-55	Q68	9	V層	スクレイパー	6.43	6.09	1.52	68.36	頁岩	図録55	先沢あり
図VI-43-56	P65	36	V層	スクレイパー	4.51	2.84	0.56	4.80	頁岩	図録55	侵入石器
図VI-43-57	跡土	366	跡土	スクレイパー	4.41	2.71	1.10	14.47	頁岩	図録55	侵入石器
図VI-43-58	Q65	60	遺物	スクレイパー	5.23	4.66	1.08	25.90	頁岩	図録55	侵入石器
図VI-43-59	跡土	2098	跡土	スクレイパー	6.31	3.59	0.83	20.25	頁岩	図録55	侵入石器
図VI-43-60	P67	66	V層	磨料石器	2.69	1.80	1.02	5.02	頁岩	図録55	
図VI-43-61	跡土	770	跡土	磨料石器	3.28	2.25	1.32	10.34	頁岩	図録55	
図VI-43-62	表板	49	表板	磨料石器	2.66	1.97	1.03	6.92	頁岩	図録55	
図VI-43-63	P66	66	V層	磨料石器	2.79	2.17	0.92	5.51	頁岩	図録55	
図VI-43-64	跡土	978	跡土	磨料石器	3.42	2.59	1.00	7.84	頁岩	図録55	
図VI-44-65	跡土	2014	跡土	石斧	6.83	2.90	1.31	56.55	緑色頁岩	図録55	
図VI-44-66	跡土	370	跡土	石斧	5.89	3.58	0.87	27.84	緑色頁岩	図録55	
図VI-44-67	O67	19	V層	石斧	(9.24)	4.88	2.82	(228.70)	緑色頁岩	図録55	
図VI-44-68	P67	94	V層	石斧片	(6.83)	7.77	(2.50)	(226.99)	緑色頁岩	図録55	
図VI-44-69	跡土	1833	跡土	石のみ	6.69	2.38	1.01	22.63	頁岩	図録55	
図VI-44-70	O67	15	V層	たたく石	6.52	5.07	2.68	130.51	頁岩	図録55	
図VI-44-71	跡土	303	跡土	たたく石	6.20	8.04	4.40	220.18	雲山群	図録55	
図VI-44-72	P72	7	遺物	たたく石	4.55	6.46	3.08	125.91	メノウ	図録55	
図VI-44-73	P67	58	V層	たたく石	7.00	5.10	4.10	189.83	頁岩	図録56	
図VI-44-74	P64	20	V層	たたく石	7.97	7.84	4.72	371.53	頁岩	図録56	
図VI-44-75	P67	24	V層	たたく石	9.40	6.80	4.40	406.82	砂岩	図録56	赤色顔料付着
図VI-44-76	P67	47	V層	たたく石	11.88	6.46	3.02	355.01	砂岩	図録56	
図VI-44-77	Q65	121	V層	たたく石	7.08	5.71	3.68	220.65	頁岩	図録56	
図VI-44-78	跡土	1190	跡土	たたく石	14.39	5.95	3.16	242.05	頁岩	図録56	
図VI-44-79	跡土	1296	跡土	たたく石	11.22	7.73	5.64	706.00	雲山群	図録56	
図VI-45-80	P65	14	V層	踏み石	13.24	5.67	3.49	338.03	頁岩	図録56	
図VI-45-81	P69	10	遺物	踏み石	16.40	6.54	4.35	437.73	頁岩	図録56	
図VI-45-82	Q73	60	V層	すり石	7.92	10.59	4.69	587.20	雲山群	図録56	北側溝式石冠
図VI-45-83	跡土	806	跡土	すり石	6.69	12.91	3.13	385.20	雲山群	図録56	
図VI-45-84	P67	95	V層	すり石	7.43	17.56	4.84	966.00	砂岩	図録56	
図VI-45-85	Q70	10	磨料	すり石	6.55	12.85	1.62	194.07	雲山群	図録56	扁平打製石器
図VI-45-86	P65	22	V層	すり石	8.20	16.40	2.26	(194.20)	砂岩	図録56	扁平打製石器
図VI-46-87	跡土	2081	跡土	石籠	8.82	27.50	8.50	1978.50	砂岩	図録56	
図VI-46-88	跡土	886	跡土	石籠片	(4.15)	(8.65)	(1.01)	(42.99)	砂岩	図録56	
図VI-46-89	跡土	514	跡土	石籠	4.31	3.73	9.20	15.87	頁岩	図録56	
図VI-46-90	跡土	2	跡土	石籠	5.42	9.47	5.00	325.50	雲山群	図録56	有線石籠
図VI-46-91	Q64	30	V層	線器	4.47	5.70	3.08	96.63	頁岩	図録56	
図VI-46-92	跡土	168	跡土	線器	7.70	7.04	4.29	250.85	頁岩	図録56	
図VI-46-93	O68	27	V層	線器	9.08	7.84	5.43	480.03	頁岩	図録56	
図VI-46-94	P73	16	V層	線器	9.81	9.07	5.83	661.00	頁岩	図録56	
図VI-46-95	跡土	965	跡土	線器	8.67	9.38	2.61	216.91	頁岩	図録56	
図VI-46-96	P65	17	V層	線器	10.76	6.64	2.71	255.01	砂岩	図録56	
図VI-47-97	Q65	39	I層	打石	13.45	10.34	8.12	1656.00	雲山群	図録56	
図VI-47-98	P66	119	遺物	打石	36.00	28.40	11.80	1365.00	雲山群	図録57	
図VI-47-99	P64	17	V層	土製品	(4.10)	(2.40)	(2.00)	(11.87)	図録56	図録56	土盤(左側面)
図VI-47-100	P64	21	V層	土製品	2.80	5.60	7.20	11.27	図録56	図録56	陶器(左側土製品)
図VI-47-101	表板	6	表板	土製品	(1.60)	(2.70)	(1.20)	(4.63)	図録56	陶器	左側土製品
図VI-47-102	跡土	766	跡土	石製品	2.40	4.20	0.70	7.74	頁岩	図録57	長形石器
図VI-47-103	P64	30	遺物	石製品	(2.80)	1.80	0.80	(5.87)	滑石	図録57	遺物
図VI-47-104	P66	2	磨料	石製品	5.80	5.60	0.80	24.87	凝灰岩	図録57	有孔石製品
図VI-48-005	跡土	2167	跡土	石製品	3.50	6.60	3.00	15.50	頁岩	図録57	軽石製石製品
図VI-48-006	Q66	23	V層	石製品	5.30	12.01	3.43	74.80	頁岩	図録57	軽石製石製品
図VI-48-007	跡土	1440	跡土	石製品	(10.50)	4.40	3.20	(302.51)	滑石	図録57	すり石
図VI-48-008	跡土	521	跡土	石製品	(8.50)	(6.10)	(4.00)	(136.45)	滑石	図録57	磨石籠
図VI-48-009	P72	25	磨料	石製品	(6.20)	(3.50)	(1.40)	(40.80)	片岩	図録57	石刀
図VI-48-010	P67	96	V層	石製品	(6.80)	(2.70)	(1.40)	(27.80)	片岩	図録57	石刀
図VI-48-011	跡土	2230+2231	跡土	石製品	(15.30)	4.20	2.00	(134.96)	片岩	図録57	石刀

VII 自然科学的分析

1 放射性炭素年代測定結果

平成26年度に当財団が株式会社加速器分析研究所に委託し、年代測定の成果として提出された「放射性炭素年代測定結果 報告書」を掲載する。測定の対象となった試料SM4-1～10の採取位置や試料種類、重量などについては、表VII-1-1に記載している。試料は、すべて遺構から出土した炭化クルミや炭化材である。年代測定は、遺構の形成年代を把握することを目的として行った。おおよそ想定した年代が出されたが、やや想定と異なる年代が報告されたものがあつた。以下、各試料の結果についての評価と報告書である。

SM4-1・2・3・5・7・8・9の7点については、想定とほぼ同様の結果を得た。

SM4-1は、JP-3の覆土4層から出土した炭化クルミである。底面からIV群c類土器が出土していることから後期後葉を想定したところ、 $3,050 \pm 30\text{yrBP}$ の結果を得た。SM4-2は、KH-1のHF-1から出土した炭化物である。住居床面からIV群c類土器が出土していることから後期後葉を想定したところ、 $3,170 \pm 30\text{yrBP}$ の結果を得た。SM4-3は、BH-13のHF-1から出土した炭化物である。昭和60年度の調査から中期を想定したところ、 $4,150 \pm 30\text{yrBP}$ と中期後半の結果を得た。SM4-5は、LH-1の床面から出土した炭化材である。LH-1は焼失住居であり、試料は住居の焼失時に構造材が焼け落ちたものと考えられる。床面からIV群c類の土器が出土していることから後期後葉を想定したところ、 $3,160 \pm 30\text{yrBP}$ の結果を得た。SM4-7は、LH-4のHSP-26の埋設土器であるIII群b類土器内から出土した炭化材であることから中期後半を想定したところ、 $4,150 \pm 30\text{yrBP}$ の結果を得た。焼土は確認できなかったが、埋燬炉と推定される。SM4-8は、CH-1の床面から出土した炭化材である。CH-1は焼失住居であり、試料は住居の焼失時に構造材が焼け落ちたものと考えられる。床面からIV群c類の土器が出土していることから後期後葉を想定したところ、 $3,120 \pm 30\text{yrBP}$ の結果を得た。SM4-9は、CH-1が埋設する過程で回んでいた場所に形成されたLF-6から出土した炭化物である。LF-6が形成された面からはV群b類土器が多量に出土していることから晩期中葉を想定したところ、 $2,830 \pm 30\text{yrBP}$ の結果を得た。

SM4-4・6・10の3点については、想定とやや異なる結果を得た。

SM4-4は、LH-1のHF-2から出土した炭化物である。床面からIV群c類の土器が出土していることから後期後葉を想定した。測定結果は $3,360 \pm 30\text{yrBP}$ （後期中葉）と想定よりもやや古めであった。SM4-5と同一遺構であり地床炉と焼失時の構造材であることから、ほぼ同一の年代が出ることを想定していた。誤差の理由は試料の部位の違いなどが考えられる。SM4-6は、LH-2の床面から出土した炭化材である。LH-2は焼失住居であり、試料は住居の焼失時に構造材が焼け落ちたものと考えられる。床面からIV群a類の土器が出土していることから後期前葉を想定した。測定結果は $3,180 \pm 30\text{yrBP}$ （後期後葉）と想定よりもやや新しかった。遺構自体がごく一部しか調査されていないことから土器が流れ込みだった可能性がある。測定結果の後期後葉が遺構の年代である可能性が高い。SM4-10は、LH-4が埋没する過程で回んでいた場所に形成されたLF-7から出土した炭化物である。LF-6と確認状況が似ていることから晩期中葉を想定した。測定結果は $3,740 \pm 30\text{yrBP}$ （後期前葉）と想定よりも古かった。LH-4は中期後半だが、覆土中からは後期前葉の遺物が多く出土している。住居の廃絶後に埋没する過程で、後期前葉にLF-7が形成されたと考えられる。

（酒井）

新道4遺跡における放射性炭素年代

(AMS測定)

榊加速器分析研究所

1 測定対象試料

新道4遺跡は、北海道上磯郡木古内町字新道113番10外4筆に所在する。測定対象試料は、遺構から出土した炭化クルミと炭化材の合計10点である(表1)。

2 測定の意義

遺構の年代を明らかにする。

3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸 (AAA: Acid Alkali Acid) 処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常 1 mol/l (1 M) の塩酸 (HCl) を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム (NaOH) 水溶液を用い、 0.001 M から 1 M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1 M に達した時には「AAA」、 1 M 未満の場合は「AaA」と表1に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素 (CO_2) を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト (C) を生成させる。
- (6) グラファイトを内径 1 mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4 測定方法

加速器をベースとした ^{14}C -AMS専用装置 (NEC社製) を使用し、 ^{14}C の計数、 ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)、 ^{14}C 濃度 ($^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$) の測定を行う。測定では、米国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (HOx II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5 算出方法

- (1) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (%) で表した値である(表1)。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) ^{14}C 年代 (Libby Age: yrBP) は、過去の大気中 ^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年 (0 yrBP) として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期 (5568年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。 ^{14}C 年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。 ^{14}C 年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、 ^{14}C 年代の誤差 ($\pm 1\sigma$) は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。
- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMCが小さい (^{14}C が少くない) ほど古い年代を示し、pMCが100以上 (^{14}C の量が標準現代炭素

と同等以上)の場合Modernとする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。

- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{13}C 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{13}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 ^{13}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差(1 σ =68.2%)あるいは2標準偏差(2 σ =95.4%)で表示される。グラフの縦軸が ^{13}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない ^{13}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13データベース(Reimer et al. 2013)を用い、OxCalv4.2較正プログラム(Bronk Ramsey 2009)を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2に示した。暦年較正年代は、 ^{13}C 年代に基づいて較正(calibrate)された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」)という単位で表される。

6 測定結果

測定結果を表1、2に示す。

試料10点の ^{13}C 年代は、4150 \pm 30yrBP(SM4-3、7)から2830 \pm 20yrBP(SM4-9)の間にある。暦年較正年代(1 σ)は、最も古いSM4-7が2866~2669cal BCの間に3つの範囲、最も新しいSM4-9が1016~935cal BCの間に2つの範囲で示され、全体として縄文時代中期中葉から晩期中葉頃に相当する。試料別に見ると、古い方から順にSM4-3、7が中期中葉から後葉頃、SM4-10が後期前葉頃、SM4-4が後期中葉頃、SM4-2、5、6が後期中葉から後葉頃、SM4-1、8が後期後葉から末葉頃、SM4-9が晩期中葉頃に当たる(小林編2008)。

試料の炭素含有率はすべて60%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

表1 放射性炭素年代測定結果($\delta^{13}\text{C}$ 補正值)

測定番号	試料名	採取場所	試料 形態	処理 方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-142115	SM4-1	JP-3 覆土4層	炭化クルミ	AaA	-26.03 \pm 0.27	3,050 \pm 30	68.43 \pm 0.23
IAAA-142116	SM4-2	KH-1 HF-1 焼土	炭化材	AAA	-28.07 \pm 0.23	3,170 \pm 30	67.35 \pm 0.22
IAAA-142117	SM4-3	BH-13 HF-1 焼土	炭化材	AAA	-25.36 \pm 0.31	4,150 \pm 30	59.69 \pm 0.20
IAAA-142118	SM4-4	LH-1 HF-2 焼土	炭化材	AaA	-26.34 \pm 0.26	3,360 \pm 30	65.80 \pm 0.22
IAAA-142119	SM4-5	LH-1 床面	炭化材	AAA	-22.68 \pm 0.35	3,160 \pm 30	67.44 \pm 0.23
IAAA-142120	SM4-6	LH-2 床面	炭化材	AAA	-24.66 \pm 0.29	3,180 \pm 30	67.33 \pm 0.21
IAAA-142121	SM4-7	LH-4 HSP-26 覆土	炭化材	AAA	-26.68 \pm 0.26	4,150 \pm 30	59.66 \pm 0.20
IAAA-142122	SM4-8	CH-1 床面直上	炭化材	AAA	-22.85 \pm 0.30	3,120 \pm 30	67.84 \pm 0.22
IAAA-142123	SM4-9	LF-6 焼土	炭化材	AAA	-23.76 \pm 0.27	2,830 \pm 20	70.27 \pm 0.21
IAAA-142124	SM4-10	LF-7 焼土	炭化材	AaA	-25.01 \pm 0.34	3,740 \pm 30	62.79 \pm 0.21

[#6980]

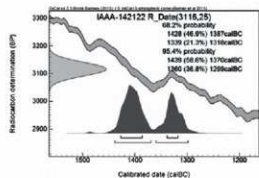
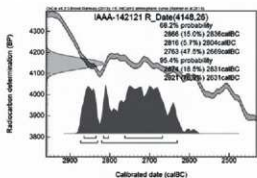
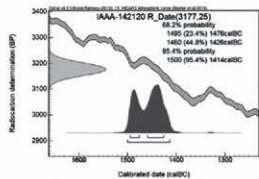
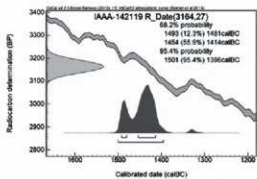
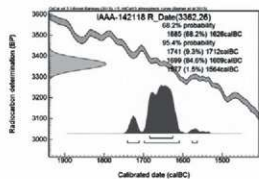
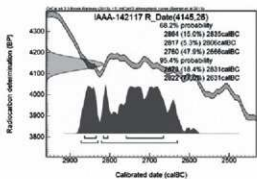
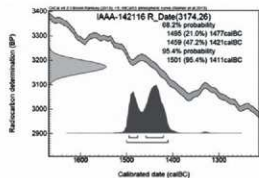
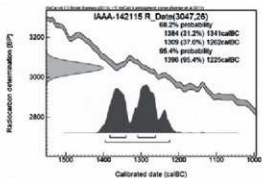
表2 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代)

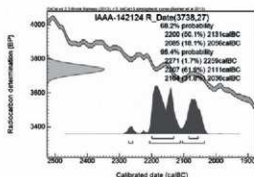
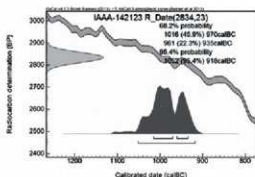
測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-142115	3,060 ± 30	68.29 ± 0.22	3,047 ± 26	1384calBC-1341calBC (31.2%) 1309calBC-1262calBC (37.0%)	1396calBC-1225calBC (95.4%)
IAAA-142116	3,230 ± 30	66.93 ± 0.21	3,174 ± 26	1495calBC-1477calBC (21.0%) 1459calBC-1421calBC (47.2%)	1501calBC-1411calBC (95.4%)
IAAA-142117	4,150 ± 30	59.64 ± 0.20	4,145 ± 26	2864calBC-2835calBC (15.0%) 2817calBC-2806calBC (5.3%) 2760calBC-2666calBC (47.9%)	2873calBC-2831calBC (18.4%) 2822calBC-2631calBC (77.0%)
IAAA-142118	3,380 ± 30	65.62 ± 0.21	3,362 ± 26	1685calBC-1626calBC (68.2%)	1741calBC-1712calBC (9.3%) 1699calBC-1609calBC (84.6%) 1577calBC-1564calBC (1.5%)
IAAA-142119	3,130 ± 30	67.77 ± 0.23	3,164 ± 27	1493calBC-1481calBC (12.3%) 1454calBC-1414calBC (55.9%)	1501calBC-1396calBC (95.4%)
IAAA-142120	3,170 ± 30	67.38 ± 0.21	3,177 ± 25	1495calBC-1476calBC (23.4%) 1460calBC-1425calBC (44.8%)	1500calBC-1414calBC (95.4%)
IAAA-142121	4,180 ± 30	59.46 ± 0.19	4,148 ± 26	2866calBC-2836calBC (15.0%) 2816calBC-2804calBC (5.7%) 2763calBC-2669calBC (47.5%)	2874calBC-2831calBC (18.5%) 2821calBC-2631calBC (76.9%)
IAAA-142122	3,080 ± 30	68.14 ± 0.22	3,116 ± 25	1428calBC-1387calBC (46.9%) 1339calBC-1318calBC (21.3%)	1439calBC-1370calBC (58.6%) 1360calBC-1299calBC (36.8%)
IAAA-142123	2,810 ± 20	70.45 ± 0.21	2,834 ± 23	1016calBC-970calBC (45.9%) 961calBC-935calBC (22.3%)	1052calBC-918calBC (95.4%)
IAAA-142124	3,740 ± 30	62.79 ± 0.21	3,738 ± 27	2200calBC-2131calBC (50.1%) 2085calBC-2056calBC (18.1%)	2271calBC-2259calBC (1.7%) 2207calBC-2111calBC (61.9%) 2104calBC-2036calBC (31.8%)

[参考値]

文献

- Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360
- 小林達雄編 2008 総覧縄文土器, 総覧縄文土器刊行委員会, アム・プロモーション
- Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, *Radiocarbon* 55(4), 1869-1887
- Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363





〔図版〕暦年較正年代グラフ(参考)

表Ⅶ-1-1 放射性炭素年代測定試料一覧

試料番号	遺構名	採取グッド	層位	試料種類	重量	採取日	測定法	年代想定	測定結果 (yrBP)	備考
SM4-1	JP-3	J地区 JS5	覆土4層	炭化クルミ	0.31	13.05.21	AMS	後期後葉	後期後～末葉 3,050±30	フラスコ状土坑 底面・覆土中より中期後半と 後期後葉の土器
SM4-2	KH-1 HF-1	K地区 P55	焼土	炭化材	0.08	13.11.06	AMS	後期後葉	後期中～後葉 3,170±30	床面より後期後葉の土器
SM4-3	BH-13 HF-1	K地区 O54	焼土	炭化材	0.10	13.10.28	AMS	中期	中期中～後葉 4,150±30	石厨戸
SM4-4	LH-1 HF-2	L地区 Q70	焼土	炭化材	0.30	13.09.11	AMS	後期後葉	後期中葉 3,360±30	焼失住居 床面より後期後葉の土器
SM4-5	LH-1	L地区 Q70	床面	炭化材	0.69	13.08.27	AMS	後期後葉	後期中～後葉 3,160±30	焼失住居 サンプルNo.2 床面より後期後葉の土器
SM4-6	LH-2	L地区 Q71	床面	炭化材	0.45	13.09.29	AMS	後期前葉	後期中～後葉 3,180±30	焼失住居 サンプルNo.2 覆土中から後期前葉の土器
SM4-7	LH-4 HSP-26	L地区 Q66	覆土	炭化材	0.21	13.10.08	AMS	後期後葉	中期中～後葉 4,150±30	LH-4 HSP-26 埋設土器(中 期後半) 内部の土から出土した 炭化材
SM4-8	CH-1	L地区 P66	床面直上	炭化材	0.19	13.09.19	AMS	後期後葉	後期後～末葉 3,120±30	焼失住居 床面直上検出炭化材 No.1 床面より後期後葉の土器
SM4-9	LF-6	L地区 P67	焼土	炭化材	0.57	13.09.10	AMS	晩期中葉	晩期中葉 2,830±20	CH-1覆土6層上面に形成 焼土周辺からは縄文晩期中葉の 遺物が多量に出土
SM4-10	LF-7	L地区 Q66	焼土	炭化材	0.23	13.09.11	AMS	晩期中葉	後期前葉 3,740±30	LH-4覆土中に形成 LH-4床面からは中期後半の土器、 覆土中には後期前葉の土器

2 木古内町新道4遺跡出土の動物遺存体について

はじめに

全て焼けた骨で、遺構（焼土）から85.99gの量が得られており、回収された動物遺存体全量に目を通した。対比現生骨格標本は、福井所有のエゾシカ、ニシンなどを使用した。

1 出土骨の特徴

全て火で長時間焼かれたもので、薄灰色～白色化し、小片となっていた。記載にあたっては、全体を重量で示し、種や部位を同定できたものについてのみ点数を数えた。

2 魚類

ツノザメ科：背鰭棘1点が同定された。

ニシン科：椎骨2点と、やや不明確ながら前鋤骨1点が同定された。

サケ科？：椎骨破片が比定された。

カサゴ目：前鋤骨、前前上顎骨各1点が同定された。

ほか、キュウリウオサイズの椎骨も含まれていた。

3 鳥類

ウミガラス属：左中手骨近位部、右脛骨遠位部のほか、やや不明確ながら左脛骨遠位部も含まれていた。

4 哺乳類

ニホンジカ：角、種子骨1点が同定された。

陸獣類：イノシシやヒグマが含まれる可能性は否定できないが、ほとんどがニホンジカの骨片と考えられる。頭蓋骨などが含まれていた。

海獣類：破片のため、属種不明である。

5 骨角器

鹿角製品である。1点は円柱状で、表面は光沢をもつ。ルーペで観察すると、わずかに粗研磨による線状痕が観察された。表面の光沢と、直径から、鬚針の体部破片と推定した。もう1点は、粗雑な研磨による線状痕を残した破片である。

おわりに

LF-6が、84.19gと全体のほとんどを占めており、魚類、鳥類、哺乳類各種を含んでいた。ニホンジカ主体とみられる陸獣骨片が大半であった。LF-1、LF-7からは、魚骨のみが回収されている。なお、同定に当たっては、土肥研晶氏・加藤量子氏の協力を得た。記して感謝いたします。

(福井)

脊椎動物門 Vertebrata

軟骨魚綱 Class Chondrichthyes

ツノザメ目 Order Squaliformes

ツノザメ科 Family Squalidae

硬骨魚綱 Class Osteichthyes

ニシン目 Order Clupeiformes

ニシン科 Family Clupeidae

サケ目 Order Salmoniformes

サケ科？ Family Salmonidae？

カサゴ目 Order Scorpaeniformes

鳥綱 Class Aves

チドリ目 Order Charadriiformes

ウミスズメ科 Family Alcidae

ウミガラス属 *Uria* sp.

哺乳綱 Class Mammalia

ウシ目(偶蹄目) Order Artiodactyla

シカ科 Family Cervus

ニホンジカ *Cervus nippon*

海獣類

表VII-2-1 遺構出土動物遺存体一覧

遺構	番号	種類	部位	点数	重量(g)	備考
LF-1	1	魚類	棘片		0.08	
	2	種不明	骨片		0.03	
LF-2	1	哺乳類(陸獣)	骨片		0.15	
	2	種不明	骨片		0.11	
LF-6(L)	1	魚類(キュウリウオサイズ)	第1椎骨?	1	0.01	
	2	魚類(キュウリウオサイズ)	椎骨	2	0.01	
	3	ニシン科	腹椎	1	0.01	
	4	ツノザメ科	背鰭棘	1	0.09	
	5	ウミガラス属	中手骨左近位部	1	0.08	
	6	ウミガラス属	脛骨右遠位部	1	0.11	
	7	サケ科?	椎骨破片	(6)	0.03	
	8	魚類	基後頭骨	1	0.01	
	9	魚類	棘片		1.32	
	10	ウミガラス属?	脛骨左遠位部	1	0.06	
	11	鳥類	骨片		0.81	
	12	種不明	頭蓋骨片		0.9	
	13	哺乳類	骨片		0.74	
	14	種不明	骨片		3.36	
LF-6(W)	1	ニシン科?	前鋤骨	1	0.01	
	2	カサゴ目	前鋤骨	1	0.03	1/2左側
	3	魚類	椎骨	2	0.01	
	4	サケ科?	椎骨破片	(2)	0.01	
	5	ニホンジカ	角破片		17.04	
	6	ニホンジカ	種子骨	1	0.44	
	7	骨角器		(3)	0.85	鹿角製(髮針か)
	8	魚類	椎骨破片		0.03	
	9	魚類	棘片		0.55	
	10	魚類	骨片		1.17	
	11	鳥類	骨片		0.09	
	12	哺乳類(海獣)	骨片		2.35	
	13	哺乳類(陸獣)	骨片		39.13	ニホンジカ主
	14	哺乳類(陸獣)	骨片		12.42	種不明混
	15	種不明	骨片		0.04	
	16	骨角器		(1)	0.2	鹿角製
LF-7	1	ニシン科	尾椎	1	0.01	
	2	サケ科?	椎骨破片	(8)	0.02	
	3	カサゴ目	前上顎骨	1	0.02	
	4	魚類	椎骨破片	(8)	0.05	
	5	魚類	骨片		0.49	
	6	魚類	棘片?	1	0.06	大型
	7	魚類	棘片		0.27	
	8	石器				頁岩チップ

表Ⅶ-4 地区・時期別竪穴住居跡軒数一覧

地区名	時期								合計
	Ⅱb	Ⅲ	Ⅲa	Ⅲb	Ⅲ~Ⅳ	Ⅳa	Ⅳc	不明	
A地区									0
B地区	3	2		7	1	3		3	19
C地区	1		2	7			2		12
D地区	4		1	7			2		14
E地区			1						1
F地区				2					2
G地区			3	3		2	1		9
H地区									0
J地区									0
K地区				1(1)		1	1		2(1)
L地区				3(1)		1	3(1)		5(2)
合計	8	2	7	28	1	7	8	3	64

() 内の数は他地区と重複する遺構の数

遺物は、土器523,369点、石器等392,189点、陶磁器片69点、木製品97点、合計915,724点が出土している。土器は後期前葉が非常に多く約5割を占める。石器等は石織、スクレイパー、たつき石、すり石といった定型石器のほか、土偶、鐔形土製品、足形付土版、再生土製円盤などの土製品、異形石器、石刀、有孔石製品などの石製品、盆状漆器や石筭柄などの木製品が出土している。

平成25年度の調査では北海道新幹線建設工事に伴って745㎡の発掘調査を行った。昭和59～61年度調査のB・C・D・G地区の隣接地にあたる。竪穴住居跡は10軒を検出し、うち3軒（BH-13、CH-1・12）は以前調査された竪穴住居跡の続きである。K地区で3軒、L地区で7軒を確認している。時期は中期後半4軒、後期前葉2軒、後期後葉4軒である。土坑は34基を検出した。うち1基（BP-143）は以前調査された土坑の続きである。J地区で16基、K地区で3基、L地区で15基を確認している。時期は中期前半3基、中期後半2基、後期2基、後期前葉8基、後期中葉1基、晩期中葉1基、晩期後葉1基、不明16基である。フラスコ状土坑は7基を検出した。J地区で2基、K地区で5基を確認している。時期は前期後半3基、後期前葉3基、後期後葉1基である。柱穴様小ピットはK地区で52基を検出した。時期は後期前葉のものが大半を占める。焼土は14か所を検出した。J地区で1か所、K地区で6か所、L地区で7か所を確認している。時期は後期前葉6か所、後期中葉1か所、晩期中葉1か所、不明6か所である。盛土遺構は1か所をK地区で検出している。層厚10cm程の黒褐色土中に褐色土塊が含まれる範囲で、B・G地区で確認された後期前葉の盛土遺構の一部と推定される。

遺物は土器が23,953点、石器等が20,369点、合計44,322点が出土した。土器は後期前葉と晩期中葉が多い。地区別ではJ地区が後期前葉・後葉、K地区が後期前葉・前期後半・中期前葉、L地区が晩期中葉・後期前葉の土器が多く出土している。石器等は剥片石器が石織・スクレイパー、礫石器がたつき石・すり石が多い。剥片石器の素材は頁岩がほとんどを占め、礫石器は泥岩・砂岩が多くみられる。土製品はほとんどが焼成粘土塊だが、土偶・有孔土製円盤・象嵌土製品・土器片擦り切りなどが出土している。石製品は、異形石器・玉類・有孔石製品・軽石製石製品・石刀などが出土している。赤彩土器や赤彩石器はベンガラで彩色されていた。赤色顔料とみられる赤色の塊はベンガラ塊と考えられたがCaOを多く含んでおり何物かは不明であった。

以下、今回の調査にかかる主な時期について、これまでの調査成果も絡めて簡単にまとめる。

縄文早期～前期前半：今回の調査では、遺構は確認されなかった。遺物も少なく、L地区の東側で早期後葉の中茶路式土器が出土している。これまでの調査ではA・F地区から貝殻文の時期の遺物、D・

E・G地区から中茶路式期の土坑と遺物が出土している。今回の調査では前期前半の遺物が出土していないが、前の調査ではC地区の沢のB地区側から遺物が出土している。

縄文前期後半：今回の調査では、フラスコ状土坑3基（KP-7・9・10）を検出した。いずれも底面の直径が約2mで、ほぼ中央に径30cmほどの小土坑が認められる。遺跡全体では、この時期のフラスコ状土坑は73基が検出されている。同様の形状のものはA地区11基（AP-1・2・3・6・8・9・11・17・18・21・22）、B地区8基（BP-65・78・113・135・157・184・186・188）、G地区1基（GP-31）で確認されている。今回の調査でもK地区から確認されているように、C地区の沢より西側に分布がみられる。

遺物は調査範囲全体から円筒土器下層c・d式を主体として出土している。今回の調査ではK地区東側からとくに多く出土している。K地区で出土した土器片擦り切りは円筒土器下層c式の土器片を使用したものである。H・G地区でも擦り切り痕のある円筒土器下層d式の土器片を使用したものが出土している。森町栄浜1遺跡や函館市ハマナス野遺跡といった噴火湾側でも類似の遺物が出土している（成田2005）。

縄文中期後半：今回の調査では、竪穴住居跡4軒（BH-13、CH-12、LH-4・5）、土坑2基（JP-7・16）を検出している。この時期の竪穴住居跡は、これまでの調査で28軒が検出されており、B・C・D地区西側・G地区北側といったC地区の沢の周縁に分布がみられる。BH-13は昭和60年度に調査されたものの続きである。扁平な礫・礫石器9点で囲った石囲炉を検出している。CH-12は昭和59年度に調査されたものの続きである。床面から大安在B式の土器が出土している。LH-4にはベンチ構造があり、床面の壁際に周溝が巡る。また、床面に榎林式の埋設土器（HSP-26）があり、焼土は確認できなかったが埋燗炉と考えられる。周溝はこれまで2軒（BH-9、GH-6）で確認されている。竪穴住居跡内の炉は、地床炉のほかには榎林式～大安在B式の時期に土器片囲炉（CH-11、DH-5、GH-5）や埋燗炉（DH-6・9、LH-4）が混在し、大安在B式の時期になると石囲炉（BH-11・13、CH-4・10）が出現する。後期初頭の石囲炉（EPS-1）が確認されている。町内の近年の調査では、大平4遺跡で大安在B式～ノダップⅡ式の竪穴住居跡が確認され、石囲炉をもつものや周溝のあるものが確認されている（調査年報25）。今回の調査では確認されなかったが、中期後半は焼失住居が多くみられる時期で、これまでに6軒（BH-6・9・16、DH-2、FH-1・2）が確認されている。榎林式～大安在B式期2軒（BH-16、DH-2）、末葉の時期に4軒（BH-6・9、FH-1・2）と新しい時期に集まっている。このことは道内の焼失住居の出現頻度が中期後半～後期に多くなるという研究成果と合致する。（大島1994、村本2007）

榎林式と大安在B式は遺構がみられるC・D・F・G地区に分布する。ノダップⅡ式や末葉の煉瓦台式はA・B・F地区にその分布があり、傾向が異なっている。

縄文後期前葉：竪穴住居跡2軒（KH-2、LH-3）、土坑8基（JP-8・9、KP-1・5、LP-3・4・11・17）、フラスコ状土坑3基（JP-1、KP-3・6）、柱穴様小ビット51基、焼土6か所（KF-5、LF-1～4・7）、盛土遺構1か所を検出している。今回の調査ではGH-9のような溝状ビットがある出入口施設をもつ竪穴住居跡は確認していない。近年発掘調査された町内の蛇内2遺跡では、大津式期の溝状ビットがある出入口施設をもつ竪穴住居跡2軒を検出している。柱穴様小ビットは分布状況から昭和60年度B地区の続きと考えられる。とくに列をなすものなどは確認できなかった。また、昭和60年度にB地区で確認されたグライ層をもつ土坑は今回検出されていない。盛土遺構は昭和60年度B地区から昭和61年度G地区につらなるとみられるものの一部分を検出している。トリサキ式～白坂3式の遺物が出土している。津軽海峡付近の近年の調査では北斗市押上1遺跡で天祐寺式期、函館

市石倉貝塚や北斗市館野遺跡で湧元式期・トリサキ式期の盛土遺構が確認されている。盛土遺構とグライ層をもつ土坑、柱穴様小ピットはそれぞれ関連が推測されるが、詳細は不明である。LF-1~4・7はLH-4の埋没途中に形成され、LF-1・2・7からは魚類などの焼骨片を検出している（VII章-2参照）。

この時期の遺物はA・F地区以外で最も多く出土しており、遺跡の土器出土総点数の約5割を占める。今回の調査でも各区から多く出土しており、とくにK地区の盛土遺構周辺やL地区西側が多い。

縄文後期後葉： 竪穴住居跡4軒（KH-1、CH-1、LH-1・2）、プラスチック土坑1基（JP-3）を検出している。この時期の遺構・遺物はC地区の沢の南東側に分布がみられる。形状不明のLH-2を除く3軒はそら豆形の形状をしており、4軒すべてが焼失住居である。以前の調査で検出した同時期の竪穴住居跡4軒（CH-2、DH-1・3、GH-4）も焼失住居であり、この時期の竪穴住居跡はすべて焼失住居となっている。近年の調査で町内の札苺7遺跡でもこの時期の焼失住居が確認されている（道埋文2014d）。この時期は北海道で焼失住居の出現率が非常に高くなる時期（大島1994、村本2007）であり、遺跡周辺におけるこの時期の様相を明らかにするうえで注目される。KH-1とCH-1では床面の壁際に径3~5cmほどの壁柱穴が巡る。以前の調査では同時期に壁柱穴の巡るタイプのもは確認されていない。CH-1では出入り口施設の土留めと推定される並行する2条の溝状ピットが床面に検出している。このような出入口施設は、ほかに2軒（CH-2、DH-3）で確認されている。KH-1、CH-1床面、JP-3からは突き瘤のある大型の深鉢が出土している。未調査範囲の多いLH-2を除くその他の5軒からは突き瘤のないものが出土している。KH-1、CH-1、JP-3が若干新しく、その他の5軒とは時期差が伺える。CH-1の床面からは底部を欠失した大型の深鉢2点が倒立して出土したほか、完形の小型の鉢2点、壺形土器、注口土器、台付鉢の台部が出入口施設の近くで出土している。JP-3は底面直上の覆土4層の赤色粘土粒や遺物出土状況から土坑墓の可能性が考えられる。

遺構の数に比べて遺物は多くはないが、C地区の沢の南側から多く出土しており、今回の調査ではそれぞれの遺構とK地区北東側の包含層から出土している。

縄文晩期中葉： 土坑1基（LP-9）、焼土1か所（LF-6）を検出している。晩期中葉のLF-6は、CH-1が埋没途中のくぼみに作られている。焼土上面の土壌をフローテーション処理したところ、髪針とみられる鹿角製の骨角器や焼骨が確認されている（VII章-2参照）。焼骨にはシカなどの陸獣骨や海獣骨、ウミガラス属などの鳥骨、ニシン科やツノザメ科などの魚骨がみられ、当時の食料を伺うことができる。CH-1の覆土中からは晩期中葉の遺物がまとまった状態で多量に出土している。LF-6の形成後にこのくぼみに晩期中葉の遺物を廃棄していったと考えられ、多量の土器が横倒しの潰れた状態で確認されている。この時期の遺物はC地区の沢の南東側（C地区南東側・D地区南側・G地区北側）に遺物が多く分布し、L地区も西側に遺物の分布がみられる。これまでの調査と同様に札苺II群（大洞C₂式期）が主体を占める。この時期に特徴的な土製品・石製品も出土している。土製品では腕飾りと考えられる弓状の形状の象嵌土製品が2点出土している。弓状のものは渡島半島の津軽海峡側に分布し、聖山I式期（大洞C₂式期）に伴うと考えられている（児玉1998）。町内では札苺遺跡から1点が出土しており、ほかに七飯町聖山遺跡や上磯町（北斗市）添山遺跡などで出土している。石製品では石刀が出土している。柄頭に2個の孔を中心としてS字状入組文が施されたものである。同様の文様が施された石刀は渡島地方と津軽地方に多くみられ、大洞C₂式期に伴うと考えられている（稲野1979、野村1985）。石刀は町内では新道4遺跡C・D・G地区、幸運の沢、札苺遺跡、釜谷5遺跡、遺跡近隣の知内町サンナシ遺跡でも出土しており、幸運の沢、札苺遺跡、サンナシ遺跡では柄

頭に同様の文様のある石刀が出土している。

縄文晩期後葉：土坑1基（LP-7）が確認されている。LP-7からは「Y」字状の大型突起と5か所の「V」字状の大型突起が組み合わされて施文されると推定される浅鉢が出土している。「Y」字状の大型突起はC地区やG地区から数点出土している。町内では亀川2遺跡や近年調査された大平遺跡から多く出土している（道埋文2014d）。新道4遺跡では晩期後葉とされるものの類例が少なく、土器のほかにはC地区から土偶が出土している。

最後に、以前の成果も含めて遺構と遺物の状況から遺跡の利用についてまとめる。遺跡の利用はD地区の旧石器時代に始まる。早期～前期前半のやや低調な利用を経て、前期後半の円筒土器下層c・d式期に活発な利用がされる。中期前半の散点的な利用を経て、榎林式～大安B式にかけて利用が広まり住居跡が多数確認される。中期末葉～後期初頭の時期にやや利用が低調になり、トリサキ式・大津式・白坂3式の時期には盛土遺構などの遺構や多量の遺物が確認され、活発な利用が伺える。後期中葉に一旦低調になり、後葉に利用がみられる。後葉の住居跡がすべて焼失住居であることは特筆される。晩期は土坑や焼土が見られるくらいだが中葉の遺物が多く出土しており、土器・石器等のほか土偶や象嵌土製品、石刀といった特色のある遺物が出土している。

今回の調査も含めて遺跡全体で調査された範囲は約10%にすぎないので、未調査の範囲から遺構・遺物の少ない時期のものが確認できる可能性がある。しかし、周辺の遺跡でも利用の低調な時期は土器が少量出土している程度であることから、遺跡を含む周辺の利用が全体的に低調だったと推定される。今回の調査は前回の調査の隣接地ということもあり、前回の調査結果を補完するような資料が確認された。とくに後期後半の焼失住居や後期中葉の遺物は良好な資料と考えられる。資料の今後の活用を期待したい。

（酒井）

引用参考文献

論文・書籍等

- 阿部明義 2008 「堂林式・御殿山式土器」『総覧縄文土器』『総覧縄文土器』刊行委員会
- 石岡憲雄 1986 「施文原体の変遷—円筒土器」『季刊考古学17』 雄山閣
- 稲野祐介 1979 「亀ヶ岡文化における石剣類の研究—文様に基づく分類—」『北奥古代文化 第11号』北奥古代文化研究会
- 大島直行 1994 「縄文時代の火災住居—北海道を中心として—」『考古学雑誌 第80巻第1号』日本考古学会
- 大沼忠春 1981 「北海道中央部における縄文時代中期から後期初頭の編年について」『考古学雑誌 第66巻第4号』日本考古学会
- 大沼忠春 1984 「道南の縄文前期土器群の編年について」『北海道考古学20』北海道考古学会
- 大沼忠春 1986a 「道南の縄文前期土器群の編年について(II)」『北海道考古学22』北海道考古学会
- 大沼忠春 1986b 「施文原体の変遷—東釧路式土器」『季刊考古学17』雄山閣
- 茅野嘉雄 2008 「円筒下層式土器」『総覧縄文土器』『総覧縄文土器』刊行委員会
- 児玉大成 1998 「玉象嵌土製品について—聖山式土器に伴う特殊な土製品—」『北方の考古学』野村崇先生還暦記念論集刊行会
- 小山正忠・竹原秀雄 2007 『新版標準土色帖29版』日本色研事業株式会社
- 鈴木克彦 1999 「北海道渡島・松山地域の中期末葉から後期初頭の編年」『北海道考古学35』北海道考古学会
- 高橋正勝 1994 「北海道南部の土器」『縄文文化の研究4(第2版)』雄山閣
- 戸荻賢二・土屋 篤 2000 『北海道の石』北海道大学図書刊行会
- 成田滋彦 2005 「円筒下層期覚書—土偶・土製品の基礎的資料—」『北奥の考古学』葛西勲先生還暦記念論文集刊行会
- 野村 崇 1985 『北海道縄文時代終末期の研究』みやま書房
- 野村 崇 1994 「北海道南部・中部の土器」『縄文文化の研究4(第2版)』雄山閣
- 福田裕二 2005 「亀田半島における前期末葉～中期初頭の様相」『東北・北海道の縄文時代前期末葉～中期初頭土器の課題—資料集—』海峽土器編年研究会
- 三宅徹也 1989 「円筒土器下層様式」『縄文土器大観2』小学館
- 三宅徹也 1994 「円筒土器」『縄文文化の研究3(第2版)』雄山閣
- 村越 潔 1984 『増補 円筒土器文化』雄山閣
- 村本周三 2007 「北海道先史時代の火災住居跡集成」『セツルメント研究6号』セツルメント研究会
- 山田 央 2001 「北海道南西部における縄文時代中期末葉の土器について」『渡島半島の考古学』南北北海道考古学情報交換会20周年記念論集作成実行委員会

団体・組織刊行物

- 木古内町史編纂委員会 1982 『木古内町史』木古内町

北海道火山灰命名委員会 1982 『北海道の火山灰』 北海道火山灰命名委員会
 角川日本地名大辞典編纂委員会 1987 『角川日本地名大辞典1 北海道 上巻』
 大川清・鈴木公雄・工藤善通編 1996 『日本土器事典』 雄山閣
 日本ペドロジー学会 1997 『土壌調査ハンドブック 改訂版』 博友社
 地学団体研究会道南班編 2002 『道南の自然を歩く』 北海道大学図書刊行会
 永井秀夫監修 2003 『北海道の地名』 日本歴史地名大系第一巻 平凡社

ホームページ

木古内町公式ホームページ
 北海道教育委員会ホームページ 「北の遺跡案内」

埋蔵文化財発掘調査報告書

上磯町教育委員会 1983 『添山遺跡』

木古内町教育委員会

1974 『札苜遺跡』	1989 『鶴岡2遺跡I』	1990 『鶴岡2遺跡II』
1991 『釜谷4遺跡』	1995 『釜谷5遺跡』	1997 『新道3遺跡』
1998a 『亀川2遺跡』	1998b 『亀川3遺跡』	1998c 『泉沢3遺跡』
1999a 『釜谷遺跡』	1999b 『新道2遺跡』	2003a 『新道2遺跡II北地点』
2003b 『大釜谷3遺跡』	2003c 『泉沢2遺跡A地点』	2003d 『泉沢2遺跡(B地点)』
2004a 『泉沢2遺跡C地点』	2004b 『蛇内遺跡』	

七飯町教育委員会 1979 『峠下聖山遺跡』

北海道開拓記念館 1976 『札苜』

(財)北海道埋蔵文化財センター、(公財)北海道埋蔵文化財センター

1986a 『木古内町 建川1・新道4遺跡』	北埋調報33	
1986b 『木古内町 札苜遺跡』	北埋調報34	
1987 『木古内町 建川2・新道4遺跡』	北埋調報43	
1988 『木古内町 新道4遺跡』	北埋調報52	
2003 『八雲町 野田生1遺跡』	北埋調報183	
2011a 『木古内町 木古内2遺跡』	北埋調報278	
2011b 『木古内町 大平遺跡・大平4遺跡』	北埋調報280	
2011c 『木古内町 蛇内2遺跡』	北埋調報281	2011d 調査年報23
2012a 『木古内町 大平4遺跡(2)・蛇内2遺跡(2)』	北埋調報292	
2012b 『木古内町 木古内2遺跡(2)』	北埋調報293	2012c 調査年報24
2013a 『木古内町 札苜5遺跡』	北埋調報294	2013b 調査年報25
2014a 『木古内町 札苜6遺跡』	北埋調報301	
2014b 『木古内町 木古内遺跡』	北埋調報304	
2014c 『木古内町 釜谷8遺跡』	北埋調報305	2014d 調査年報26
2015a 『北斗市 押上1遺跡』	北埋調報301	2015b 調査年報27

写真図版



柳井区雪景



I 層

耕作攪乱

III 層

IV 層

V 層

基本土層 (O66区)



表土除去後調査風景 南西から



J地区 完掘 南西から



JP-1 土層断面 北東から



JP-2 土層断面 南東から



JP-1 完掘 東から



JP-3 土層断面 西から



JP-3 遺物 西から



JP-4 土層断面 南東から



BP-143 完掘 北から



JP-6 土層断面 (上面にJF-1) 北東から



JP-6 完掘 南東から



JP-7(左)、8 土層断面 東から



JP-7、8、9 完掘 東から



JP-7(下)、9 遺物 東から



JP-8(右)遺物、JP-7、9 完掘 東から



JP-6、10 完掘 南から



JP-11 土層断面 南東から



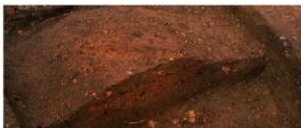
JP-11 完掘 南西から



JP-12 土層断面 北から



JF-1 確認 北東から



JF-1 土層断面 南から



JP-12 完掘 北から



JP-13 土層断面 北西から



JP-13 完掘 北西から



JP-14 土層断面 南西から



JP-14 完掘 南から



JP-15 土層断面 西から



JP-15 完掘 西から



JP-16 土層断面 西から



JP-16 完掘 南東から



JP-17 土層断面 北西から



JP-17 完掘 北西から



JP-18 土層断面 北西から



調査風景 北東から



表土層遺物回収作業 北から

図版6 K地区 調査風景



表土除去後 南西から



完掘 南西から



北東部 完掘 南から



土層断面 西から



遺物、柱穴確認 北から



HF-1 土層断面 東から



HSP-1 土層断面 南東から



壁隙小柱穴 土層断面 南東から

KH-1 完掘 北から



KH-2 土層断面 東から



KH-2 土層断面 北西から



HSP、KF-4 確認 北西から



HSP-1 南東から



HSP-2 南東から



HSP-3 北西から



HSP-4 北東から



HSP-5 北東から



完掘 北西から



土層断面 南東から



土層断面 北東から



HF-1 土層断面 南東から



HF柱穴確認 東から



HSP-1 土層断面 東から



HSP-2 土層断面 東から



完掘 東から



KP-1 土層断面 北東から



KP-1 完掘 東から



KP-3 土層断面 南東から



KP-3 完掘 北東から



KP-3 付属ピット 土層断面 南東から



KP-4 土層断面 南東から



KP-4 完掘 南東から



KP-5 土層断面 南東から



KP-5 完掘 西から



KP-6、KF-4 土層断面 南東から



KP-6 完掘 南から



KP-7 土層断面 北西から



KP-7 付属ビット 土層断面 北から



KP-7 完掘 北東から



KP-9 土層断面 北東から



KP-9 完掘 南東から



KP-10 土層断面 東から



KP-10 完掘 北東から



KSP-1 北東から



KSP-2 北東から



KSP-3 北東から



KSP-6 南東から



KSP-7 北東から



KSP-8 北西から



KSP-9 北から



KSP-10 南東から



KSP-11 南東から



KSP-16 南西から



KSP-23 北東から



KSP-24 南西から



KSP-25 北西から



KSP-26 北西から



KSP-29 南西から



KSP-30 南東から



KSP-37 北西から



KSP-39 北東から



KSP-40(左)、44 北東から



KSP-44 南東から



KSP-45 北西から



KSP-47 南東から



KSP-58 南東から



KSP-59北東から



KSP-61北東から



KSP-64南東から



KF-1 土層断面 北西から



KF-2 土層断面 北東から



KF-3 土層断面 北東から



KF-5 土層断面 南東から



KF-6 土層断面 南東から



盛土遺構 土層断面(Q51区) 北東から



盛土遺構 確認 北から

盛土土層断面(Q51区) 北から



線路際の調査風景 東から



表土除去後調査風景 南西から



沢地形 完掘 南東から



完掘間隙調査風景 南から



69ライン以西 完掘 北から



確認 北西から



HF-1 土層断面 東から



HF-2 土層断面 北東から



土層断面 北から



土層断面 西から



HSP-1 土層断面 北から



遺物 北から



炭化材 北東から



LH-1 完掘 東から



LH-2 土層断面 北西から



LH-2 土層断面 西から



LH-2 完掘 北から



LH-3 完掘 西から



LH-3 土層断面 北西から



LH-3 土層断面 西から



HSP-1.2 西から



HSP-3.4 南から



HSP-6 北東から



HSP-7 北東から



土層断面 南西から



完掘 北東から



HSP-1 南から



HSP-2 南から



HSP-10南東から



HSP-25 西から



HSP-26 南東から



LH-5 土層断面 北西から



CH-1 確認 東から



CH-1 土層断面 南東から



土層断面 (右上にLF-6) 北東から



焼土・遺物・炭化材 南東から



HF-1 土層断面 南東から



HSP-1 南から



HSP-2 南西から



炭化材 北西から



溝1 土層断面 南西から



溝2 土層断面 南から



溝 完掘 南西から



壁柱穴 土層断面 東から



遺物 南から



遺物 南西から



遺物 北東から



粘土 南東から



完掘 南西から



CH-12 確認 東から



CHP-7 東から



CHP-11 北東から



CHP-8(左)・10 北西から



CHP-9 北西から



CH-12 完掘 南から



LP-1 土層断面 東から



LP-1 完掘 東から



LP-2 土層断面 東から



LP-2 完掘 南東から



LP-3 土層断面 南西から



LP-3 完掘 南から



LP-4 完掘 東から



LP-7 土層断面 南東から



LP-7 完掘 東から



LP-8 土層断面 北東から



LP-8 完掘 南東から



LP-9 土層断面 西から



LP-9 完掘 北西から



LP-10 土層断面 東から



LP-10 完掘 東から



LP-11 土層断面 西から



LP-11 完掘 北西から



LP-12 土層断面 北から



LP-12 完掘 北西から



LP-13 土層断面 東から



LP-13 完掘 南東から



LP-14 土層断面 北東から



LP-14 完掘 北西から



LP-15 完掘 南東から



LP-16 土層断面 南東から



LP-16 完掘 南東から



LP-17 土層断面 北から



LF-1 土層断面 南西から



LF-2 土層断面 東から



LF-3 土層断面 南西から



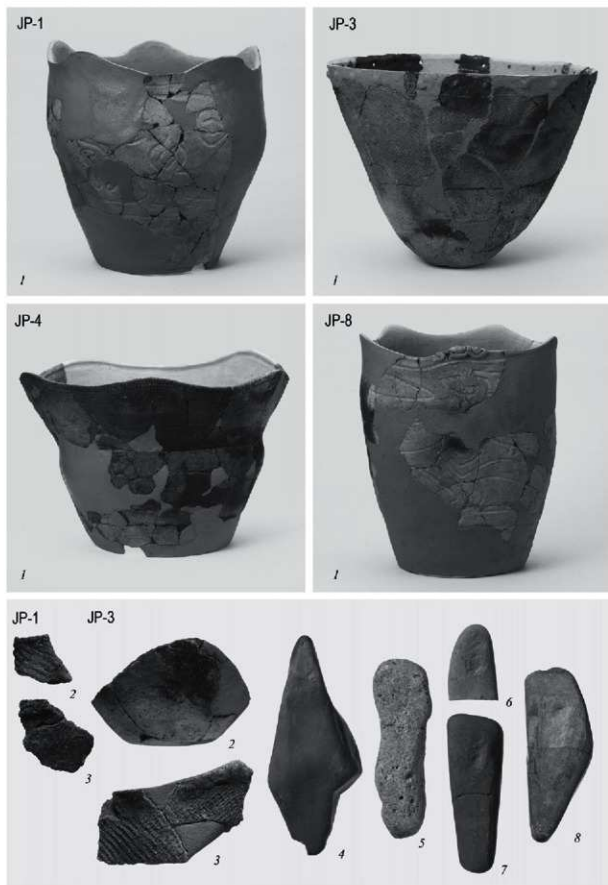
LF-5 土層断面 北東から

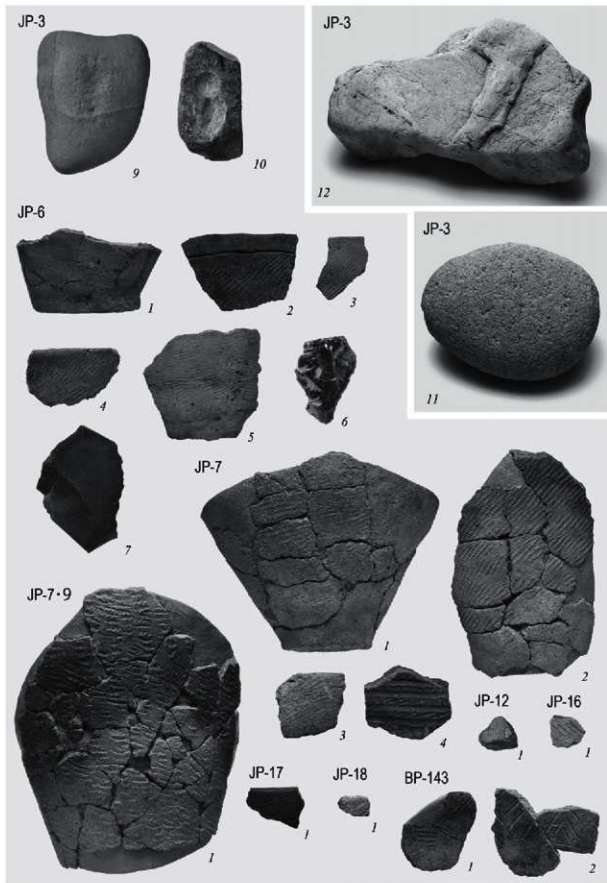


LF-7 土層断面 北西から



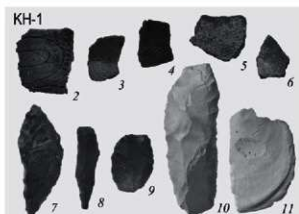
表土層遺物回収作業 南東から



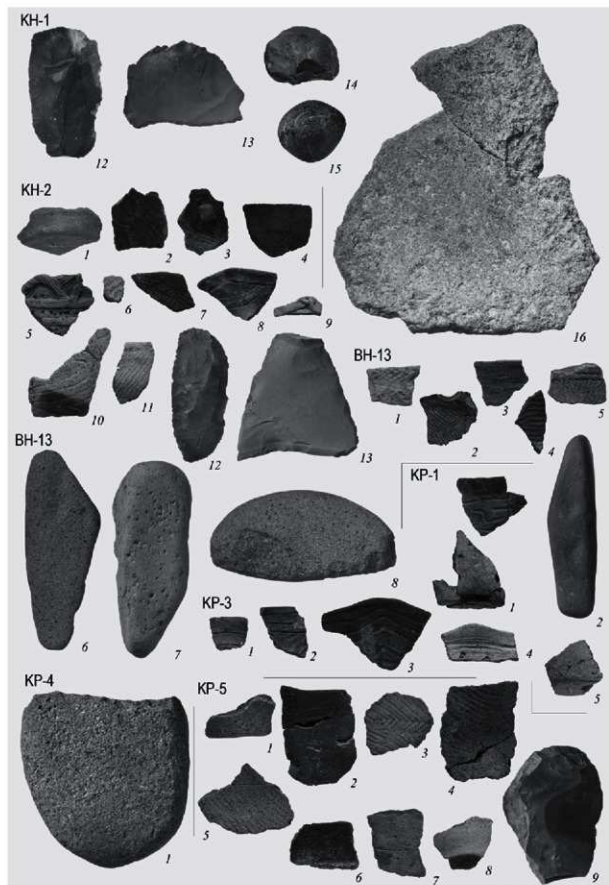




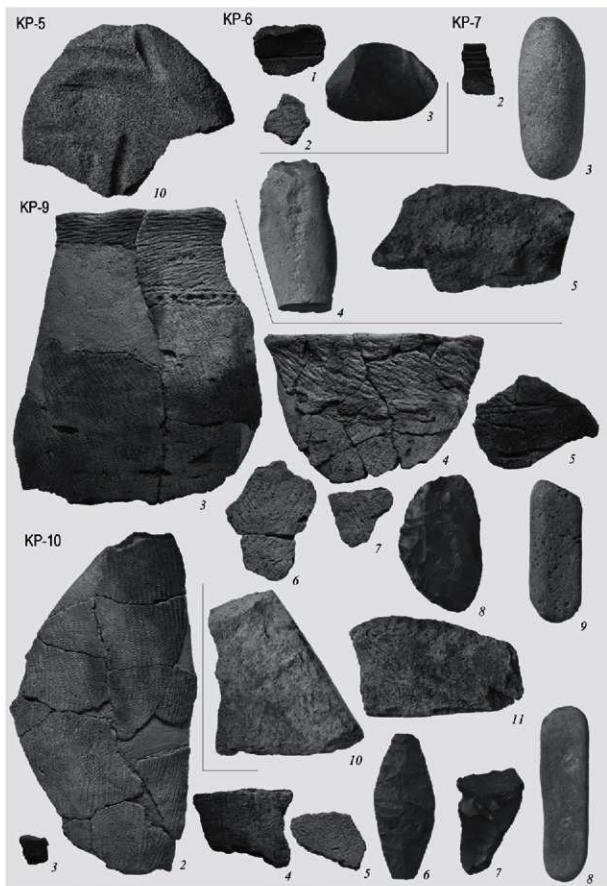
包含层



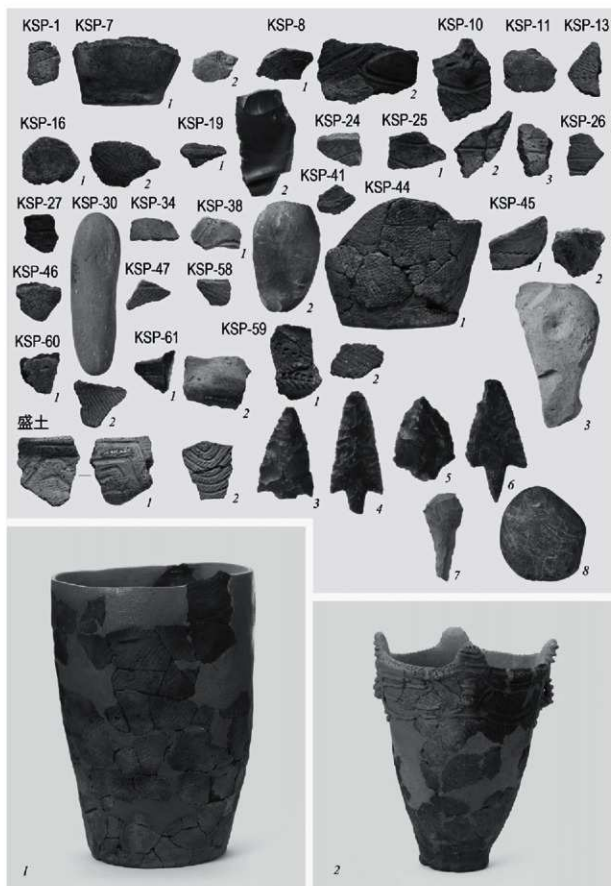
KH-1, KP-7・9・10



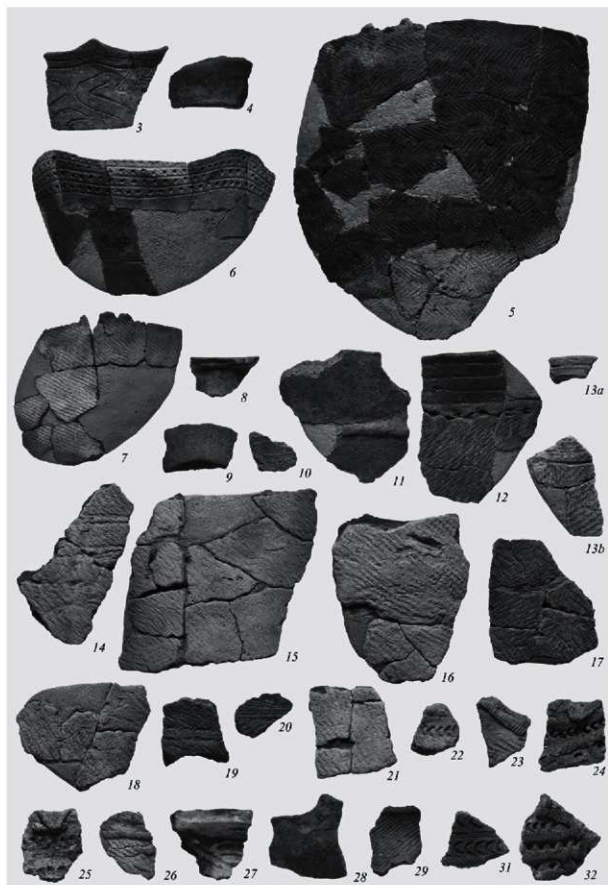
KH-1·2, BH-13, KP-1·3·4·5



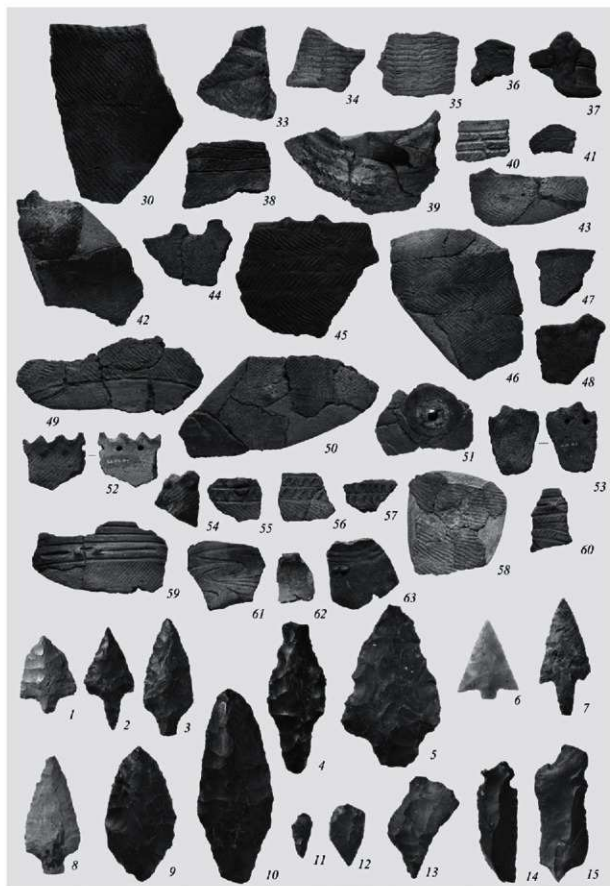
KP-5・6・7・9・10



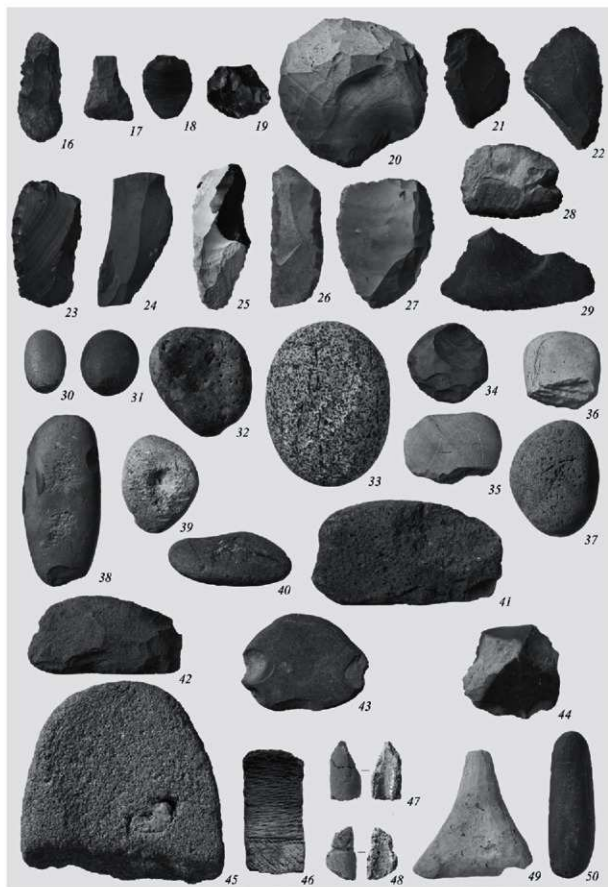
KSP,盛土遺構,包含層



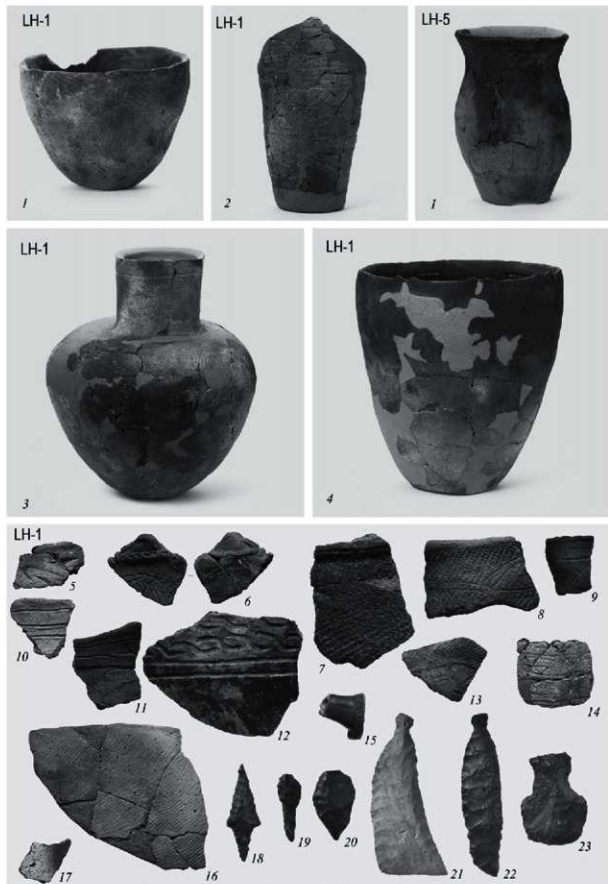
包含層

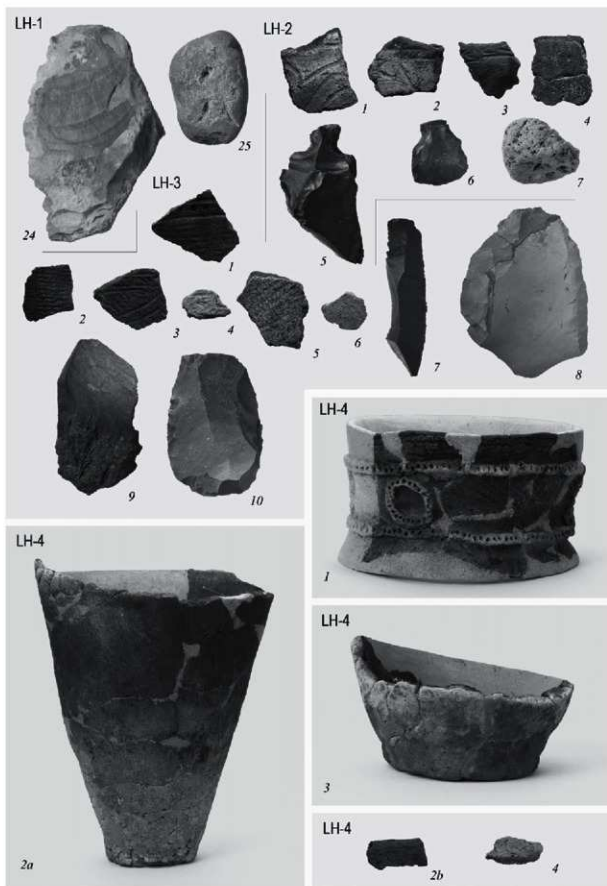


包含层

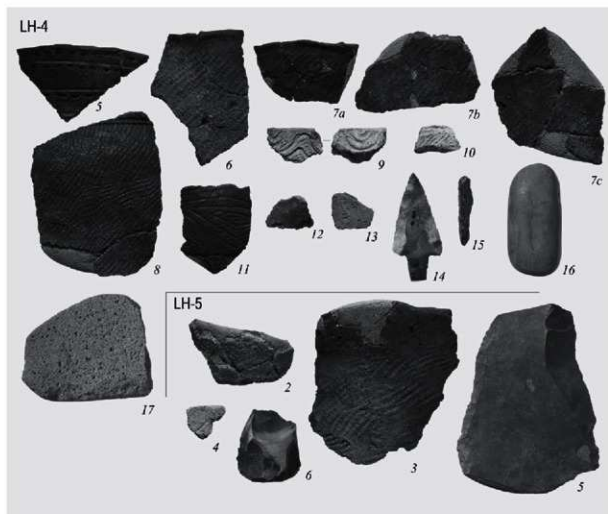


包含层

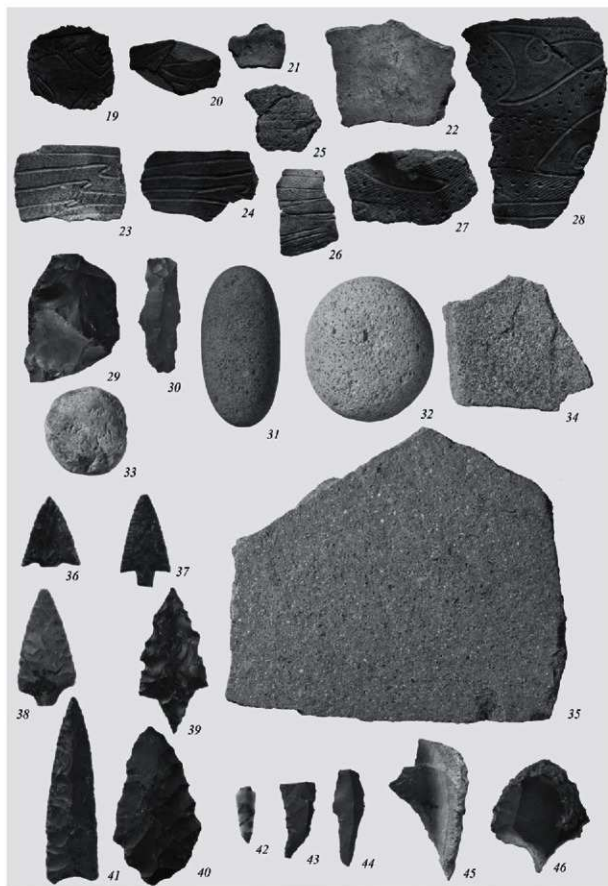


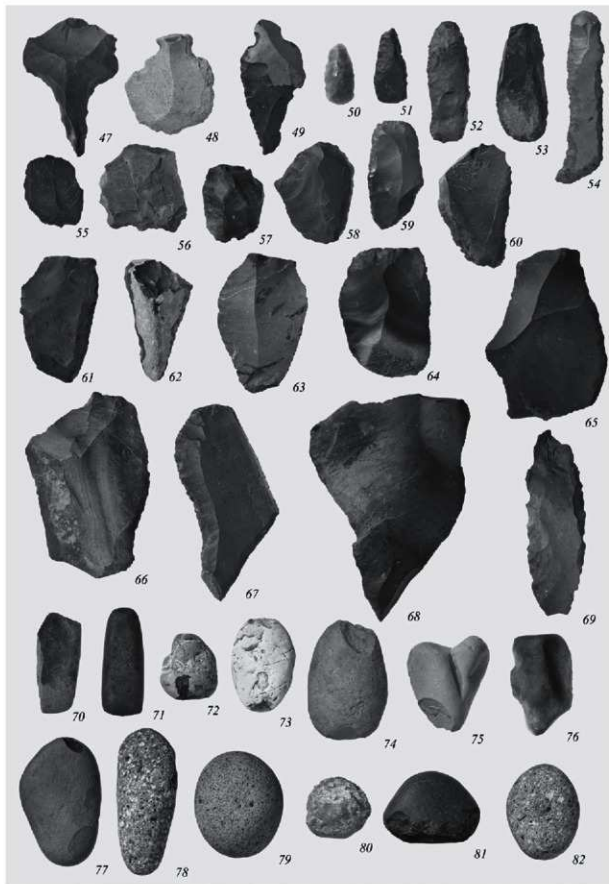


LH-1・2・3・4

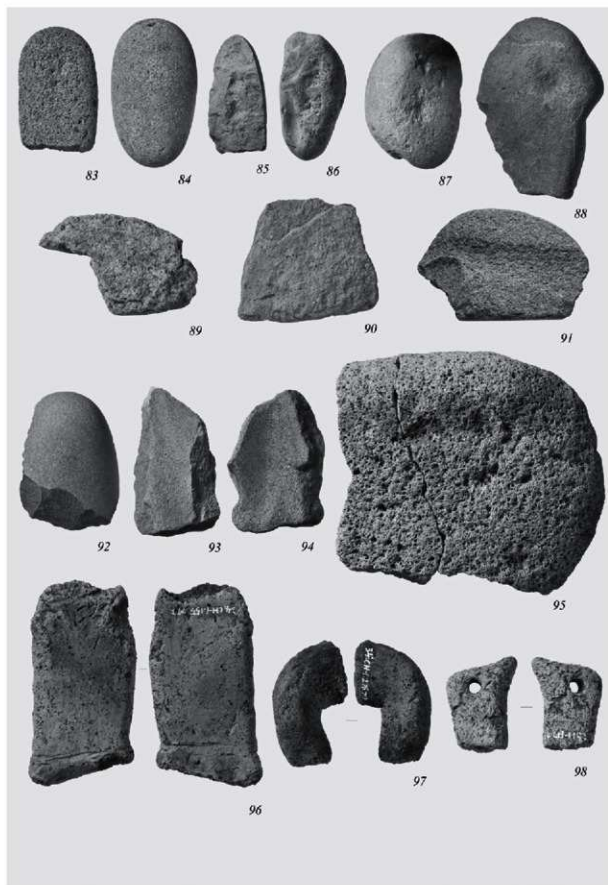




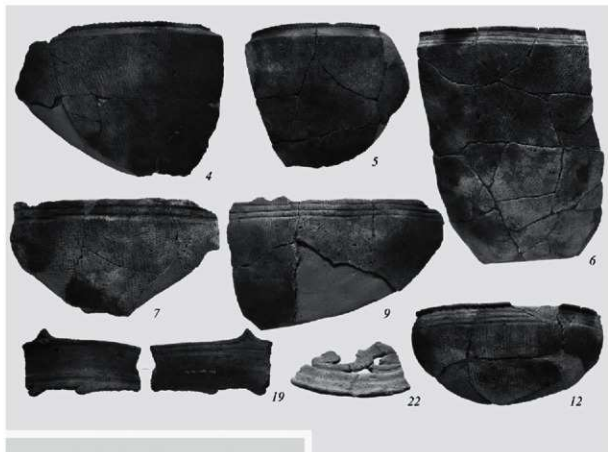


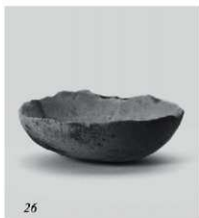
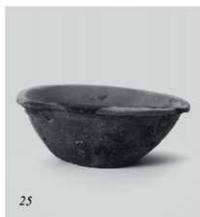


图版46 L地区 透模出土遗物 (7)





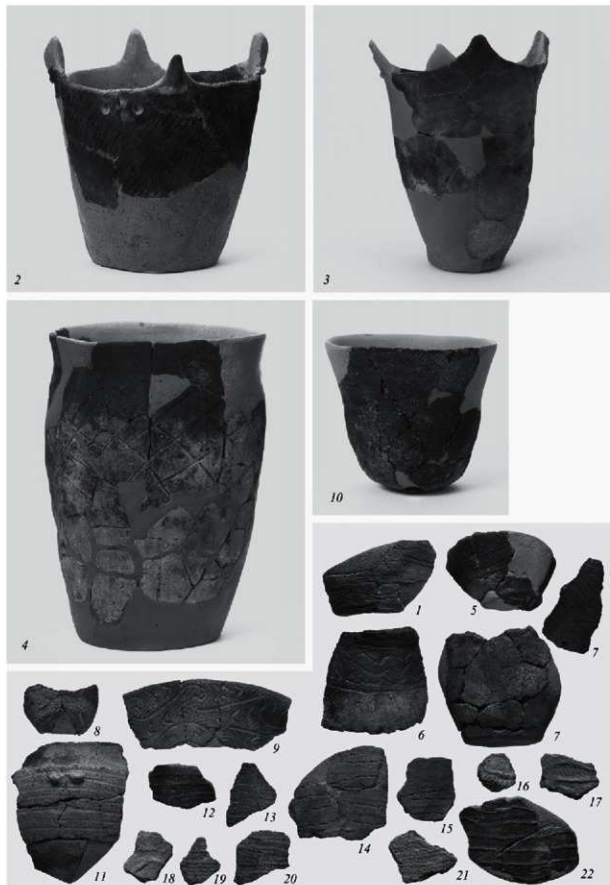




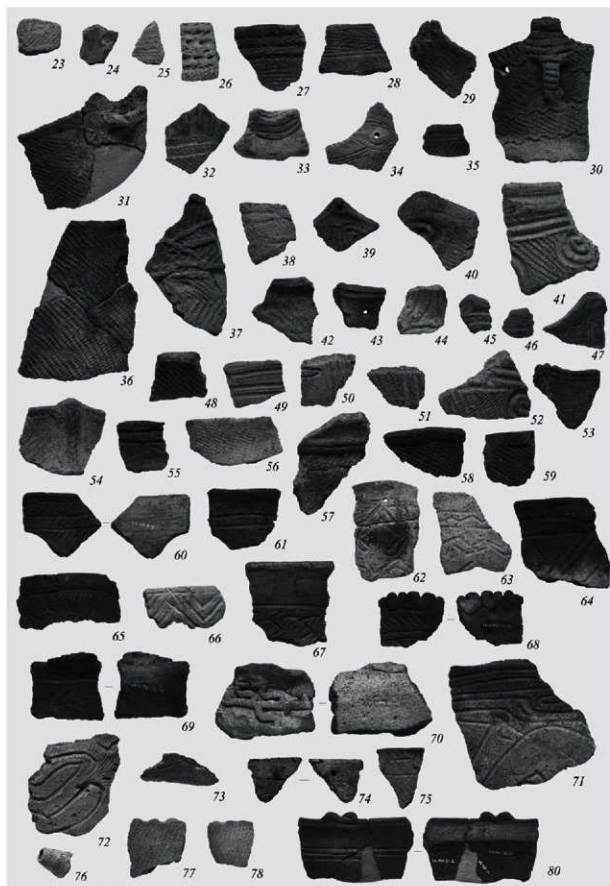


CH-1V群

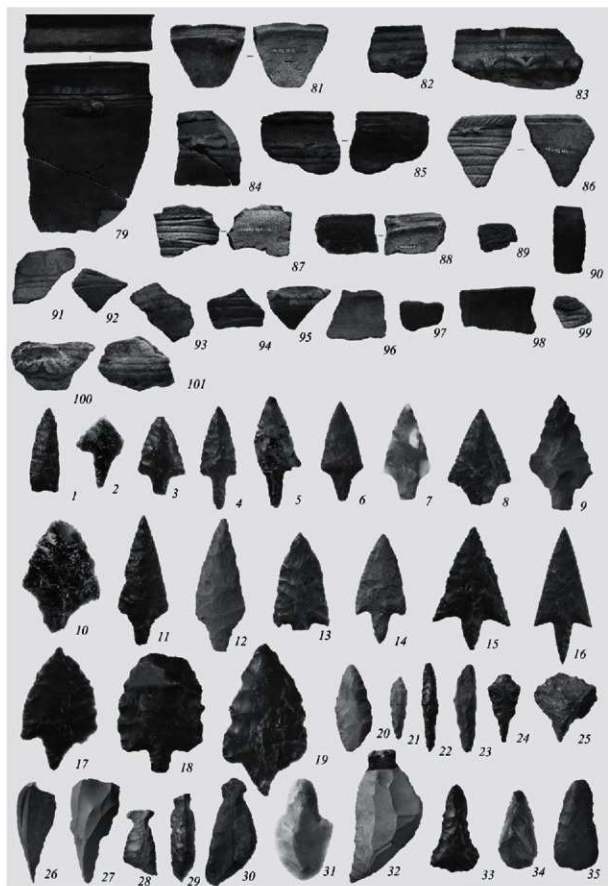
圖版52 L地区 包含層出土遺物 (1)



包含層



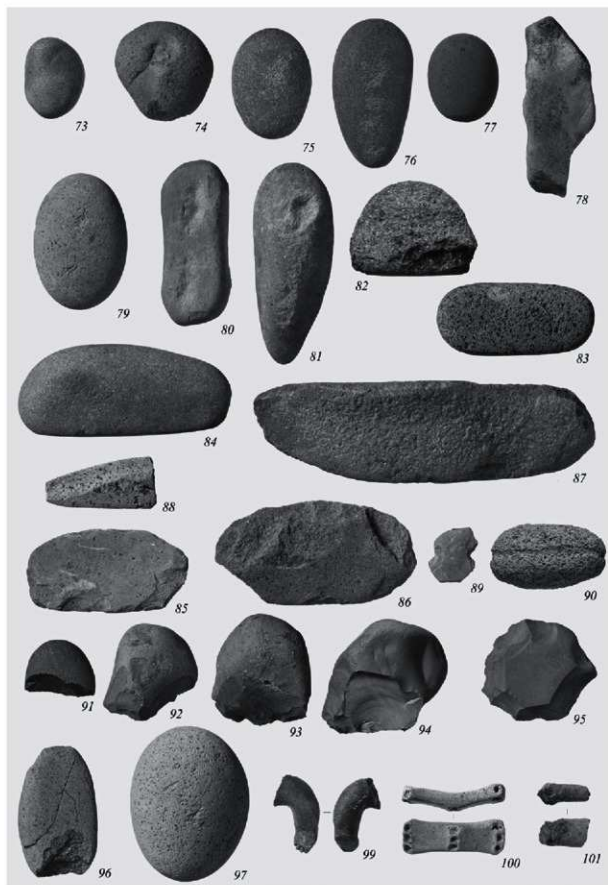
包含層



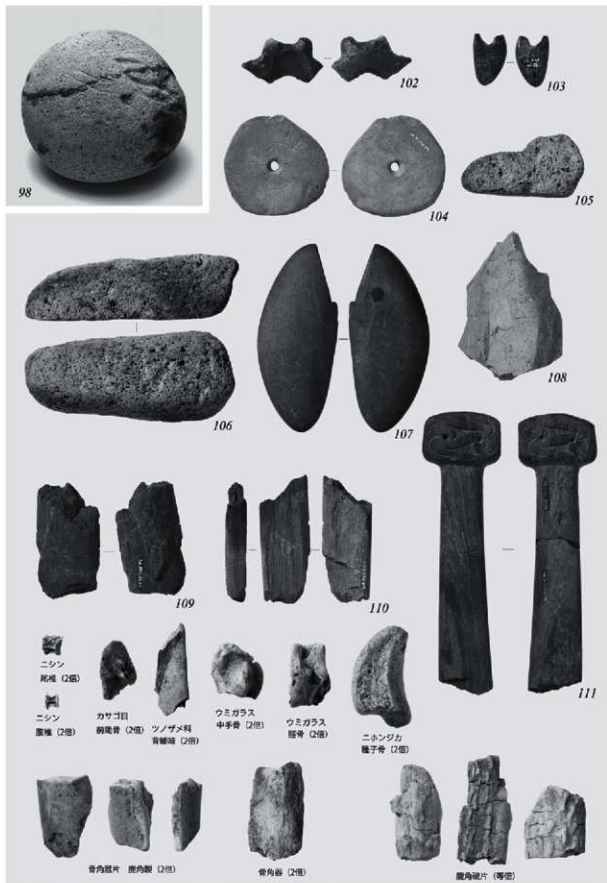
包含層



包含層



包含層



包含層

報告書抄録

ふりがな	きこないちろう しんみち4いせき(4)							
書名	木古内町 新道4遺跡(4)							
副書名	北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次	なし							
シリーズ名	公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター調査報告書(北埋調報)							
シリーズ番号	第320集							
編著者名	中山昭大・酒井秀治・熊谷仁志							
編集機関	公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター							
所在地	〒069-0832 江別市西野幌685-1 TEL(011)386-3231 FAX(011)386-3238 E-mail mail@domaibun.or.jp ホームページ http://www.domaibun.or.jp							
発行機関	公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター							
発行年月日	平成27(西暦2015)年9月30日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
収録遺跡	所在地	市町村	遺跡番号					
新道4遺跡	上磯郡木古内町 字新道113番10 外4筆	01334	B-05-27	J55杭(J地区)		20130801～ 20131115	745㎡	北海道新幹 線建設に伴 う記録保存
				41度39分	140度25分			
				54.96507秒	08.98626秒			
				Q55杭(K地区)				
41度39分	140度25分	20130801～ 20131115	745㎡	北海道新幹 線建設に伴 う記録保存				
54.38212秒	09.91405秒							
Q70杭(L地区)								
41度39分	140度25分							
55.87288秒	11.57999秒	主な遺構		主な遺物				
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		
新道4遺跡	集落跡	縄文時代 後期前葉・後葉 ・晩期中葉		竪穴住居跡10軒、土坑34基、 フラスコ状土坑7基、柱穴様小ピット52基、 焼土14か所、盛土遺構1か所		土器 石器等		
要約	<p>遺跡はJR木古内駅から南西へ約1.8km、木古内川と建右川に挟まれた低位海岸段丘上に立地し、標高は15～20mである。</p> <p>新道4遺跡の4冊目の報告書となる。北海道新幹線の建設工事に伴う発掘調査である。昭和59～61年度に津軽海峡線の建設工事に伴い、(財)北海道埋蔵文化財センターによって15,033㎡の発掘調査が行われ、3冊の報告書(北埋調報33・43・52)が刊行されている。今回の調査範囲はB・C・D・G地区の隣接地になる。</p> <p>今回の報告範囲は、J・K・Lの3つの地区において調査を行った。遺構は、竪穴住居跡10軒、土坑34基、フラスコ状土坑7基、柱穴様小ピット52基、焼土14か所、盛土遺構1か所を検出した。竪穴住居跡のうち後期後葉の4軒は焼穴住居である。フラスコ状土坑は、前期後半3基、後期前葉3基、後期後葉1基である。盛土遺構は後期前葉のもので、B地区からG地区につらなるものの一部が確認されている。</p> <p>遺物は、土器23,953点、石器等20,369点の合計44,322点が出土している。土器は、縄文時代後期前葉と晩期中葉が多く、次いで中期前半・後期後葉・前期後半のものが続く。石器は石鏃・ステイバー・たたき石・すり石が多く出土している。土製品は土偶・有孔土製円盤・象嵌土製品・焼成粘土塊など、石製品は異形石器・石刀・有孔石製品・軽石製模造品などが出土している。</p>							

遺跡番号は北海道埋蔵文化財包蔵地周辺資料登録番号、経緯度は世界測地系による。

(公財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第320集

木古内町 新道4遺跡(4)

—北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成27(2015)年9月30日

編集・発行 公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター
〒069-0832 江別市西野幌685番地1
TEL (011) 386-3231 FAX (011) 386-3238
<http://www.domaibun.or.jp/>

印刷 株式会社北海道機関紙印刷所
〒006-0832 札幌市手稲区曙2条3丁目2-34
TEL (011) 686-6141 FAX (011) 676-6684

